

道東自動車道
下トマム地区下部工工事
下トマム鵠川橋（上り線）
下部工設計図

令和 8 年 5 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1.	下部工数量総括表	1
2.	全体一般図（その 1 ～ 2）	2 ～ 3
3.	下部工線形図	4
4.	A 1 橋台構造一般図（その 1 ～ 2）	5 ～ 6
5.	A 1 橋台配筋図（その 1 ～ 1 9）	7 ～ 25
6.	A 1 橋台裏込め工図	26
7.	A 1 橋台仮設土留工一般構造図（その 1 ～ 4）	27 ～ 30
8.	A 2 橋台構造一般図（その 1 ～ 2）	31 ～ 32
9.	A 2 橋台配筋図（その 1 ～ 1 9）	33 ～ 51
10.	A 2 橋台裏込め工図	52
11.	A 2 橋台仮設土留工一般構造図（その 1 ～ 7）	53 ～ 59
12.	盛土平面図	60
13.	盛土横断図（その 1 ～ 5）	61 ～ 65
14.	A 1 橋台右側擁壁地盤改良工一般図	66
15.	A 2 橋台右側擁壁地盤改良工一般図	67

下部工施工

項 目	種 別			単位	A 1 橋台	A 2 橋台	合 計	摘 要
構造物掘削	特殊部			m3	4,650.0	6,001.5	10,651.5	A 2 数量には橋台背面Box、擁壁の掘削土量を含む
構造物裏込め工	裏込め工 B 1			m3	266.4	144.5	410.9	
基礎材	B 1			m3	38.7	37.4	76.1	再生碎石
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50			m	8.9	8.4	17.3	※別途工事
コンクリート	A 1－3			m3	659.2	745.0	1,404.2	躯体 σck=30N/mm2
	B 2－1			m3	526.7	507.8	1,034.5	底版 σck=24N/mm2
	D 1－1			m3	19.4	18.7	38.1	均しコン σck=18N/mm2
型わく	C			m2	916.2	1,012.8	1,929.0	躯体
	D			m2	5.7	5.6	11.3	均しコン
鉄 筋	躯体	A	D13	t	0.021	0.021	0.042	SD345（重ね継手）
			D16～D25	t	11.400	12.142	23.542	
			D29～D32	t	5.782	4.883	10.665	
			D35	t	9.930	9.843	19.773	
			D38	t	12.142	11.588	23.730	
			小計	t	39.275	38.477	77.752	
		A（E）	D13	t	0.524	0.651	1.175	SD345（重ね継手） エポキシ樹脂鉄筋
			D16～D25	t	9.703	6.748	16.451	
			D29～D32	t	18.354	19.453	37.807	
			D35	t	—	3.977	3.977	
			D38	t	0.271	0.270	0.541	
			小計	t	28.852	31.099	59.951	
		B	D29～D32	t	1.006〔12〕	2.354〔22〕	3.360〔34〕	SD345（機械継手）
			D35	t	2.820〔23〕	2.866〔22〕	5.686〔45〕	
			D51	t	22.343〔103〕	21.895〔98〕	44.238〔201〕	
			小計	t	26.169〔138〕	27.115〔142〕	53.284〔280〕	
		C	D16～D25	t	2.255（290）	1.600（270）	3.855（560）	SD345（機械式鉄筋定着）
			小計	t	2.255（290）	1.600（270）	3.855（560）	
		C（E）	D13	t	0.847（807）	1.138（966）	1.985（1773）	SD345（機械式鉄筋定着） エポキシ樹脂鉄筋
			D16～D25	t	1.172（250）	0.715（217）	1.887（467）	
			D29～D32	t	4.451（187）	4.176（180）	8.627（367）	
			小計	t	6.470（1244）	6.029（1363）	12.499（2607）	

注1）〔 〕内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。
注2）（ ）内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

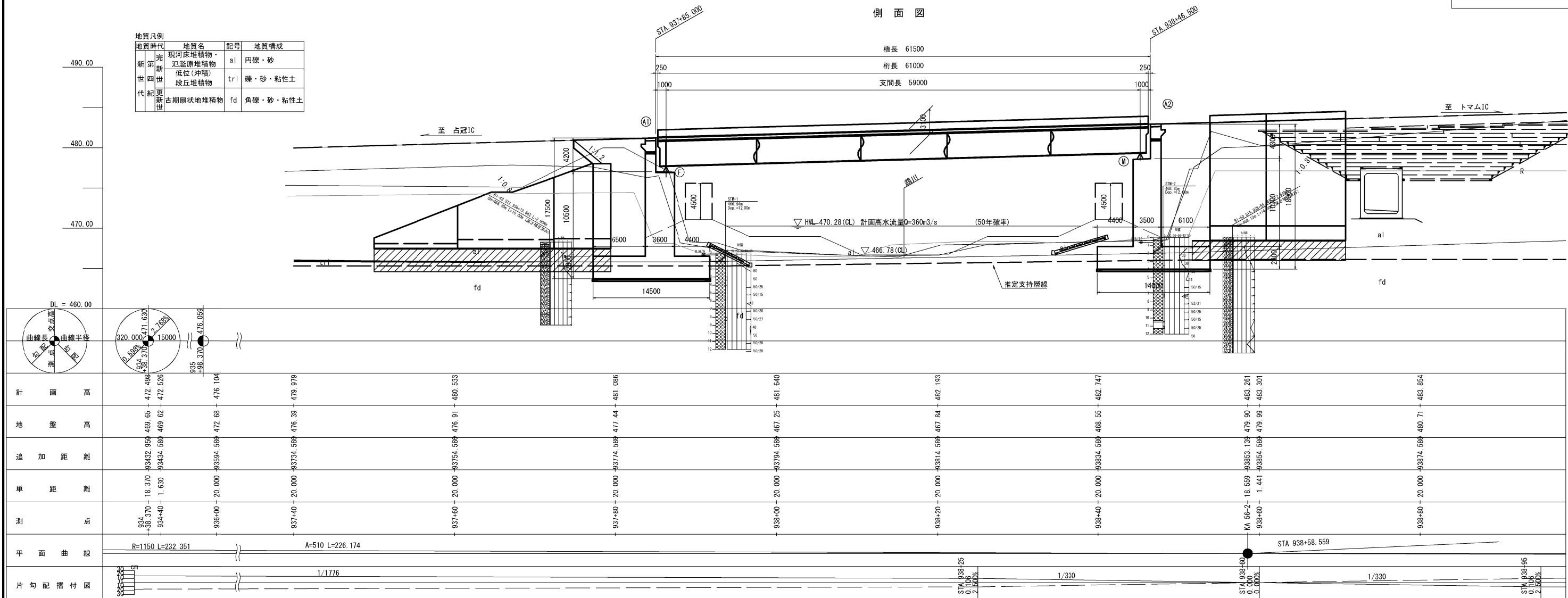
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵲川橋（上り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

下トナム鵠川橋（上り線）全体一般図（その1）

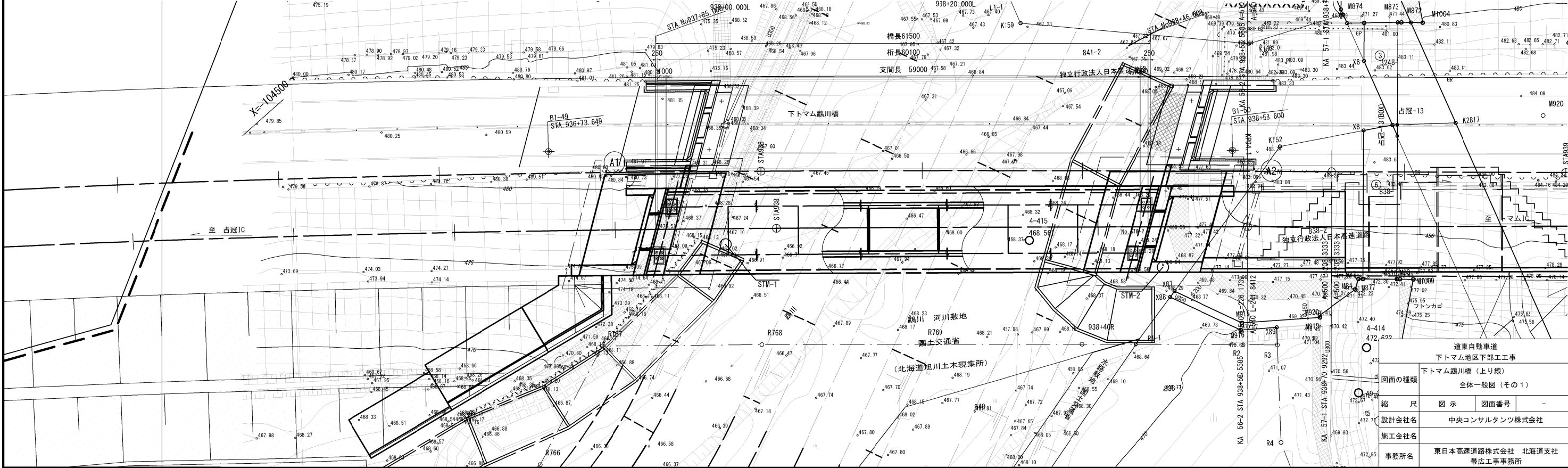
S=1:500

2 / 67

側面図



平面図



[illegible]

A 1 橋台
I 期線
下り線
下部工正面方向

A 1 橋台
II 期線
上り線
下部工正面方向

横変位拘束構造

STM-1
466.94m
Dep.=12.00m

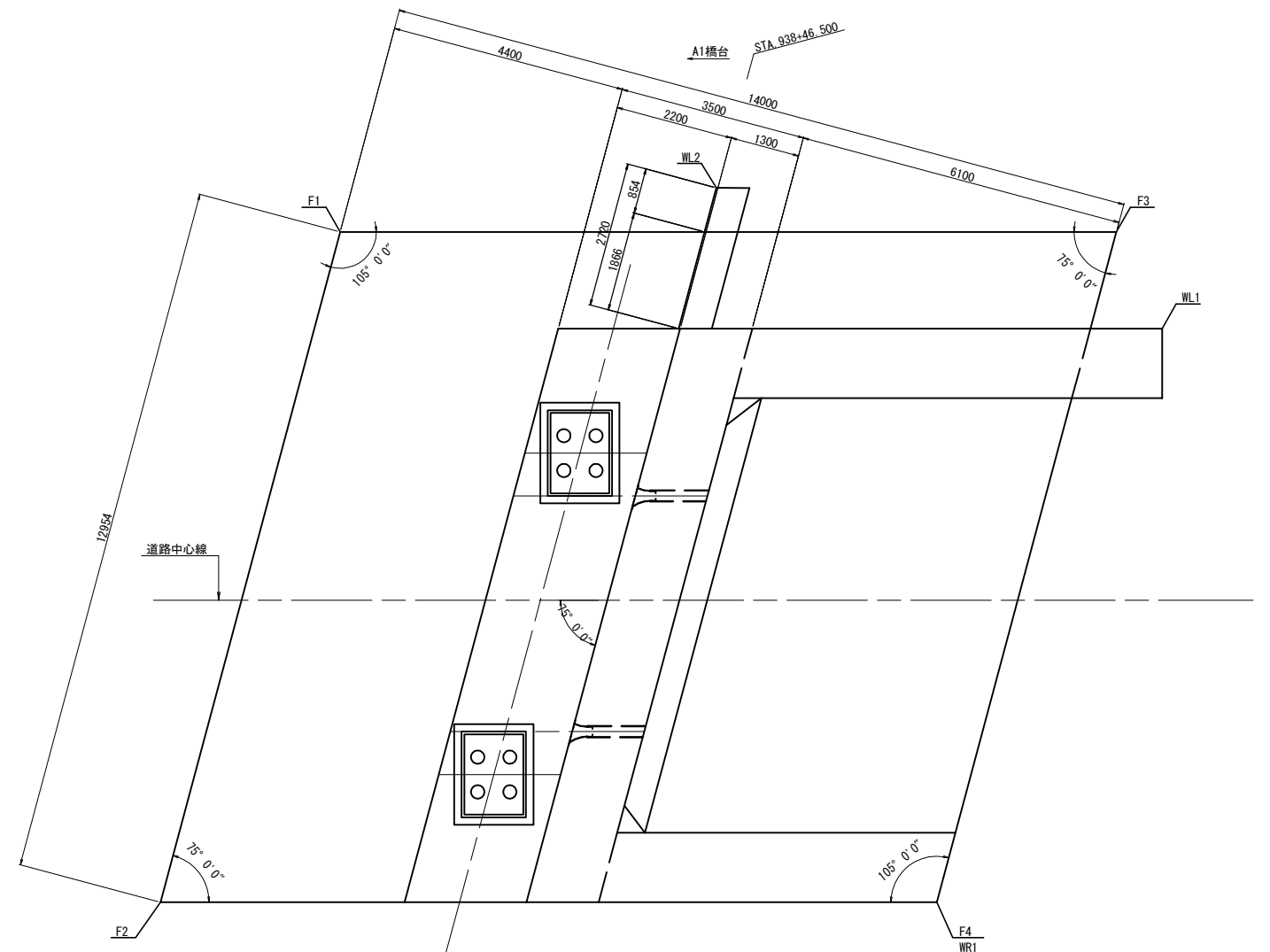
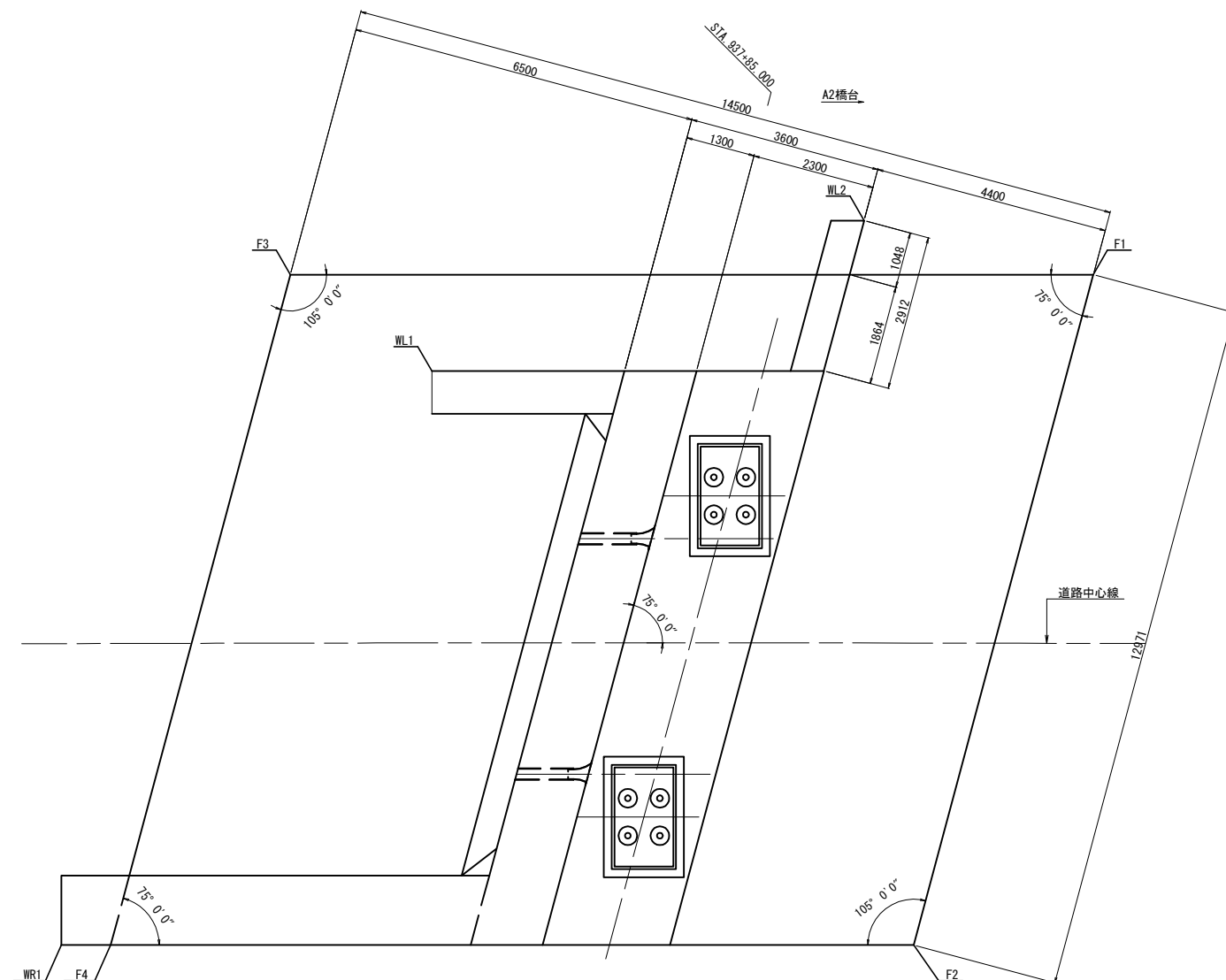
$\nabla F1=465.33$
(II 期線推定支持層標高)

$\nabla 463.725$

※（ ）内は道路CL直方向寸法

設計条件			
橋長	61.500 m	桁長	61.000 m
道路規格	第1種 2級 B規格		設計速度 V = 100 km/h
活荷重	B活荷重		
支間長	59.000 m		
有効幅員	10.060 m		
斜角	A1 75° 00' 00" A2 75° 00' 00"		
平面線形	R= 1150 m ~ A = 510 m		
横断面勾配	3.026% ~ 0.964%		
縦断面勾配	2.768%		
設計水平震度	I種地盤, I ⁺ 1地震動 $k_h = C_z \cdot k_{ho} = 0.85 \times 0.20 = 0.17$		
構造形式	上部構造 : 鋼単純鉸桁橋 (少数主桁)		
	下部構造 : 逆 T 式橋台 (A1橋台, A2橋台)		
支持層	基礎構造 : A1・A2橋台 直接基礎		
材 料	上部工	コンクリート	$\sigma_{ck} = 40 \text{ N/mm}^2$ (PC床板)
			$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$ (壁高欄)
		鋼材	SS400, SM400, SM490Y, SM520, SM570
			鉄筋
	下部工基礎工	コンクリート	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$ [躯体]
			$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$ [底版]
		鉄筋	SD345
適用示方書		道路橋示方書・同規格 (平成29年11月) 設計基準第二巻 (平成28年8月)	

道東自動車道 下トマム地区下郷工工事			
図面の種類	下トマム鶴川橋（より線）		
	全体一般図（その２）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

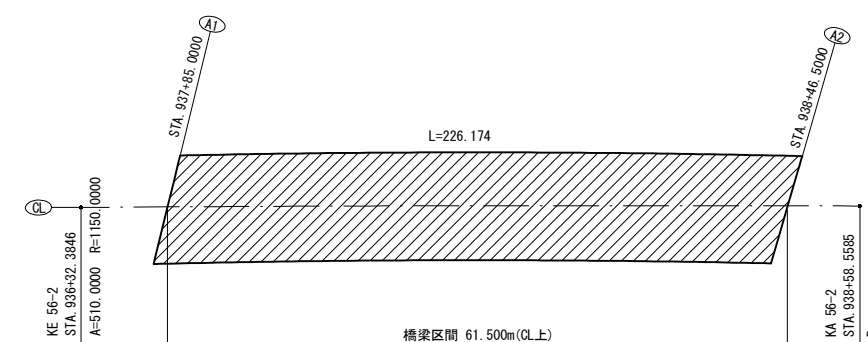


フーチング座標値表

	A1		A2	
	X	Y	X	Y
F1	-104543.4516	25398.8478	-104575.1123	25434.6570
F2	-104550.6918	25388.0850	-104582.2336	25423.8361
F3	-104533.5891	25387.5307	-104584.7447	25446.4870
F4	-104540.8294	25376.7679	-104591.8661	25434.6660

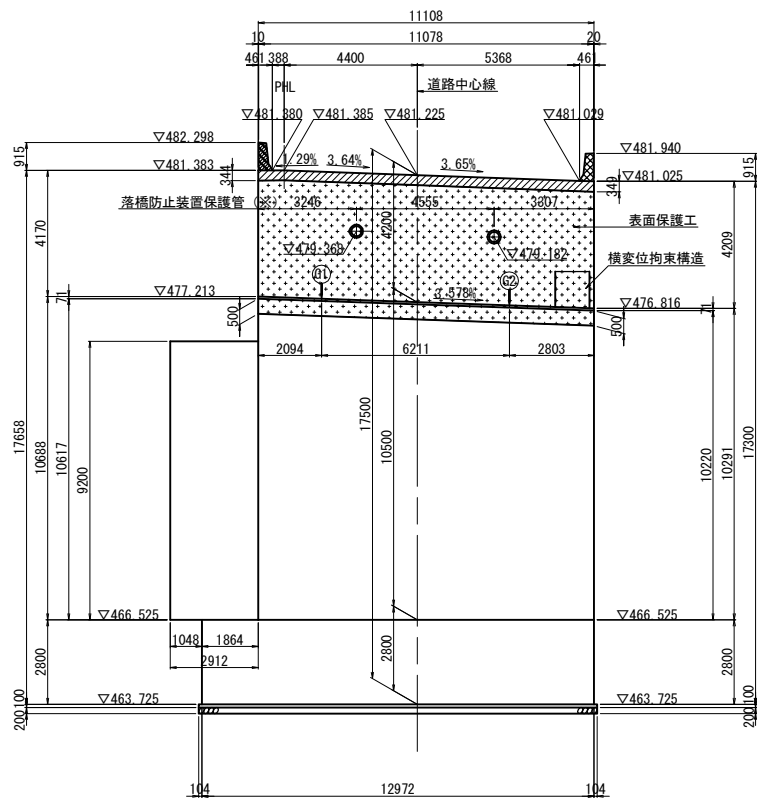
ウイング座標値表

	A1		A2	
	X	Y	X	Y
WL1	-104536.6855	25388.3433	-104586.6590	25444.9271
WL2	-104539.8739	25396.2832	-104579.1632	25440.4527
WR	-104540.2234	25376.0725	-104591.8661	25434.6660

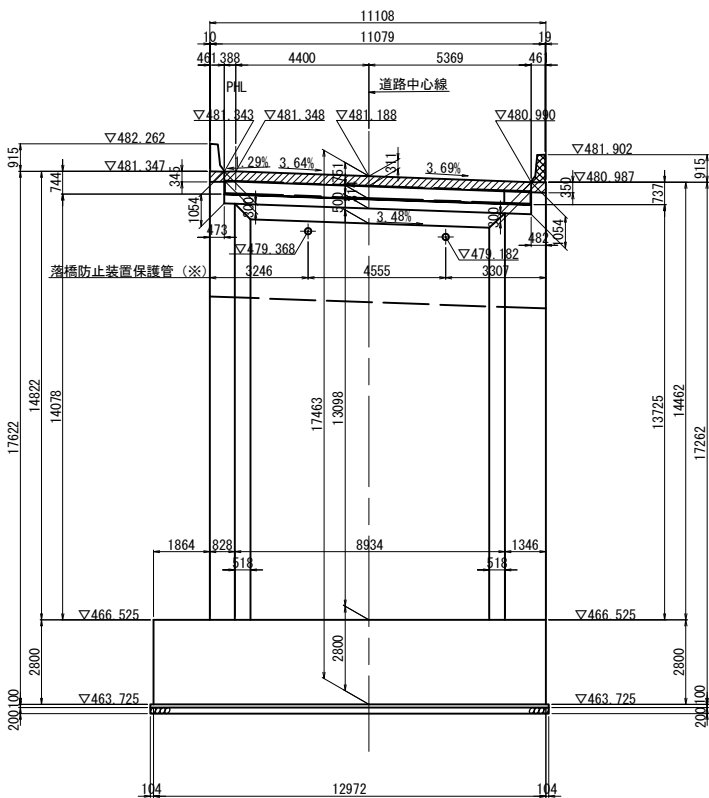


道東自動車道			
下トママ地区下部工工事			
図面の種類	下トママ鷗川橋（上り線） 下部工線形図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

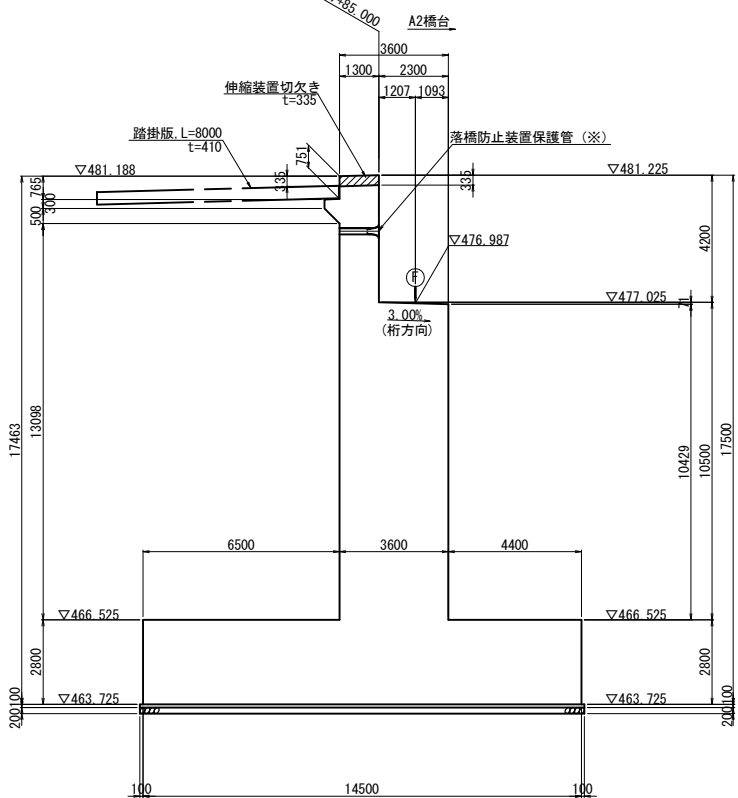
正面図 (1-1)



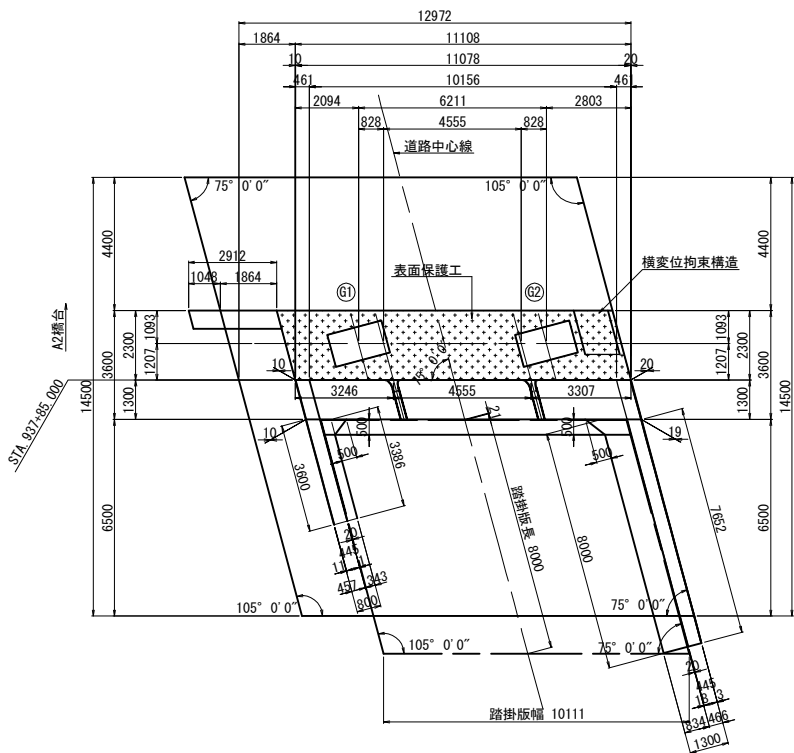
背面図 (2-2)



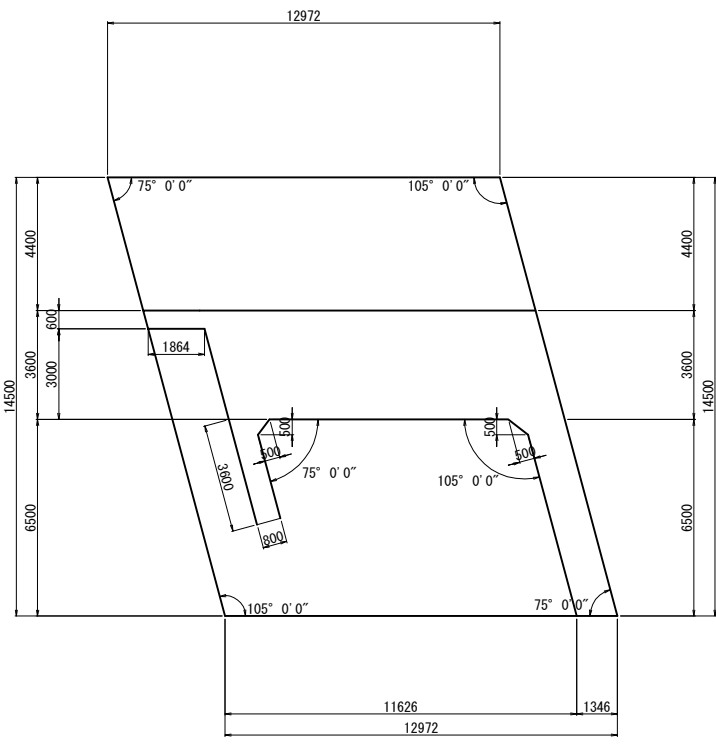
断面図 (3-3)



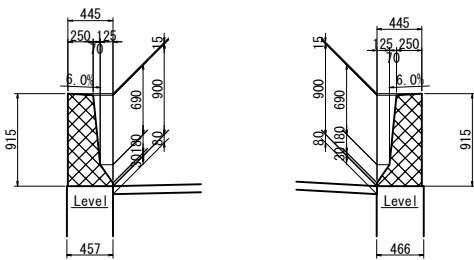
平面図 (4-4)



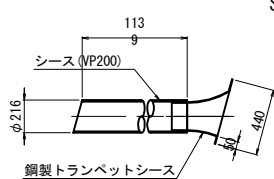
平面図 (5-5)



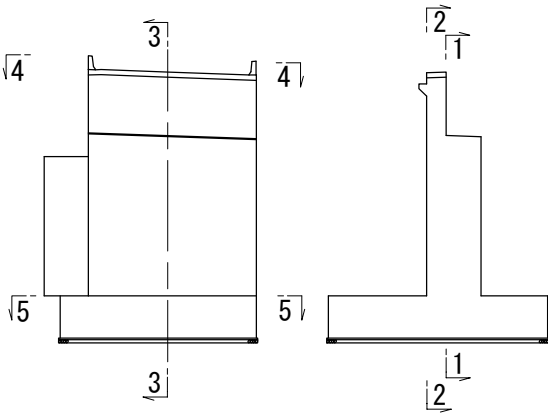
壁高欄詳細図 S=1:75



落橋防止装置保護管詳細図 (※)



位置図



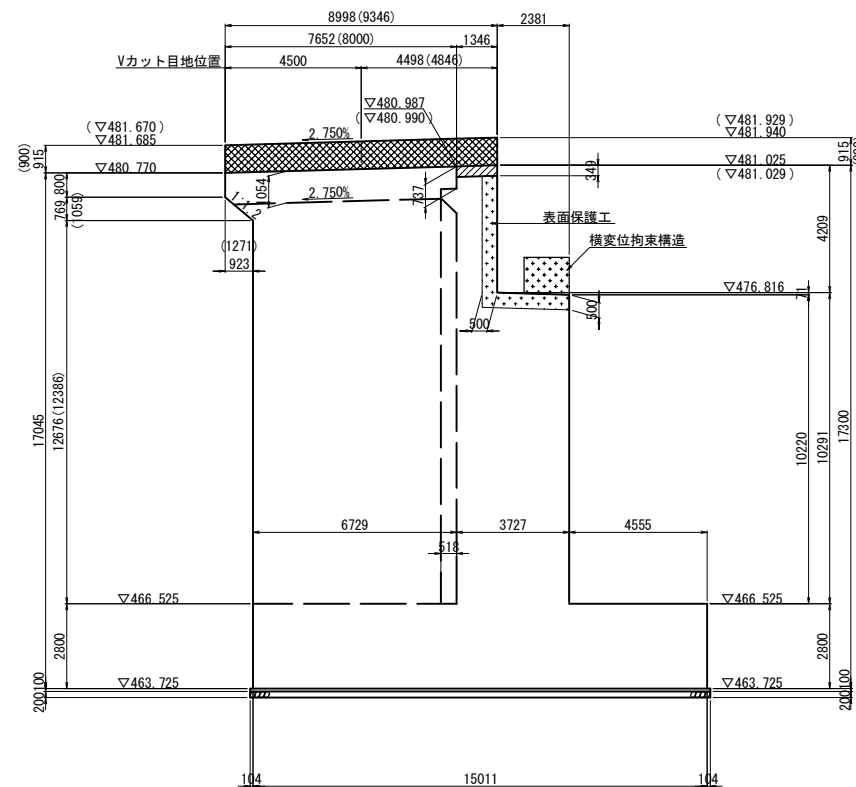
材料強度・材質

コンクリート	型	σ _{ck} =30N/mm ²
	底	σ _{ck} =24N/mm ²
均	し	σ _{ck} =18N/mm ²
	鉄	RC-40
鉄	筋	SD345

(別途工事)
注 ①部(伸縮装置切欠き)は、後打ち施工とする。
②部(壁高欄部)は、後打ち施工とする。
③部は、表面保護工施工範囲とする。
ただし数量は、上部工で計上する。
水抜きパイプの配置等は、表込め工図参照のこと。
(※) 車計上項目

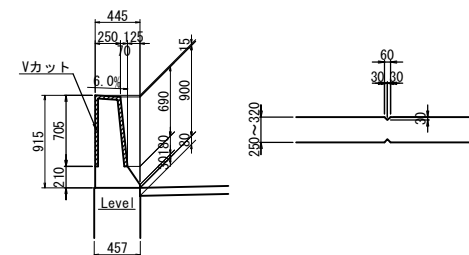
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鷗川橋（上り線） A 1 橋台構造一般図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右ウィング(2-2)



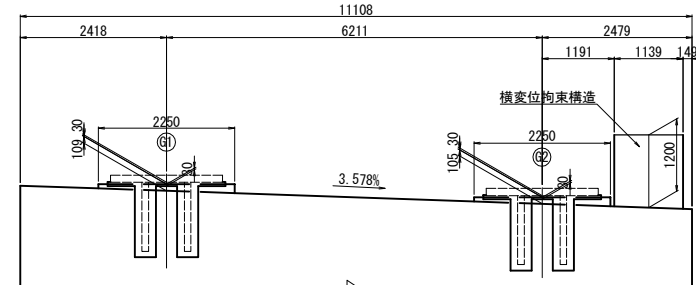
注) () 内の数値は内側(高さはR2ライン)の数値を示す。

Vカット目地詳細図 S=1:75

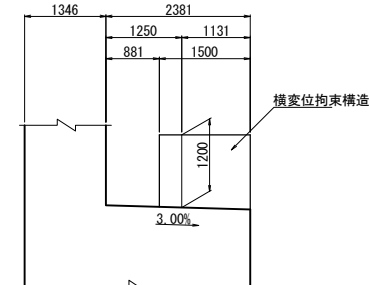


支承部配置図 S=1:125

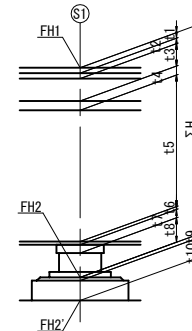
正面図



側面図



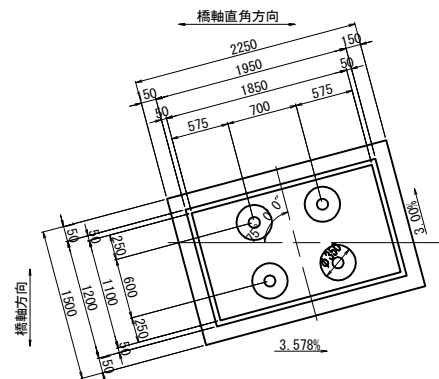
構造高



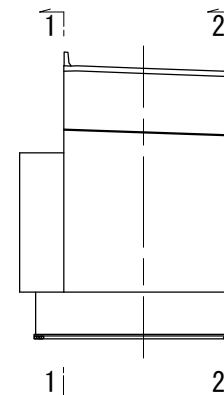
構造高表

		A1 (\$1)		
		G1	CL	G2
路面計画高	FH1	481.362	481.260	481.137
舗装厚	t1	0.080		0.080
舗装調整コンクリート	t2	0.015		0.004
床版厚	t3	0.320		0.320
ハンチ高	t4	0.100		0.100
主桁高	t5	3.100		3.100
下フランジ厚	t6	0.034		0.038
ソールプレート厚	t7	0.048		0.049
支床高	t8	0.441		0.441
構造高合計	ΣH	4.138		4.132
支床下端高	FH2	477.224		477.005
調整モルタル厚	t9	0.030		0.030
台座高	t10	0.109		0.105
下部工顶端高	FH2'	477.085	476.987	476.870

平面图



位置図



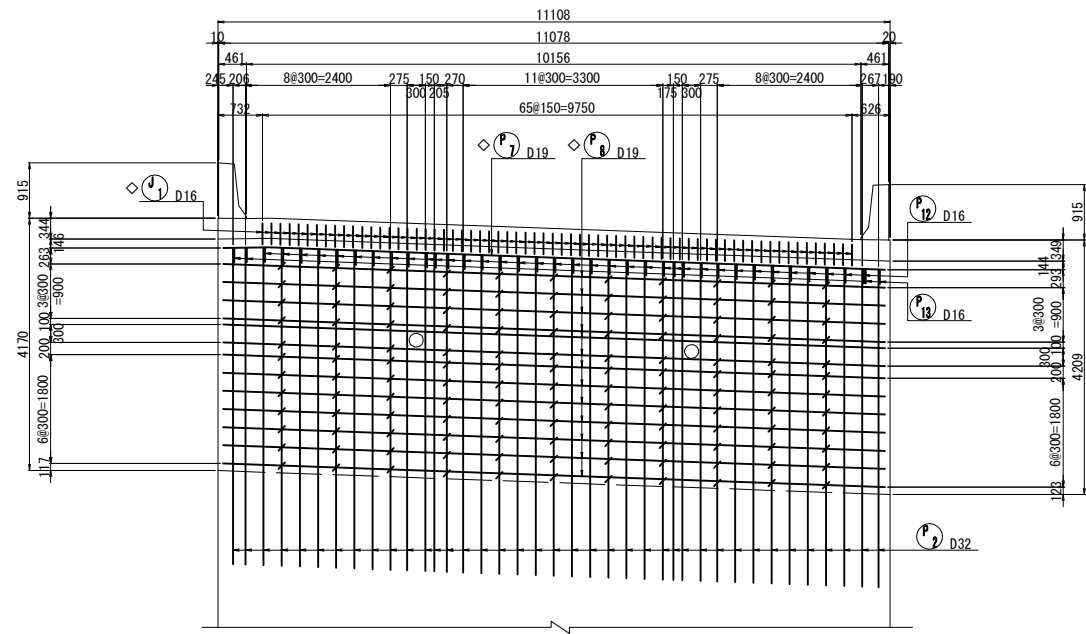
材料強度・材質

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均し	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
基礎材		RC-80
鉄筋		SD345

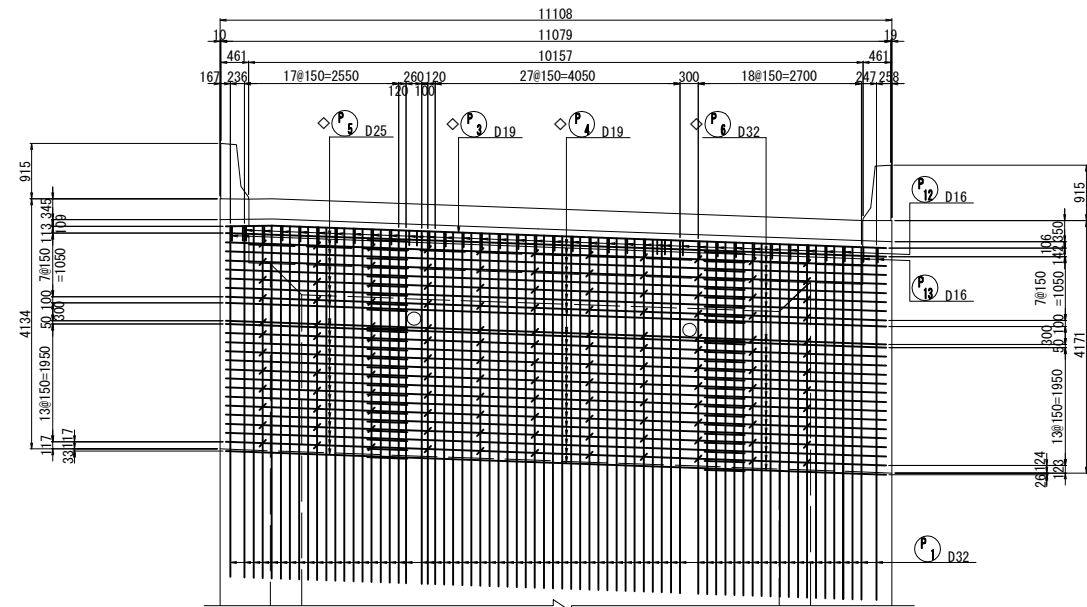
(別塗施工工事)
注  部(伸縮装置切欠き)は、後打ち施工とする。
 部(壁高欄部)は、後打ち施工とする。
 部は、表面保護施工施工範囲とする。
ただし数量は、上図で計上する。
水抜きパイプの配置等は、裏込め工図参照のこと。

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鷗川橋（上り線） A 1 橋台構造一般図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

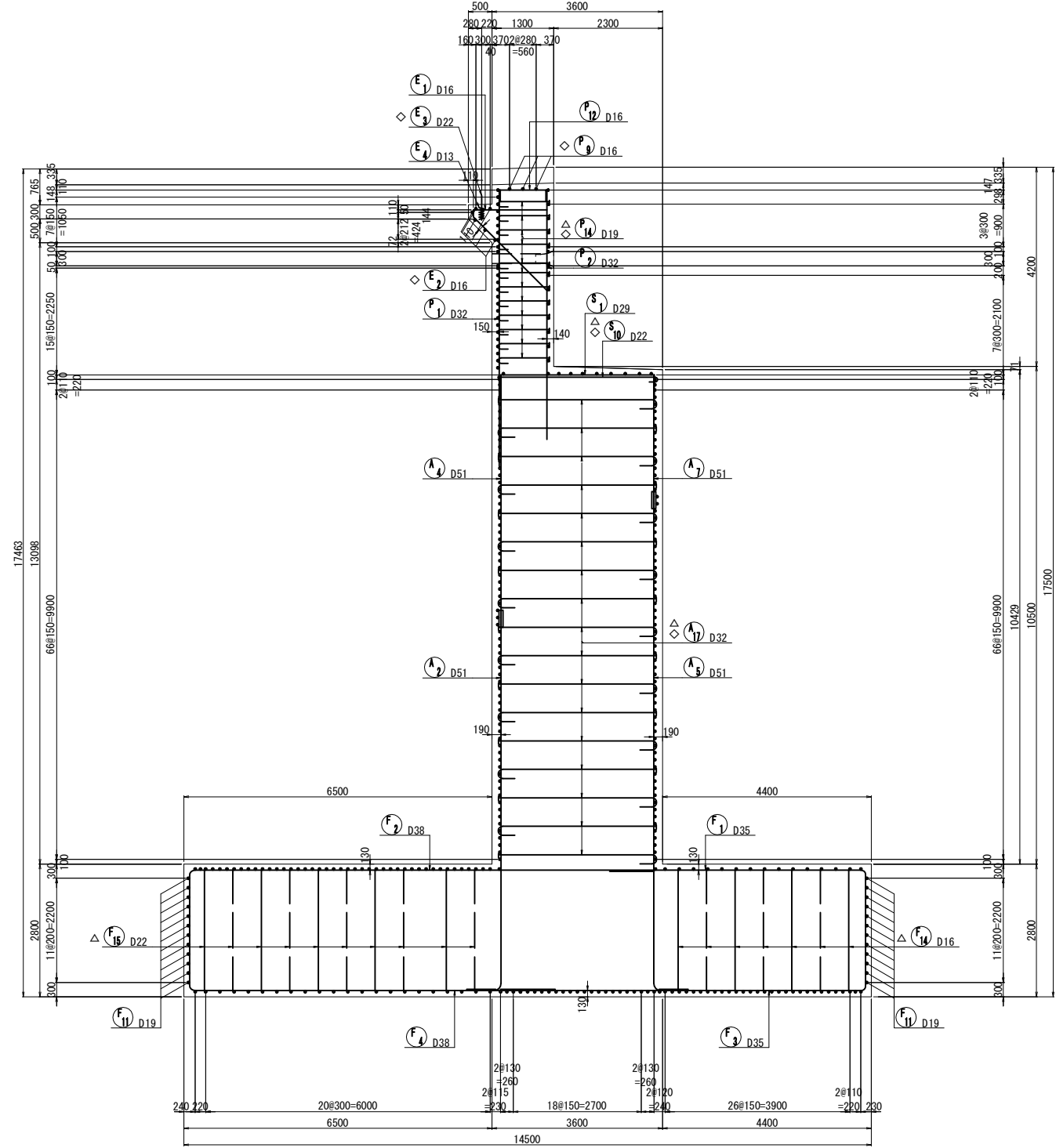
パラペット正面図
1 - 1



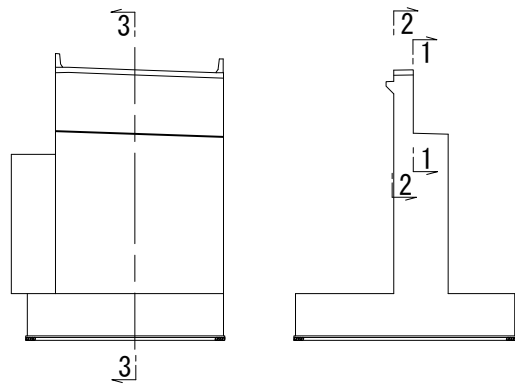
パラペット背面図
2 - 2



断面図
3 - 3



位置図



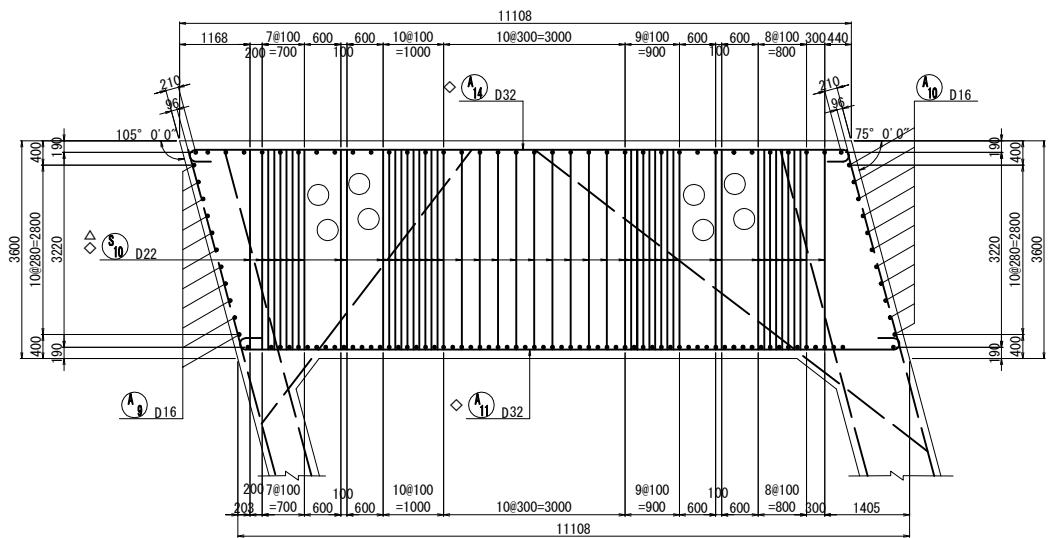
使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

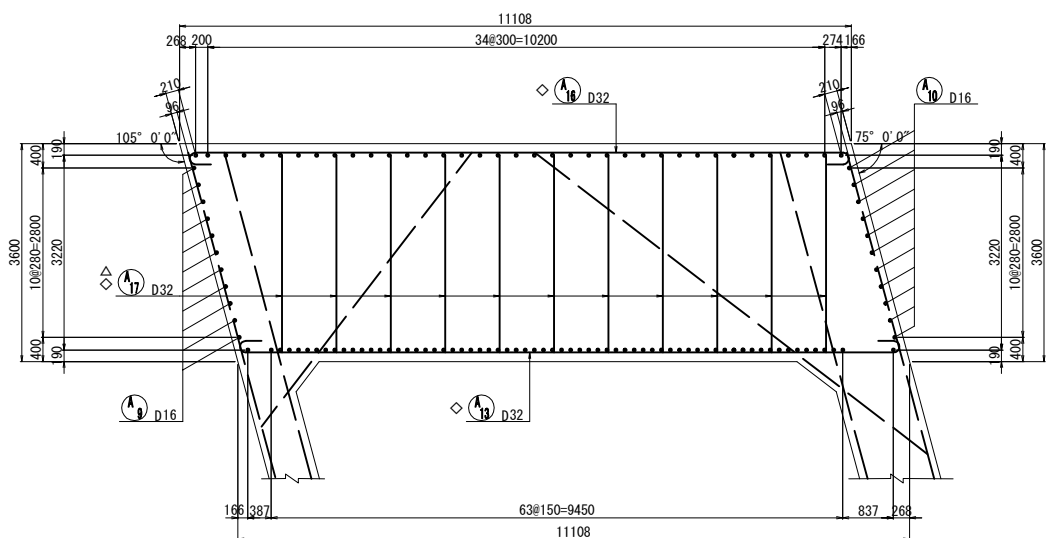
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道				
下トナム地区下部工工事				
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

水平補強平面図
1 - 1

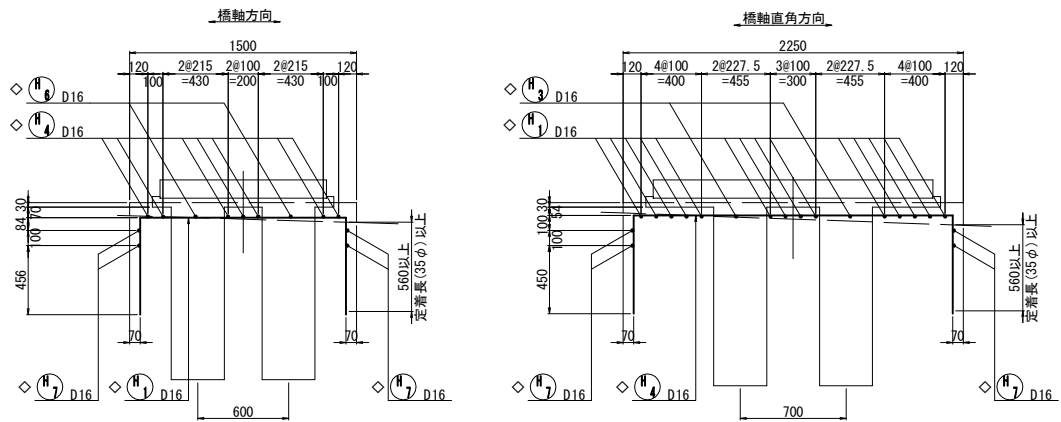


縦壁平面図
2 - 2

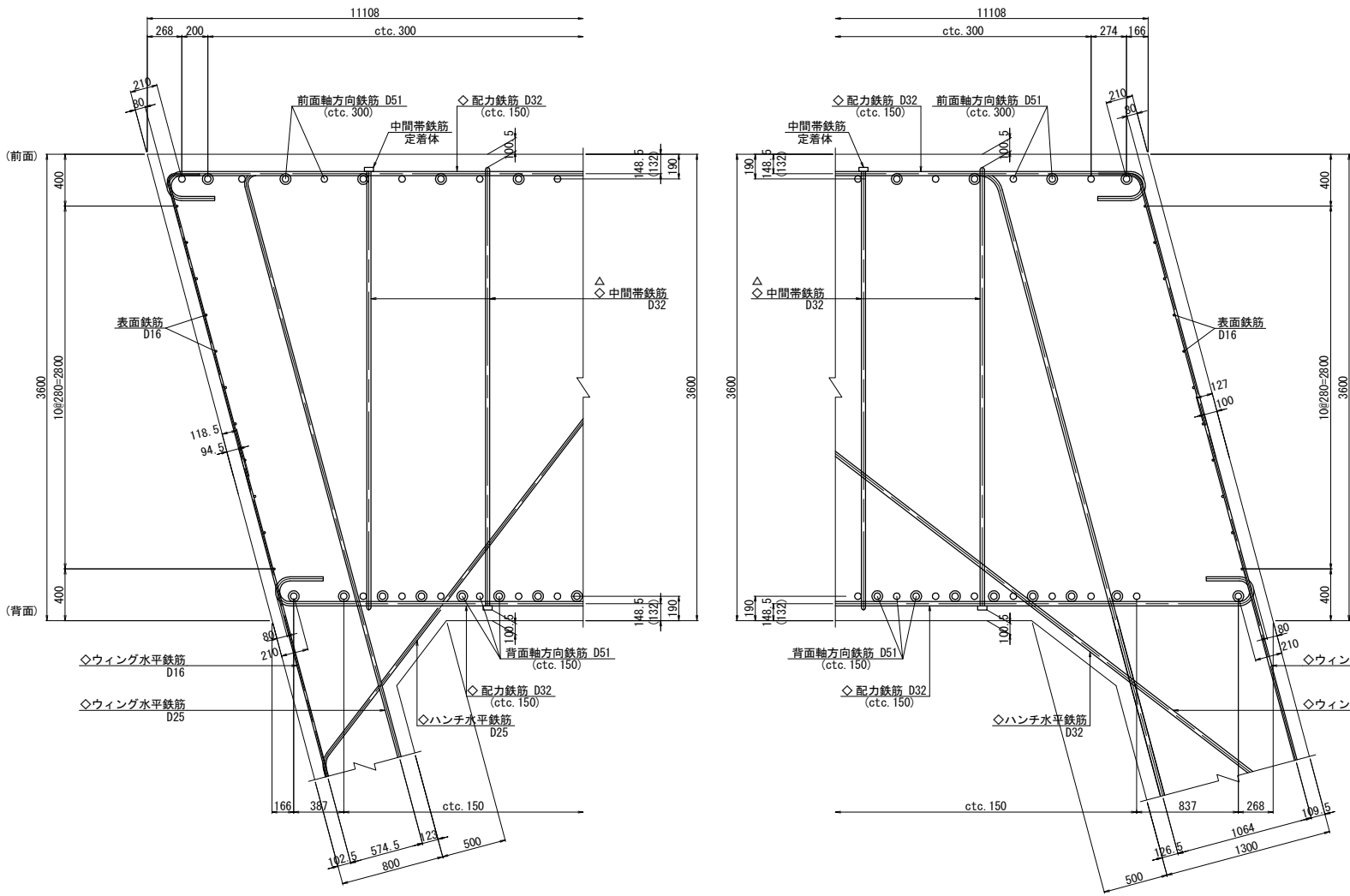


※ A17鉄筋が支承箱抜きに干渉する場合は最小限避けて配置すること。

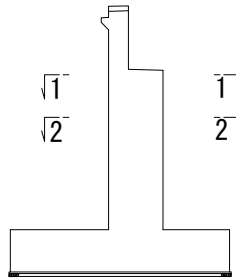
支承箱抜き補強配筋図 S=1:50
(2箇所)



縦壁端部かぶり詳細図 S=1:50



位置図



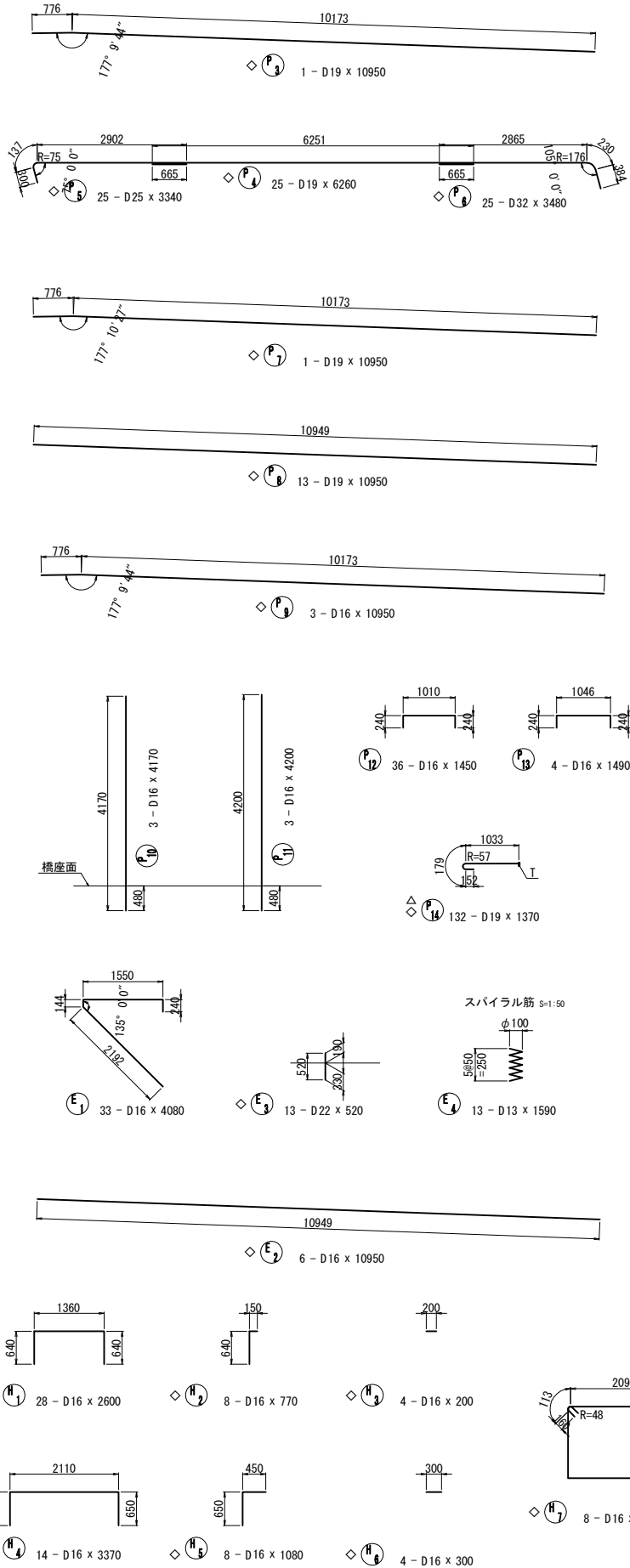
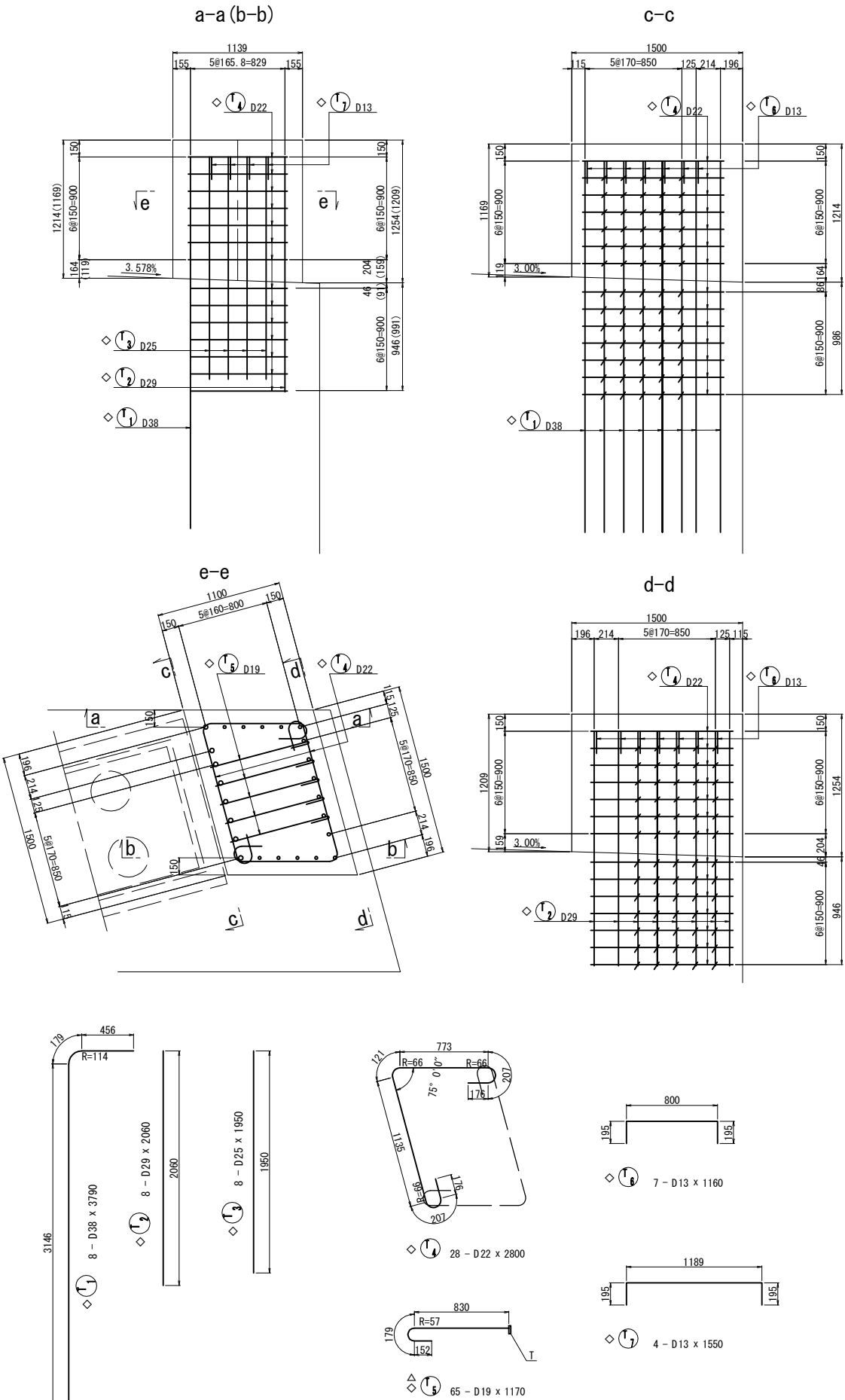
使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 下トナム鵠川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その4）			
図面の種類	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	縮 尺	図 示	図面番号
施工会社名	縮 尺	図 示	図面番号
事務所名	縮 尺	図 示	図面番号

横変位拘束構造配筋図 S=1:50
(1箇所)



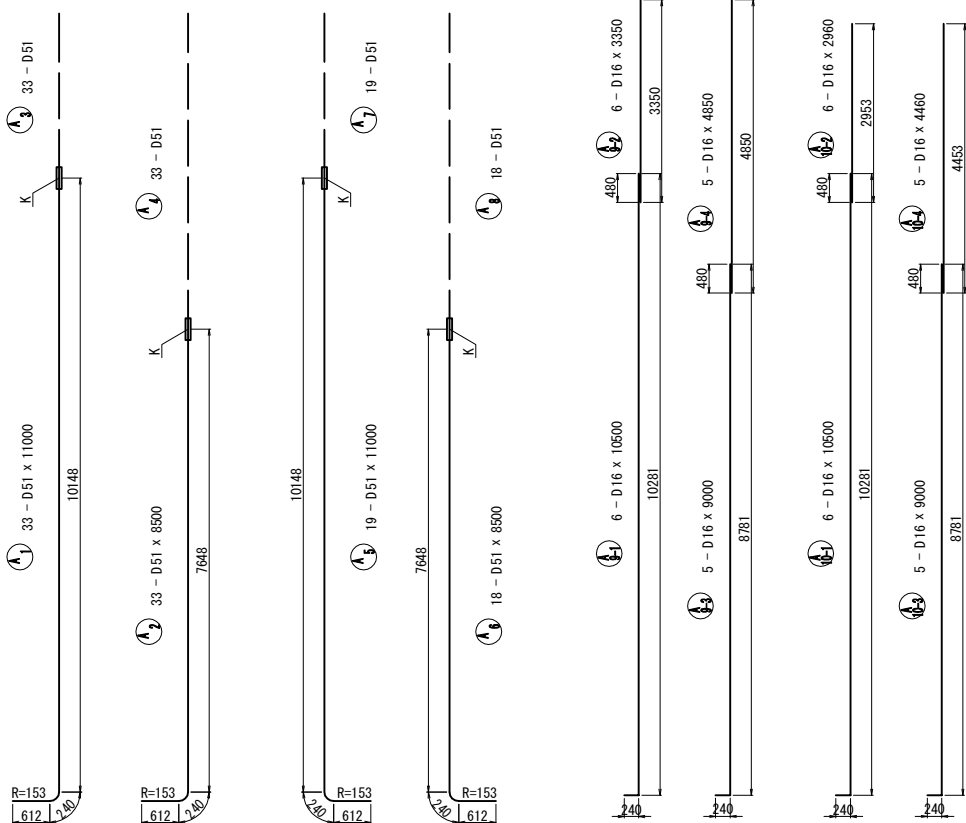
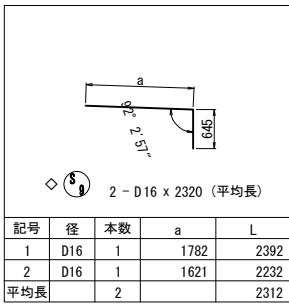
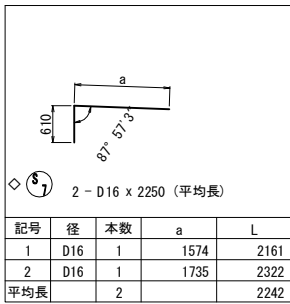
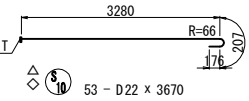
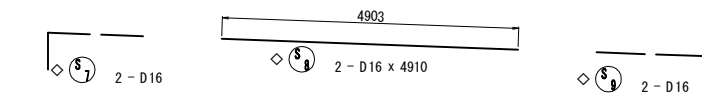
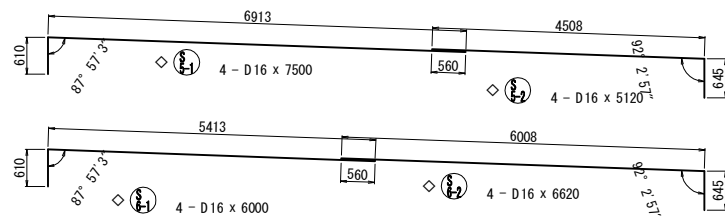
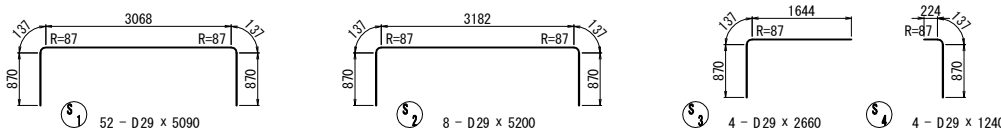
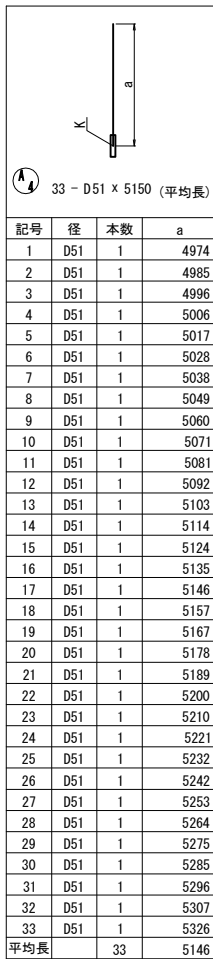
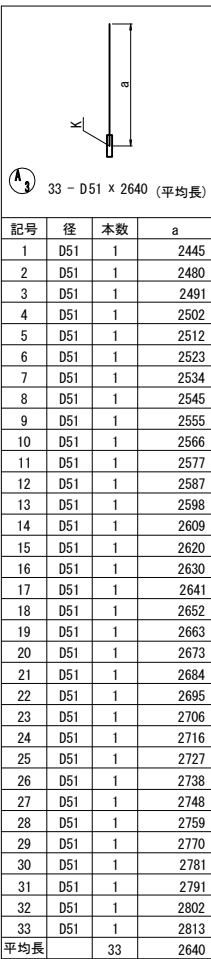
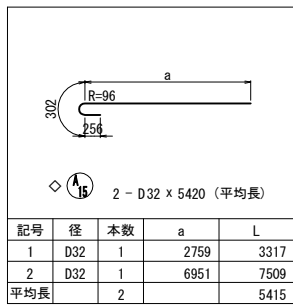
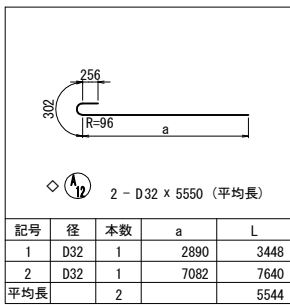
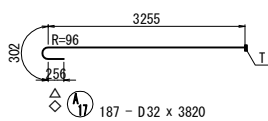
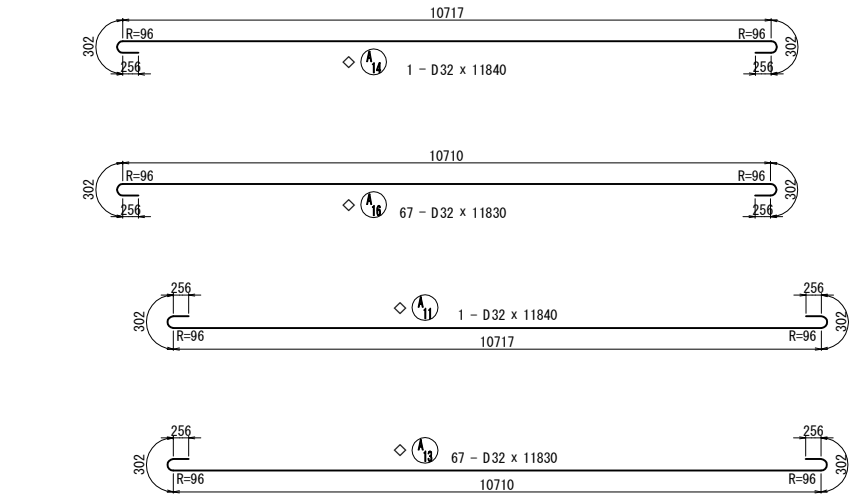
70 - D32 x 5830 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D32	1	5797
2	D32	1	5808
3	D32	1	5816
4	D32	1	5823
5	D32	1	5830
6	D32	1	5830
7	D32	1	5830
8	D32	1	5830
9	D32	1	5830
10	D32	1	5830
11	D32	1	5830
12	D32	1	5830
13	D32	1	5830
14	D32	1	5829
15	D32	1	5829
16	D32	1	5829
17	D32	1	5829
18	D32	1	5829
19	D32	1	5829
20	D32	1	5829
21	D32	1	5828
22	D32	1	5828
23	D32	1	5828
24	D32	1	5828
25	D32	1	5828
26	D32	1	5828
27	D32	1	5828
28	D32	1	5828
29	D32	1	5827
30	D32	1	5827
31	D32	1	5827
32	D32	1	5827
33	D32	1	5827
34	D32	1	5827
35	D32	1	5827
36	D32	1	5826
37	D32	1	5826
38	D32	1	5826
39	D32	1	5826
40	D32	1	5826
41	D32	1	5826
42	D32	1	5826
43	D32	1	5826
44	D32	1	5825
45	D32	1	5825
46	D32	1	5825
47	D32	1	5825
48	D32	1	5825
49	D32	1	5825
50	D32	1	5825
51	D32	1	5824
52	D32	1	5824
53	D32	1	5824
54	D32	1	5824
55	D32	1	5824
56	D32	1	5824
57	D32	1	5824
58	D32	1	5823
59	D32	1	5823
60	D32	1	5823
61	D32	1	5823
62	D32	1	5823
63	D32	1	5823
64	D32	1	5823
65	D32	1	5823
66	D32	1	5823
67	D32	1	5823
68	D32	1	5823
69	D32	1	5823
70	D32	1	5822
平均長		70	5825

39 - D32 x 5260 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D32	1	5231
2	D32	1	5241
3	D32	1	5255
4	D32	1	5260
5	D32	1	5260
6	D32	1	5260
7	D32	1	5260
8	D32	1	5260
9	D32	1	5259
10	D32	1	5259
11	D32	1	5259
12	D32	1	5259
13	D32	1	5259
14	D32	1	5259
15	D32	1	5258
16	D32	1	5258
17	D32	1	5258
18	D32	1	5258
19	D32	1	5258
20	D32	1	5257
21	D32	1	5257
22	D32	1	5257
23	D32	1	5257
24	D32	1	5257
25	D32	1	5256
26	D32	1	5256
27	D32	1	5256
28	D32	1	5256
29	D32	1	5256
30	D32	1	5256
31	D32	1	5255
32	D32	1	5255
33	D32	1	5255
34	D32	1	5255
35	D32	1	5255
36	D32	1	5254
37	D32	1	5254
38	D32	1	5254
39	D32	1	5254
平均長		39	5256

使用材料一覧表

部材	材料	規格
躯体	コンクリート	SD345
底版	鉄筋	SD345

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

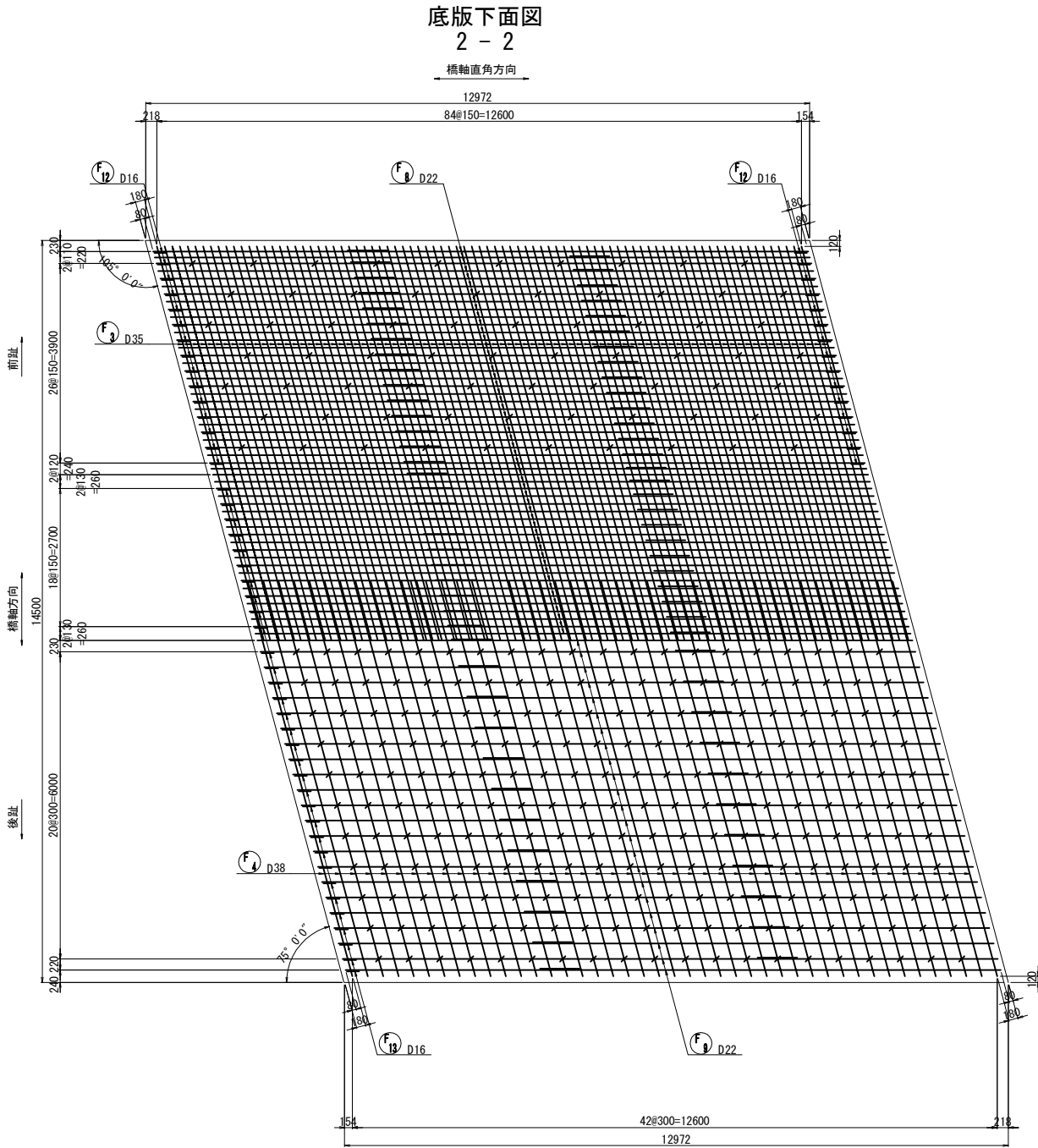
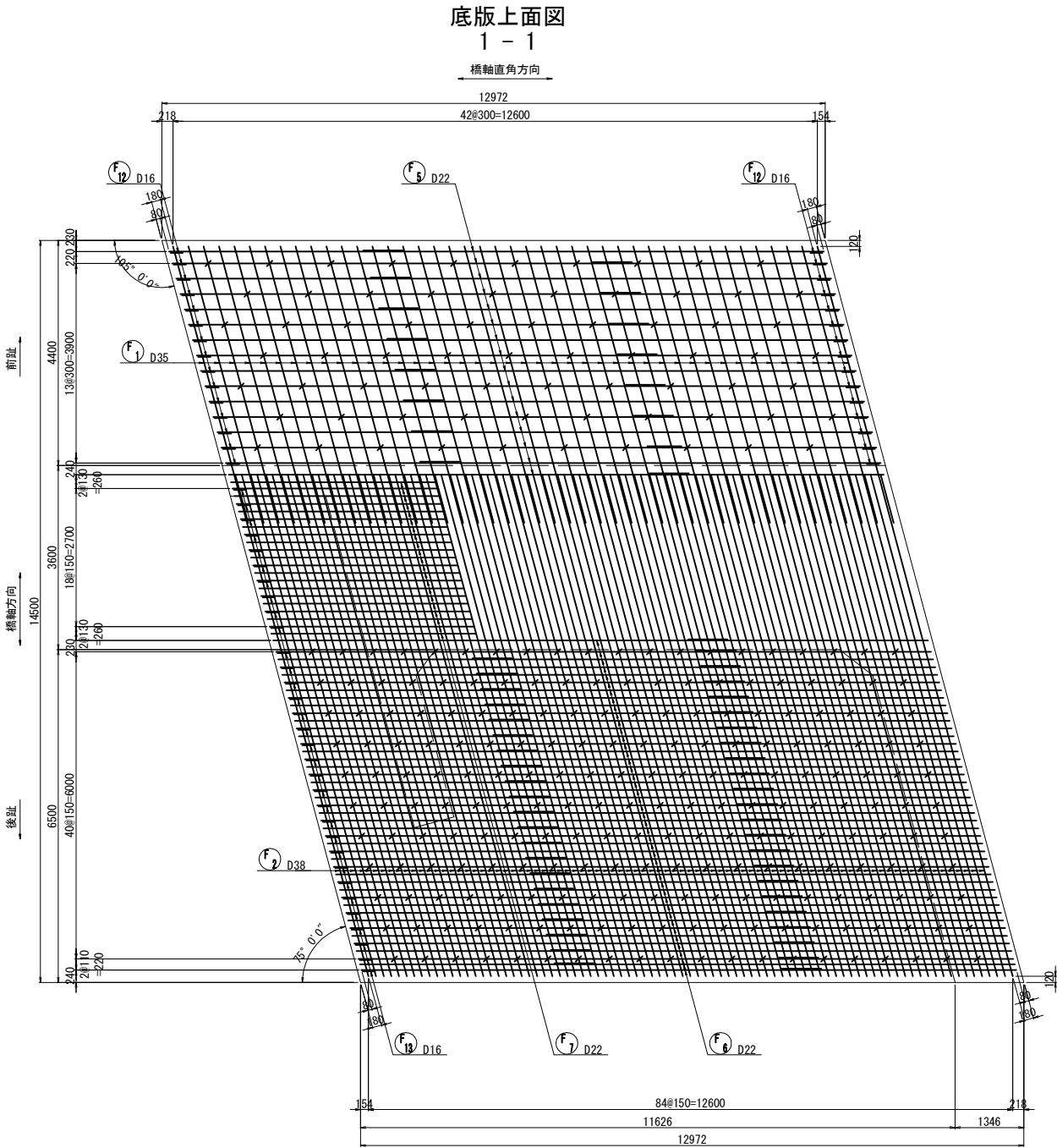


使用材料一覧表

躯体	コンクリート	鉄筋
底版	σck=30N/mm2	SD345
	σck=24N/mm2	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵜川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



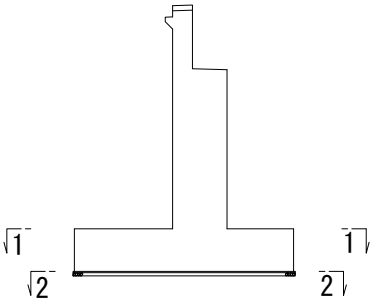
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。

注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

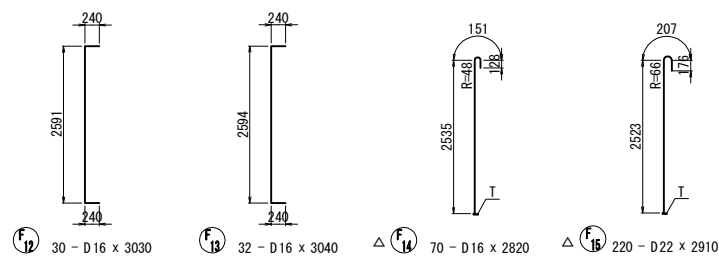
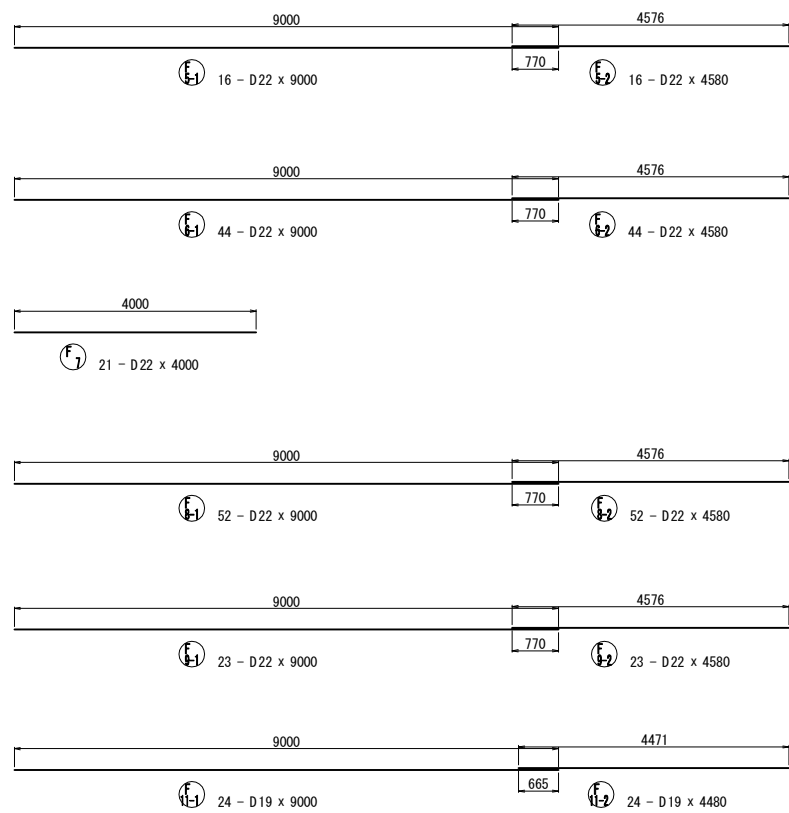
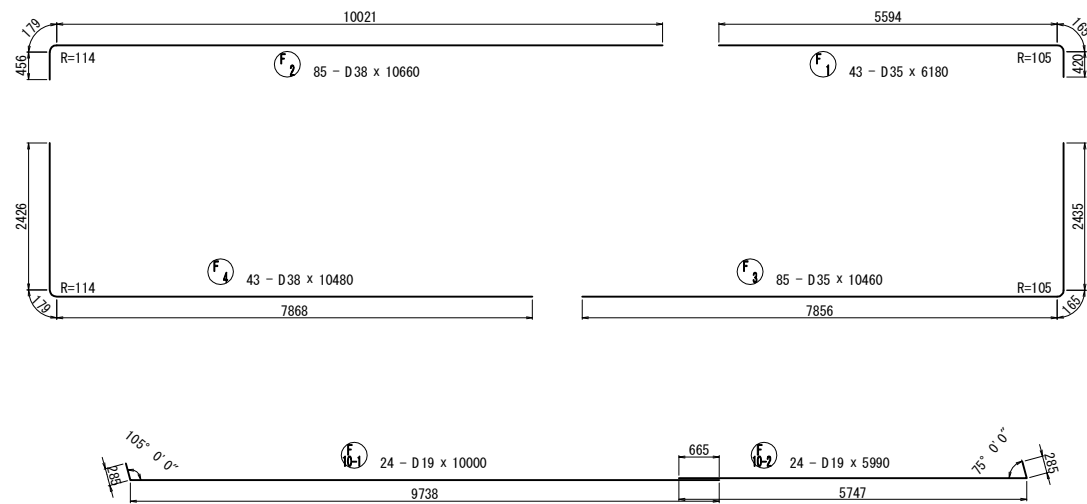
位置図



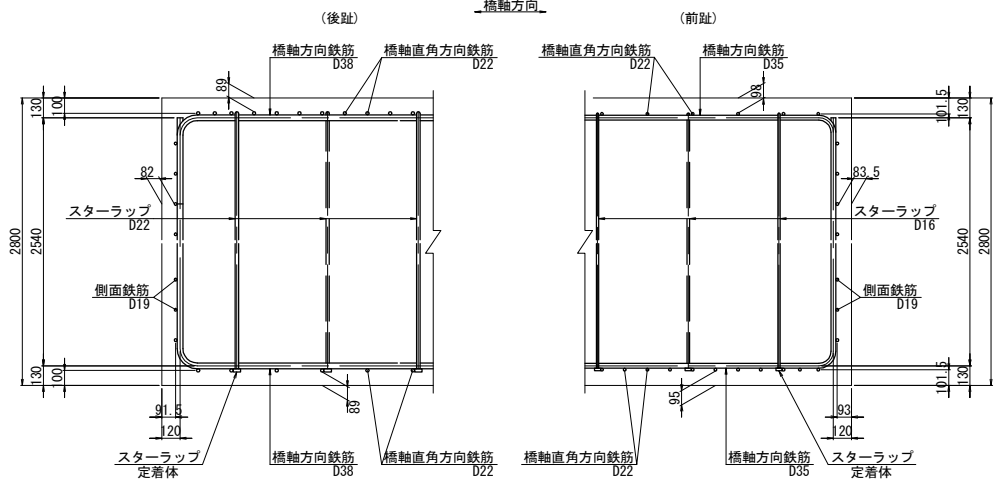
使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

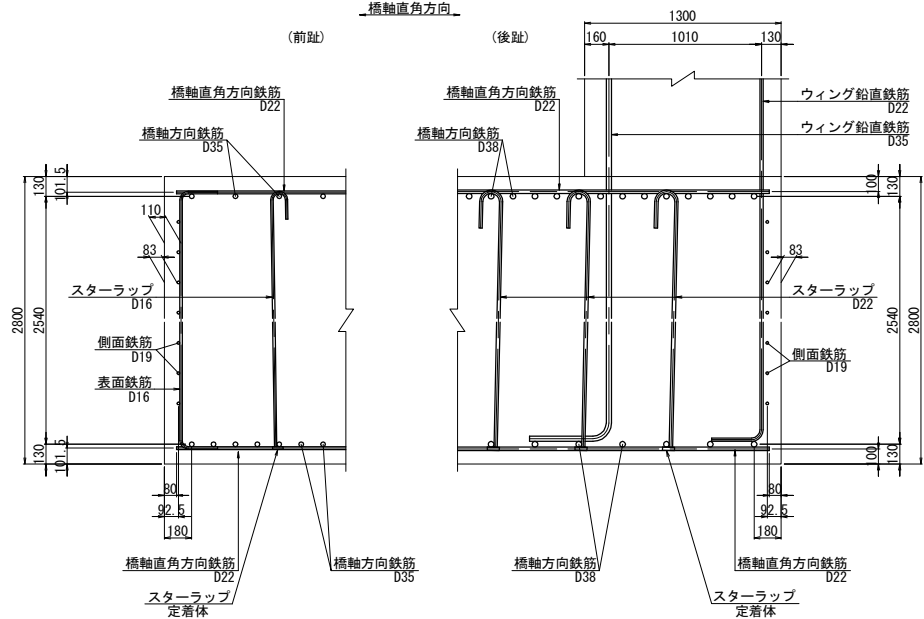
道東自動車道 下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



底版かぶり詳細図 S=1:50



底版かぶり詳細図 S=1:50



使用材料一覧表

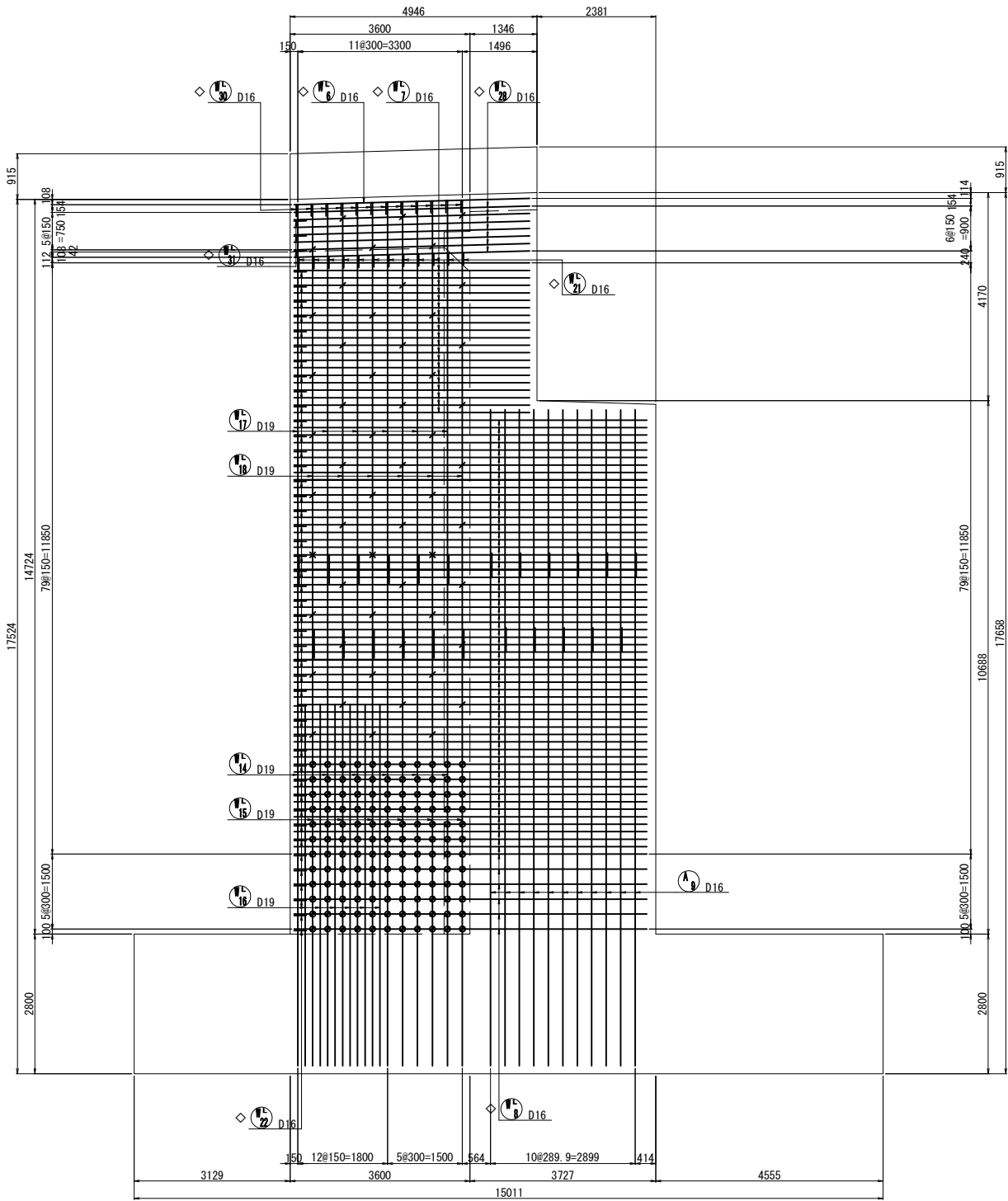
	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

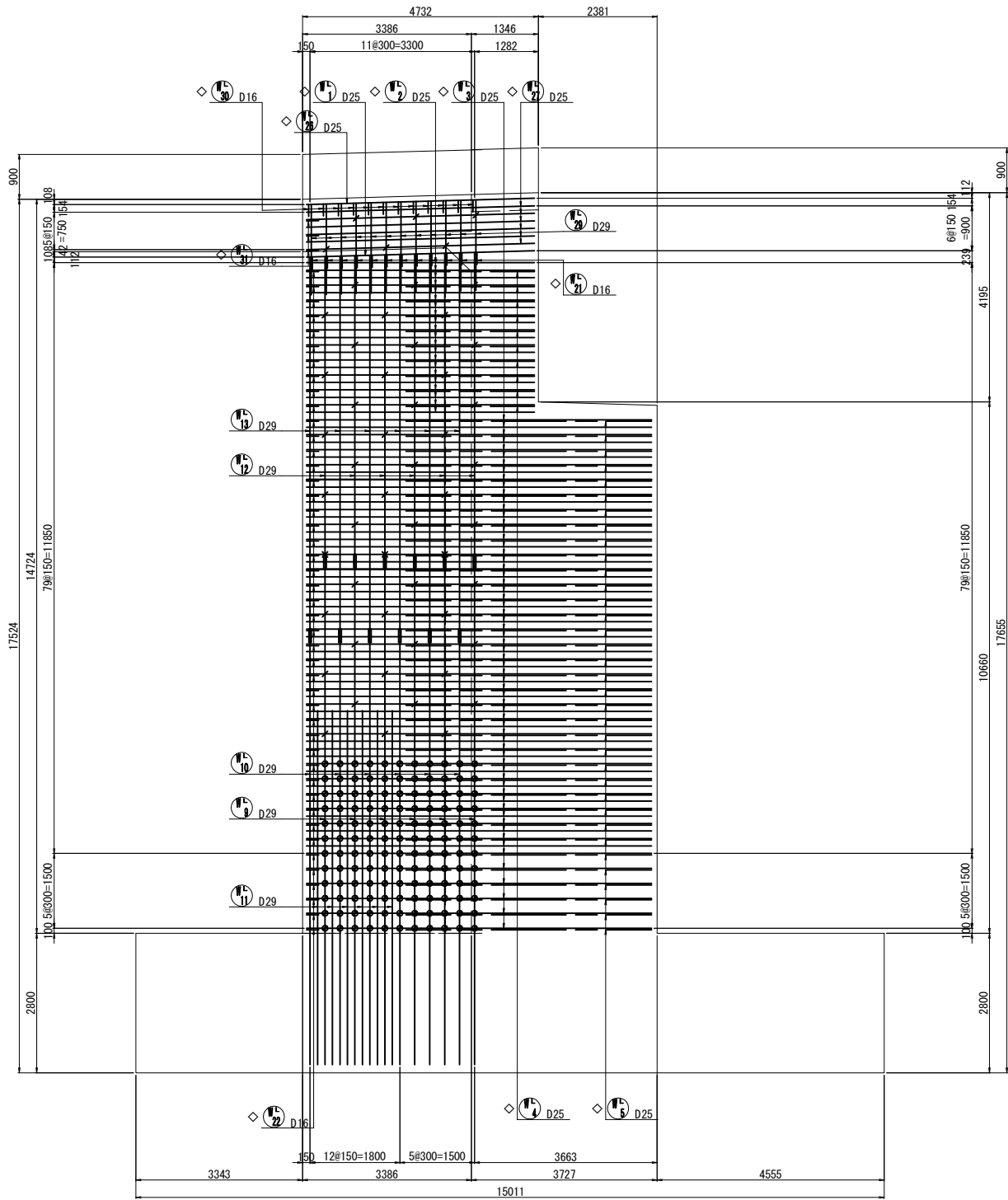
道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鷗川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウィング

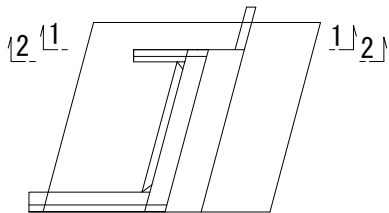
1 - 1 (外側)



2 - 2 (内側)



位置図

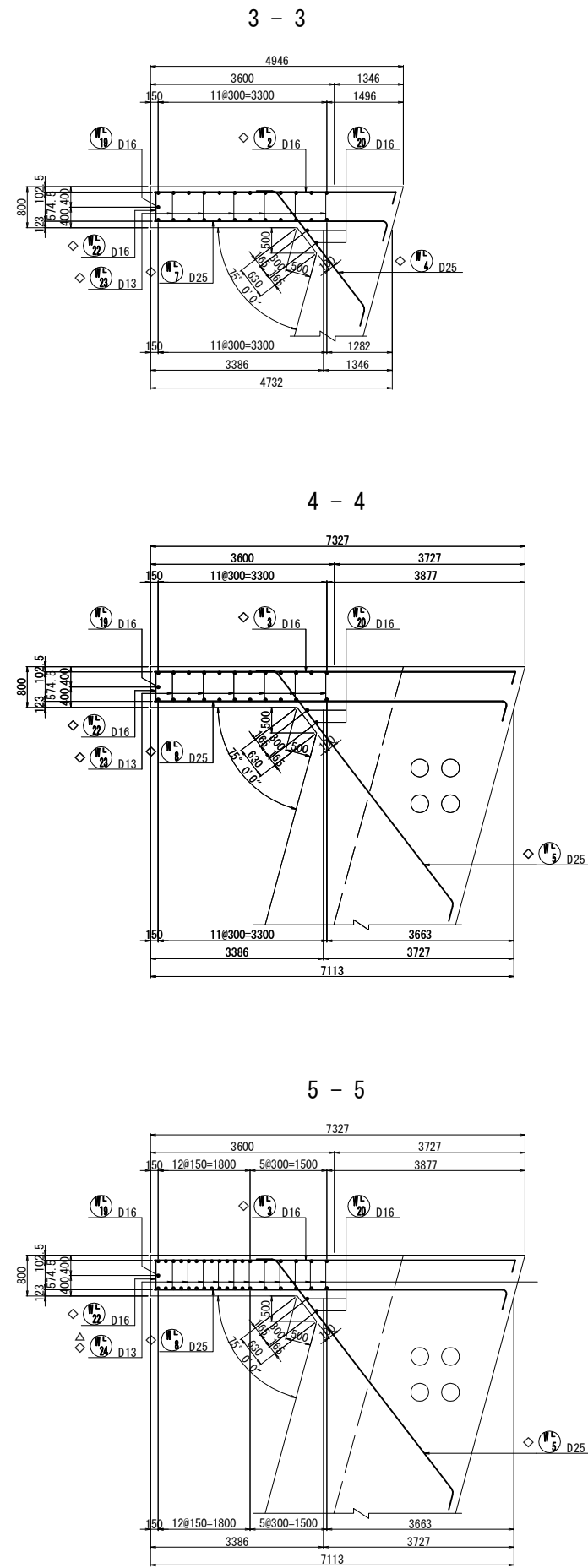


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注6) ⊗鉄筋はWL24鉄筋を示す。
注7) ⊗鉄筋はWL25鉄筋を示す。

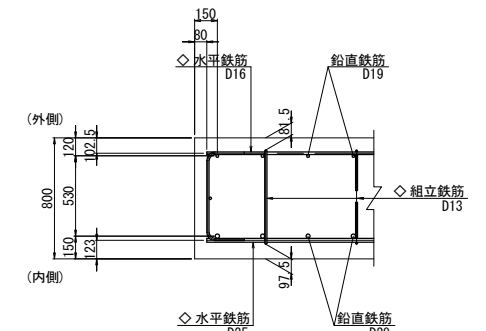
使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



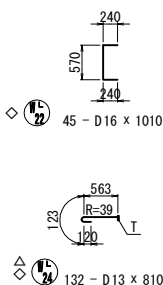
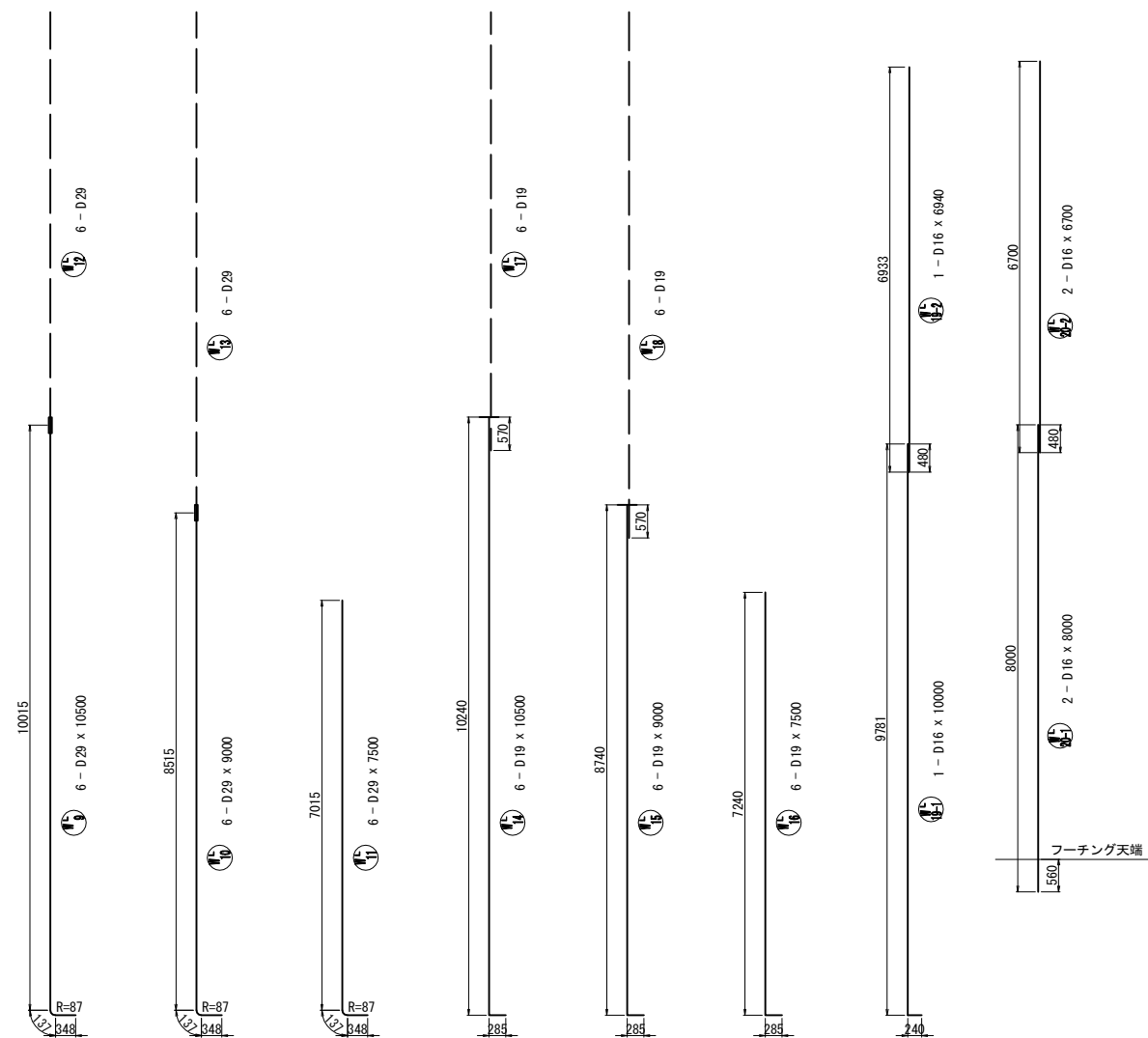
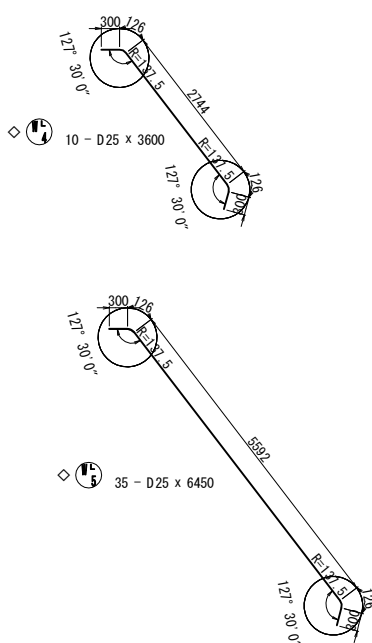
左ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋と接触するよてに配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

	コンクリート	鉄 筋
軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道 下トマム地区下郷工工事				
図面の種類	下トマム鷺川橋（上り線） A 1橋台配筋図（その１０）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



6 - D29 x 6150 (平均長)

6 - D29 x 7640 (平均長)

6 - D19 x 7640 (平均長)

6 - D19 x 9140 (平均長)

使用材料一覽表

	コンクリート	鉄 筋
軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

① 道路標示書・同解説 (R. 10 日本道路協会)

② 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

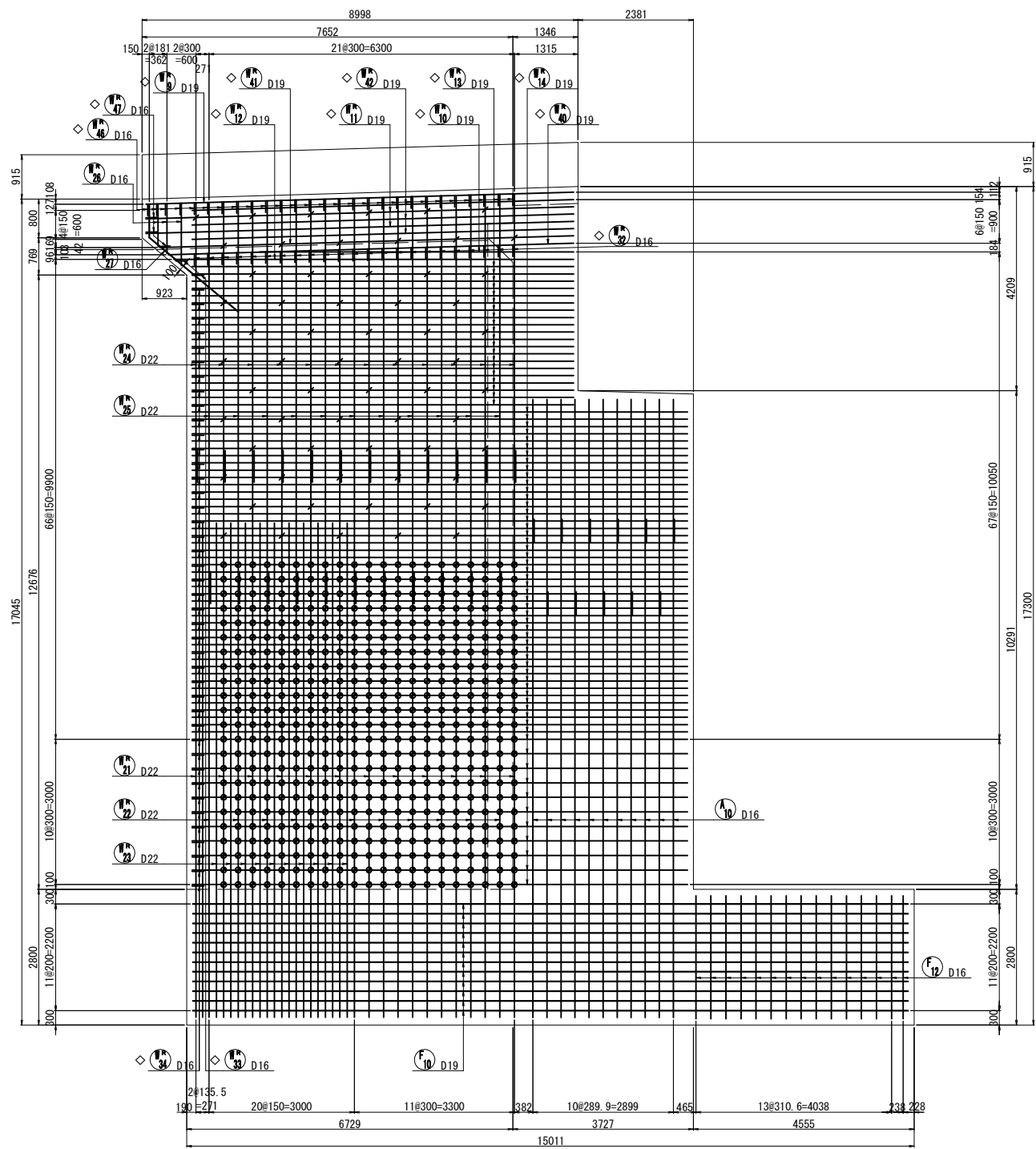
注3) △印は機械式定着工法の定着体を表す。

注4) △鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。

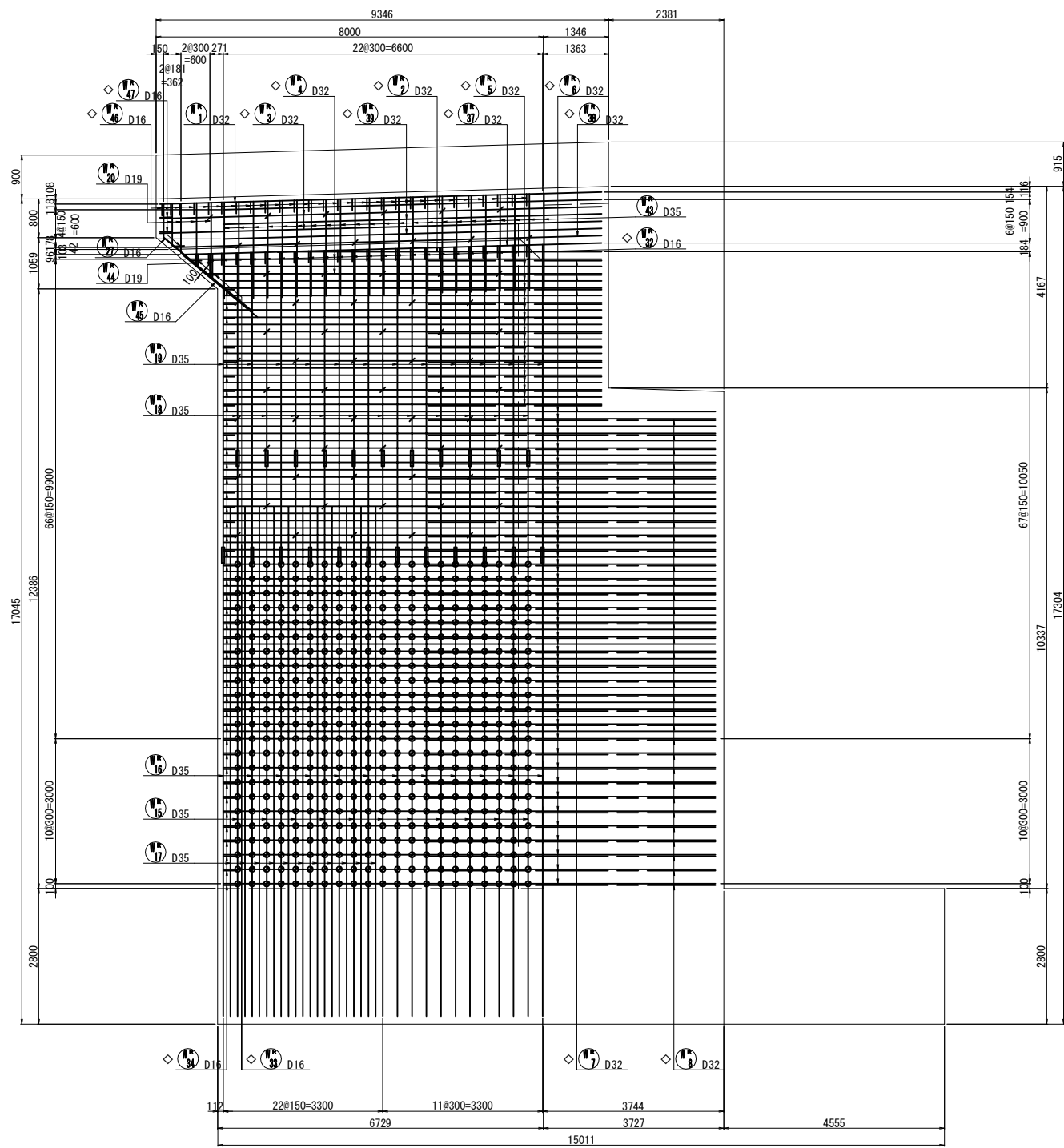
注5) 鉄筋長は上向き10mm丸めとする。

道東自動車道				
下トム田地区下部工工事				
図面の種類	下トム田鶴川橋（上り線）			
	A1橋台配筋図（その111）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

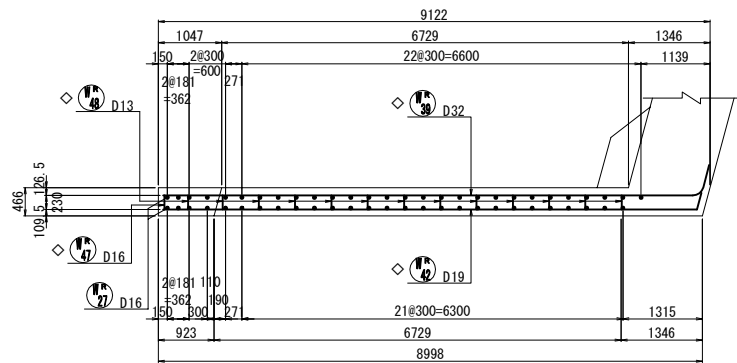
1 - 1 (外側)



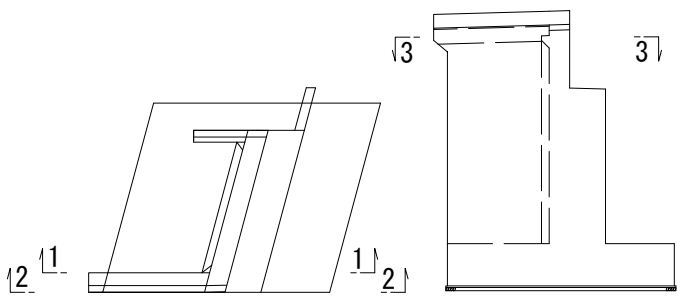
2 - 2 (内側)



3 - 3



位置図



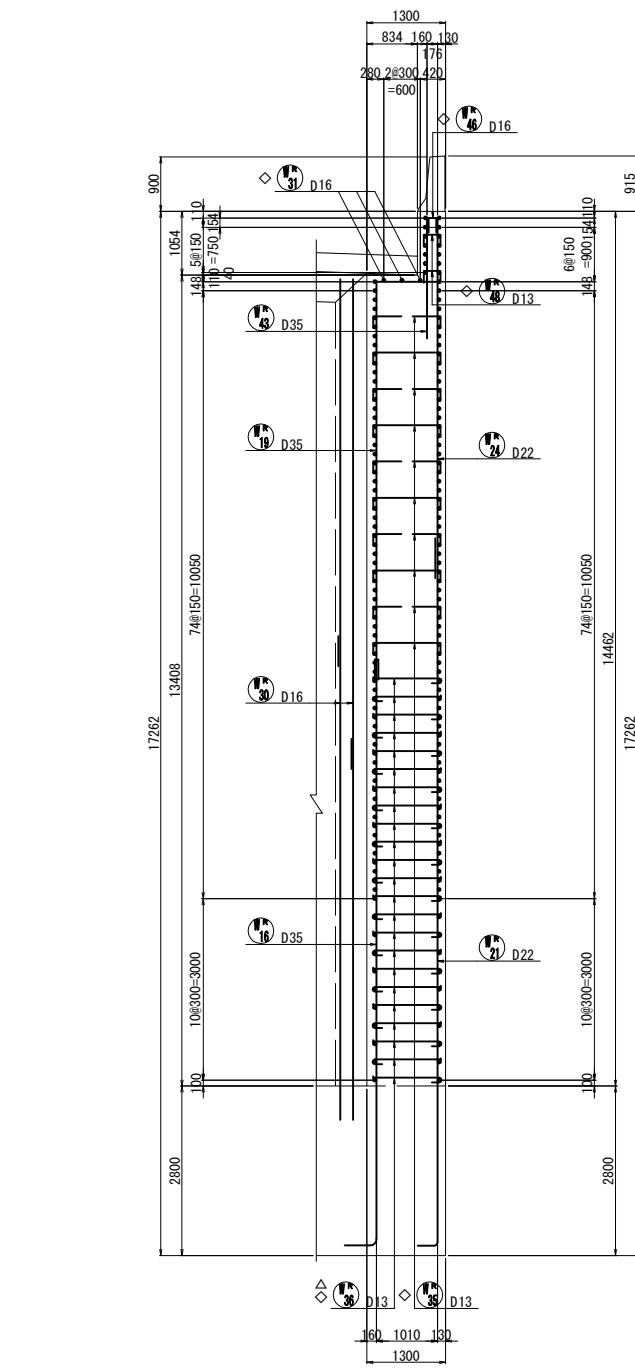
使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

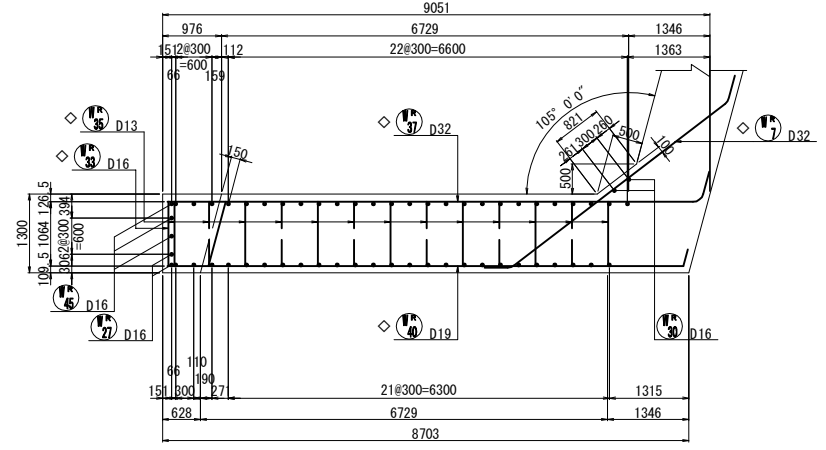
道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ⊙鉄筋はWR36鉄筋を示す。

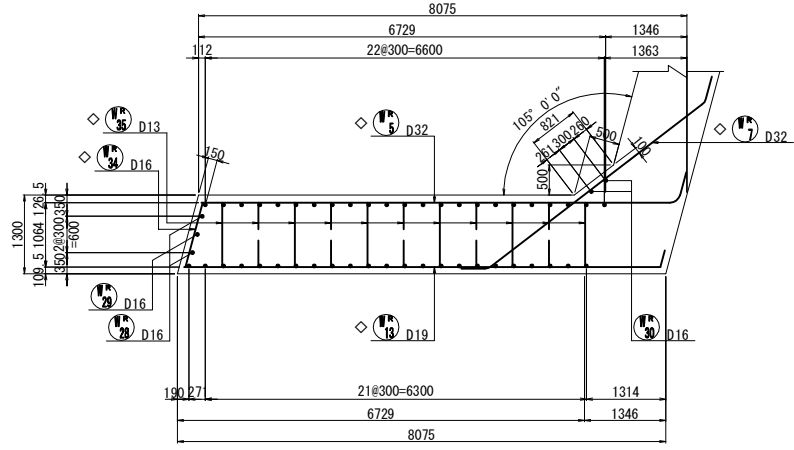
1 - 1



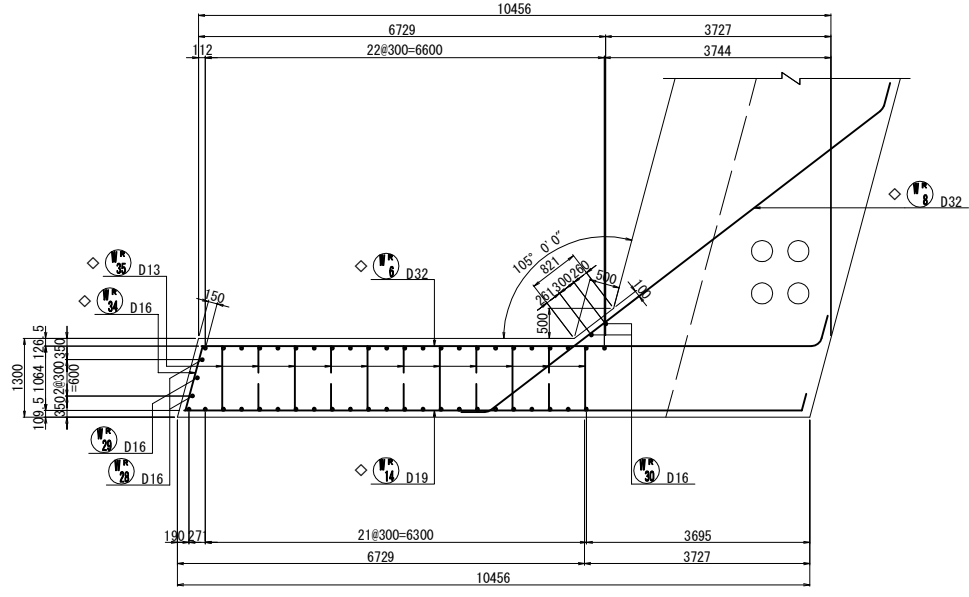
2 - 2



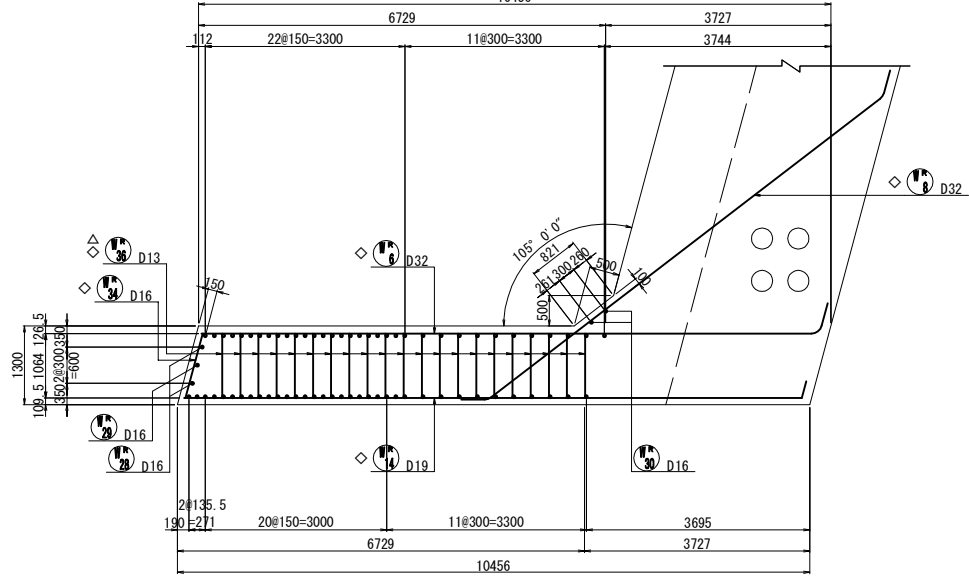
3 - 3



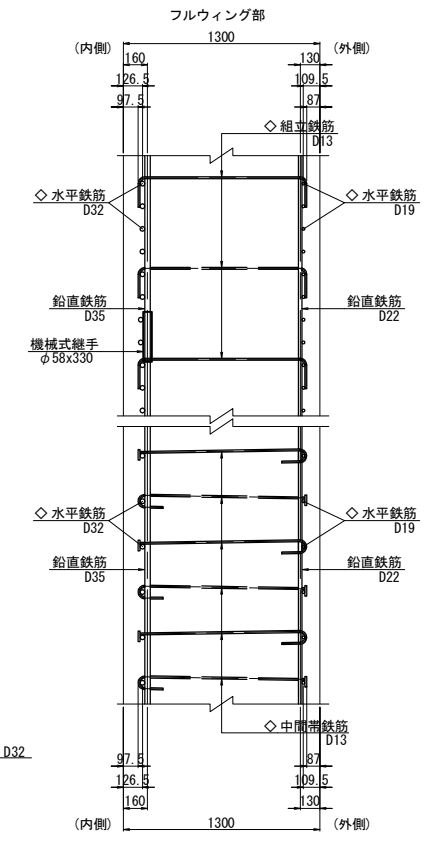
4 - 4



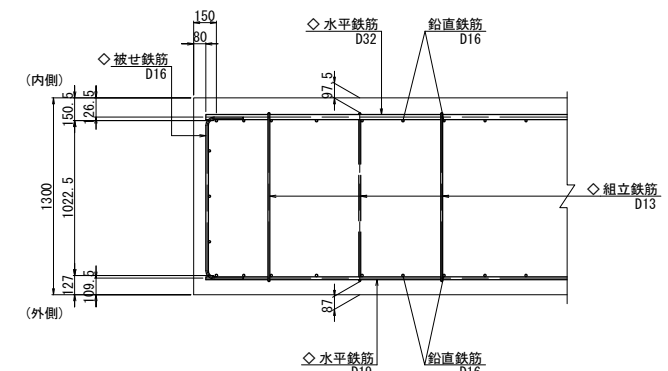
5 - 5



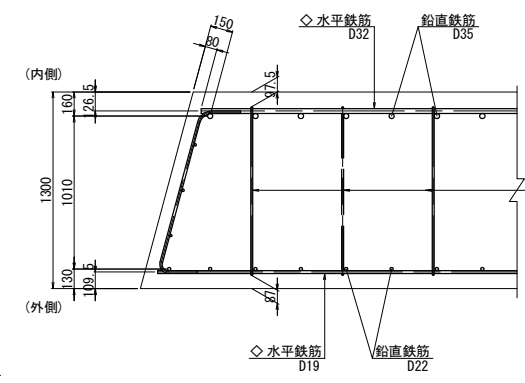
右ウィングかぶり詳細図 S=1:50



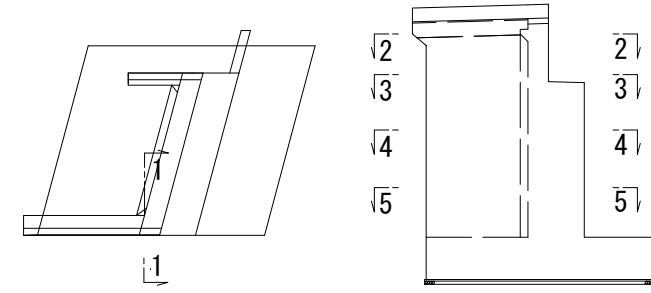
右平行ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



右ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



位置図

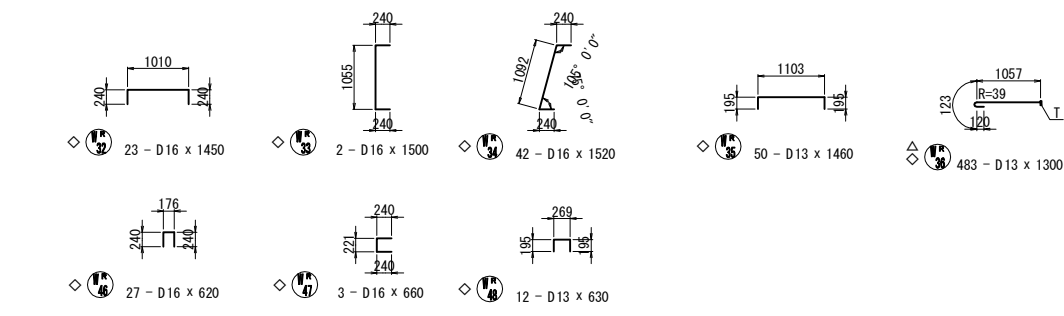
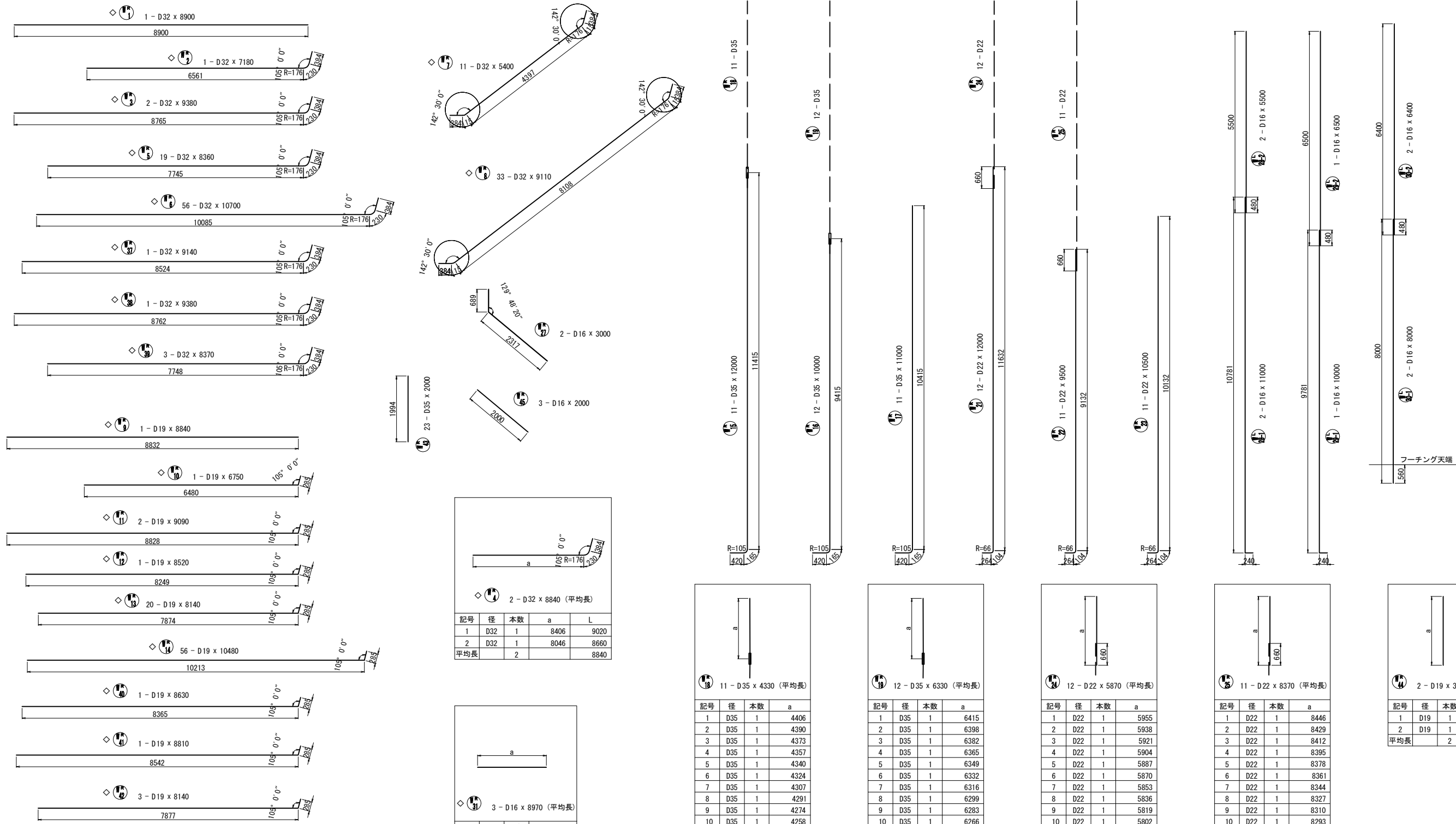


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム鵠川橋（上り線）			
A 1 橋台配筋図（その 1 3）			
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

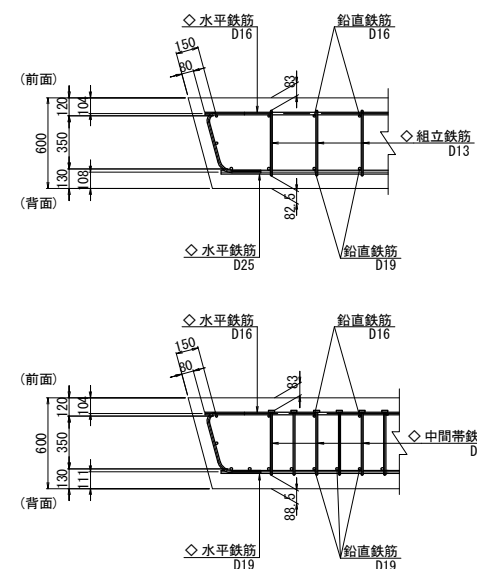
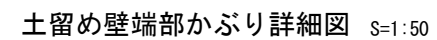
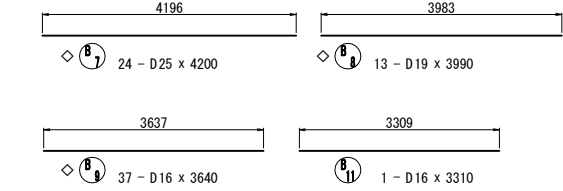
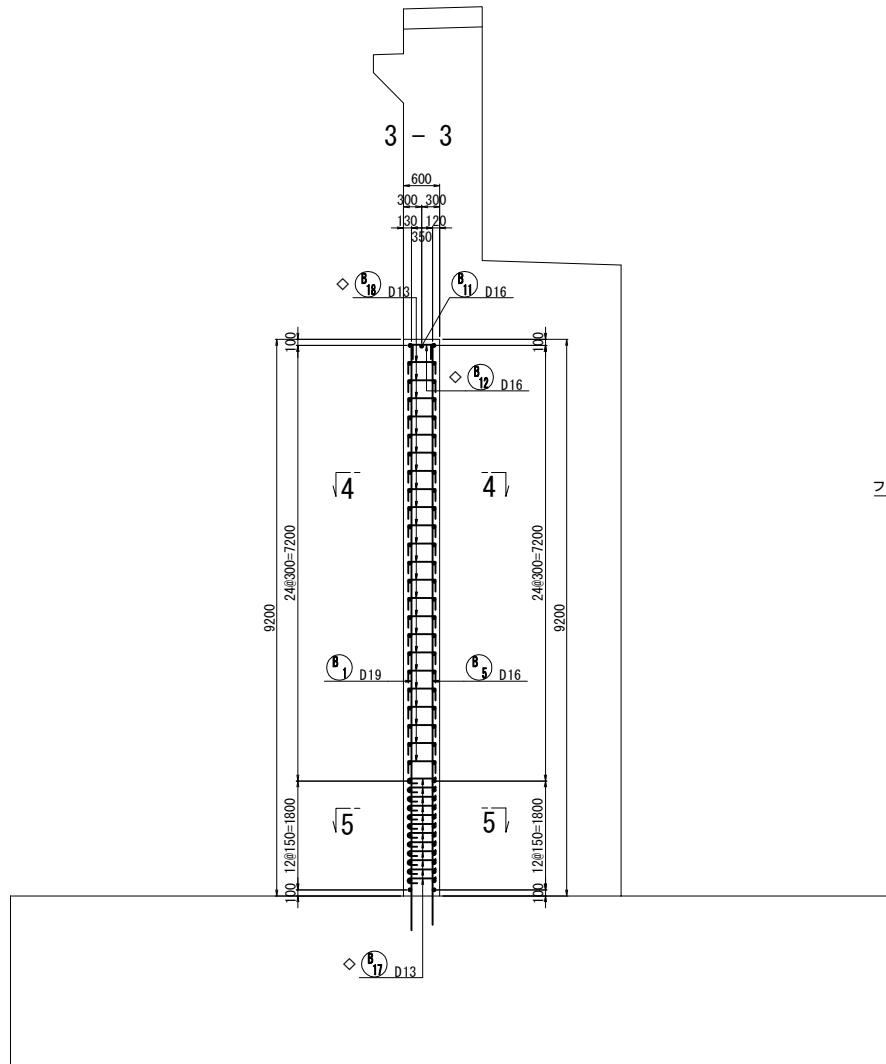


</

使用材料一覧表			
	コンクリート	鉄 筋	
軀 体	σ ck=30N/mm2	SD345	
底 版	σ ck=24N/mm2	SD345	

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トナム鵜川橋（上り線）			
図面の種類	A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

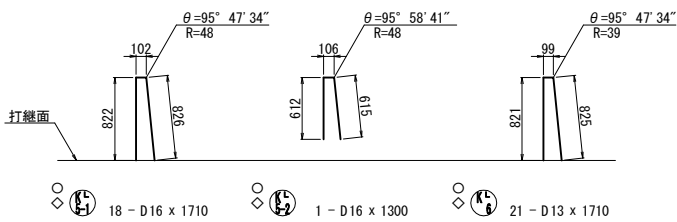
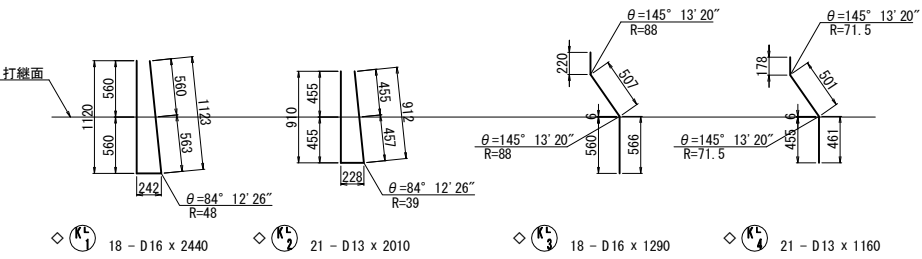
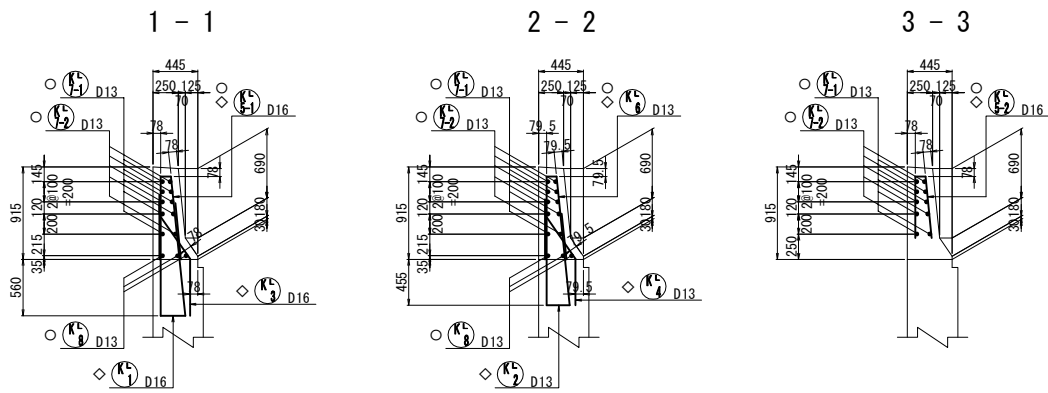


- ### 使用材料一覽表

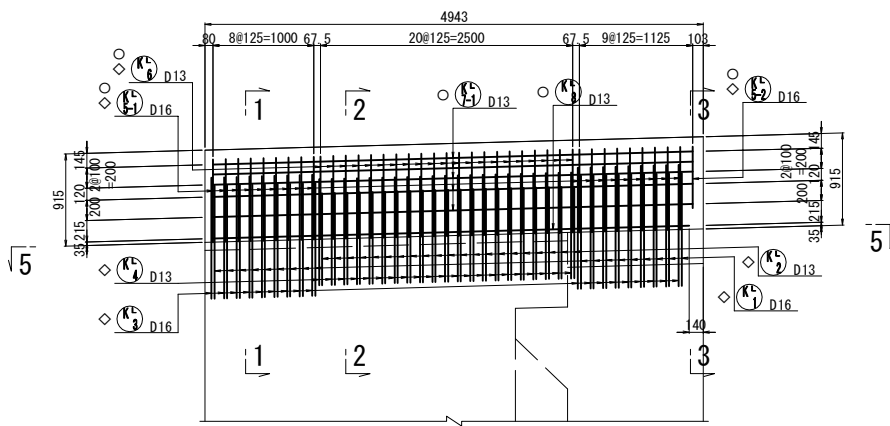
	コンクリート	鉄 筋
軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道 下トマム地区下部工工事				
図面の種類		下トマム越川橋（上り線） A1橋台配筋図（その15）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

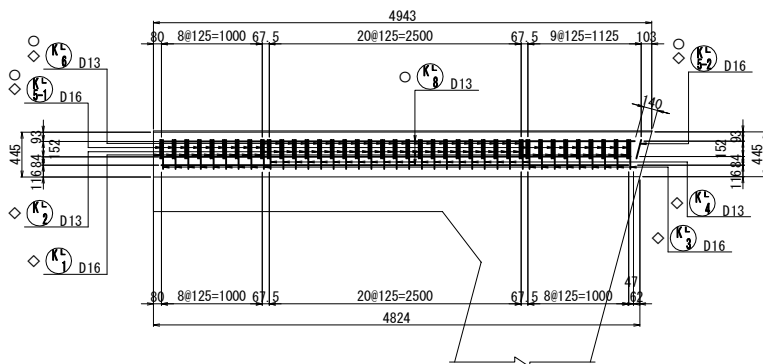
左側壁高欄断面図



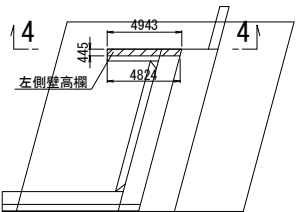
4 - 4



5 - 5



位置図



a				
○ 5 - D13 x 4730 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D13	1	4737	4737
2	D13	1	4734	4734
3	D13	1	4731	4731
4	D13	1	4728	4728
5	D13	1	4722	4722
平均長		5		4730

a				
○ 3 - D13 x 4660 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D13	1	4695	4695
2	D13	1	4654	4654
3	D13	1	4632	4632
平均長		3		4660

使用材料一覧表

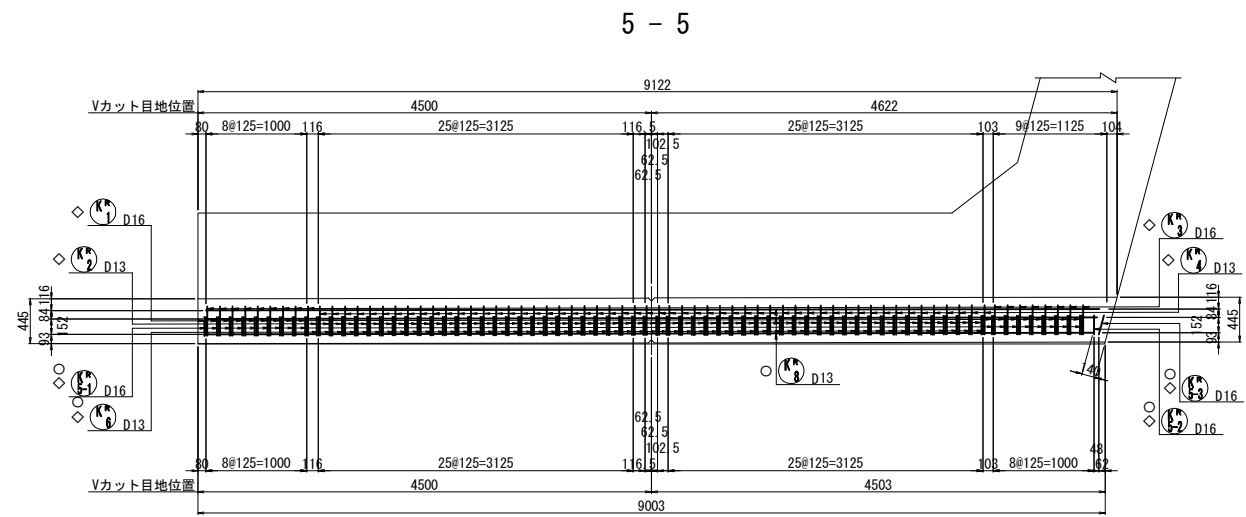
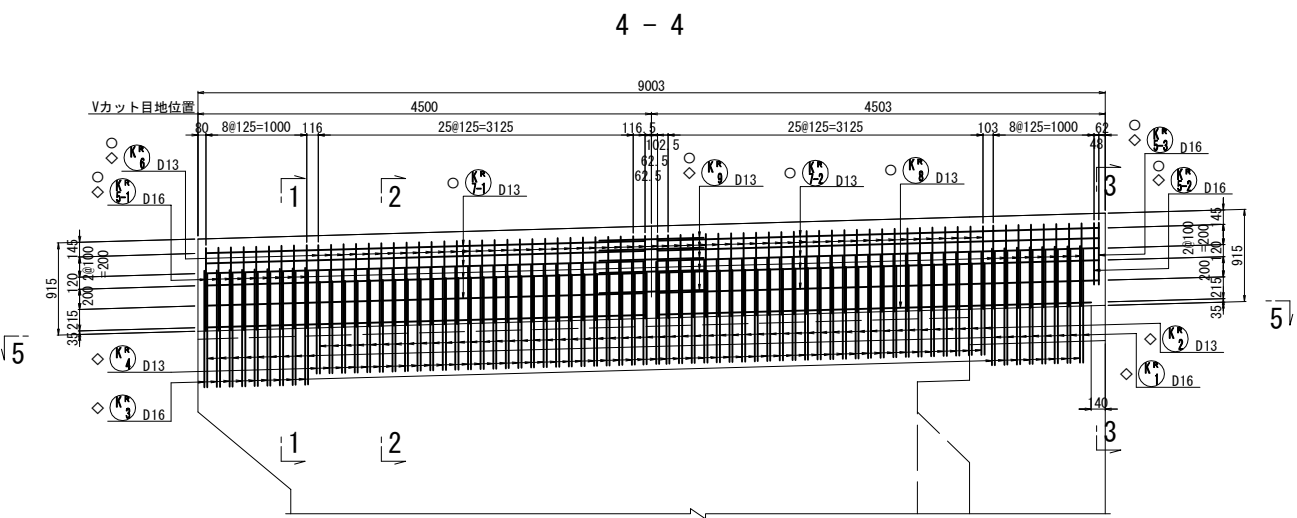
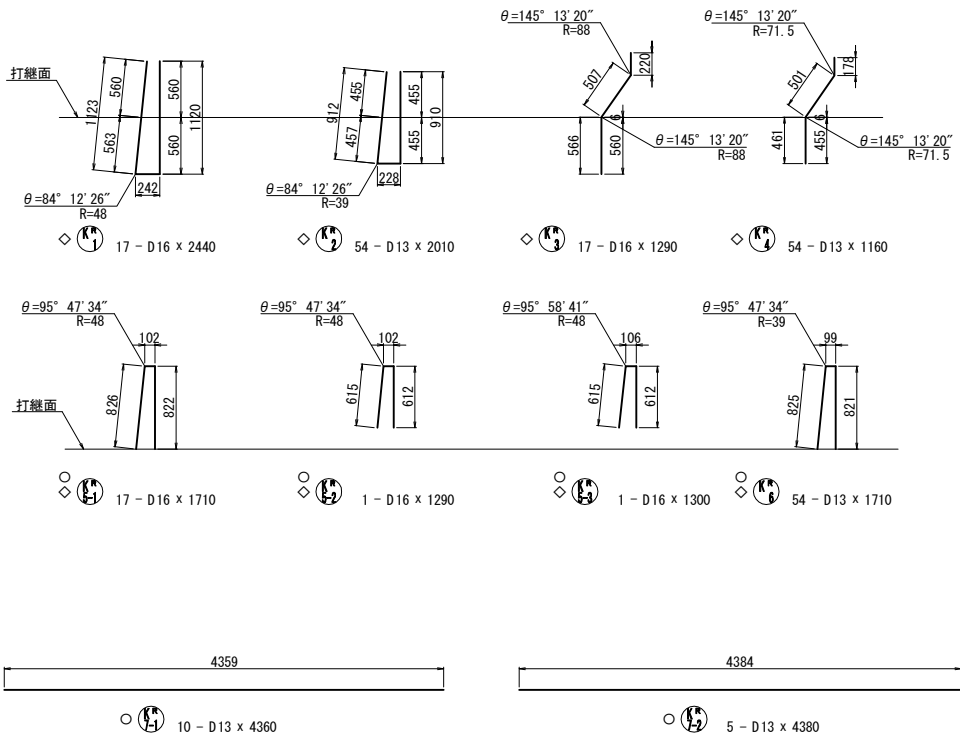
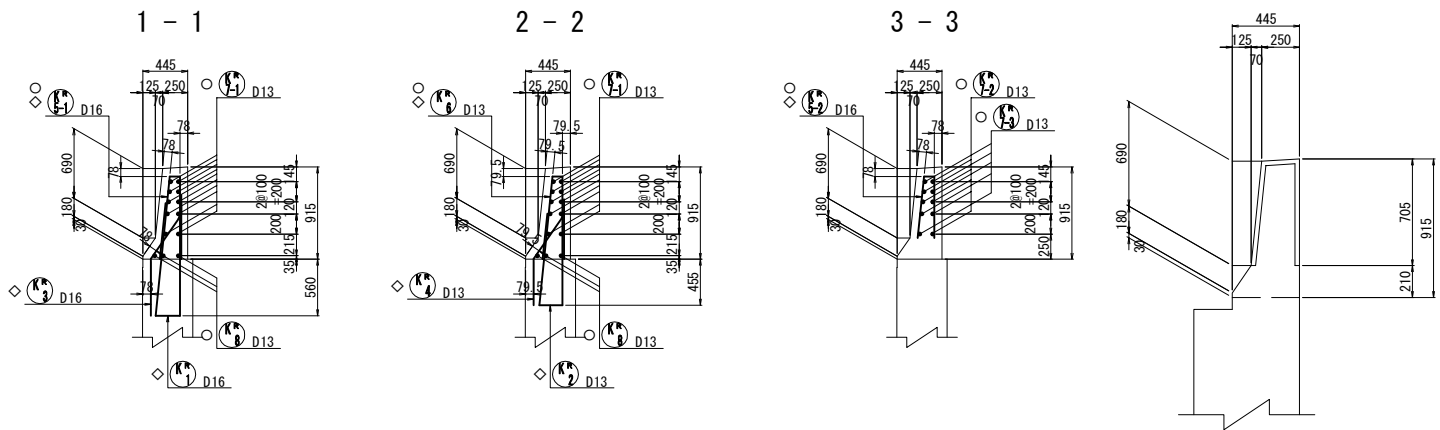
躯体	コンクリート	鉄筋
底版	σck=30N/mm2	SD345
	σck=24N/mm2	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。

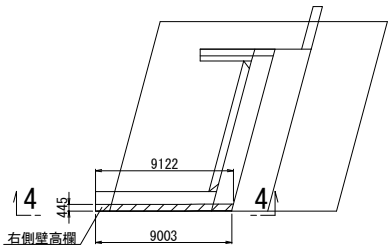
道東自動車道			
下トナム鵠川橋（上り線）			
図面の種類	A 1 橋台配筋図（その 1 6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

右側壁高欄断面図

Vカット目地詳細図 S=1:50



位置図



5 - D13 x 4410 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D13	1	4417	4417
2	D13	1	4411	4411
3	D13	1	4408	4408
4	D13	1	4405	4405
5	D13	1	4402	4402
平均長		5		4409

3 - D13 x 8840 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D13	1	8869	8869
2	D13	1	8847	8847
3	D13	1	8806	8806
平均長		3		8840

10 - D13 x 1070 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D13	2	147	1053
2	D13	2	153	1059
3	D13	2	159	1065
4	D13	2	167	1073
5	D13	2	180	1086
平均長		10		1067

使用材料一覧表

部材	材料	規格
躯体	コンクリート	SD345
底版	鉄筋	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

道東自動車道			
下トナム鵠川橋下部工工事			
図面の種類	下トナム鵠川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

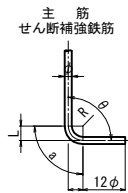
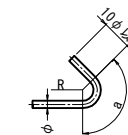
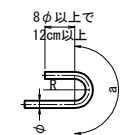
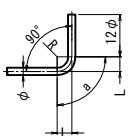
	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
◇	P1	D32	5830	70	6.23	36.3	2541	┐ 平均長
◇	P2	D32	5260	39	6.23	32.8	1279	┐ 平均長
◇	P3	D19	10950	1	2.25	24.6	25	┐
◇	P4	D19	6260	25	2.25	14.1	353	┐
◇	P5	D25	3340	25	3.98	13.3	333	┐
◇	P6	D32	3480	25	6.23	21.7	543	┐
◇	P7	D19	10950	1	2.25	24.6	25	┐
◇	P8	D19	10950	13	2.25	24.6	320	┐
◇	P9	D16	10950	3	1.56	17.1	51	┐
◇	P10	D16	4170	3	1.56	6.51	20	┐
◇	P11	D16	4200	3	1.56	6.55	20	┐
◇	P12	D16	1450	36	1.56	2.26	81	┐
◇	P13	D16	1490	4	1.56	2.32	9	┐
△◇	P14	D19	1370	132	2.25	3.08	407	T┐ [132]
							6007	
◇	Y1	D19	600	16	2.25	1.35	22	┐
							22	
◇	J1	D16	930	66	1.56	1.45	96	┐
							96	
◇	E1	D16	4080	33	1.56	6.36	210	┐
◇	E2	D16	10950	6	1.56	17.1	103	┐
◇	E3	D22	520	13	3.04	1.58	21	┐
◇	E4	D13	1590	13	0.995	1.58	21	■
							355	
◇	H1	D16	2600	28	1.56	4.06	114	┐
◇	H2	D16	770	8	1.56	1.20	10	┐
◇	H3	D16	200	4	1.56	0.312	1	┐
◇	H4	D16	3370	14	1.56	5.26	74	┐
◇	H5	D16	1080	8	1.56	1.68	13	┐
◇	H6	D16	300	4	1.56	0.468	2	┐
◇	H7	D16	3970	8	1.56	6.19	50	┐
							264	
◇	T1	D38	3790	8	8.95	33.9	271	┐
◇	T2	D29	2060	8	5.04	10.4	83	┐
◇	T3	D25	1950	8	3.98	7.76	62	┐
◇	T4	D22	2800	28	3.04	8.51	238	┐
◇	T5	D19	1170	65	2.25	2.63	171	T┐ [65]
◇	T6	D13	1160	7	0.995	1.15	8	┐
◇	T7	D13	1550	4	0.995	1.54	6	┐
							839	
◇	S1	D29	5090	52	5.04	25.7	1336	┐
◇	S2	D29	5200	8	5.04	26.2	210	┐
◇	S3	D29	2660	4	5.04	13.4	54	┐
◇	S4	D29	1240	4	5.04	6.25	25	┐
◇	S5-1	D16	7500	4	1.56	11.7	47	┐
◇	S5-2	D16	5120	4	1.56	7.99	32	┐
◇	S6-1	D16	6000	4	1.56	9.36	37	┐
◇	S6-2	D16	6620	4	1.56	10.3	41	┐
◇	S7	D16	2250	2	1.56	3.51	7	┐ 平均長
◇	S8	D16	4910	2	1.56	7.66	15	┐
◇	S9	D16	2320	2	1.56	3.62	7	┐ 平均長
△◇	S10	D22	3670	53	3.04	11.2	594	T┐ [53]
							2405	
◇	A1	D51	11000	33	15.90	175	5775	K┐
◇	A2	D51	8500	33	15.90	135	4455	K┐ 平均長 (33)
◇	A3	D51	2640	33	15.90	42.0	1386	K┐ 平均長 (33)
◇	A4	D51	5150	33	15.90	81.9	2703	K┐
◇	A5	D51	11000	19	15.90	175	3325	K┐ 平均長 (19)
◇	A6	D51	8500	18	15.90	135	2430	K┐ 平均長 (18)
◇	A7	D51	2640	19	15.90	42.0	798	K┐
◇	A8	D51	5140	18	15.90	81.7	1471	K┐
◇	A9-1	D16	10500	6	1.56	16.4	98	┐
◇	A9-2	D16	3350	6	1.56	5.23	31	┐
◇	A9-3	D16	9000	5	1.56	14.0	70	┐
◇	A9-4	D16	4850	5	1.56	7.57	38	┐
◇	A10-1	D16	10500	6	1.56	16.4	98	┐
◇	A10-2	D16	2960	6	1.56	4.62	28	┐
◇	A10-3	D16	9000	5	1.56	14.0	70	┐
◇	A10-4	D16	4460	5	1.56	6.96	35	┐
◇	A11	D32	11840	1	6.23	73.8	74	┐
◇	A12	D32	5550	2	6.23	34.6	69	┐ 平均長
◇	A13	D32	11830	67	6.23	73.7	4938	┐
◇	A14	D32	11840	1	6.23	73.8	74	┐
◇	A15	D32	5420	2	6.23	33.8	68	┐ 平均長
◇	A16	D32	11830	67	6.23	73.7	4938	┐
△◇	A17	D32	3820	187	6.23	23.8	4451	T┐ [187]
							37423	

	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
	F1	D35	6180	43	7.51	46.4	1995	┐
	F2	D38	10660	85	8.95	95.4	8109	┐
	F3	D35	10460	85	7.51	78.6	6681	┐
	F4	D38	10480	43	8.95	93.8	4033	┐
	F5-1	D22	9000	16	3.04	27.4	438	┐
	F5-2	D22	4580	16	3.04	13.9	222	┐
	F6-1	D22	9000	44	3.04	27.4	1206	┐
	F6-2	D22	4580	44	3.04	13.9	612	┐
	F7	D22	4000	21	3.04	12.2	256	┐
	F8-1	D22	9000	52	3.04	27.4	1425	┐
	F8-2	D22	4580	52	3.04	13.9	723	┐
	F9-1	D22	9000	23	3.04	27.4	630	┐
	F9-2	D22	4580	23	3.04	13.9	320	┐
	F10-1	D19	10000	24	2.25	22.5	540	┐
	F10-2	D19	5990	24	2.25	13.5	324	┐
	F11-1	D19	9000	24	2.25	20.3	487	┐
	F11-2	D19	4480	24	2.25	10.1	242	┐
	F12	D16	3030	30	1.56	4.73	142	┐
	F13	D16	3040	32	1.56	4.74	152	┐
△	F14	D16	2820	70	1.56	4.40	308	T┐ [70]
△	F15	D22	2910	220	3.04	8.85	1947	T┐ [220]
							30792	
◇	WL1	D25	4910	1	3.98	19.5	20	┐
◇	WL2	D25	4910	21	3.98	19.5	410	┐
◇	WL3	D25	7250	64	3.98	28.9	1850	┐
◇	WL4	D25	3600	10	3.98	14.3	143	┐
◇	WL5	D25	6450	35	3.98	25.7	900	┐
◇	WL6	D16	4720	1	1.56	7.36	7	┐
◇	WL7	D16	4930	21	1.56	7.69	161	┐
◇	WL8	D16	7260	64	1.56	11.3	723	┐
◇	WL9	D29	10500	6	5.04	52.9	317	K┐
◇	WL10	D29	9000	6	5.04	45.4	272	K┐ 平均長 (6)
◇	WL11	D29	7500	6	5.04	37.8	227	K┐ 平均長 (6)
◇	WL12	D29	6150	6	5.04	31.0	186	K┐
◇	WL13	D29	7640	6	5.04	38.5	231	K┐
◇	WL14	D19	10500	6	2.25	23.6	142	┐
◇	WL15	D19	9000	6	2.25	20.3	122	┐
◇	WL16	D19	7500	6	2.25	16.9	101	┐
◇	WL17	D19	7640	6	2.25	17.2	103	┐ 平均長
◇	WL18	D19	9140	6	2.25	20.6	124	┐ 平均長
◇	WL19-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	┐
◇	WL19-2	D16	6940	1	1.56	10.8	11	┐
◇	WL20-1	D16	8000	2	1.56	12.5	25	┐
◇	WL20-2	D16	6700	2	1.56	10.5	21	┐
◇	WL21	D16	970	12	1.56	1.51	18	┐
◇	WL22	D16	1010	45	1.56	1.58	71	┐
◇	WL23	D13	970	45	0.995	0.965	43	┐
△◇	WL24	D13	810	132	0.995	0.806	106	T┐ [132]
◇	WL25	D13	980	3	0.995	0.975	3	┐
◇	WL26	D25	4670	1	3.98	18.6	19	┐
◇	WL27	D25	5010	6	3.98	19.9	119	┐
◇	WL28	D16	4930	7	1.56	7.69	54	┐
◇	WL29	D29	1820	12	5.04	9.17	110	┐
◇	WL30	D16	630	12	1.56	0.983	12	┐
◇	WL31	D16	670	3	1.56	1.05	3	┐
◇	WL32	D13	630	6	0.995	0.627	4	┐
							6674	
◇	WR1	D32	8900	1	6.23	55.4	55	┐
◇	WR2	D32	7180	1	6.23	44.7	45	┐
◇	WR3	D32	9380	2	6.23	58.4	117	┐
◇	WR4	D32	8840	2	6.23	55.1	110	┐ 平均長
◇	WR5	D32	8360	19	6.23	52.1	990	┐
◇	WR6	D32	10700	56	6.23	66.7	3735	┐
◇	WR7	D32	5400	11	6.23	33.6	370	┐
◇	WR8	D32	9110	33	6.23	56.8	1874	┐
◇	WR9	D19	8840	1	2.25	19.9	20	┐
◇	WR10	D19	6750	1	2.25	15.2	15	┐
◇	WR11	D19	9090	2	2.25	20.5	41	┐
◇	WR12	D19	8520	1	2.25	19.2	19	┐
◇	WR13	D19	8140	20	2.25	18.3	366	┐
◇	WR14	D19	10480	56	2.25	23.6	1322	┐
◇	WR15	D35	12000	11	7.51	90.1	991	K┐
◇	WR16	D35	10000	12	7.51	75.1	901	K┐
◇	WR17	D35	11000	11	7.51	82.6	909	┐
◇	WR18	D35	4330	11	7.51	32.5	358	K┐ 平均長 (11)
◇	WR19	D35	6330	12	7.51	47.5	570	K┐ 平均長 (12)
◇	WR20	D19	1190	4	2.25	2.68	11	┐ 平均長
◇	WR21	D22	12000	12	3.04	36.5	438	┐
◇	WR22	D22	9500	11	3.04	28.9	318	┐

	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
	WR23	D22	10500	11	3.04	31.9	351	┐
	WR24	D22	5870	12	3.04	17.8	214	┐ 平均長
	WR25	D22	8370	11	3.04	25.4	279	┐ 平均長
	WR26	D16	1070	3	1.56	1.67	5	┐ 平均長
	WR27	D16	3000	2	1.56	4.68	9	┐
	WR28-1	D16	11000	2	1.56	17.2	34	┐
	WR28-2	D16	5500	2	1.56	8.58	17	┐
	WR29-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	┐
	WR29-2	D16	6500	1	1.56	10.1	10	┐
	WR30-1	D16	8000	2	1.56	12.5	25	┐
	WR30-2	D16	6400	2	1.56	10.0	20	

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
下部工施工鉄筋重量							
普通鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手) [機械式定着]		
D51	—	22343	—	22343	kg	103	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	12142	—	—	12142	kg	—	—
D35	9930	2820	—	12750	kg	23	—
D32	3820	—	—	3820	kg	—	—
D29	1962	1006	—	2968	kg	12	—
D25	—	—	—	—	kg	—	—
D22	7432	—	1947	9379	kg	—	220
D19	2467	—	—	2467	kg	—	—
D16	1501	—	308	1809	kg	—	70
D13	21	—	—	21	kg	—	—
合 計	39275	26169	2255	67699	kg	138	290
下部工施工鉄筋重量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手) [機械式定着]		
D51	—	—	—	—	kg	—	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	271	—	—	271	kg	—	—
D35	—	—	—	—	kg	—	—
D32	18271	—	4451	22722	kg	—	187
D29	83	—	—	83	kg	—	—
D25	4257	—	—	4257	kg	—	—
D22	259	—	594	853	kg	—	53
D19	2739	—	578	3317	kg	—	197
D16	2448	—	—	2448	kg	—	—
D13	524	—	847	1371	kg	—	807
合 計	28852	—	6470	35322	kg	—	1244
下部工施工鉄筋重量							
総合計							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手) [機械式定着]		
D51	—	22343	—	22343	kg	103	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	12413	—	—	12413	kg	—	—
D35	9930	2820	—	12750	kg	23	—
D32	22091	—	4451	26542	kg	—	187
D29	2045	1006	—	3051	kg	12	—
D25	4257	—	—	4257	kg	—	—
D22	7691	—	2541	10232	kg	—	273
D19	5206	—	578	5784	kg	—	197
D16	3949	—	308	4257	kg	—	70
D13	545	—	847	1392	kg	—	807
合 計	68127	26169	8725	103021	kg	138	1534

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主 筋 せん断補強鉄筋  鋭角フック  半円形フック  直角フック 											
Δl=2・L-a											
主 筋	径	θ ≤90° R=3 φ	θ >90° R=5. 5 φ	θ =45°		θ =60°		θ =90°		θ =135°	
				a	Δℓ	a	Δℓ	a	Δℓ	a	Δℓ
	D13	39	71. 5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104. 5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137. 5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159. 5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192. 5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225. 5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280. 5	360	379	320	210	240	66	220	12	
せん断補強鉄筋及び帯鉄筋	径	R=2. 5 φ		θ =45°		θ =60°		θ =90°		—	
				a	Δℓ	a	Δℓ	a	Δℓ	—	
	D13	32. 5		77	80	68	45	51	14	—	
	D16	40		94	99	84	55	63	17	—	
	D19	47. 5		112	117	99	66	75	20	—	
	D22	55		130	136	115	76	86	24	—	
	D25	62. 5		147	155	131	86	98	27	—	
	D29	72. 5		171	179	152	99	114	31	—	
フック	径	R=3. 0 φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		Δℓ	
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

機械式鉄筋定着工法数量表 (箇所数) — 下部工施工 (普通鉄筋)

鉄筋径	箇所数								
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	9m<L≤10m
D13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	70	—	—	—	—	—	—
D19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D22	—	—	220	—	—	—	—	—	—
小 計	—	—	290	—	—	—	—	—	—
合 計	290								

機械式鉄筋定着工法数量表 (箇所数) — 下部工施工 (エポキシ樹脂塗装鉄筋)

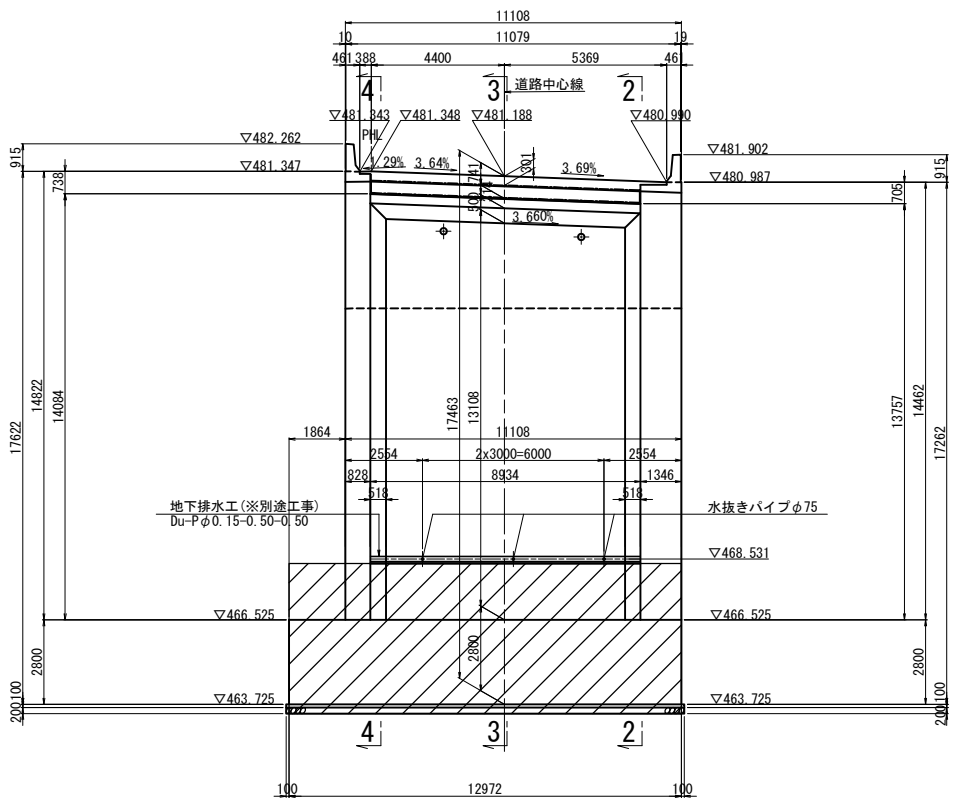
鉄筋径	箇所数								
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	9m<L≤10m
D13	324	483	—	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D19	—	197	—	—	—	—	—	—	—
D22	—	—	—	53	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D29	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D32	—	—	—	187	—	—	—	—	—
小 計	324	680	—	240	—	—	—	—	—
合 計	1244								

使用材料一覧表

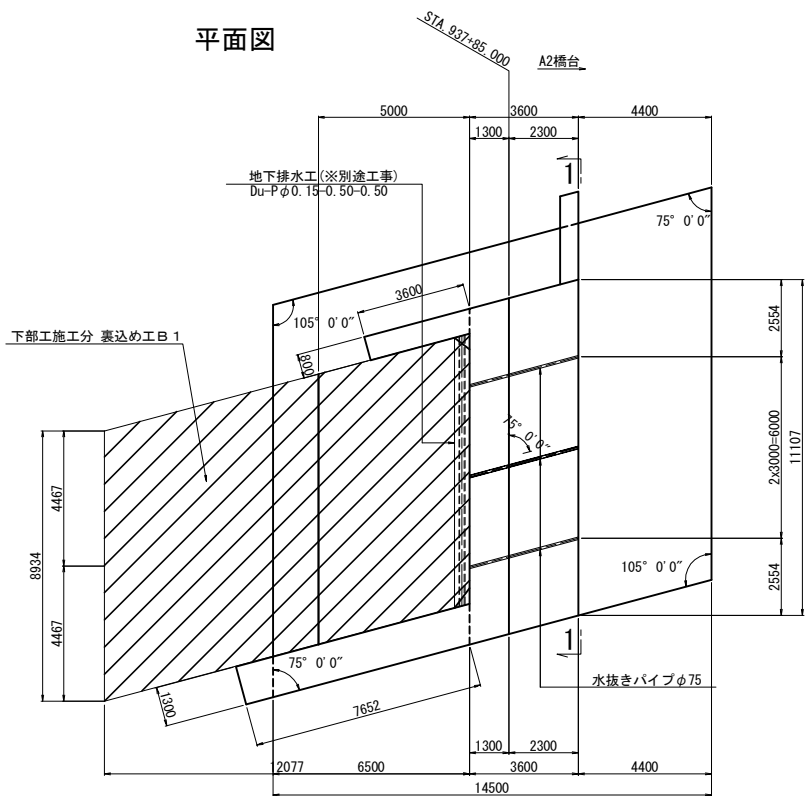
躯体	コンクリート	鉄 筋
底 版	σ ck=30N/mm2	SD345
	σ ck=24N/mm2	SD345

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵲川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

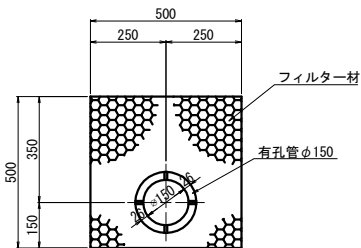
背面図 (1-1)



平面図



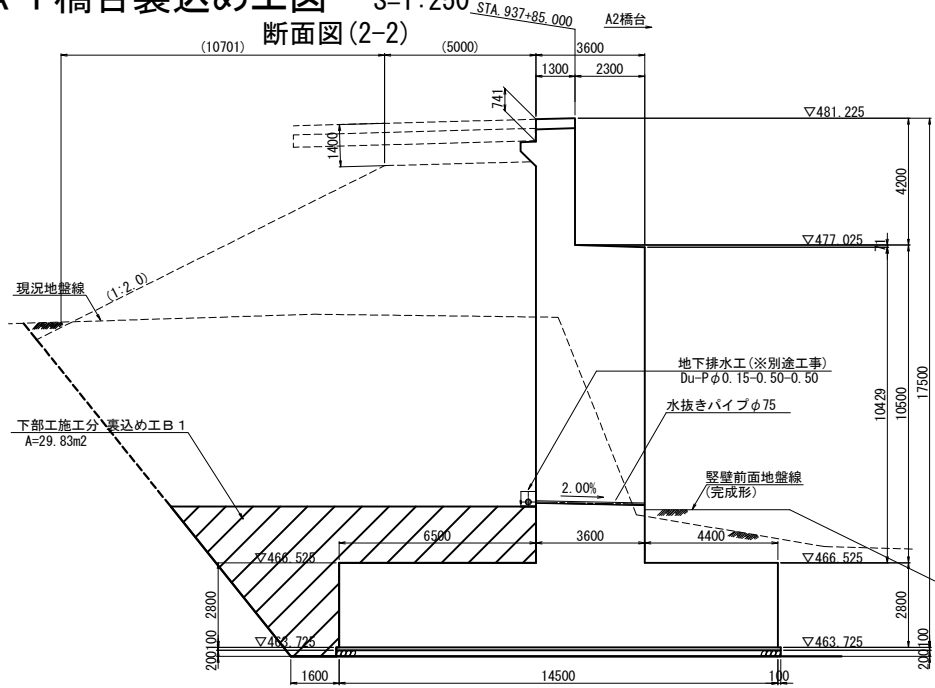
地下排水工詳細図 S=1:25 ※別途工事



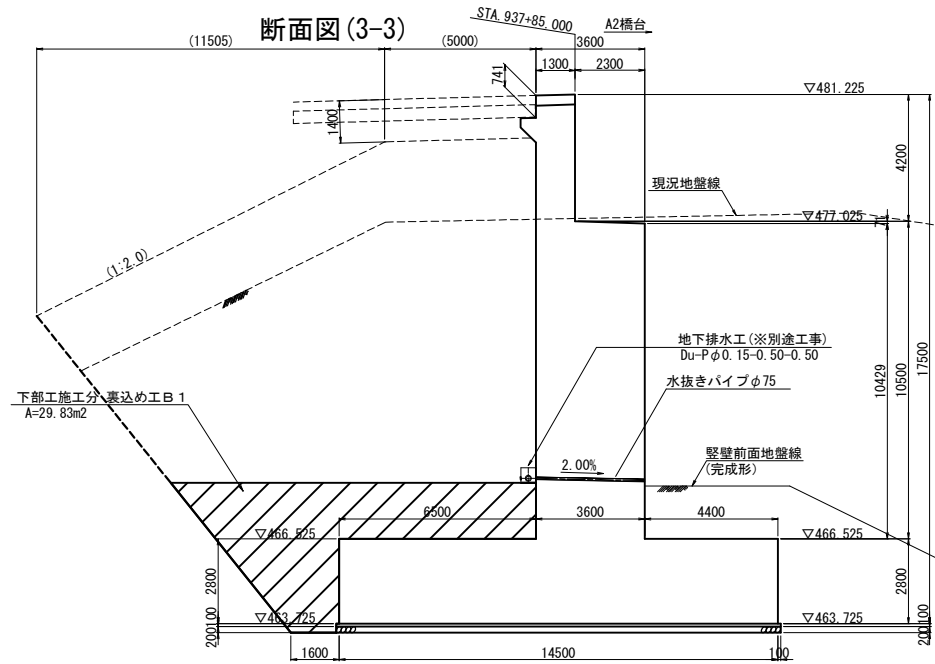
裏込め工及び地下排水工

項目	種別	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工 B 1	m ³	266.4	下部工施工
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	8.93	※別途工事

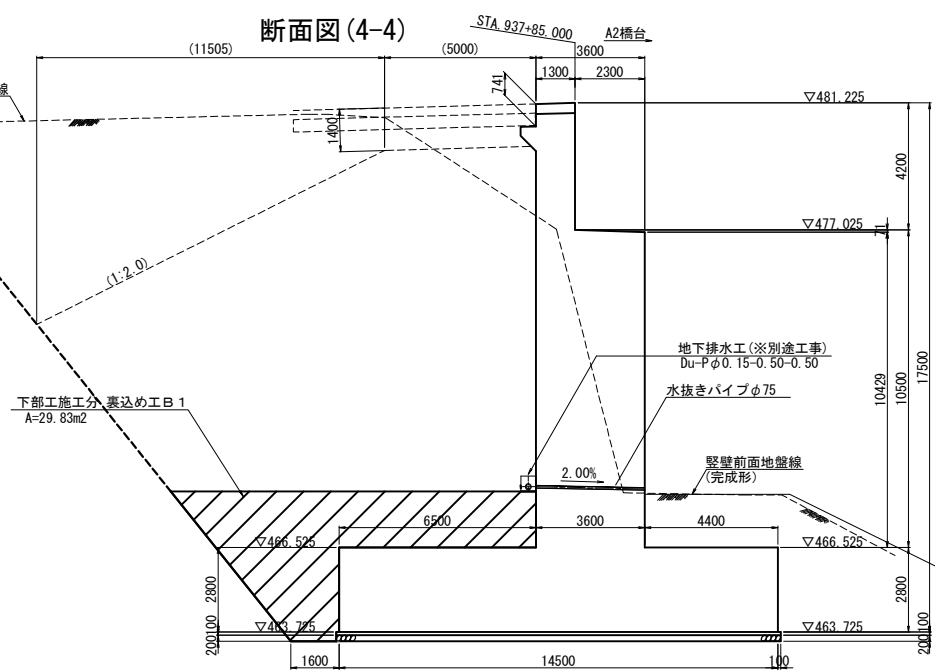
断面図 (2-2)



断面図 (3-3)

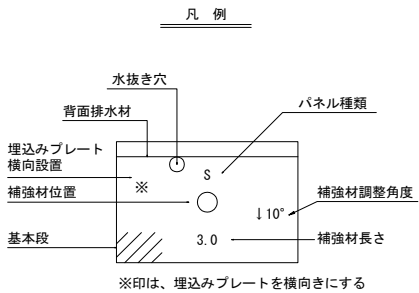
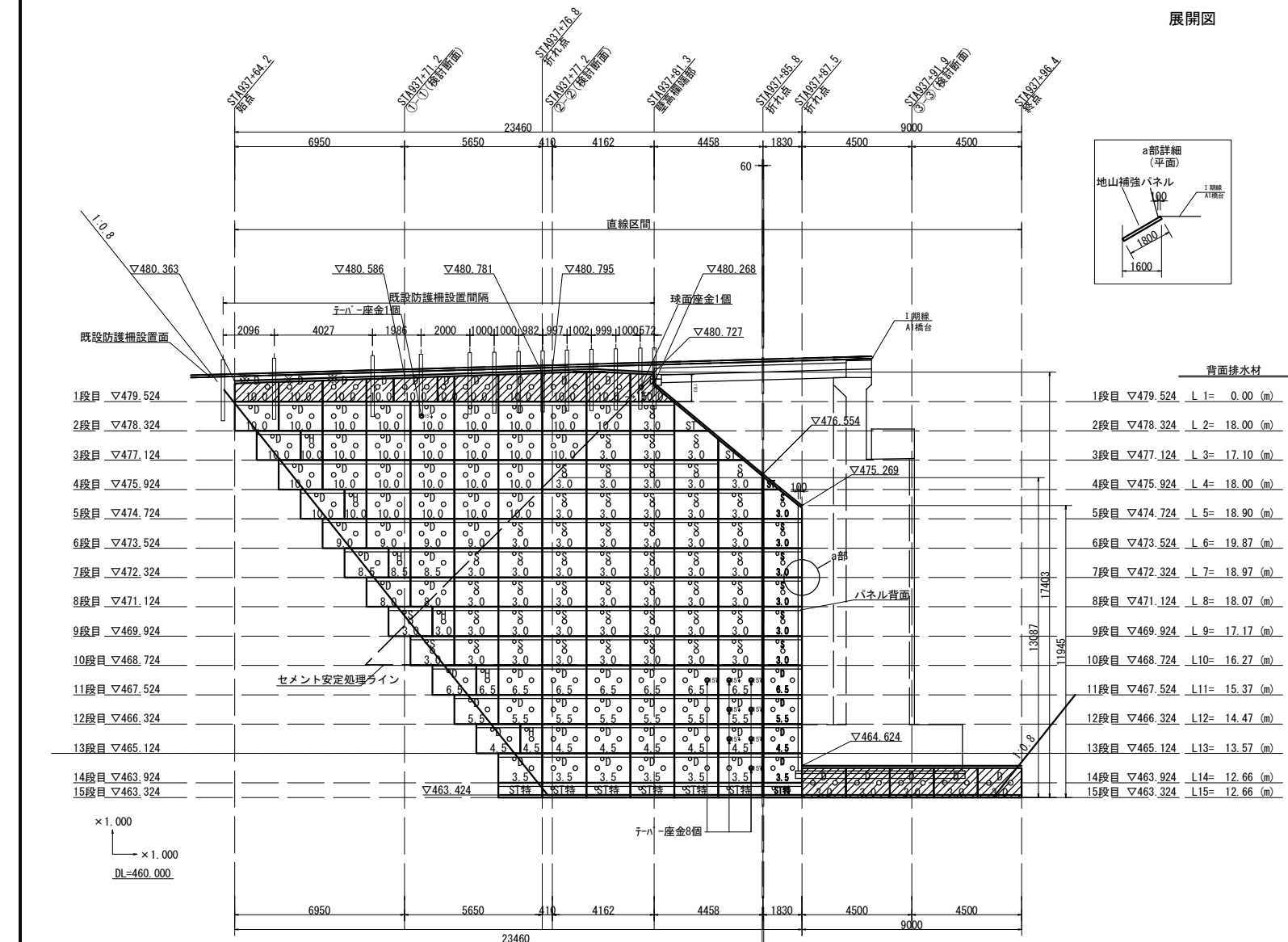


断面図 (4-4)

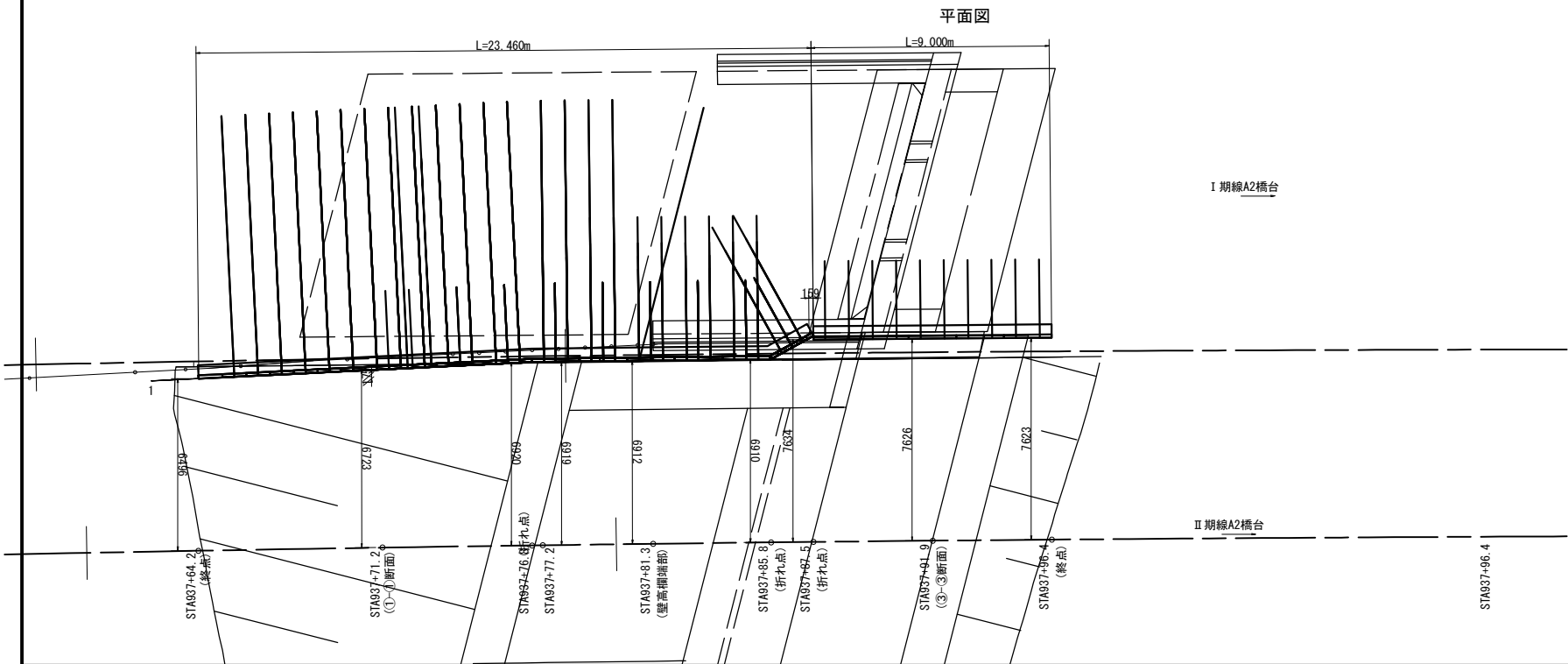


道東自動車道	下トマム地区下部工工事	図面の種類	下トマム鵲川橋（上り線）
	A 1 橋台裏込め工図	縮尺	図示 図面番号 -
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社	施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		帯広工事事務所

展開図



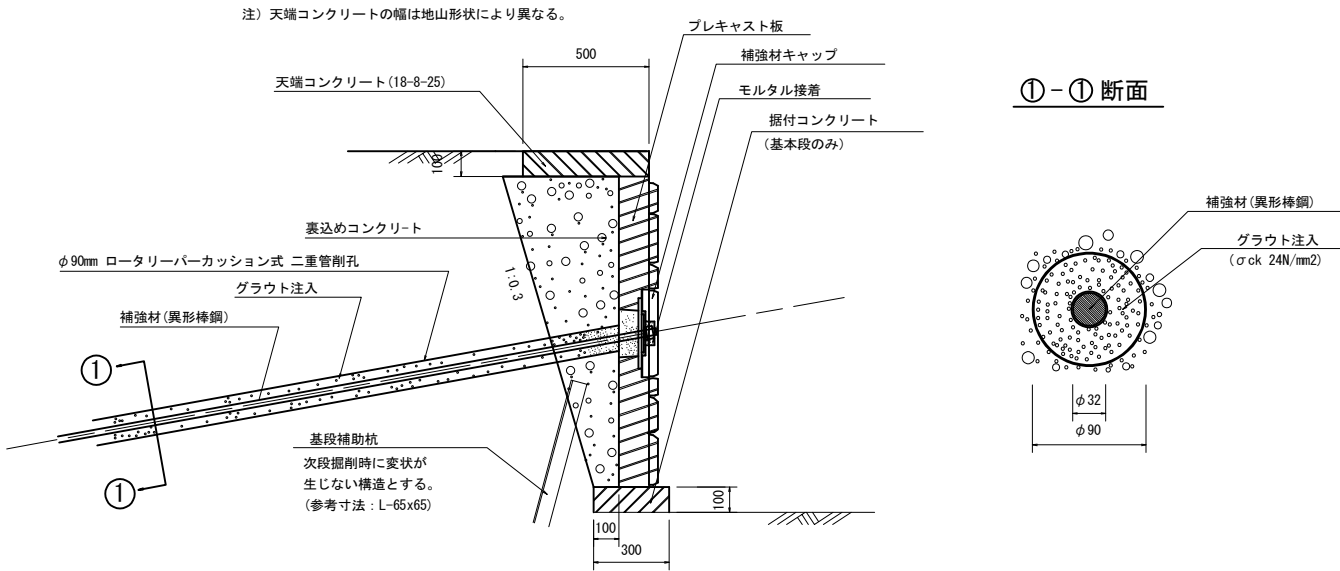
数量表		名 称	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
地 山 補 強 土 工	施工面積			m2	308.5	現場打ちコンクリート部分を含む
	法面整形工	砂質土		m2	224.9	
		礫質土		m2	83.6	
	パネル	Sタイプ	1穴 1200×1800	枚	56	標準タイプ
		Dパネル	2穴 1200×1800	枚	81	2穴タイプ
		Hパネル	1穴 1200×900	枚	6	標準タイプの縦ハーフ
		STパネル	勾配用	枚	3	最上段勾配用
		ST特パネル	最下段用	枚	7	最下段横ハーフ
	背面排水材工		W=150×t=50	m	231.08	
	天端工			m	34.22	斜距離
	埋戻しコンクリート工			m	23.46	水平距離
補 強 材	補強材	D32 L=10.0m	本	70		
		D32 L=9.0m	本	7		
		D32 L=8.5m	本	4		
		D32 L=8.0m	本	3		
		D32 L=6.5m	本	16		
		D32 L=5.5m	本	15		
		D32 L=4.5m	本	14		
		D32 L=3.5m	本	13		
		D32 L=3.0m	本	67		
	テーパー座金 (M30)	5°	個	9		
		10°	個	208		補強材に5°、10°以上の角度をつける
	球面座金			個	1	
	削孔工	二重管90mm砂質土	m	809.96		
		二重管90mm礫質土	m	334.52		
		二重管90mm軟岩	m	172.53		
	止水パッキン		枚	209		補強材頭部用
	グラウト注入打設工		m3	26.8		割増率: 3.200
	裏込め注入工		m3	29.1		割増率: 2.118



注1) 補強材調整角度について、無表記の場合は10度とする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵠川橋（上り線）		
	A 1 橋台仮設土留エー般構造図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

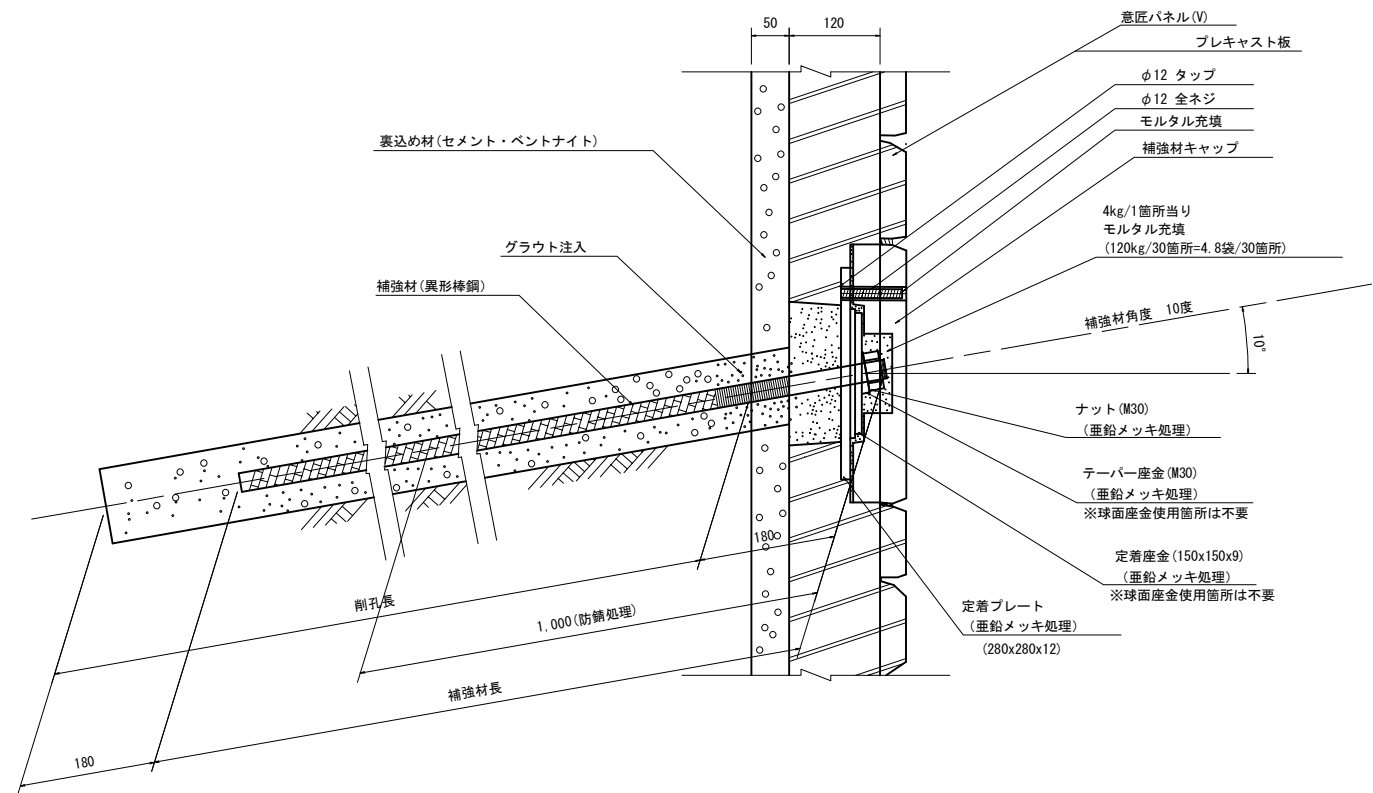
標準詳細構造図 S=1:30



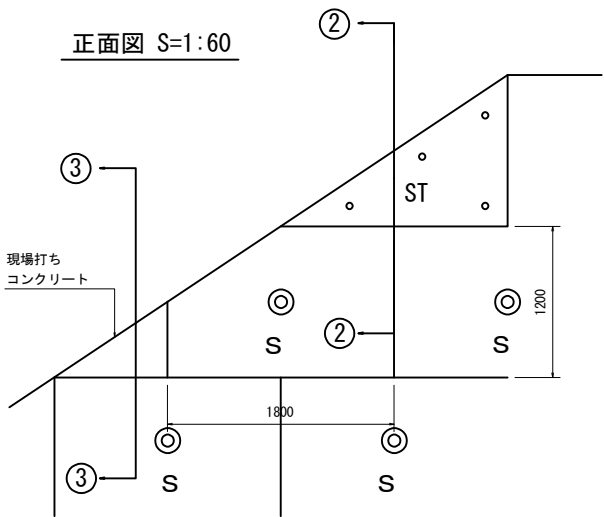
天端工		10m当り			
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
型 枠		m2	2.0	0.2x10=2.0	
コンクリート	18-8-25	m3	0.5	0.5x0.1x10=0.5	

定着部詳細構造図 S=1:10

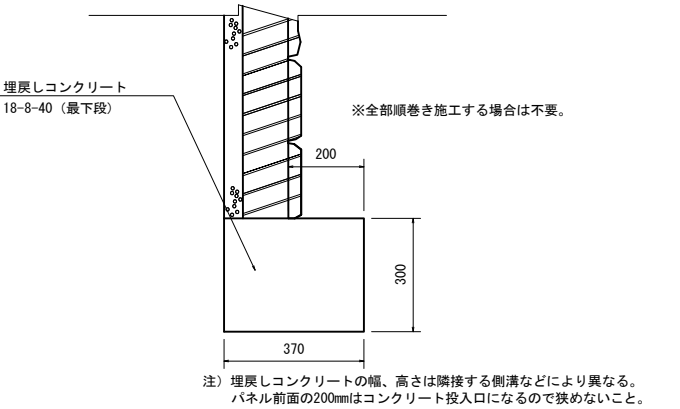
※防錆処理は工場処理
※補強材角度保持のため、テーバー座金を使用する。



天端摺合せ部詳細図



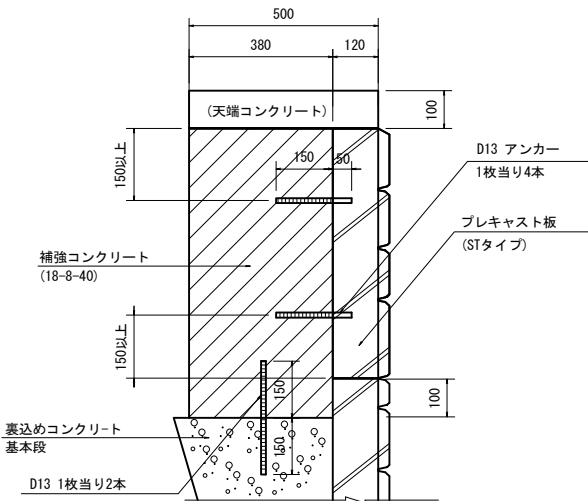
埋戻しコンクリート詳細図 S=1:20



埋戻しコンクリート		10m当り			
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
型 枠		m2	3.0	0.3x10=3.0	
コンクリート	18-8-40	m3	1.11	0.30x0.37x10=1.11	

※既設ブロック等の補強の場合は現状に合わせた形状とする。
形状によりST用鉄筋アンカーを4本/2.16m2で差筋をする。

②-②断面 S=1:20



※STパネル 1枚当りのアンカーの本数の基準

面積 (m2) < 0.54...2本
0.54 ≤ 面積 (m2) < 1.08...3本
1.08 ≤ 面積 (m2) ...4本

※ STパネル 100m2 当り (例)

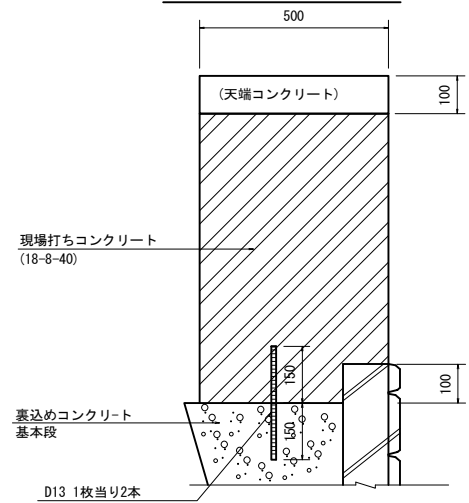
コンクリート 100x0.38 = 38.0 m3

標準STパネル (面積1/2x1.2x1.8=1.08m2 当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
鉄筋アンカー	D13 L=200	本	4	STパネルと補強コンに設置
鉄 筋	D13 L=300	本	2	補強コン高200mm以上 2本/1.8m
コンクリート	18-8-40	m3	0.41	(1/2x1.2x1.8) x0.38=0.410 m3

底部のアゴは含まず

③-③断面 S=1:20



現場打ちコンクリート

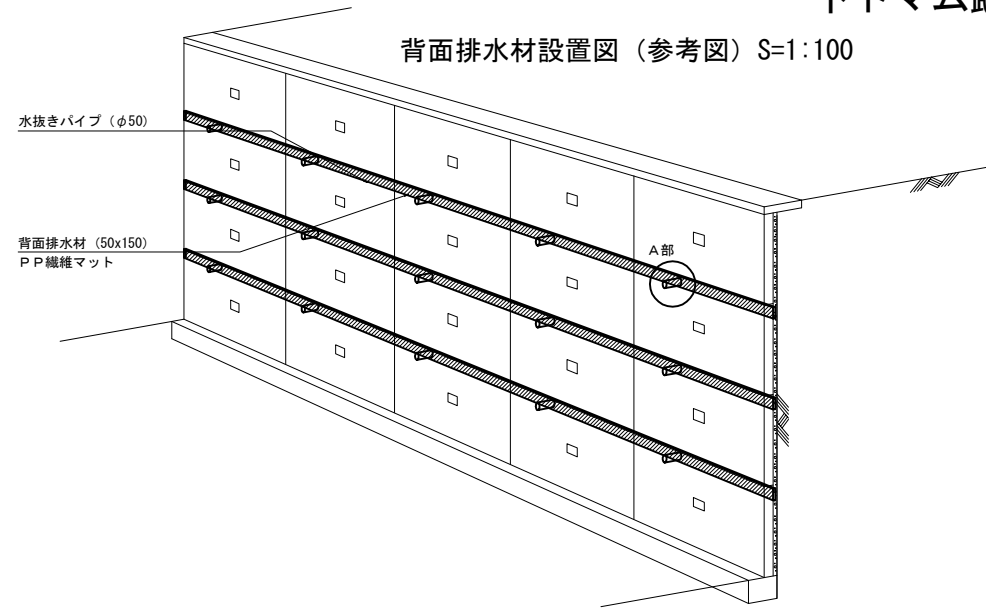
1 m3当り

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
型 枠		m2	2.000	1.0/0.500=2.000
鉄 筋	D13 L=300	本	2	現場打高200mm以上 2本/1.8m
コンクリート	18-8-40	m3	1.000	2.000x0.500=1.000

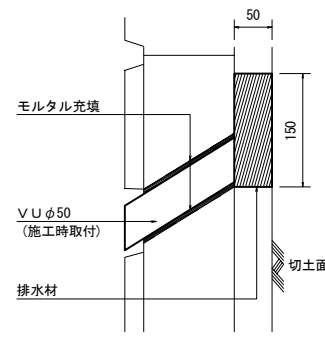
※既設ブロック等の補強の場合はSTを使用せず現場打ちを基本とする。
この時、ST用鉄筋アンカーを4本/2.16m2で既設ブロックに差筋をする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鷗川橋（上り線） A 1 橋台仮設土留エ一般構造図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

背面排水材設置図（参考図）S=1:100

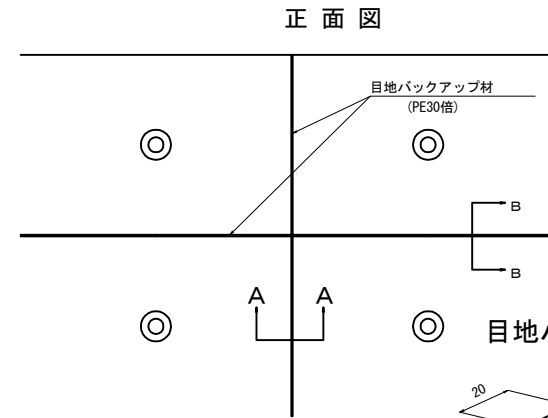


A 部断面 S=1:10

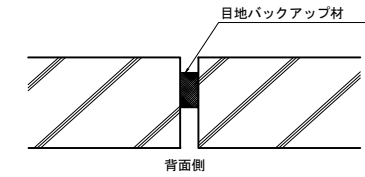


※切土面が50mm以上離れる場合は切土面側に背面排水材を設置して塩ビ管を伸ばす。

パネルジョイント部目地バックアップ材（参考図）

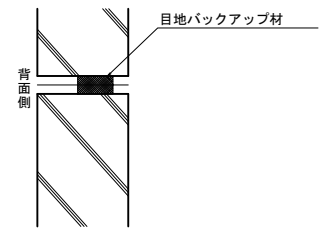


A-A 平面図 S=1:10

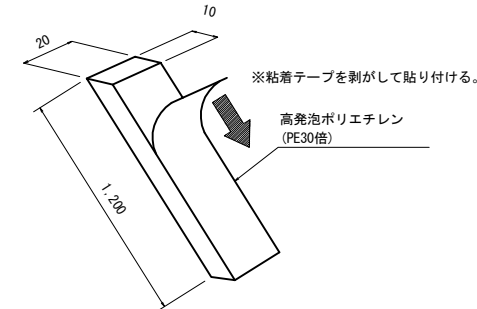


※パネル据付け前に目地バックアップ材をパネル端部に貼り付け、パネルジョイント部からの裏込め材の漏出を防止する。

B-B 断面図 S=1:10



目地バックアップ材詳細図（参考図）

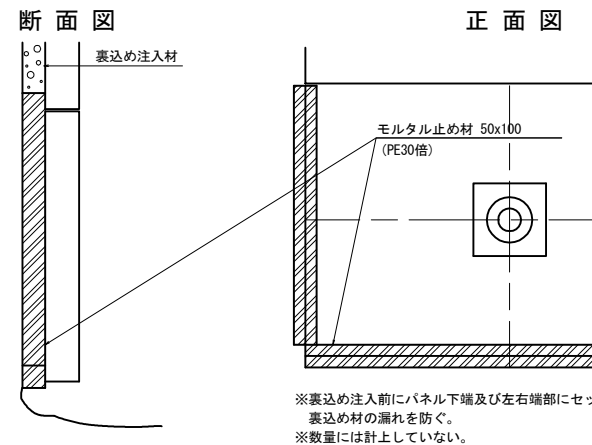


補強材及びスペーサー配置図 S=1:100

補強材長 (m)	規格 (m)	スペーサー (箇所)
2.0	(つなぎ無)	2
2.5	(つなぎ無)	2
3.0	(つなぎ無)	3
3.5	(つなぎ無)	3
4.0	(つなぎ無)	4
4.5	(つなぎ無)	4
5.0	(つなぎ無)	5
5.5	(3.0+2.5)	5
6.0	(3.0+3.0)	6
6.5	(3.0+3.5)	6
7.0	(3.0+4.0)	7
7.5	(3.0+4.5)	7
8.0	(3.0+5.0)	8
8.5	(3.5+5.0)	8
9.0	(4.0+5.0)	9
9.5	(4.5+5.0)	9
10.0	(5.0+5.0)	10
10.5	(4.0+4.0+2.5)	10
11.0	(4.0+4.0+3.0)	11
11.5	(4.0+4.0+3.5)	11
12.0	(4.0+4.0+4.0)	12

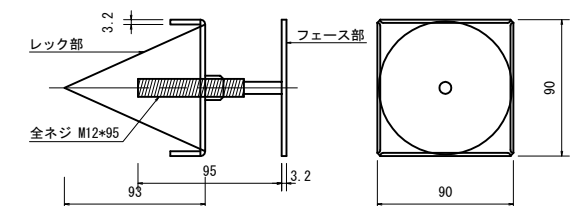
○ : スペーサー
 防食処理
 継手 (抜出防止対応型)

モルタル止め材使用例（参考図）



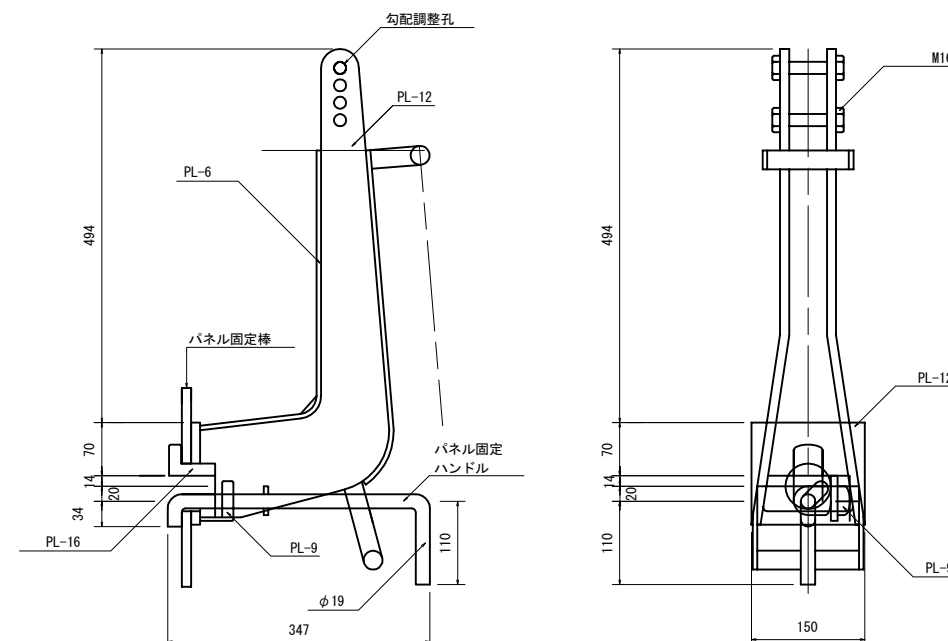
※裏込め注入前にパネル下端及び左右端部にセットし、裏込め材の漏れを防ぐ。
 ※数量には計上していない。

据付金具構造図（参考図）S=1:5

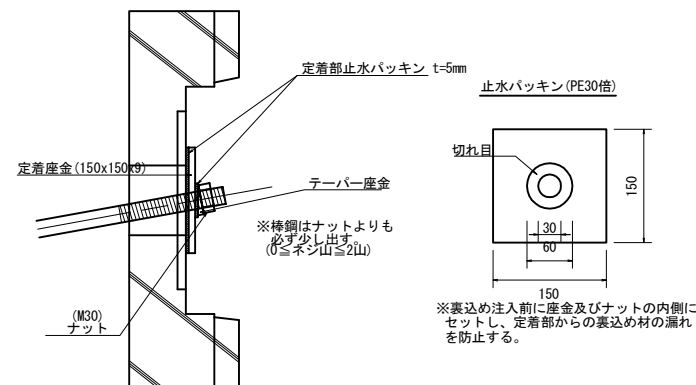


※法面整形後、金具レッグ部を地山に打込み、フェース部をネジで調整してパネルを据え付ける。
 ※パネルと地山との離れが大きい場合は代替品も使用。

パネル吊り金具詳細図 S=1:10

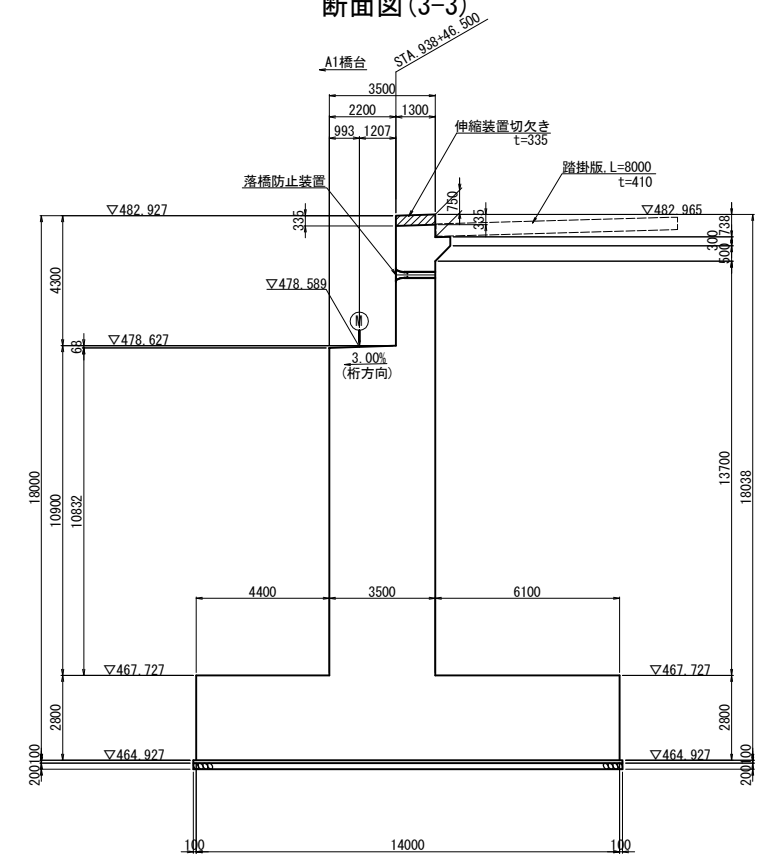


定着部パッキン取付け図 S=1:10

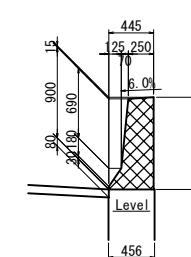
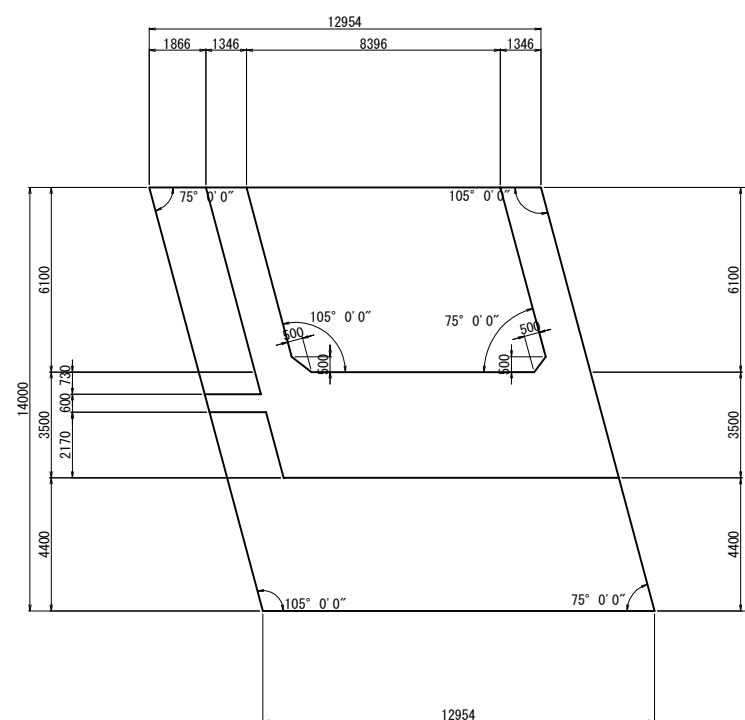


道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鷗川橋（上り線） A 1 橋台仮設土留エー般構造図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

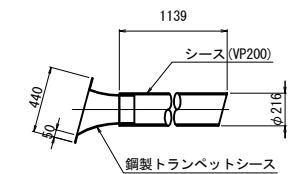
断面図(3-3)



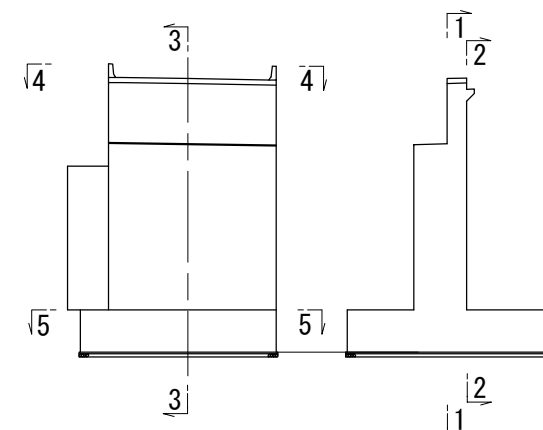
壁高欄詳細図 S=1:75



落橋防止箱抜き詳細図 S=1:50



位置図



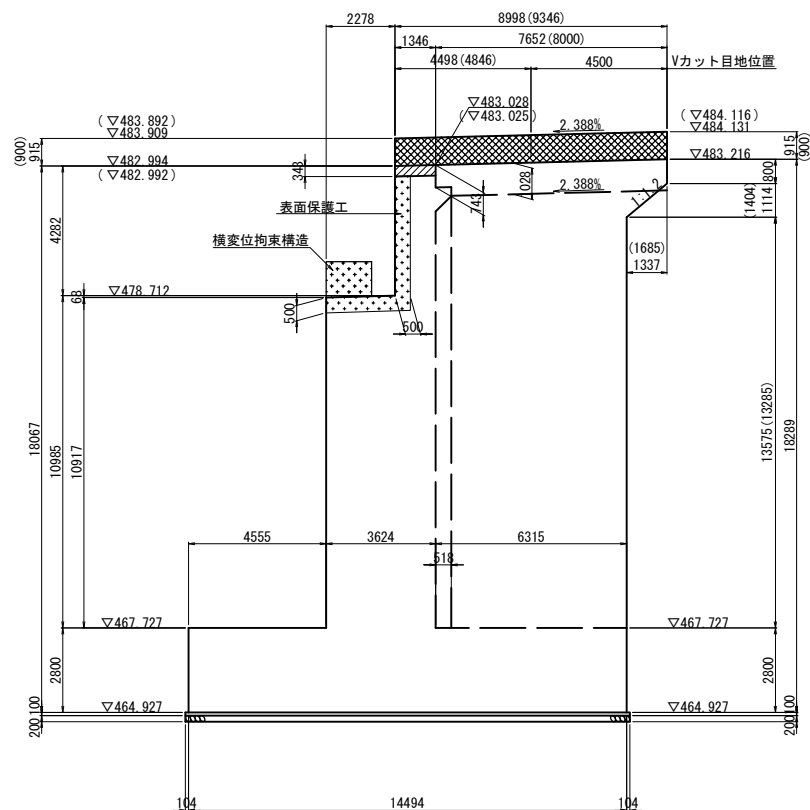
材料強度・材質

コンクリート	軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均 し	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
基 礎 材		RC-80
鉄 筋		SD345

(別途工事)
注  部(伸縮装置切欠き)は、後打ち施工とする。
 部(壁高欄部)は、後打ち施工とする。
 部は、表面保護工施工範囲とする。
ただし数量は、上部で計す。
水抜きパイプの配置等は、裏打ち工図参照のこと。

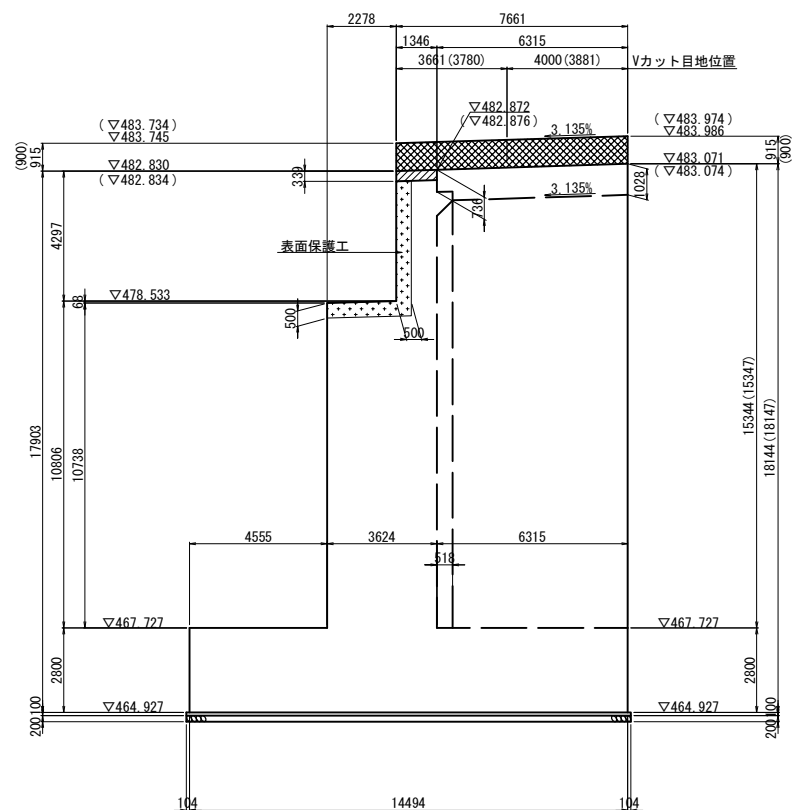
道東自動車道 下トママ地区下部工工事			
図面の種類	下トママ調川橋（上り線） A 2 橋台構造一般図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左ウイング(1-1)



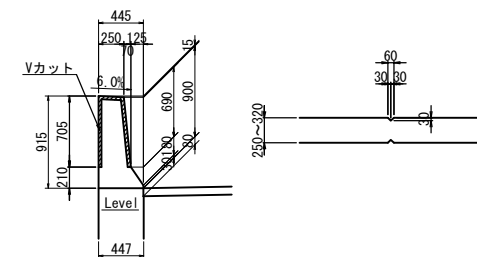
注) () 内の数値は内側(高さはL2ライン)の数値を示す。

右ウイング(2-2)



注) () 内の数値は内側(高さはR2ライン)の数値を示す。

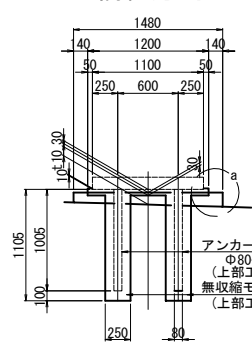
Vカット目地詳細図 S=1:75



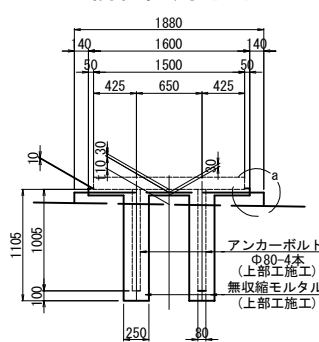
支承部詳細図 S=1:75

G1 (G2)

橋軸方向

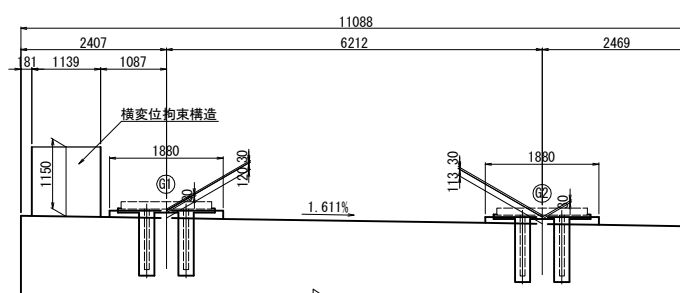


橋軸直角方向

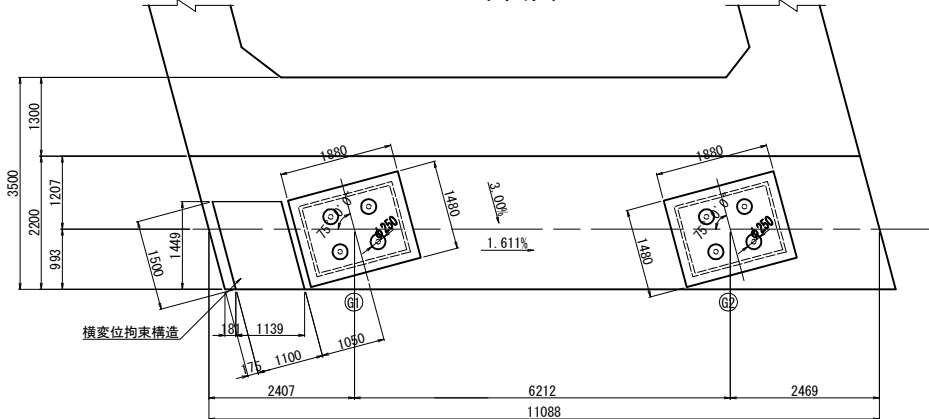


支承部配置図 S=1:125

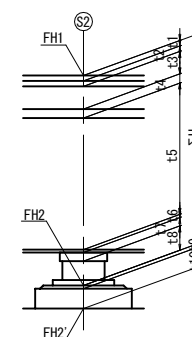
正面図



平面図



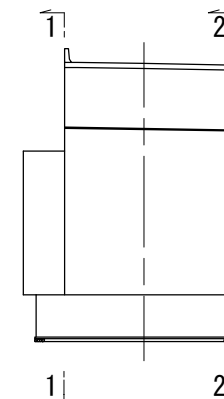
構造高



構造高表

		A2 (S2)		
		G1	CL	G2
路面計画高	FH1	482.941	482.893	482.832
舗装厚	t1	0.080		0.080
舗装調整コンクリート	t2	0.009		0.002
床版厚	t3	0.320		0.320
ハンチ高	t4	0.100		0.100
主桁高	t5	3.100		3.100
下フランジ厚	t6	0.031		0.031
ソールプレート厚	t7	0.046		0.048
支承高	t8	0.472		0.472
構造高合計	ΣH	4.158		4.153
支承下端高	FH2	478.783		478.679
調整モルタル厚	t9	0.030		0.030
台座高	t10	0.120		0.113
下部工天端高	FH2'	478.633	478.589	478.536

位置図



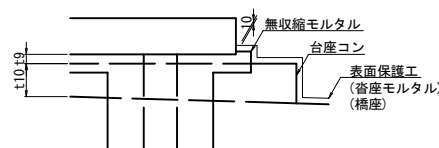
材料強度・材質

コンクリート	躯体 底版 均し	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
		$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
基礎材 鉄筋	RC-80 SD345	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$

(別途施工)
注) 伸縮装置切欠きは、後打ち施工とする。
部(壁高欄部)は、後打ち施工とする。
部は、表面保護工施工範囲とする。
ただし数量は、上部工で計上する。
水抜きパイプの配置等は、裏込め工図参照のこと。

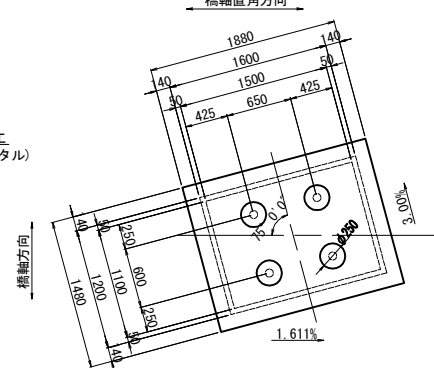
道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵠川橋（上り線） A 2 橋台構造一般図（その 2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

“a”部詳細図 S=1:25

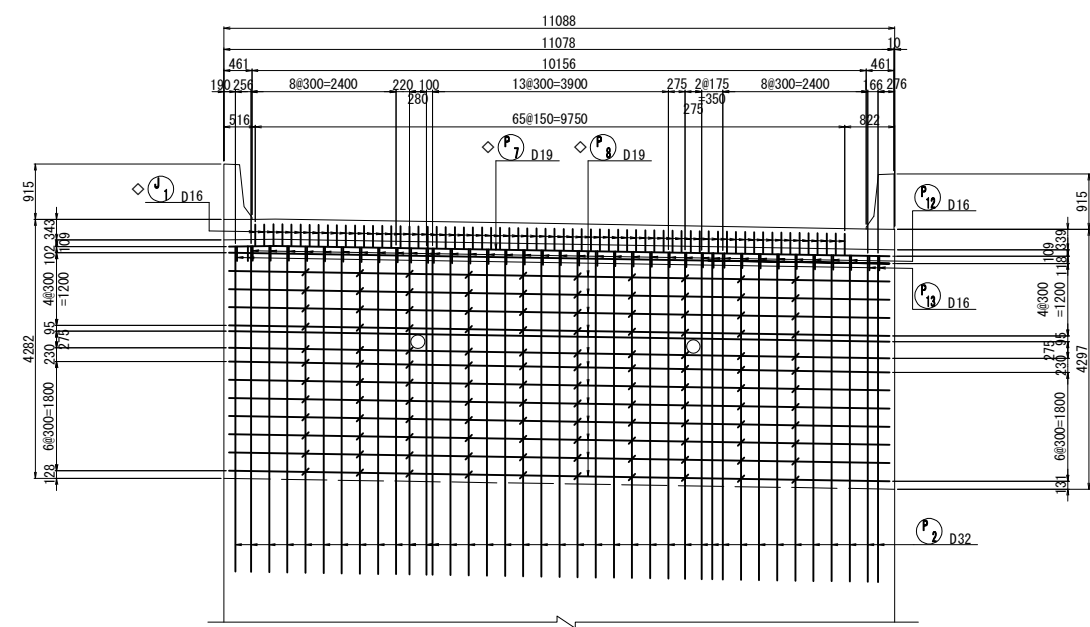


平面図

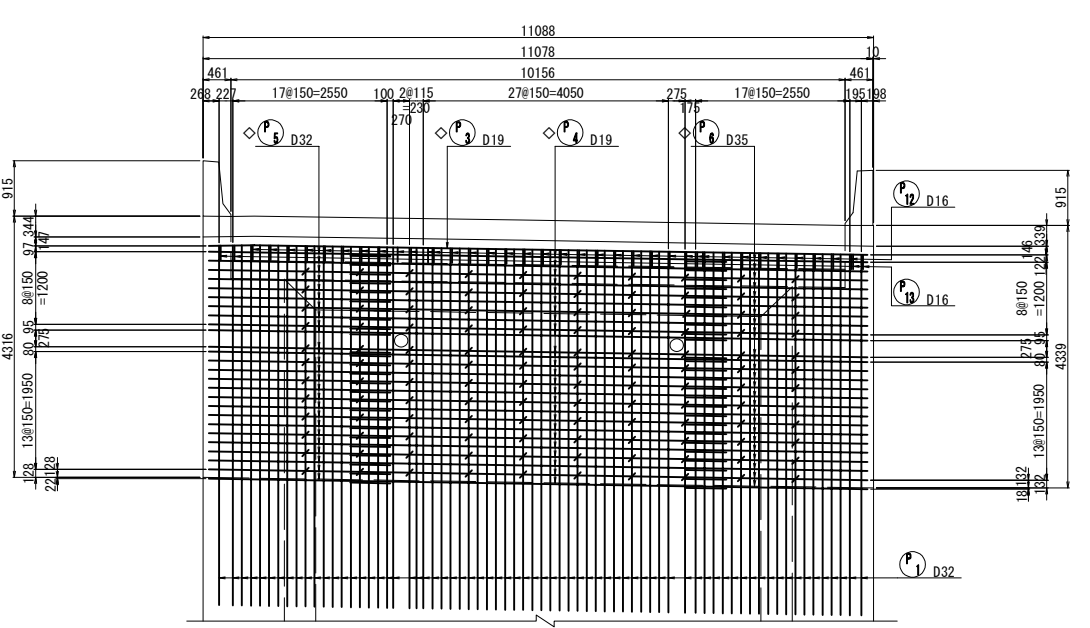
橋軸直角方向



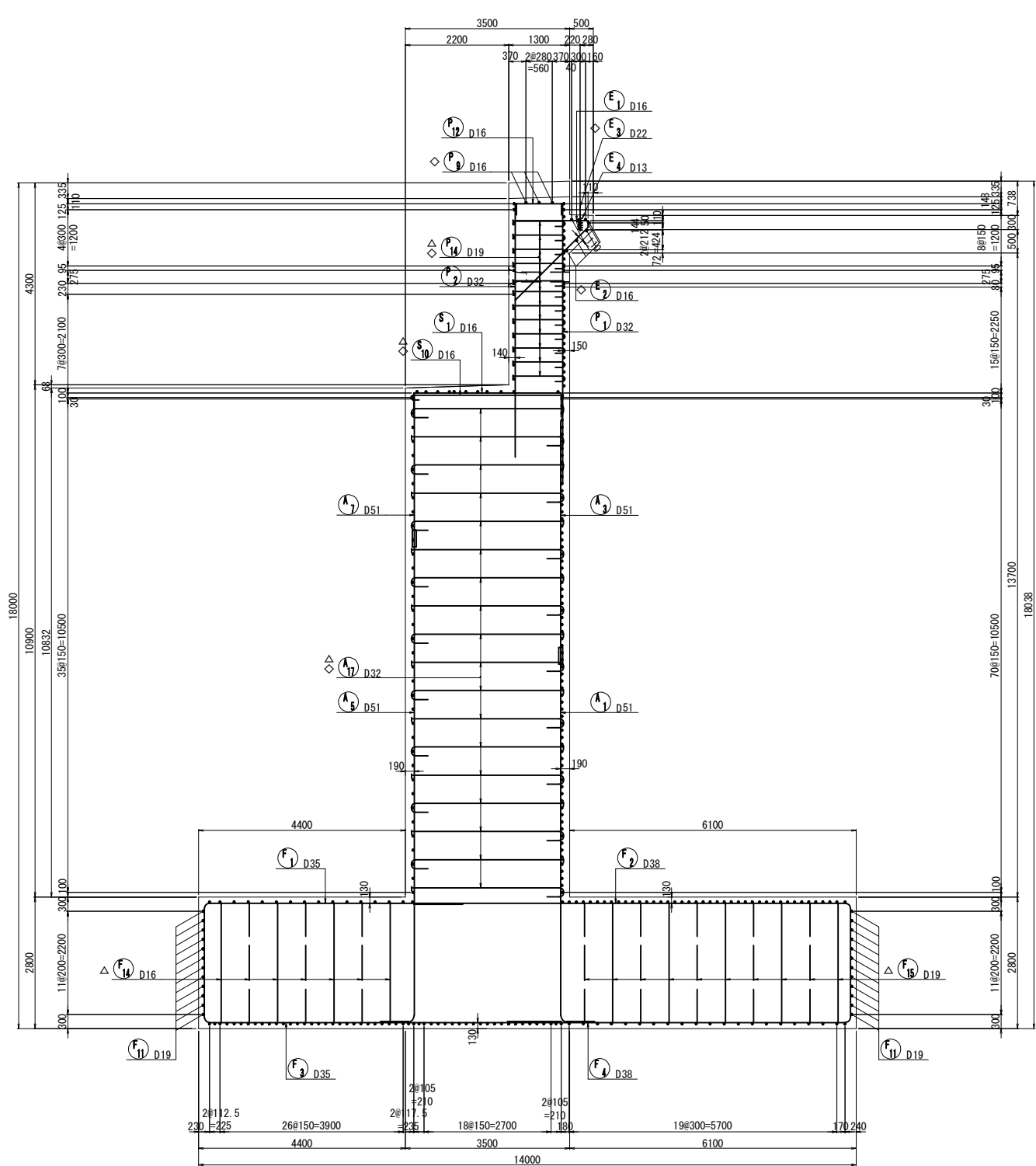
パラペット正面図
1 - 1



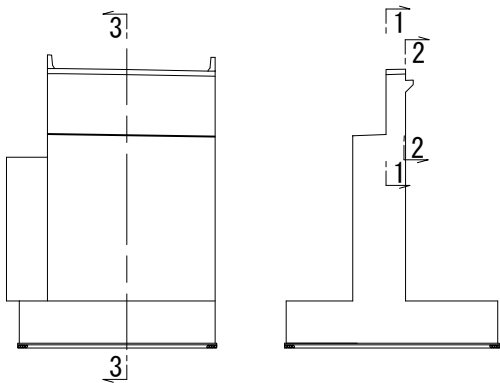
パラペット背面図
2 - 2



断面図
3 - 3



位置図



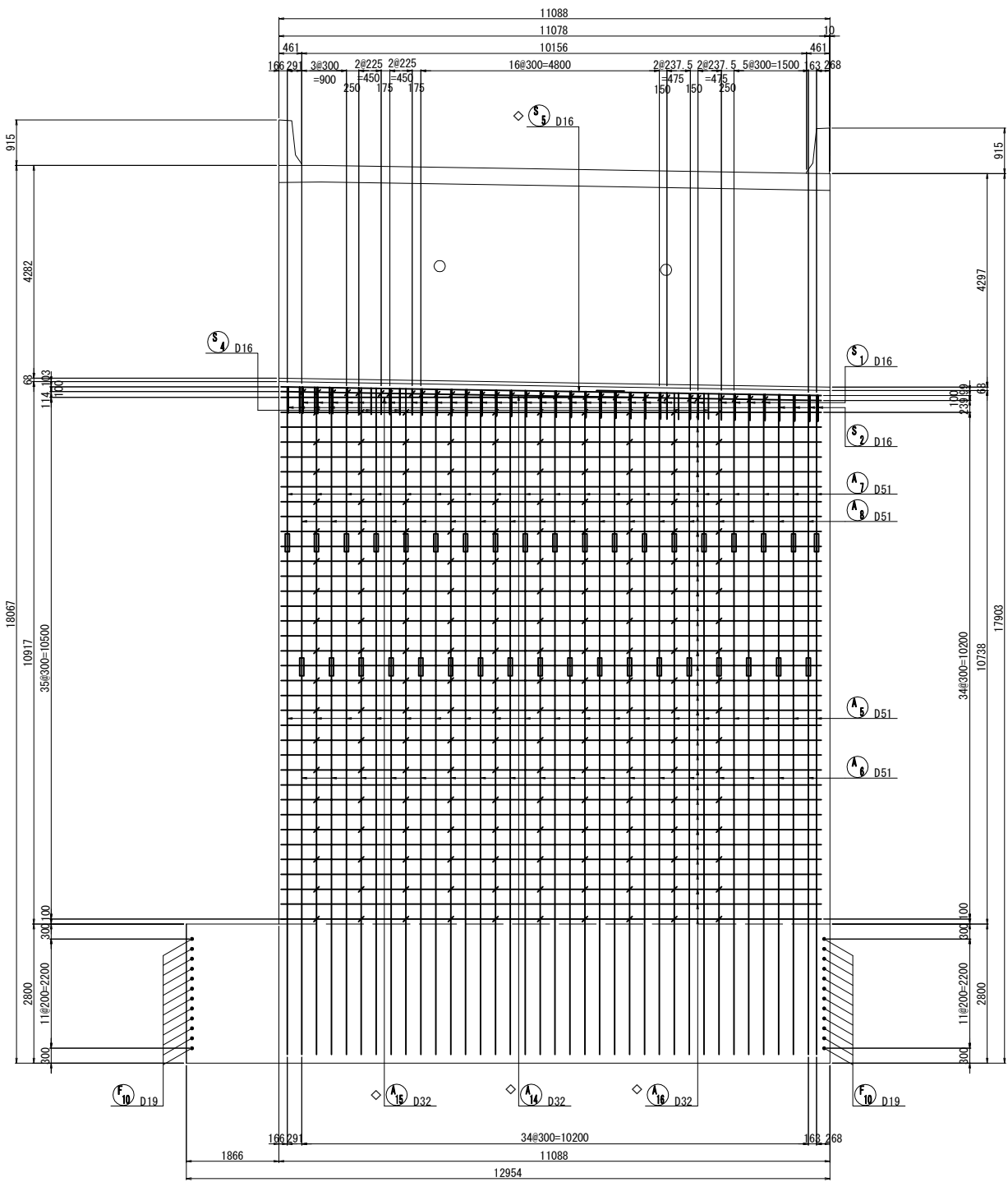
使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

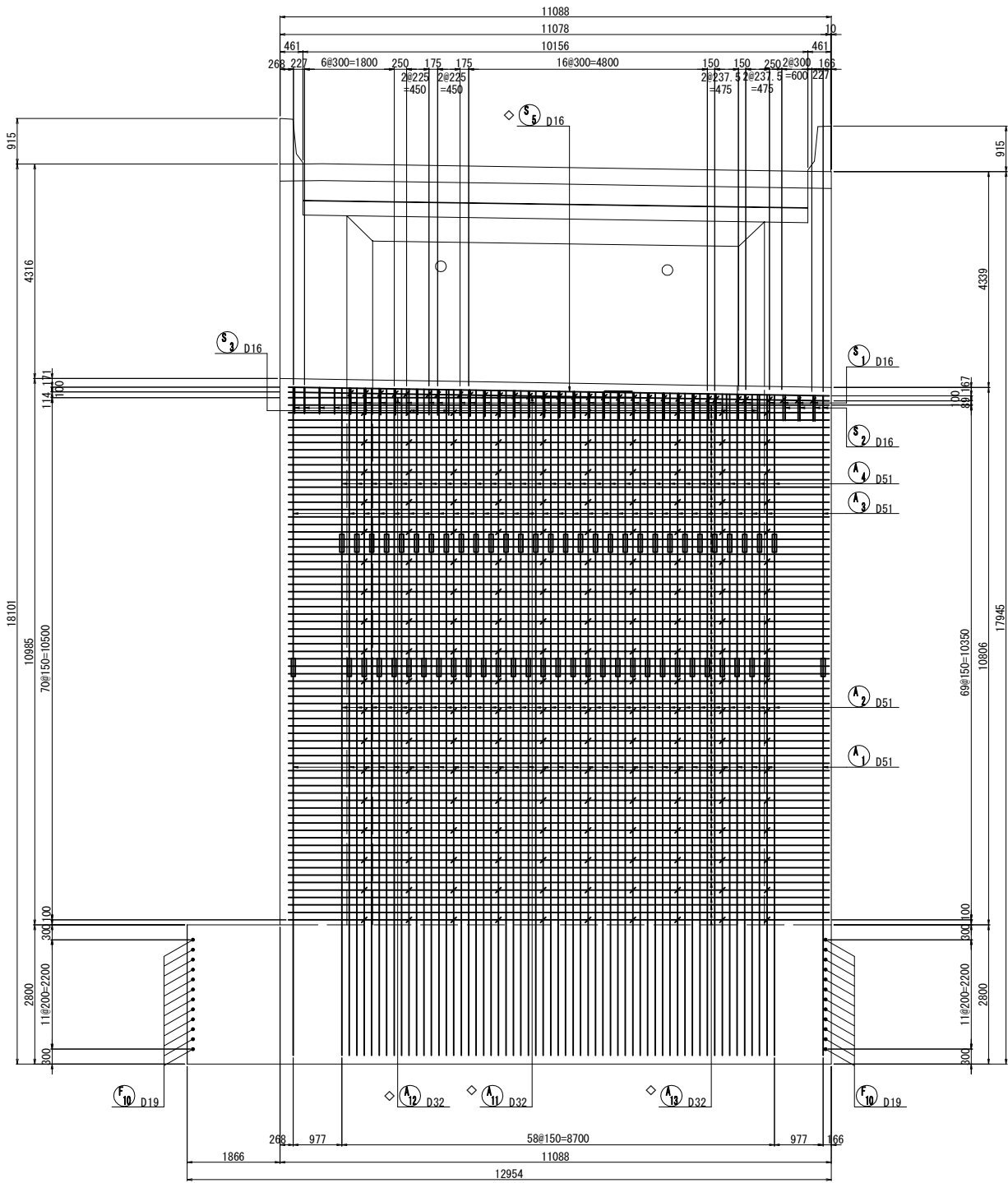
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トナム鷗川橋（上り線）			
図面の種類	A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

縦壁正面図
1 - 1

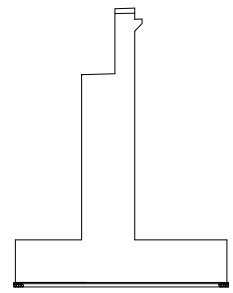


縦壁背面図
2 - 2



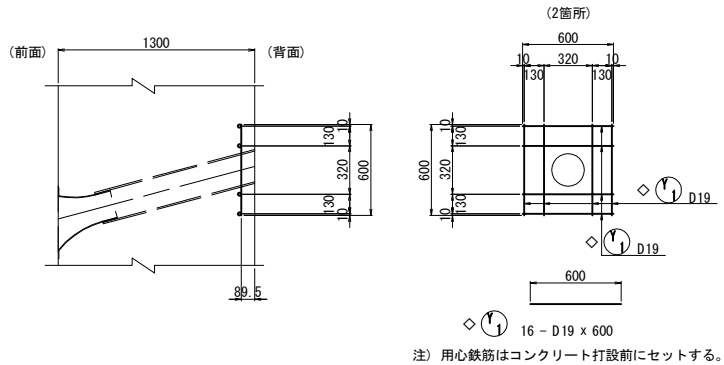
位置図

1 2



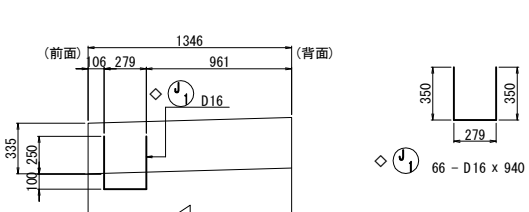
1 2

落橋防止構造用心鉄筋 S=1:50



注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

伸縮装置アンカー筋 S=1:50



注1) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注2) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

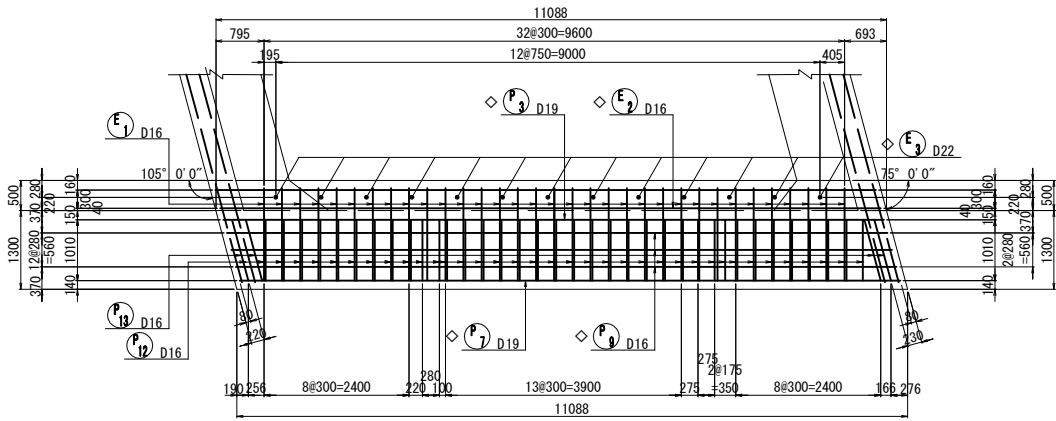
使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	SD345

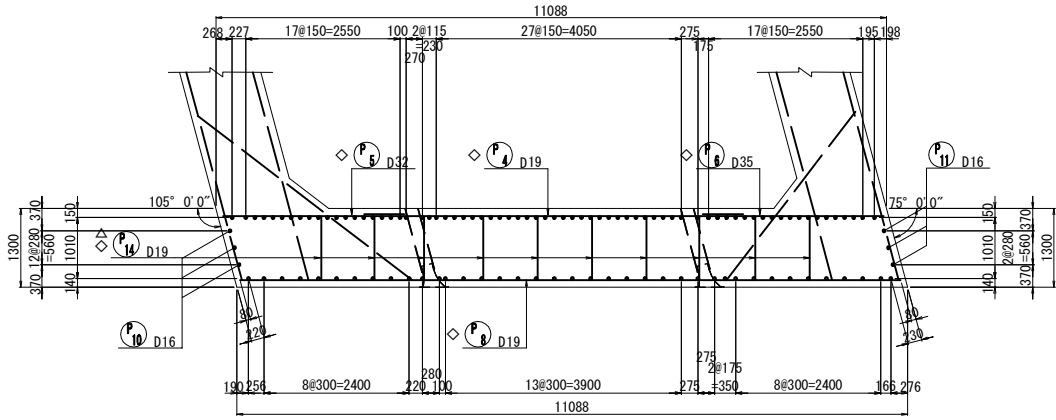
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

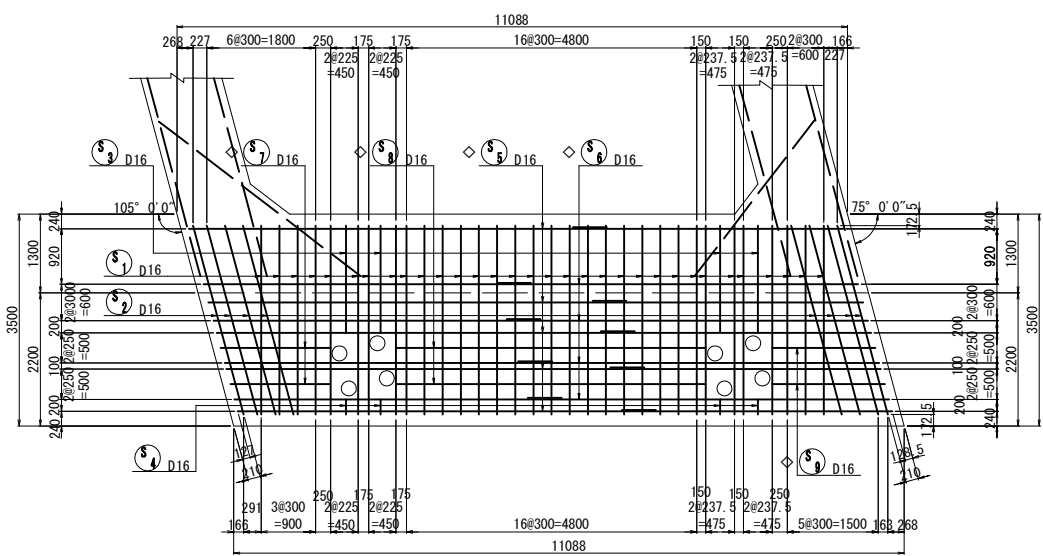
踏掛版受台平面図
1 - 1



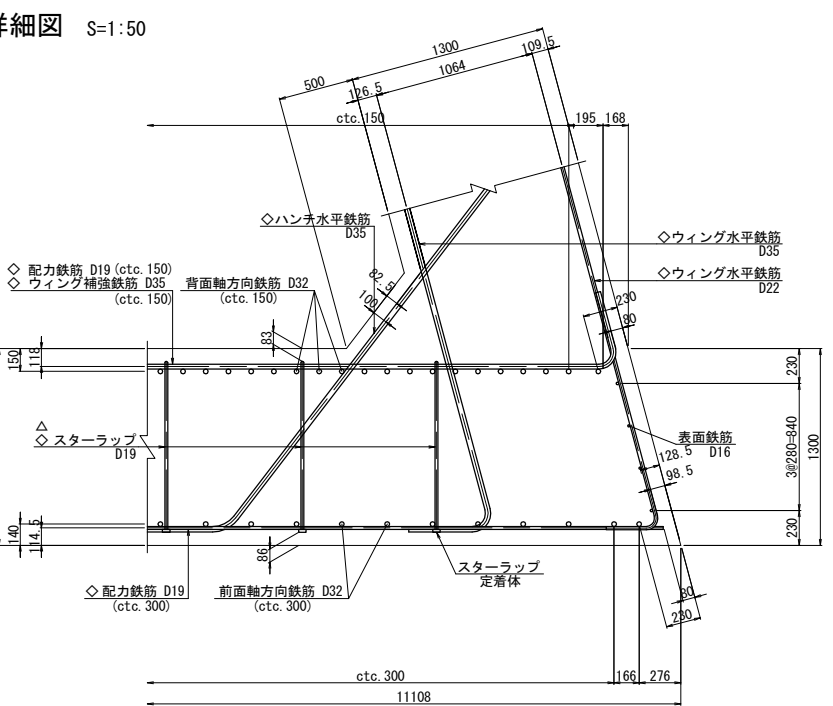
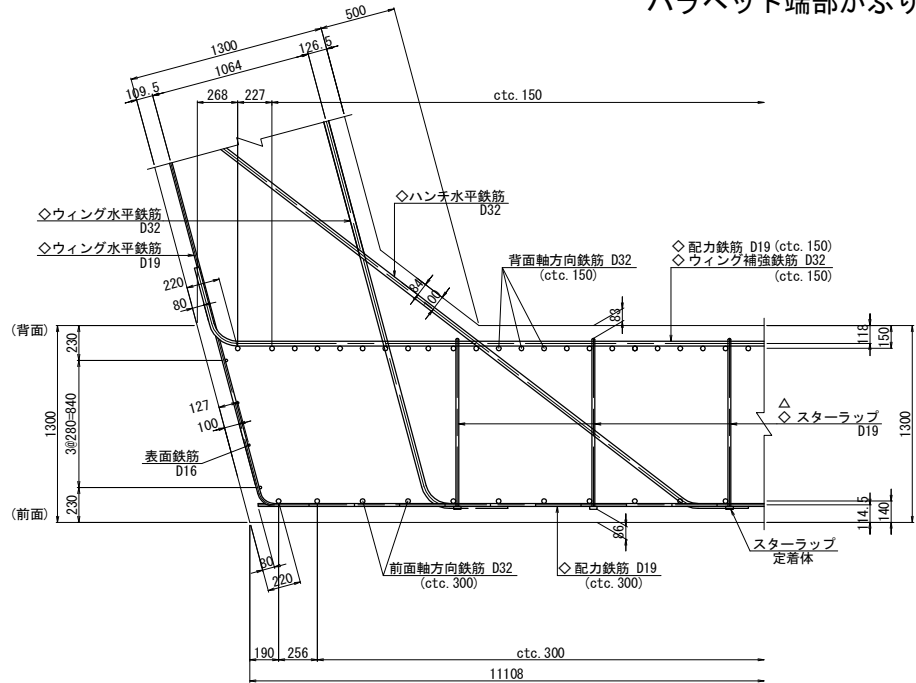
パラペット平面図
2 - 2



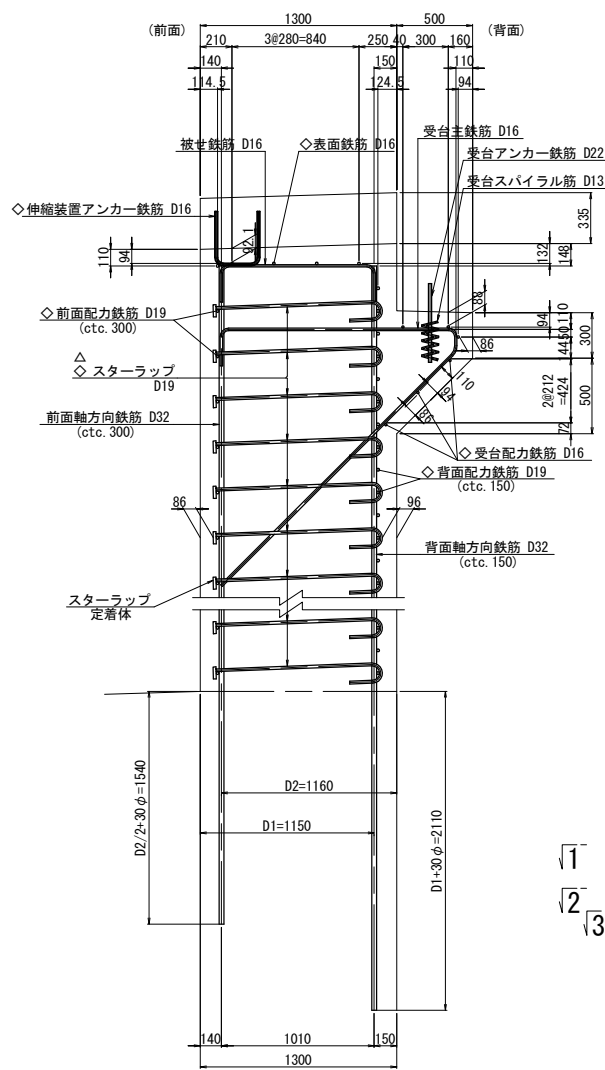
橋座平面図
3 - 3



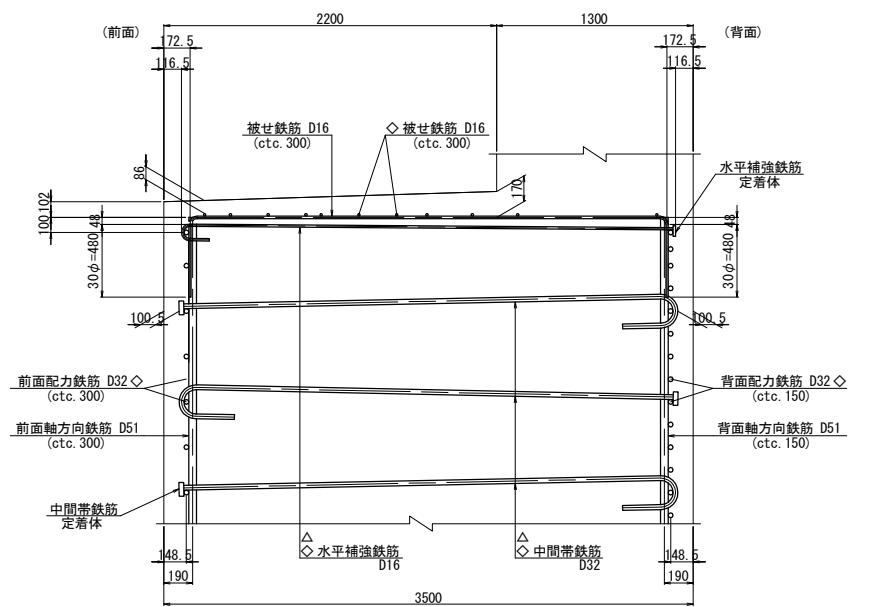
パラペット端部かぶり詳細図 S=1:50



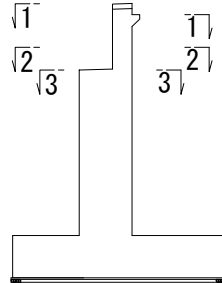
パラペットかぶり詳細図 S=1:50



橋座かぶり詳細図 S=1:50



位置図



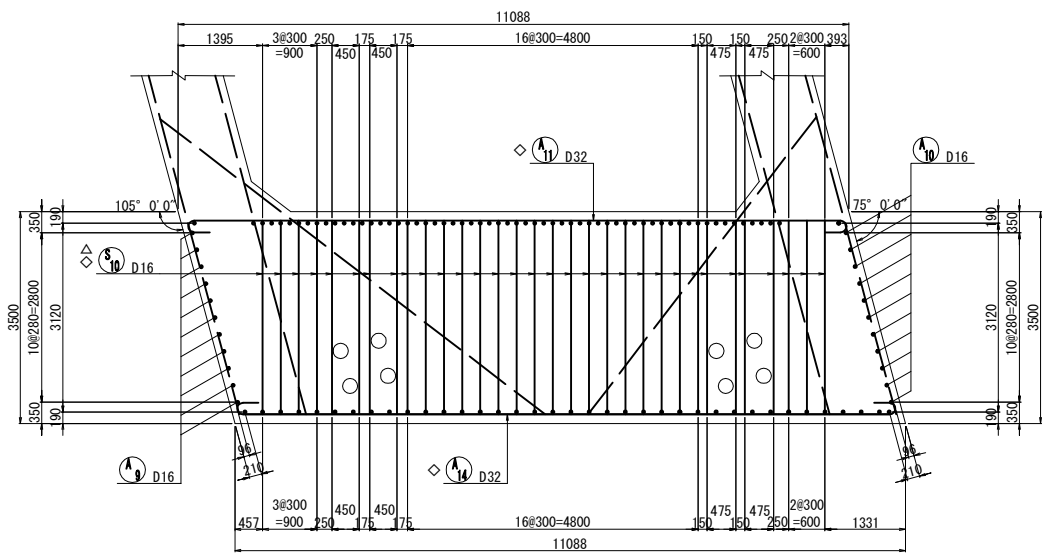
使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

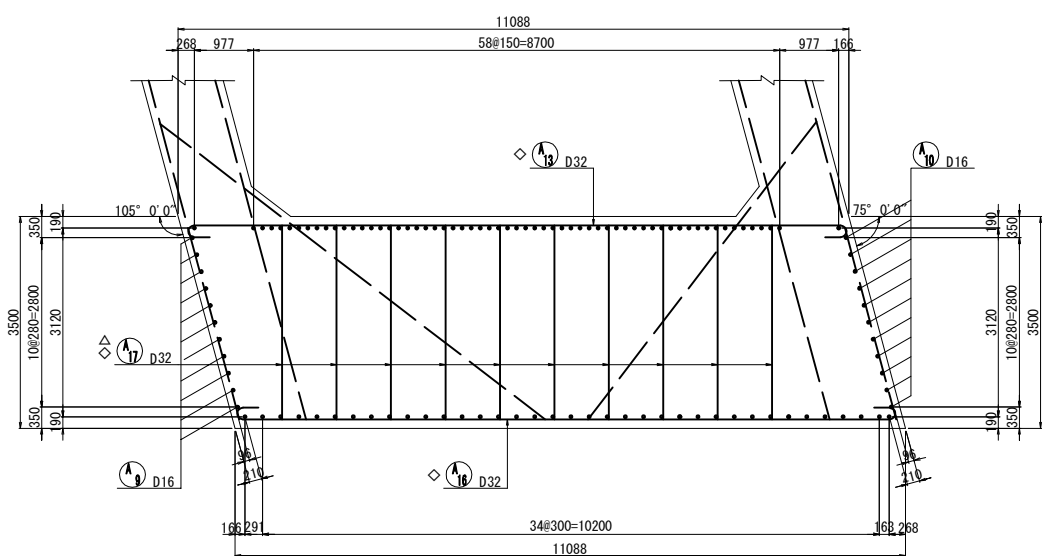
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

水平補強平面図
1 - 1

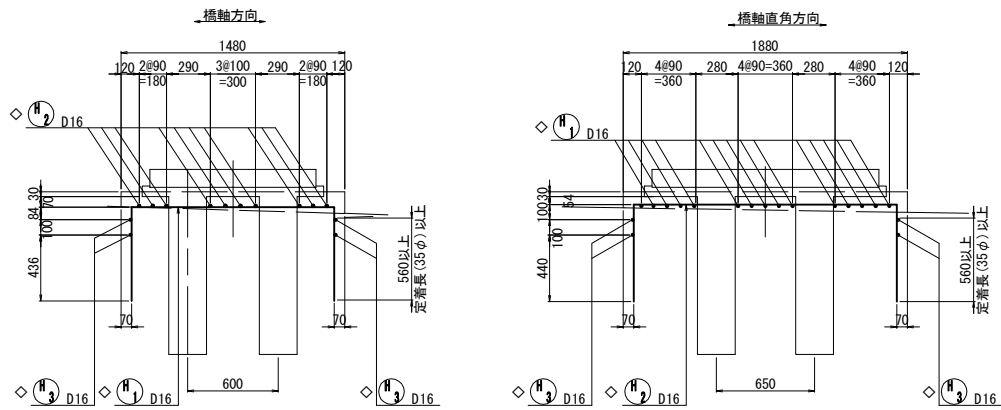


縦壁平面図
2 - 2

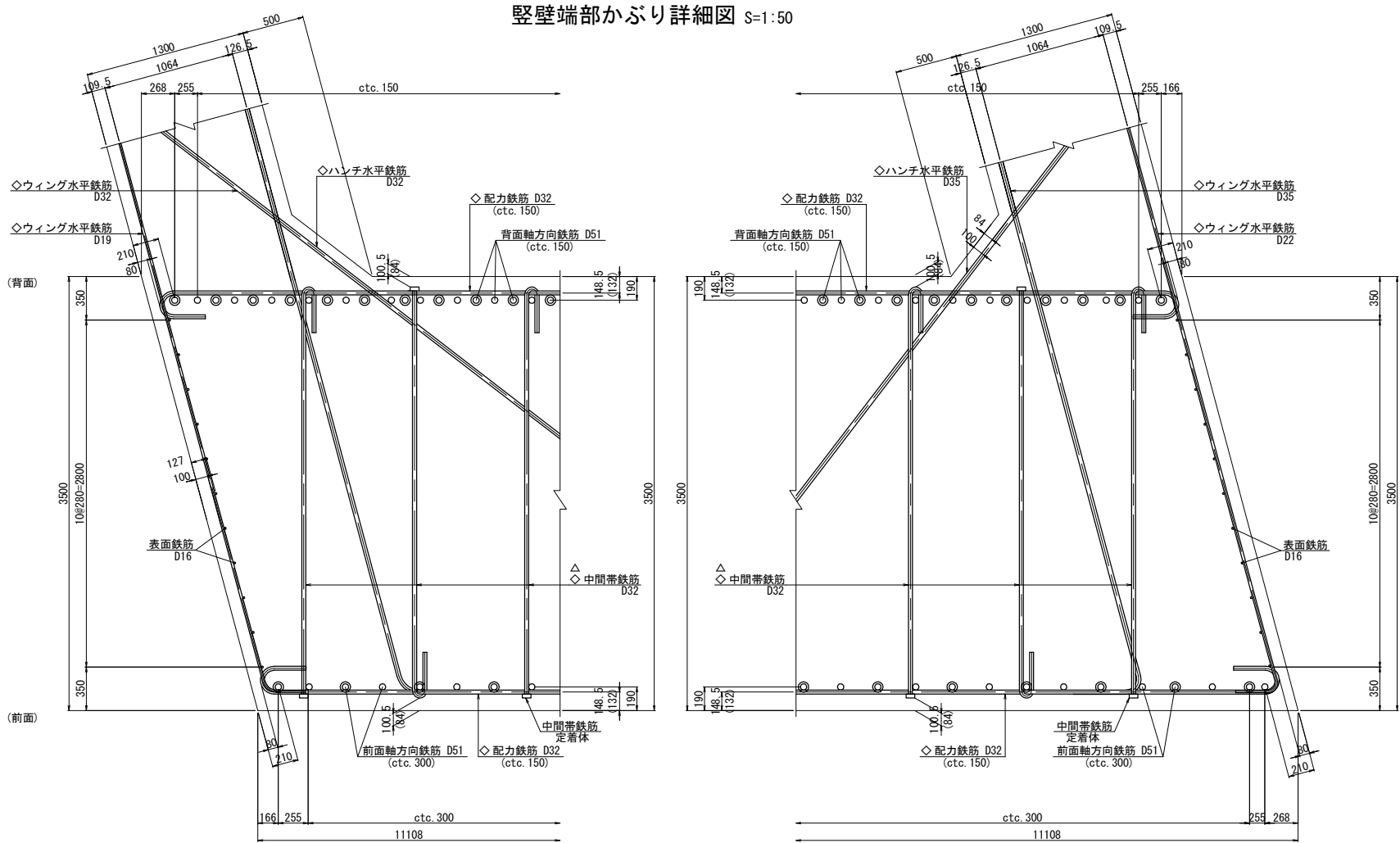


※ A17鉄筋が支承箱抜きに干渉する場合は最小限避けて配置すること。

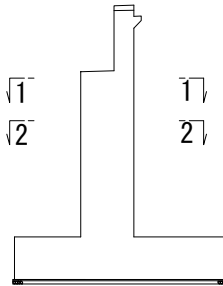
支承箱抜き補強配筋図 S=1:50
(2箇所)



縦壁端部かぶり詳細図 S=1:50



位置図



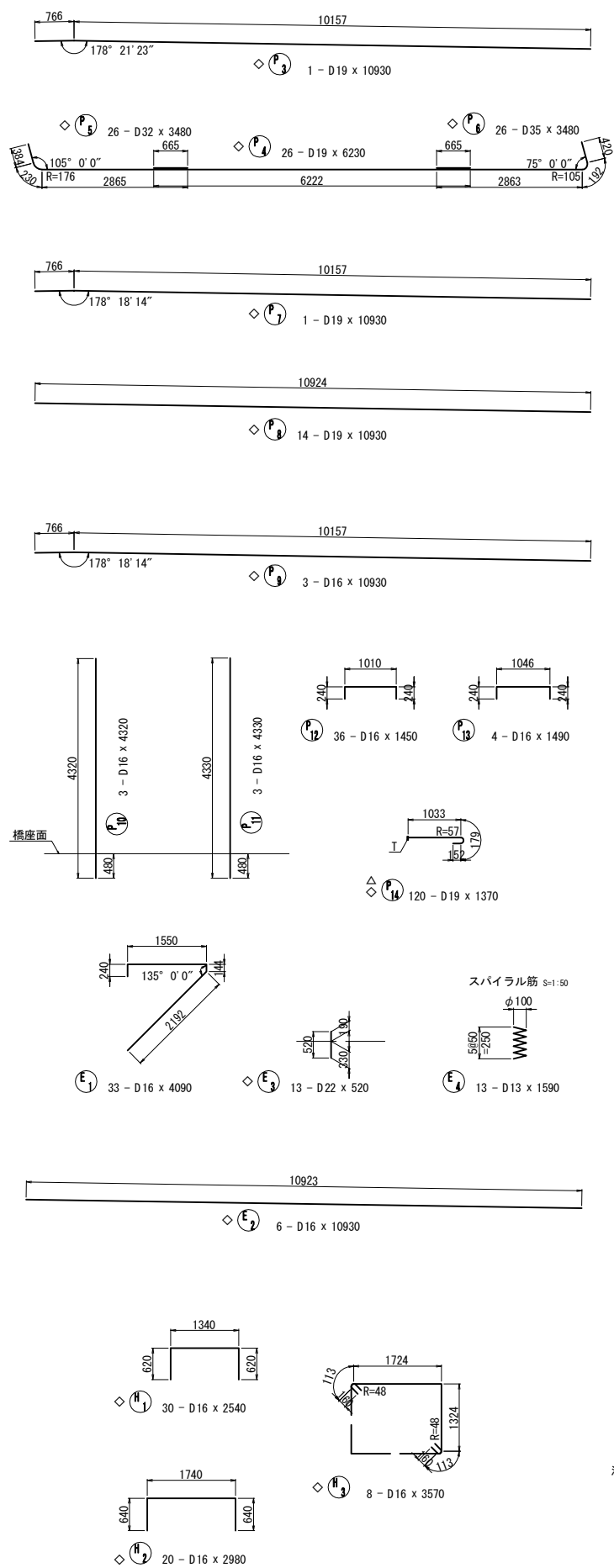
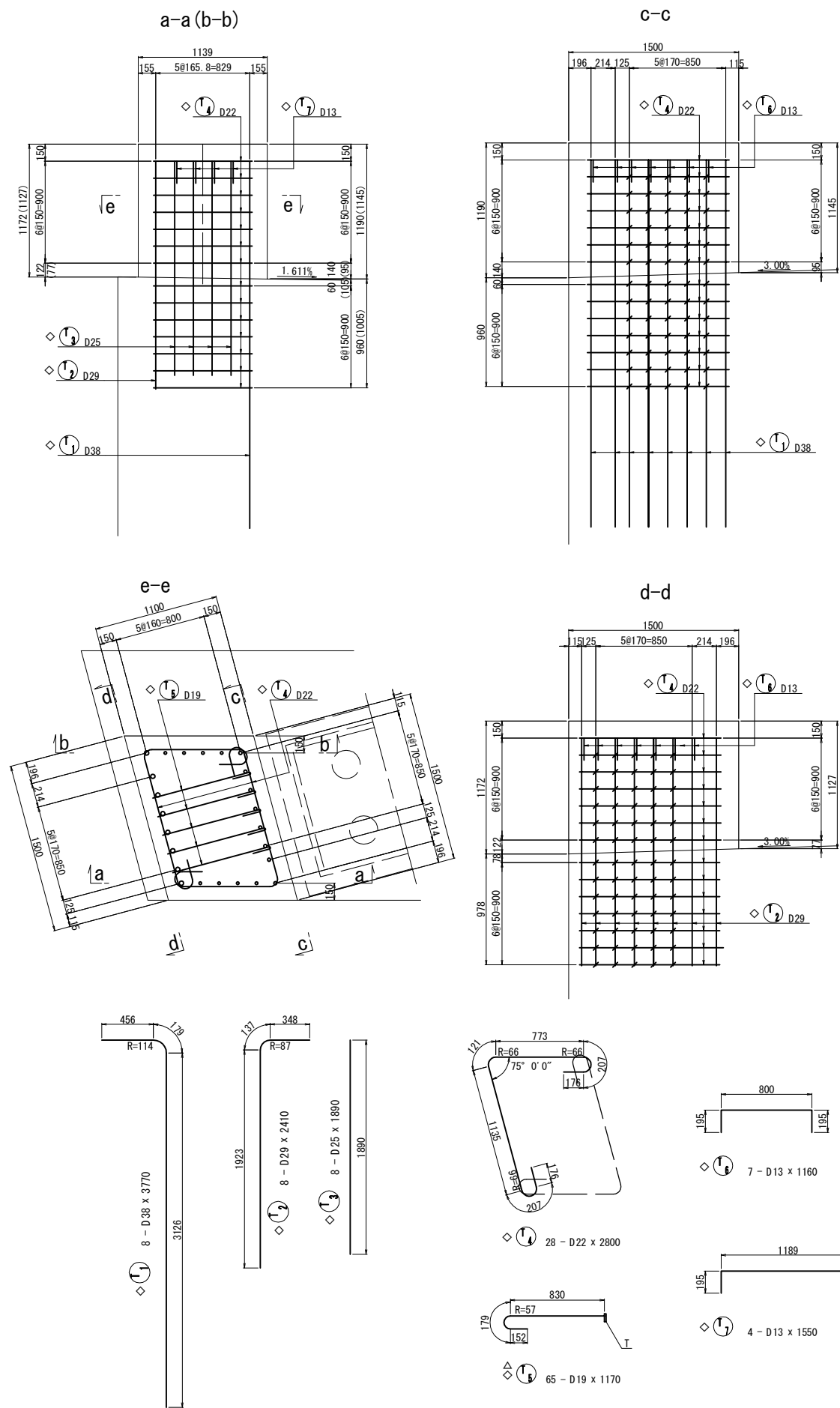
使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵠川橋（上り線） A 2橋台配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

横変位拘束構造配筋図 S=1:50
(1箇所)



橋脚面			
記号	径	本数	a
1	D32	1	5942
2	D32	1	5949
3	D32	1	5953
4	D32	1	5958
5	D32	1	5959
6	D32	1	5959
7	D32	1	5959
8	D32	1	5959
9	D32	1	5959
10	D32	1	5959
11	D32	1	5959
12	D32	1	5959
13	D32	1	5960
14	D32	1	5960
15	D32	1	5960
16	D32	1	5960
17	D32	1	5960
18	D32	1	5960
19	D32	1	5960
20	D32	1	5960
21	D32	1	5960
22	D32	1	5960
23	D32	1	5960
24	D32	1	5960
25	D32	1	5960
26	D32	1	5960
27	D32	1	5960
28	D32	1	5960
29	D32	1	5960
30	D32	1	5960
31	D32	1	5960
32	D32	1	5960
33	D32	1	5960
34	D32	1	5960
35	D32	1	5961
36	D32	1	5961
37	D32	1	5961
38	D32	1	5961
39	D32	1	5961
40	D32	1	5961
41	D32	1	5961
42	D32	1	5961
43	D32	1	5961
44	D32	1	5961
45	D32	1	5961
46	D32	1	5961
47	D32	1	5961
48	D32	1	5961
49	D32	1	5961
50	D32	1	5961
51	D32	1	5961
52	D32	1	5961
53	D32	1	5961
54	D32	1	5961
55	D32	1	5962
56	D32	1	5962
57	D32	1	5962
58	D32	1	5962
59	D32	1	5962
60	D32	1	5962
61	D32	1	5962
62	D32	1	5962
63	D32	1	5962
64	D32	1	5962
65	D32	1	5962
66	D32	1	5962
67	D32	1	5962
68	D32	1	5962
69	D32	1	5962
70	D32	1	5962
平均長		70	5960

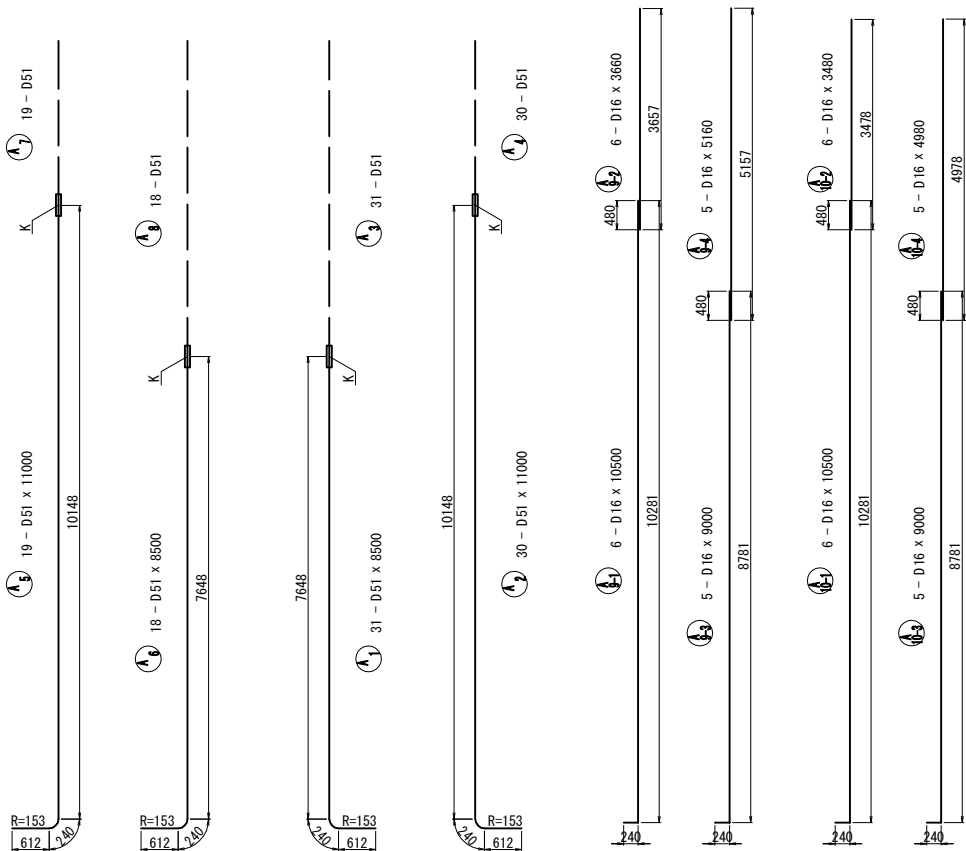
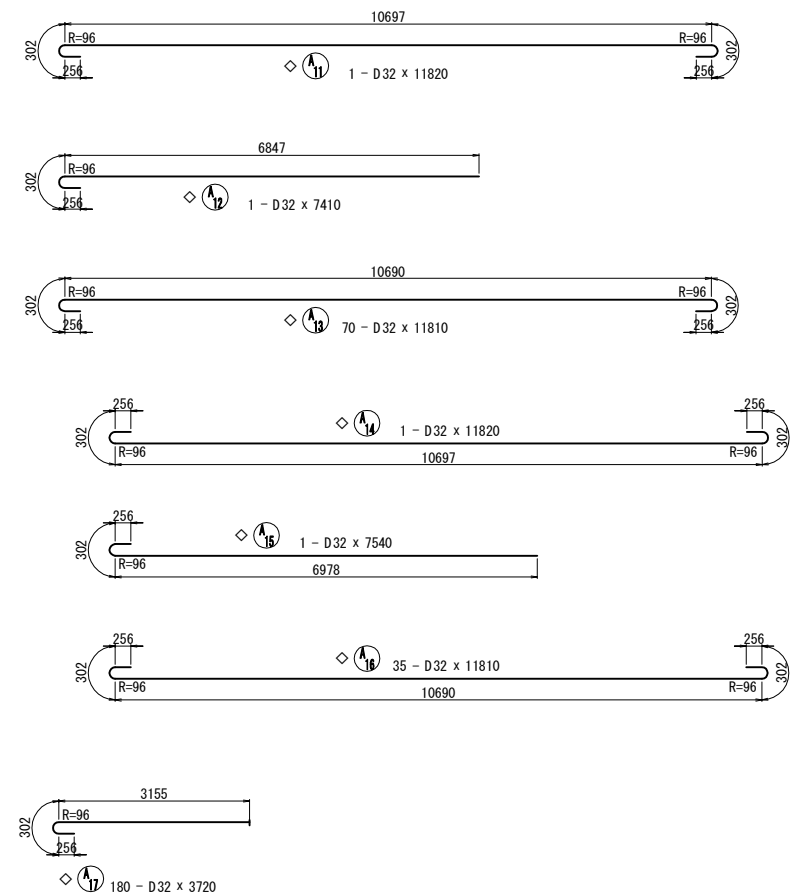
橋脚面			
記号	径	本数	a
1	D32	1	5375
2	D32	1	5382
3	D32	1	5391
4	D32	1	5394
5	D32	1	5394
6	D32	1	5394
7	D32	1	5393
8	D32	1	5393
9	D32	1	5393
10	D32	1	5393
11	D32	1	5393
12	D32	1	5393
13	D32	1	5393
14	D32	1	5392
15	D32	1	5392
16	D32	1	5392
17	D32	1	5392
18	D32	1	5392
19	D32	1	5391
20	D32	1	5391
21	D32	1	5391
22	D32	1	5391
23	D32	1	5391
24	D32	1	5391
25	D32	1	5390
26	D32	1	5390
27	D32	1	5390
28	D32	1	5390
29	D32	1	5390
30	D32	1	5390
31	D32	1	5389
32	D32	1	5389
33	D32	1	5389
34	D32	1	5389
35	D32	1	5389
36	D32	1	5389
37	D32	1	5388
38	D32	1	5388
39	D32	1	5388
平均長		39	5390

使用材料一覧表

部材	材料	規格
躯体	コンクリート	σck=30N/mm ²
底版	鉄筋	SD345

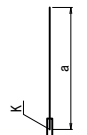
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

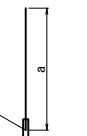
道東自動車道			
下トナム鵜川橋（上り線）			
図面の種類	A 2橋台配筋図（その5）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

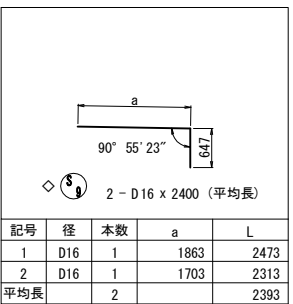
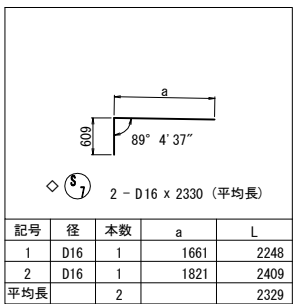
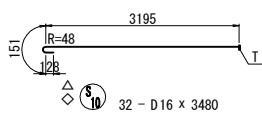
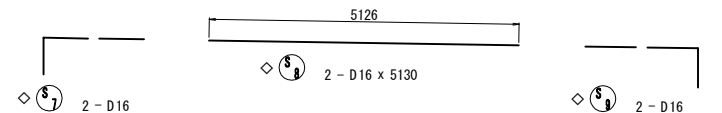
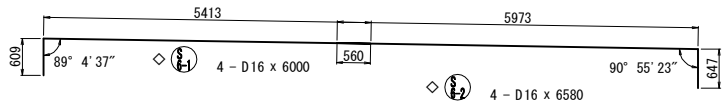
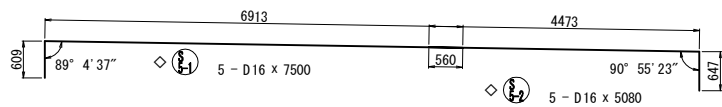
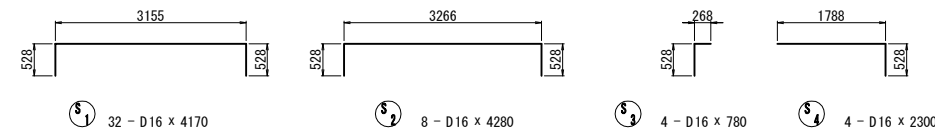


			
31 - D51 x 5550 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D51	1	5463
2	D51	1	5481
3	D51	1	5486
4	D51	1	5491
5	D51	1	5496
6	D51	1	5501
7	D51	1	5505
8	D51	1	5510
9	D51	1	5515
10	D51	1	5520
11	D51	1	5525
12	D51	1	5530
13	D51	1	5534
14	D51	1	5539
15	D51	1	5544
16	D51	1	5549
17	D51	1	5554
18	D51	1	5559
19	D51	1	5563
20	D51	1	5568
21	D51	1	5573
22	D51	1	5578
23	D51	1	5583
24	D51	1	5588
25	D51	1	5592
26	D51	1	5597
27	D51	1	5602
28	D51	1	5607
29	D51	1	5612
30	D51	1	5617
31	D51	1	5635
平均長		31	5549

			
19 - D51 x 3060 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D51	1	2966
2	D51	1	2974
3	D51	1	2983
4	D51	1	2993
5	D51	1	3003
6	D51	1	3012
7	D51	1	3022
8	D51	1	3032
9	D51	1	3041
10	D51	1	3051
11	D51	1	3061
12	D51	1	3070
13	D51	1	3080
14	D51	1	3090
15	D51	1	3099
16	D51	1	3109
17	D51	1	3119
18	D51	1	3128
19	D51	1	3138
平均長		19	3051

			
30 - D51 x 3050 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D51	1	2979
2	D51	1	2984
3	D51	1	2989
4	D51	1	2993
5	D51	1	2998
6	D51	1	3003
7	D51	1	3008
8	D51	1	3013
9	D51	1	3018
10	D51	1	3022
11	D51	1	3027
12	D51	1	3032
13	D51	1	3037
14	D51	1	3042
15	D51	1	3047
16	D51	1	3051
17	D51	1	3056
18	D51	1	3061
19	D51	1	3066
20	D51	1	3071
21	D51	1	3076
22	D51	1	3080
23	D51	1	3085
24	D51	1	3090
25	D51	1	3095
26	D51	1	3100
27	D51	1	3105
28	D51	1	3109
29	D51	1	3114
30	D51	1	3119
平均長		30	3049

			
18 - D51 x 5560 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D51	1	5469
2	D51	1	5479
3	D51	1	5488
4	D51	1	5498
5	D51	1	5508
6	D51	1	5517
7	D51	1	5527
8	D51	1	5537
9	D51	1	5546
10	D51	1	5556
11	D51	1	5566
12	D51	1	5575
13	D51	1	5585
14	D51	1	5595
15	D51	1	5604
16	D51	1	5614
17	D51	1	5624
18	D51	1	5633
平均長		18	5551

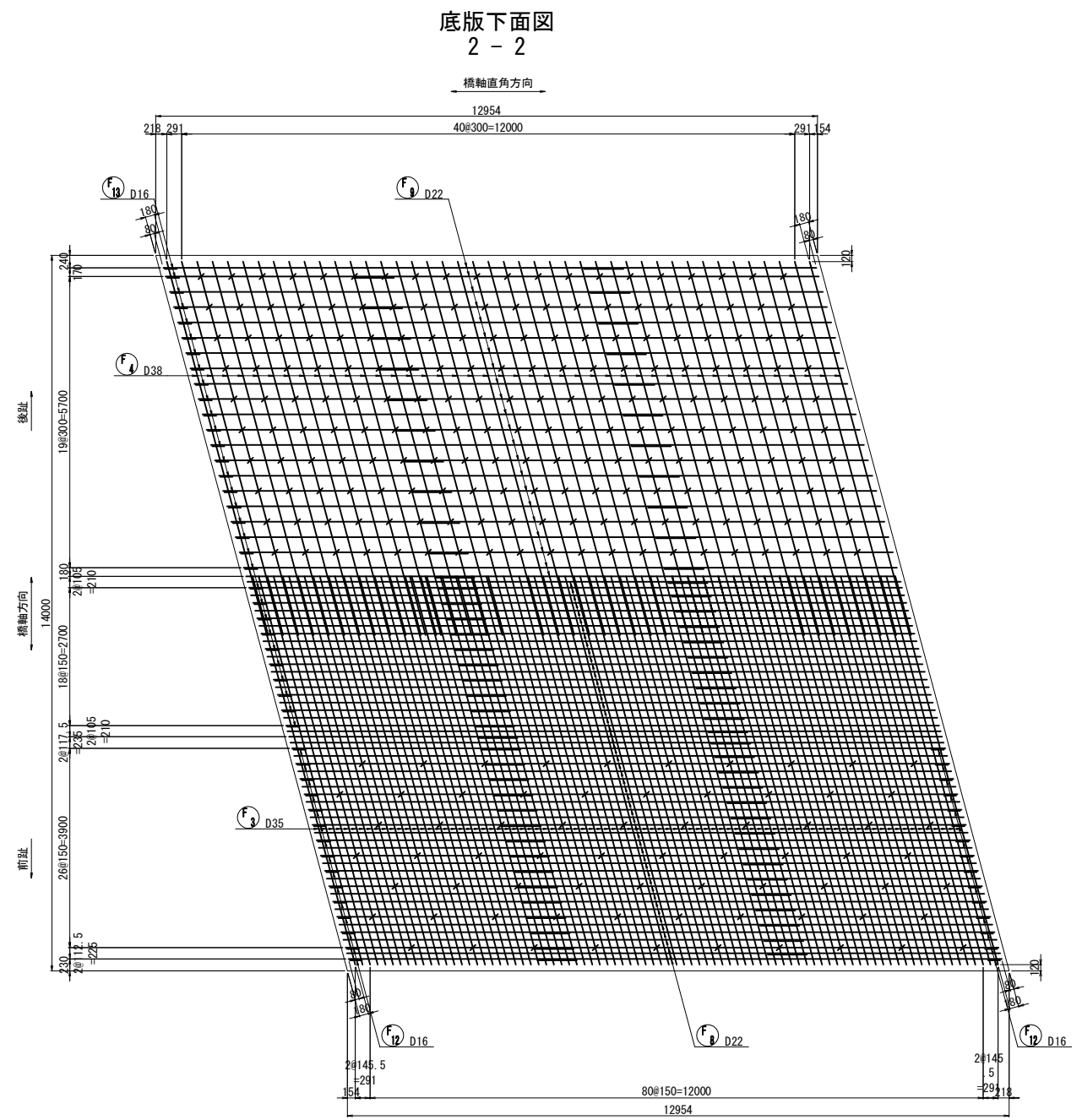
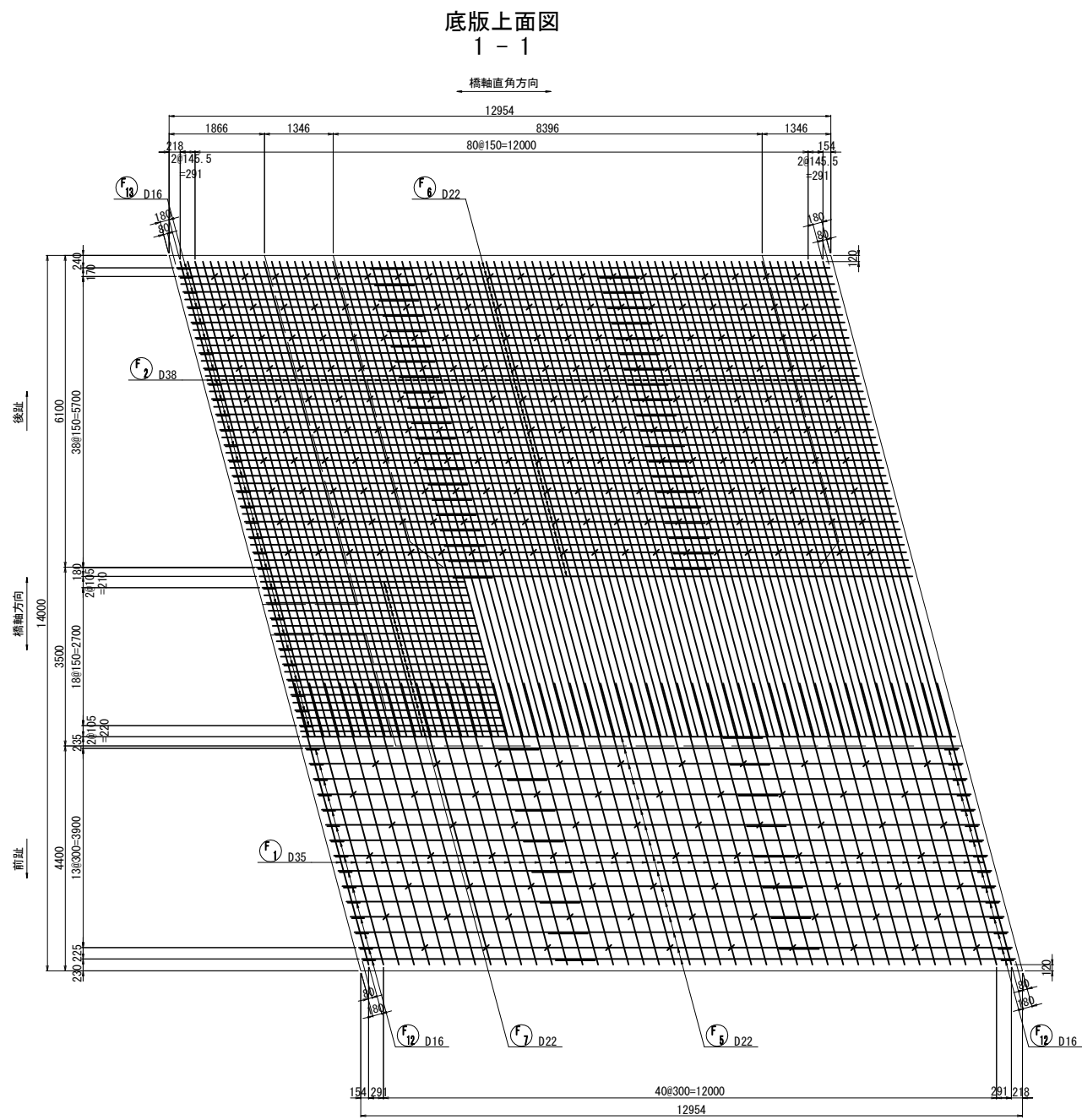


使用材料一覧表

躯体	コンクリート	鉄筋
底版	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$	SD345
	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トナム鵜川橋（上り線）			
図面の種類	A 2 橋台配筋図（その 6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



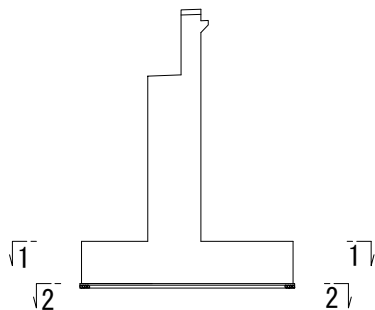
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。

注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

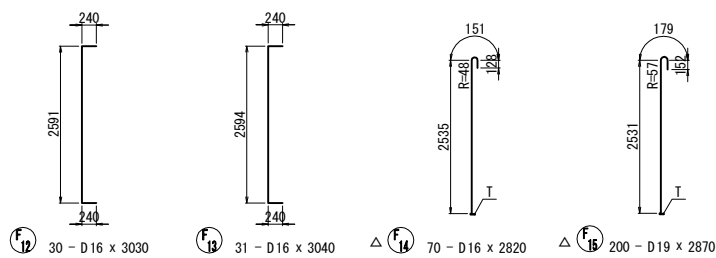
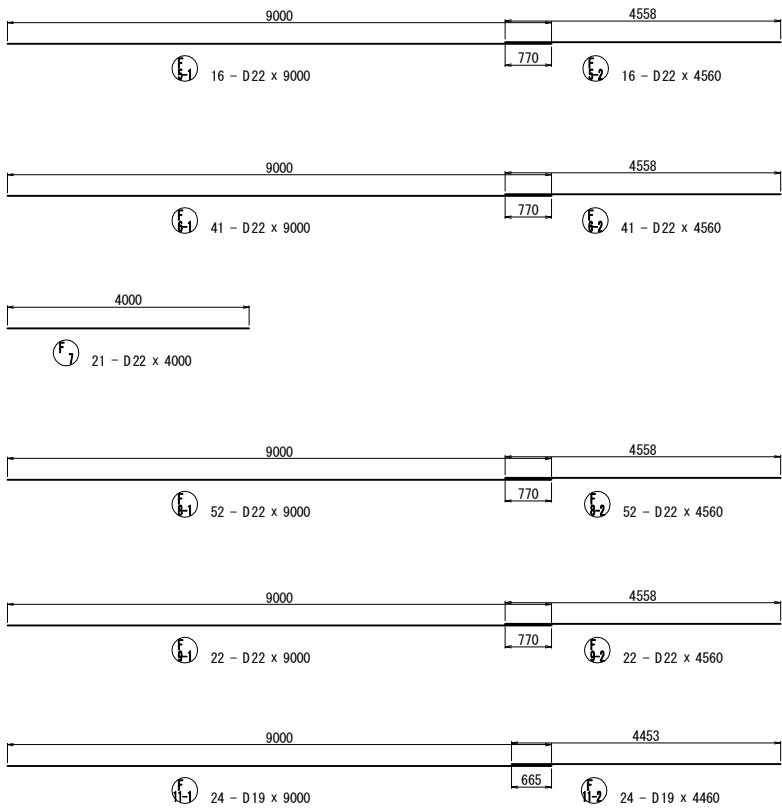
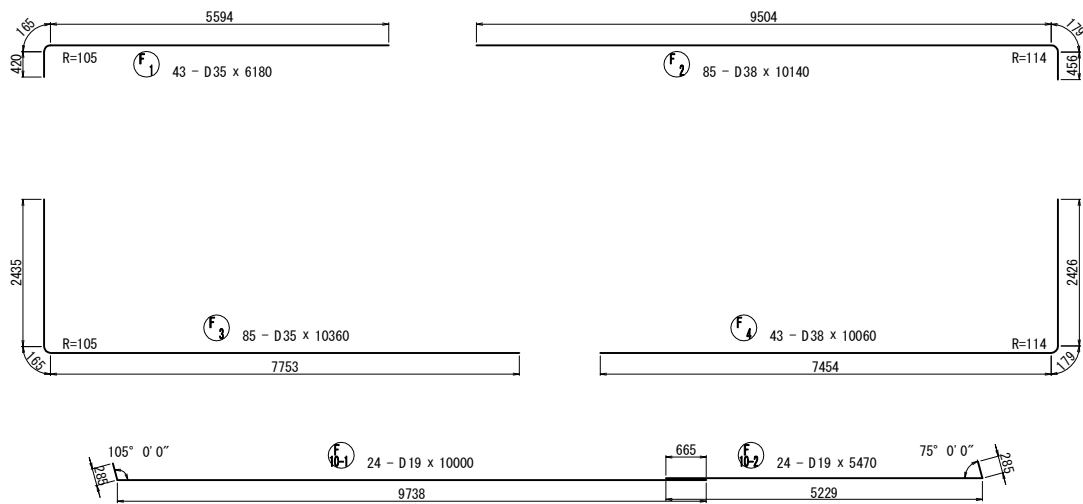
位置図



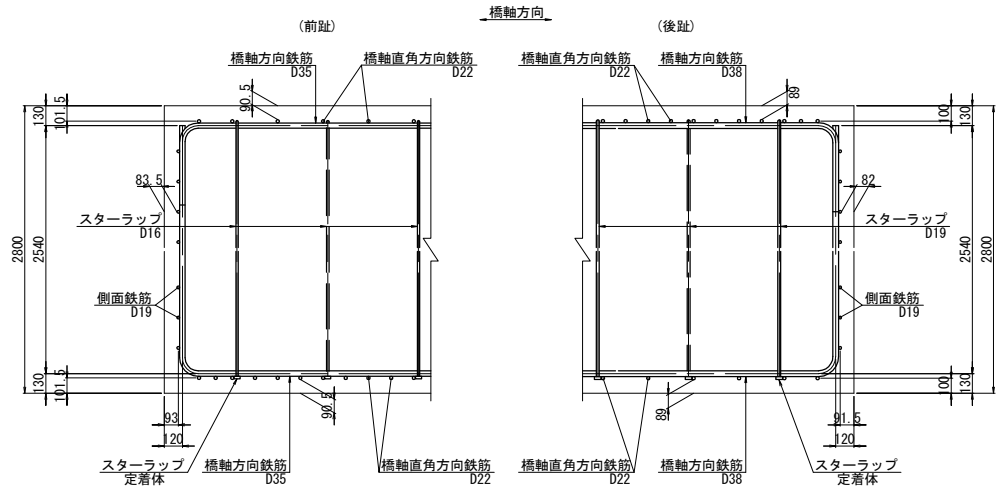
使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

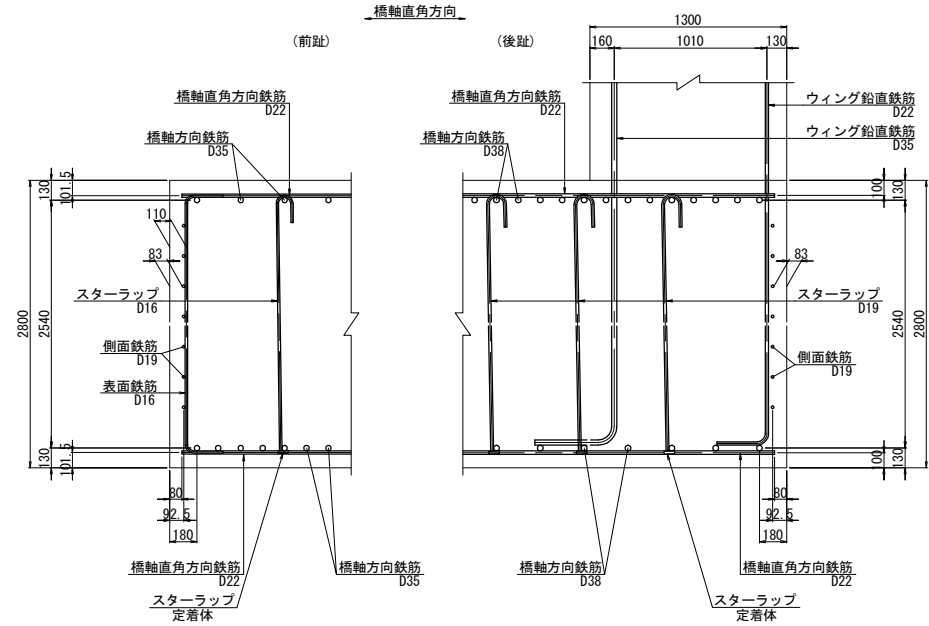
道東自動車道 下トママ地区下部工工事			
図面の種類	下トママ鷗川橋（上り線） A 2橋台配筋図（その7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



底板かぶり詳細図 S=1:50



底板かぶり詳細図 S=1:50



使用材料一覧表

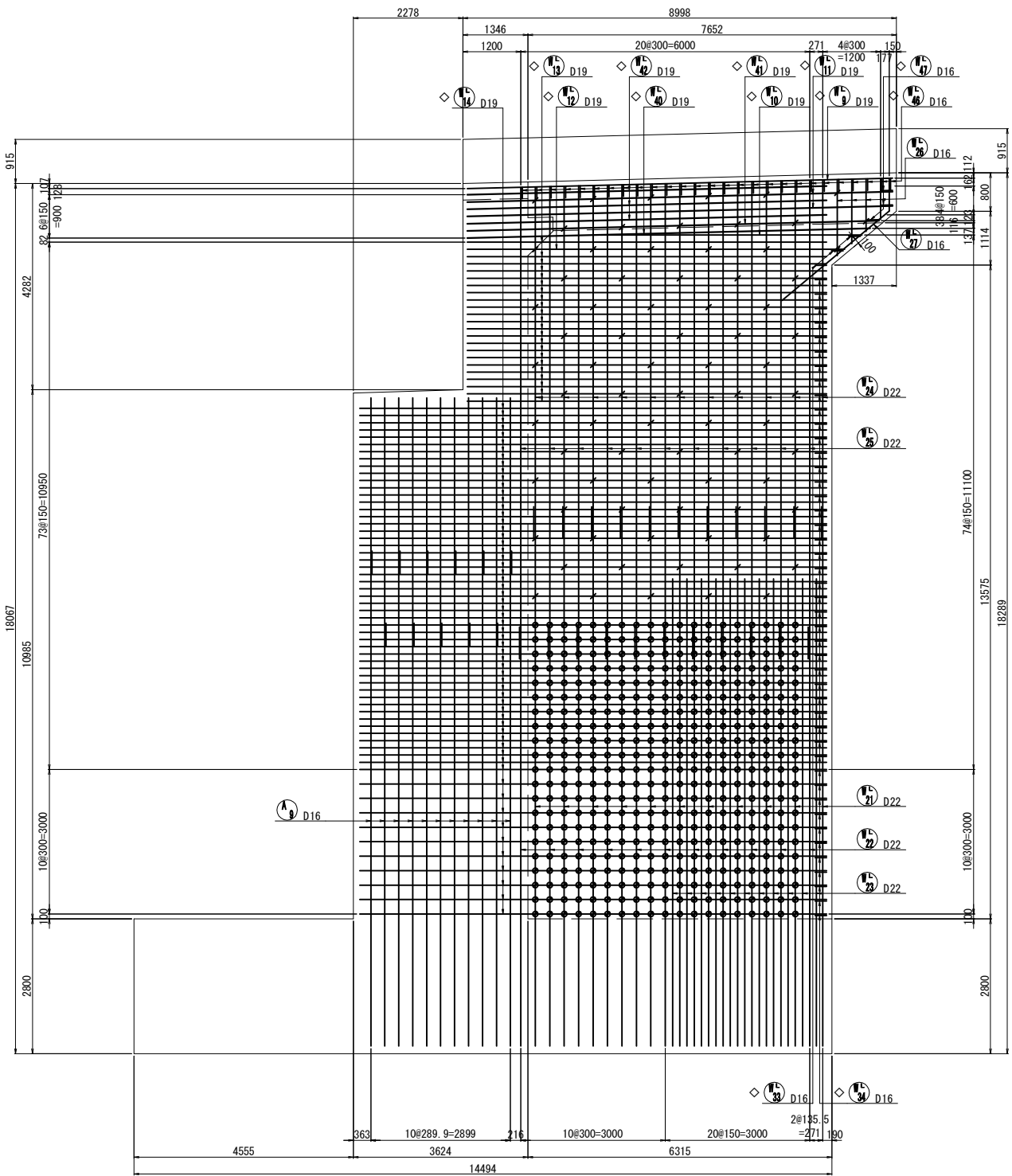
	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

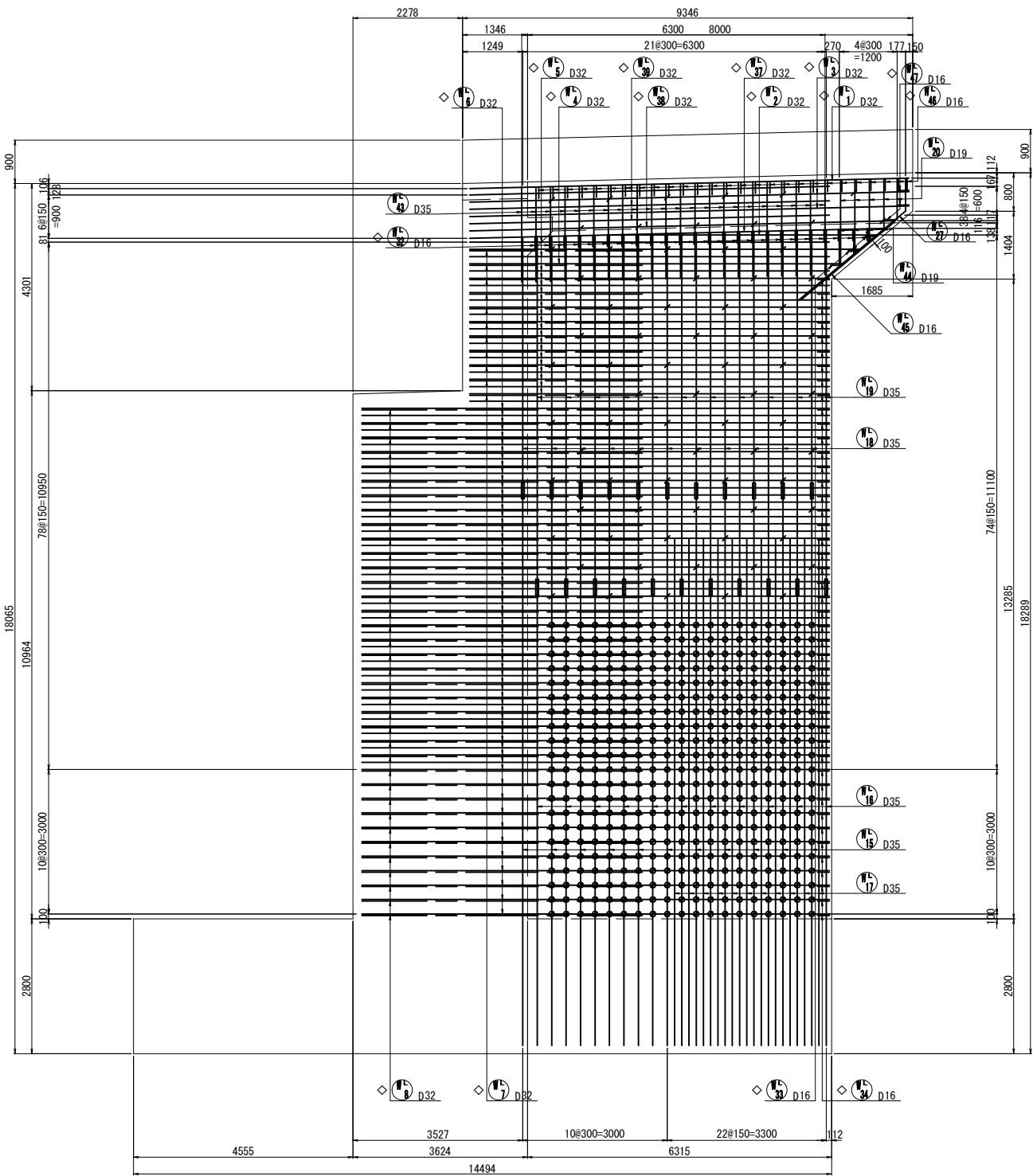
道東自動車道			
下トママ地区下部工工事			
図面の種類	下トママ鷗川橋（上り線） A 2橋台配筋図（その8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウィング

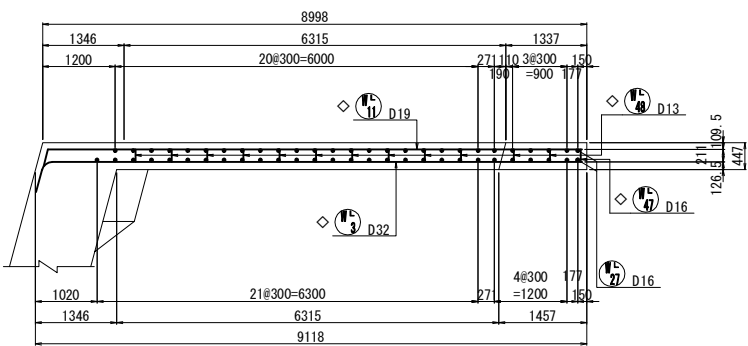
1 - 1（外側）



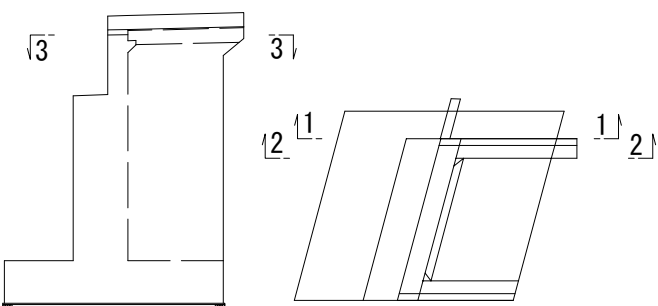
2 - 2（内側）



3 - 3



位置図

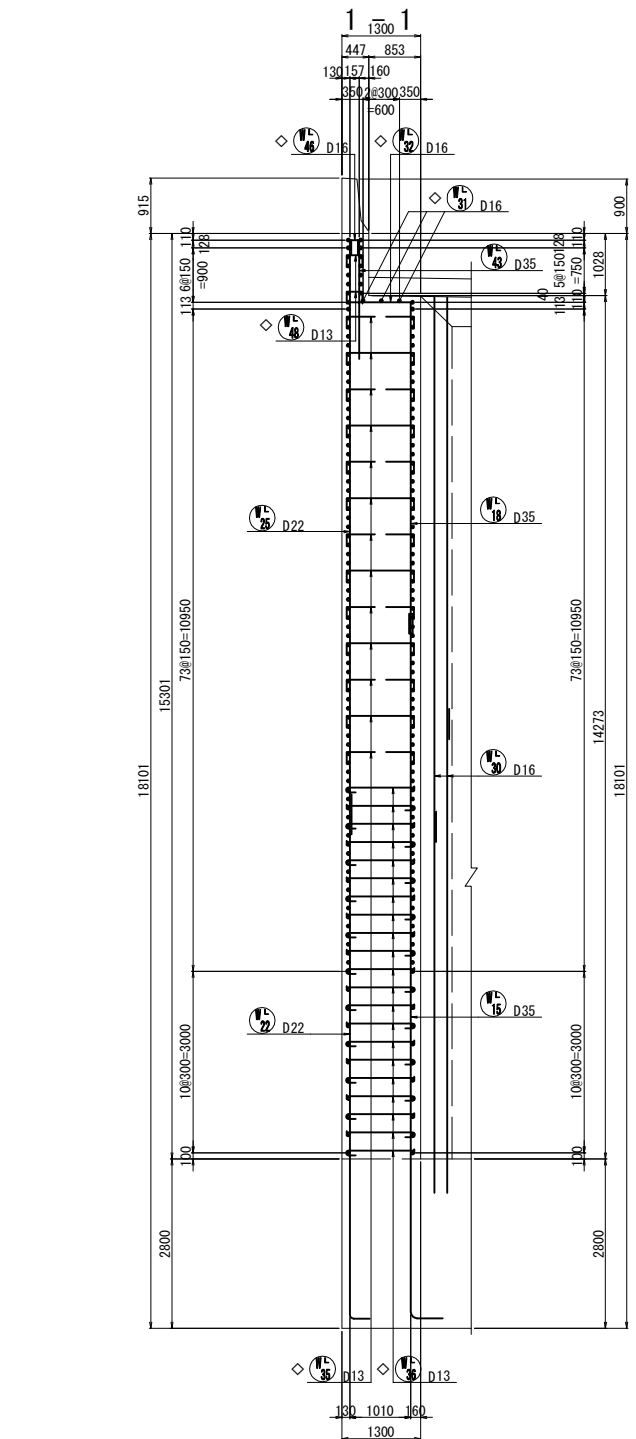


使用材料一覧表

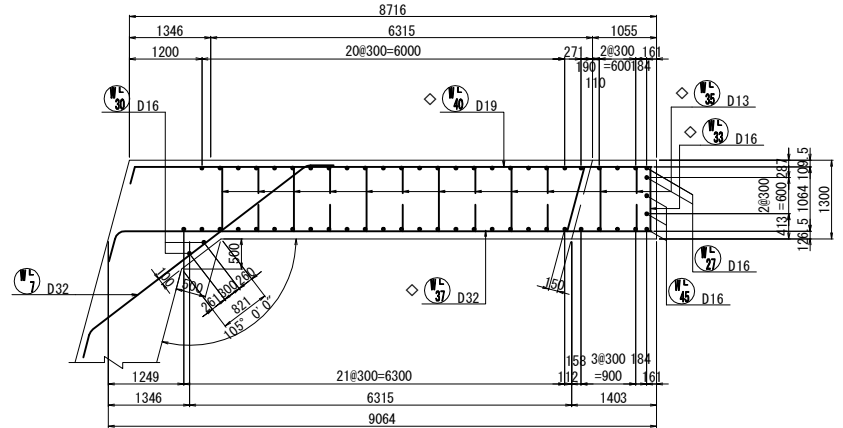
部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵠川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

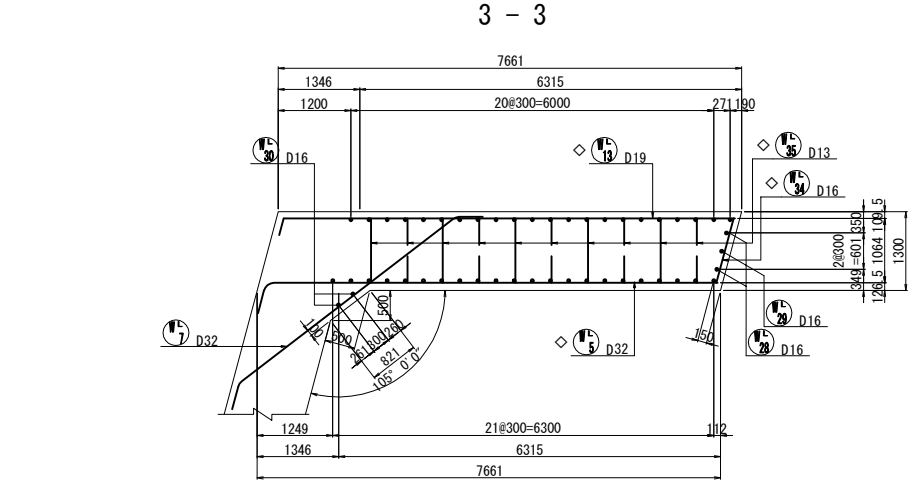
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ⊙鉄筋はWL25鉄筋を示す。



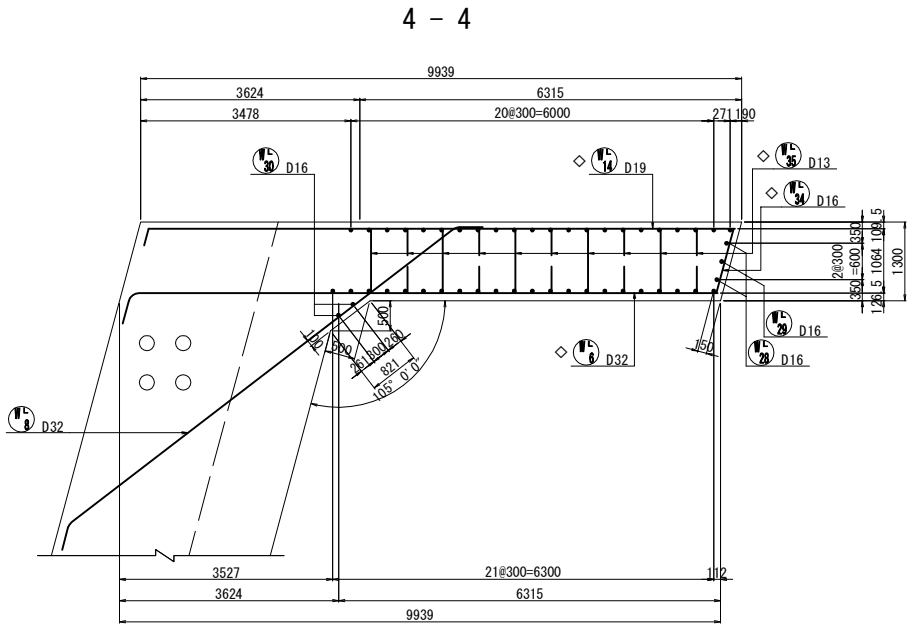
1 - 1



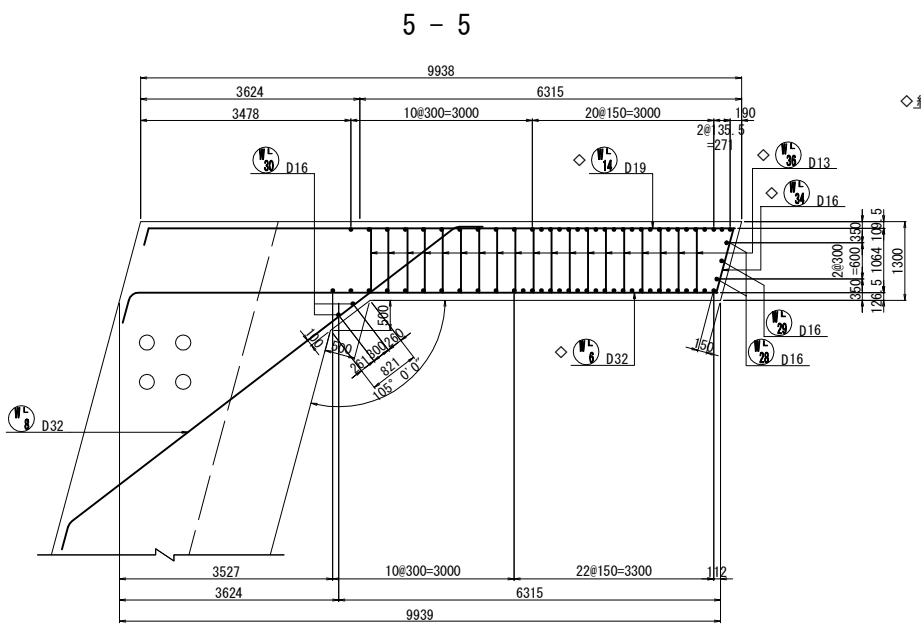
2 - 2



3 - 3

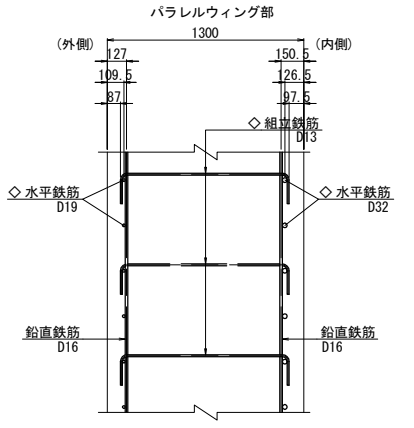
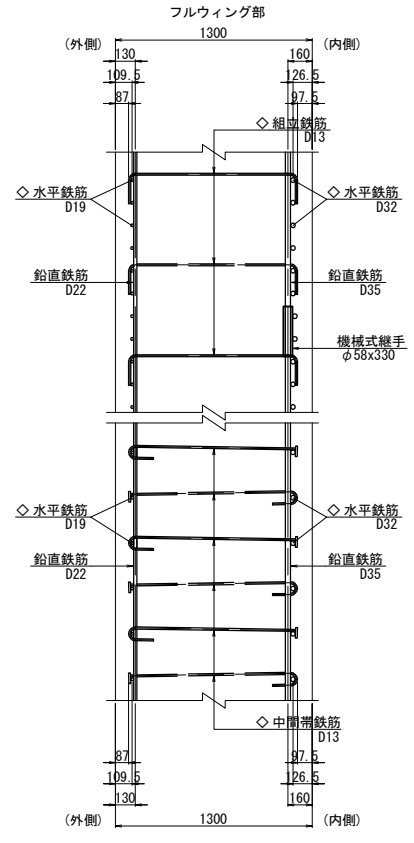


4 - 4

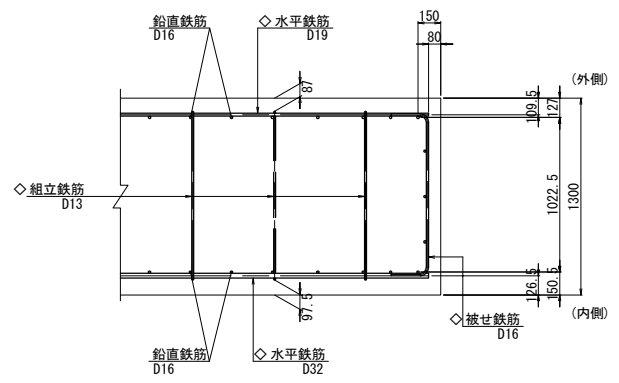


5 - 5

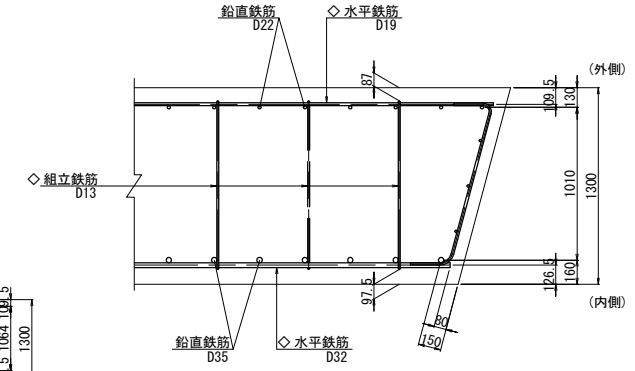
左ウィングかぶり詳細図 S=1:50



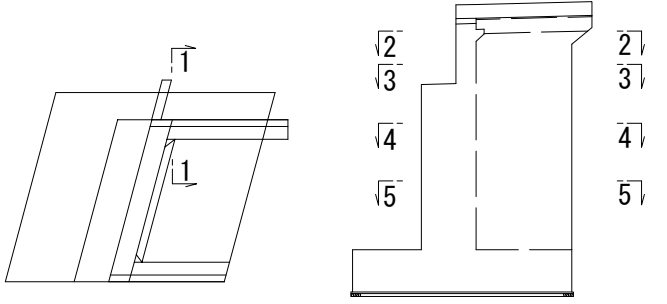
左平行ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



左ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



位置図

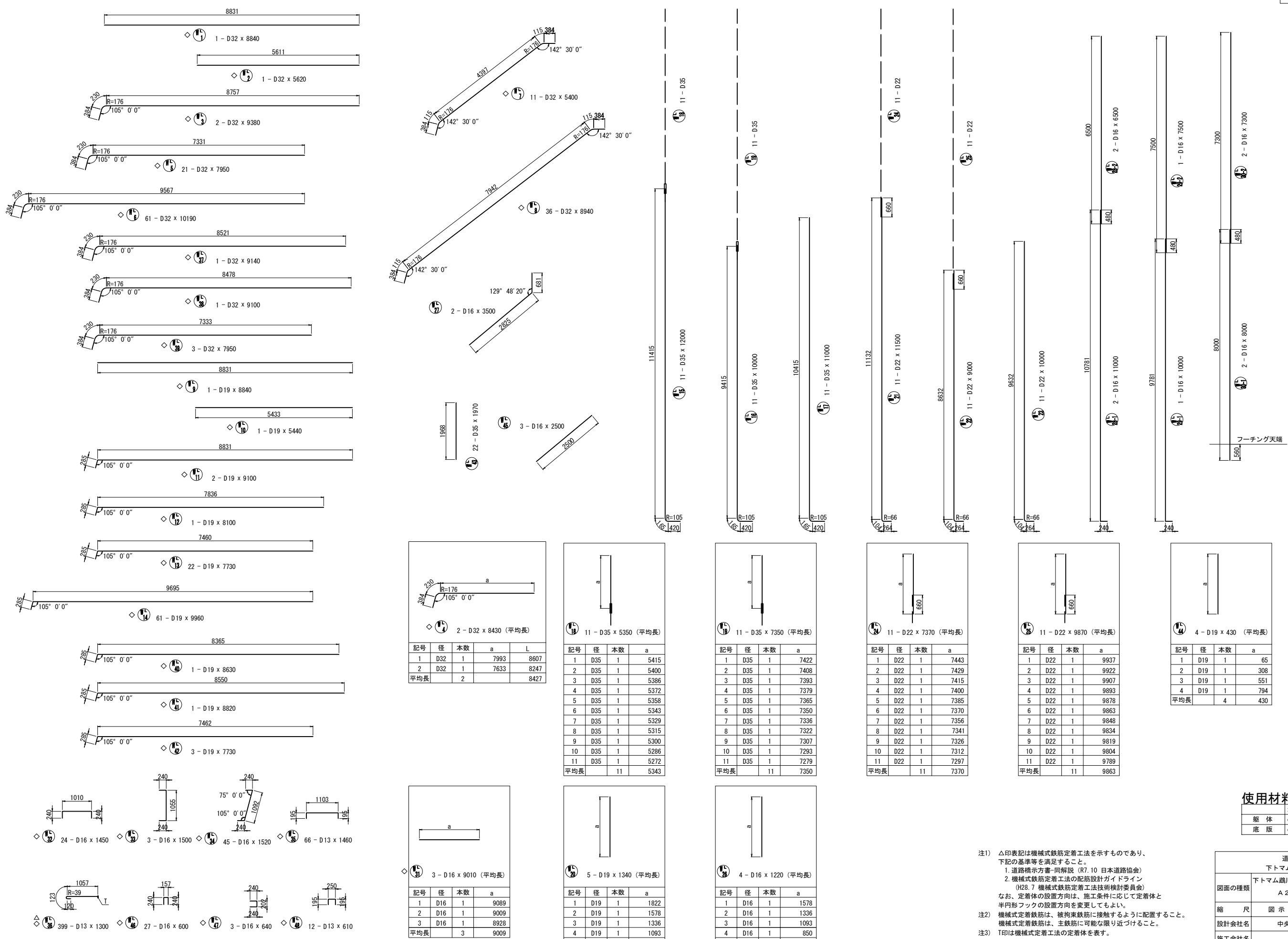


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム鵜川橋（上り線）			
A 2 橋台配筋図（その 1 0）			
図面の種類	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	施工会社名	事務所名	
中央コンサルタンツ株式会社	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



2 - D32 x 8430 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D32	1	7993	8607
2	D32	1	7633	8247
平均長		2		8427

11 - D35 x 5350 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D35	1	5415
2	D35	1	5400
3	D35	1	5386
4	D35	1	5372
5	D35	1	5358
6	D35	1	5343
7	D35	1	5329
8	D35	1	5315
9	D35	1	5300
10	D35	1	5286
11	D35	1	5272
平均長		11	5343

11 - D35 x 7350 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D35	1	7422
2	D35	1	7408
3	D35	1	7393
4	D35	1	7379
5	D35	1	7365
6	D35	1	7350
7	D35	1	7336
8	D35	1	7322
9	D35	1	7307
10	D35	1	7293
11	D35	1	7279
平均長		11	7350

11 - D22 x 7370 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D22	1	7443
2	D22	1	7429
3	D22	1	7415
4	D22	1	7400
5	D22	1	7385
6	D22	1	7370
7	D22	1	7356
8	D22	1	7341
9	D22	1	7326
10	D22	1	7312
11	D22	1	7297
平均長		11	7370

11 - D22 x 9870 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D22	1	9937
2	D22	1	9922
3	D22	1	9907
4	D22	1	9893
5	D22	1	9878
6	D22	1	9863
7	D22	1	9848
8	D22	1	9834
9	D22	1	9819
10	D22	1	9804
11	D22	1	9789
平均長		11	9863

4 - D19 x 430 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D19	1	65
2	D19	1	308
3	D19	1	551
4	D19	1	794
平均長		4	430

3 - D16 x 9010 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D16	1	9089
2	D16	1	9009
3	D16	1	8928
平均長		3	9009

5 - D19 x 1340 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D19	1	1822
2	D19	1	1578
3	D19	1	1336
4	D19	1	1093
5	D19	1	851
平均長		5	1336

4 - D16 x 1220 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D16	1	1578
2	D16	1	1336
3	D16	1	1093
4	D16	1	850
平均長		4	1214

使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

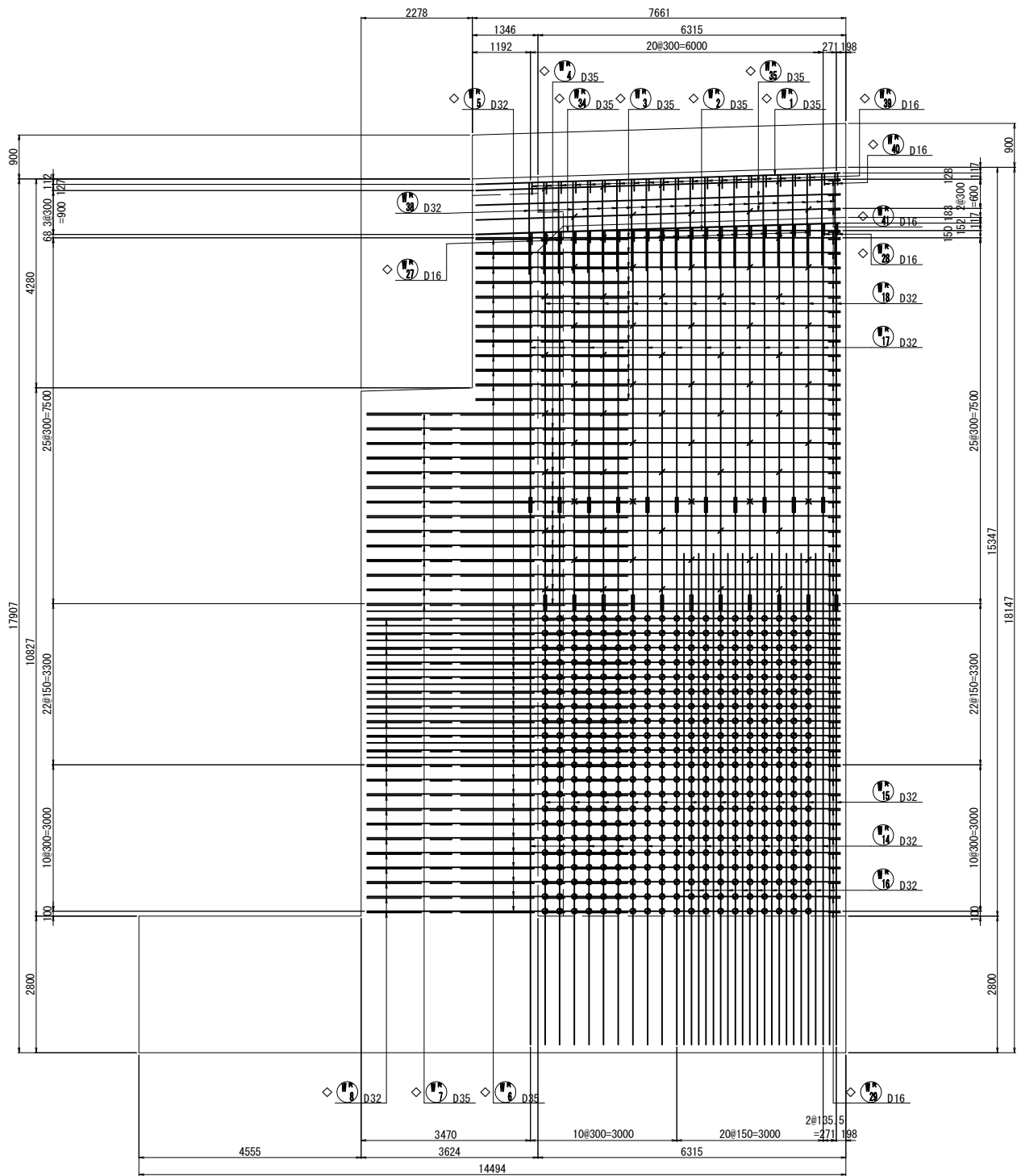
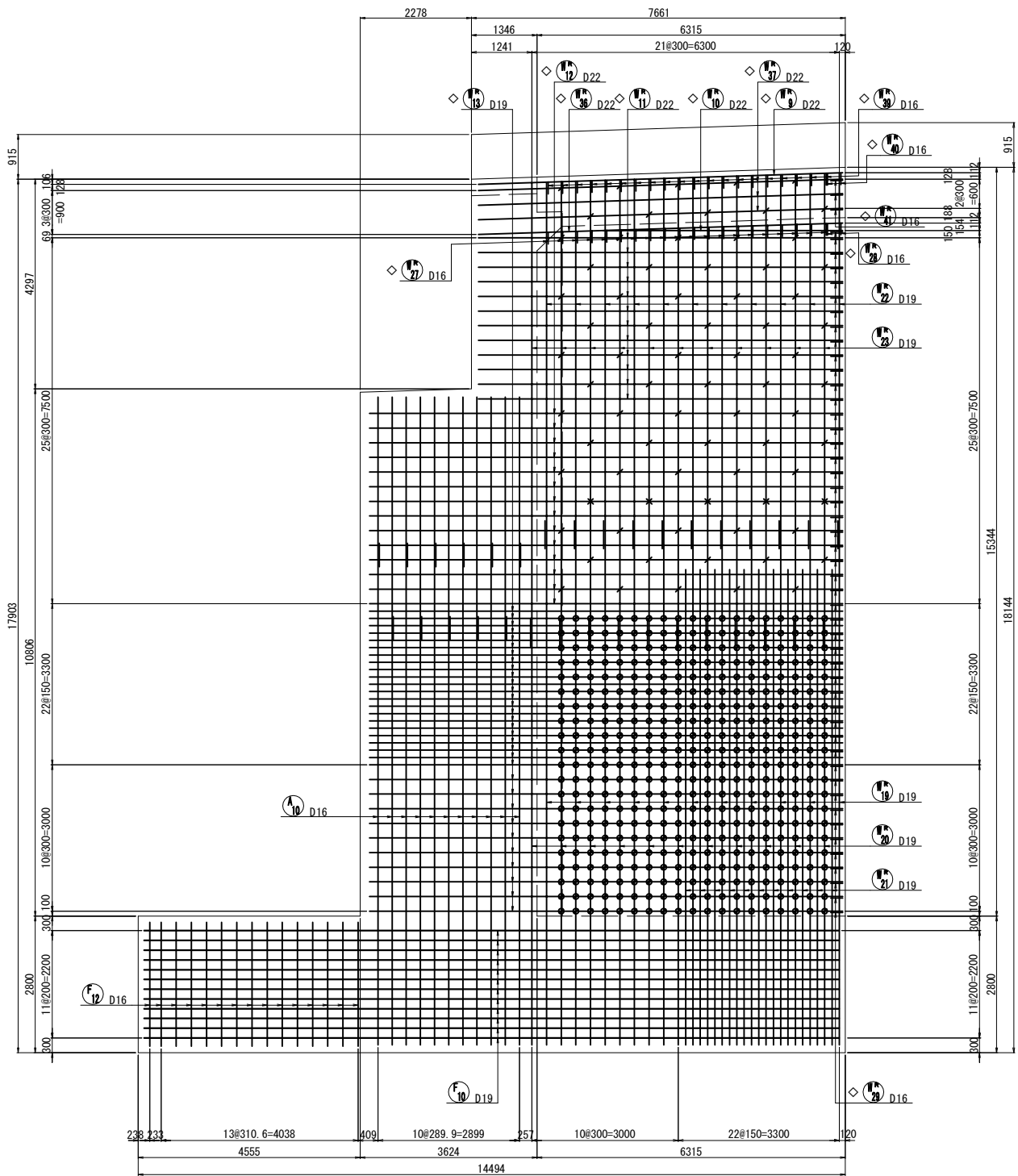
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道				
下トナム地区下部工工事				
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 1）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

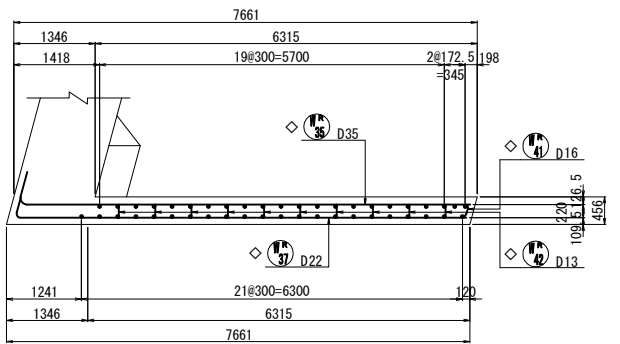
右側ウィング

1 - 1 (外側)

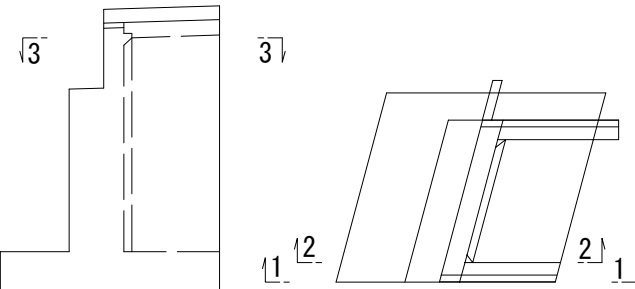
2 - 2 (内側)



3 - 3



位置図

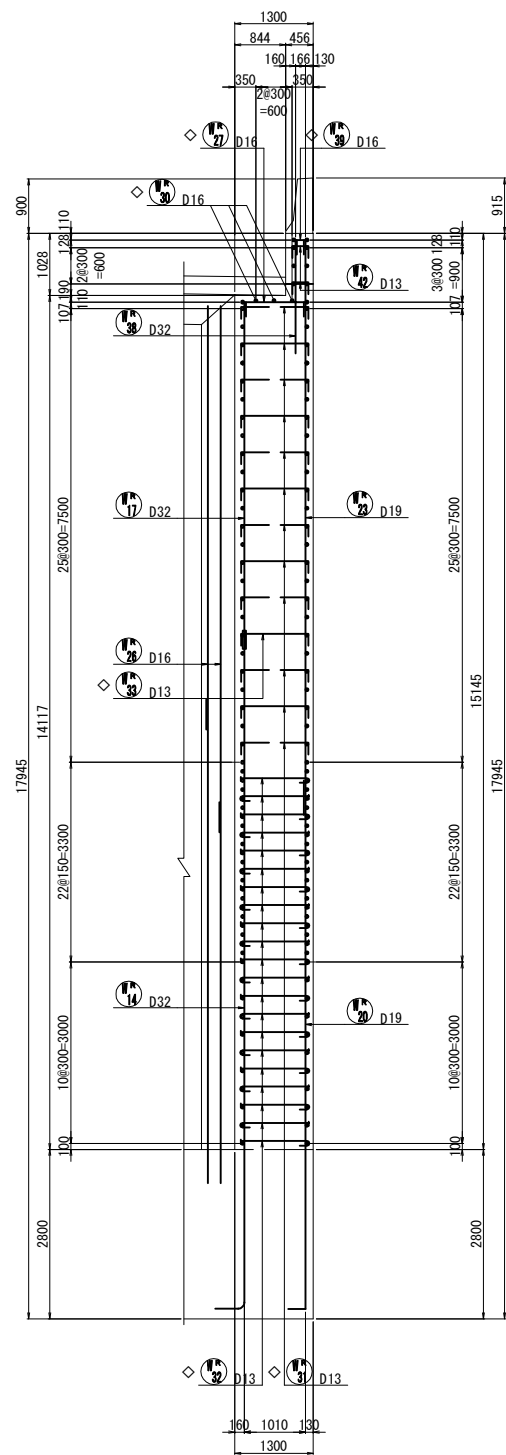


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ⊗鉄筋はWR32鉄筋を示す。
- 注7) ⊗鉄筋はWR33鉄筋を示す。

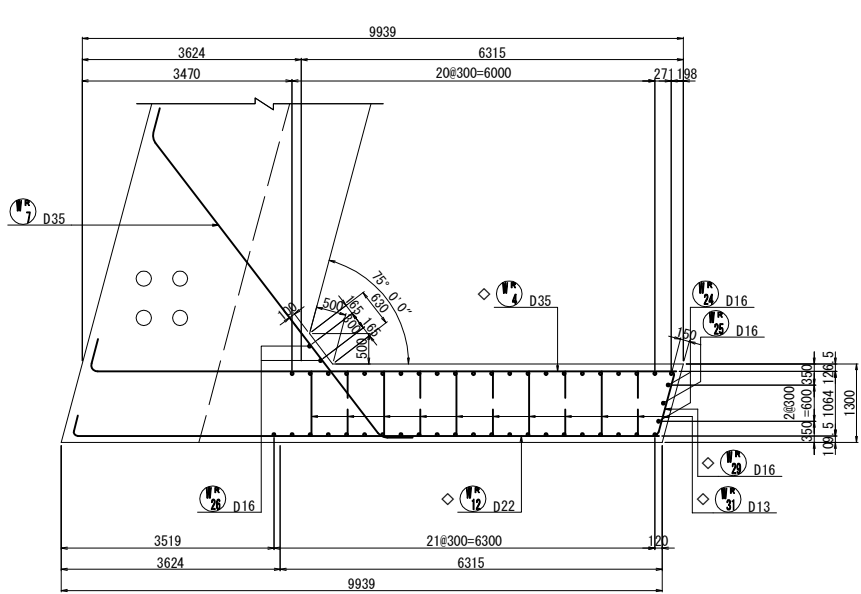
	コンクリート	鉄 筋
軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム鵲川橋 下部工工事			
図面の種類	下トナム鵲川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

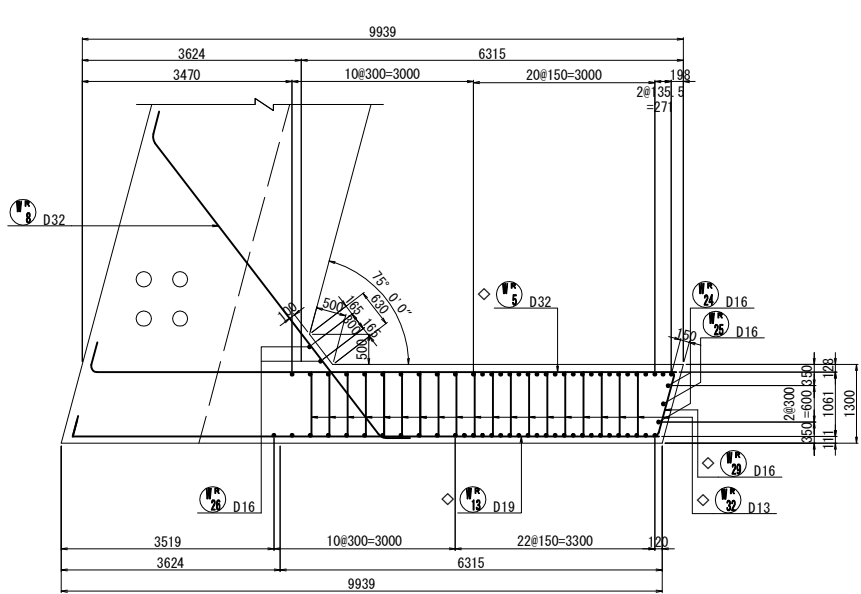
2 - 2



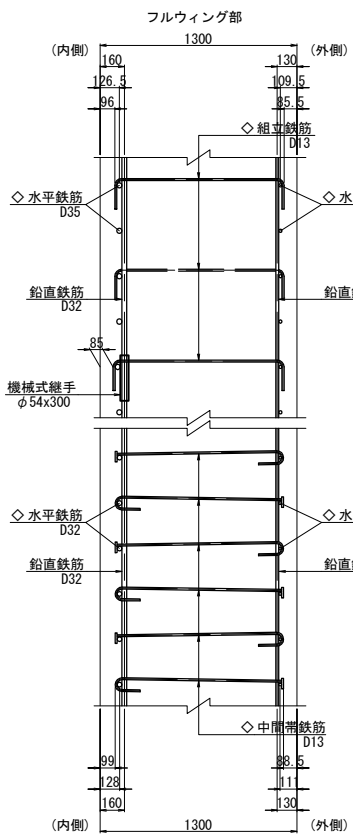
3 - 3



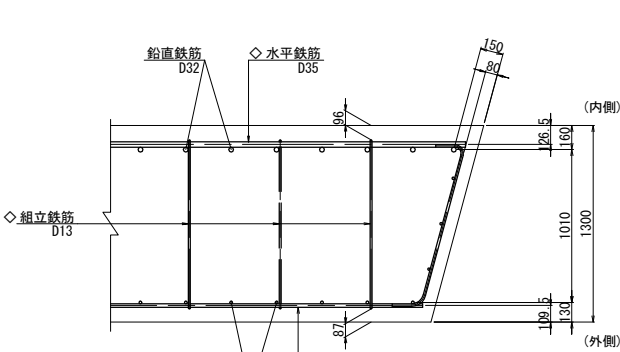
4 - 4



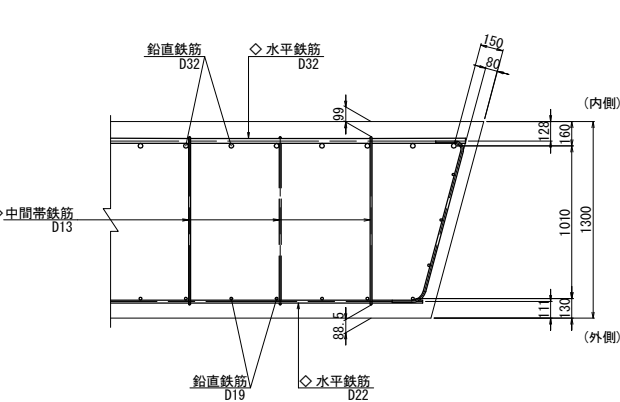
右ウィングかぶり詳細図 S=1:50



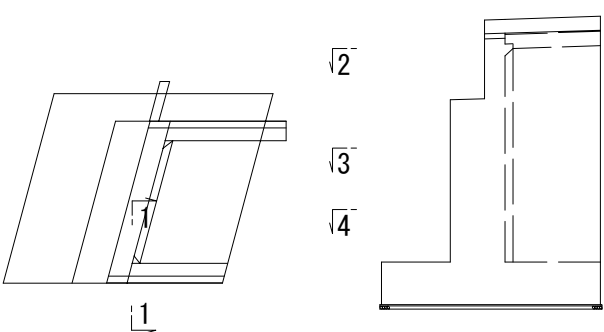
右ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



右ウィング端部かぶり詳細図 S=1:50



位置図

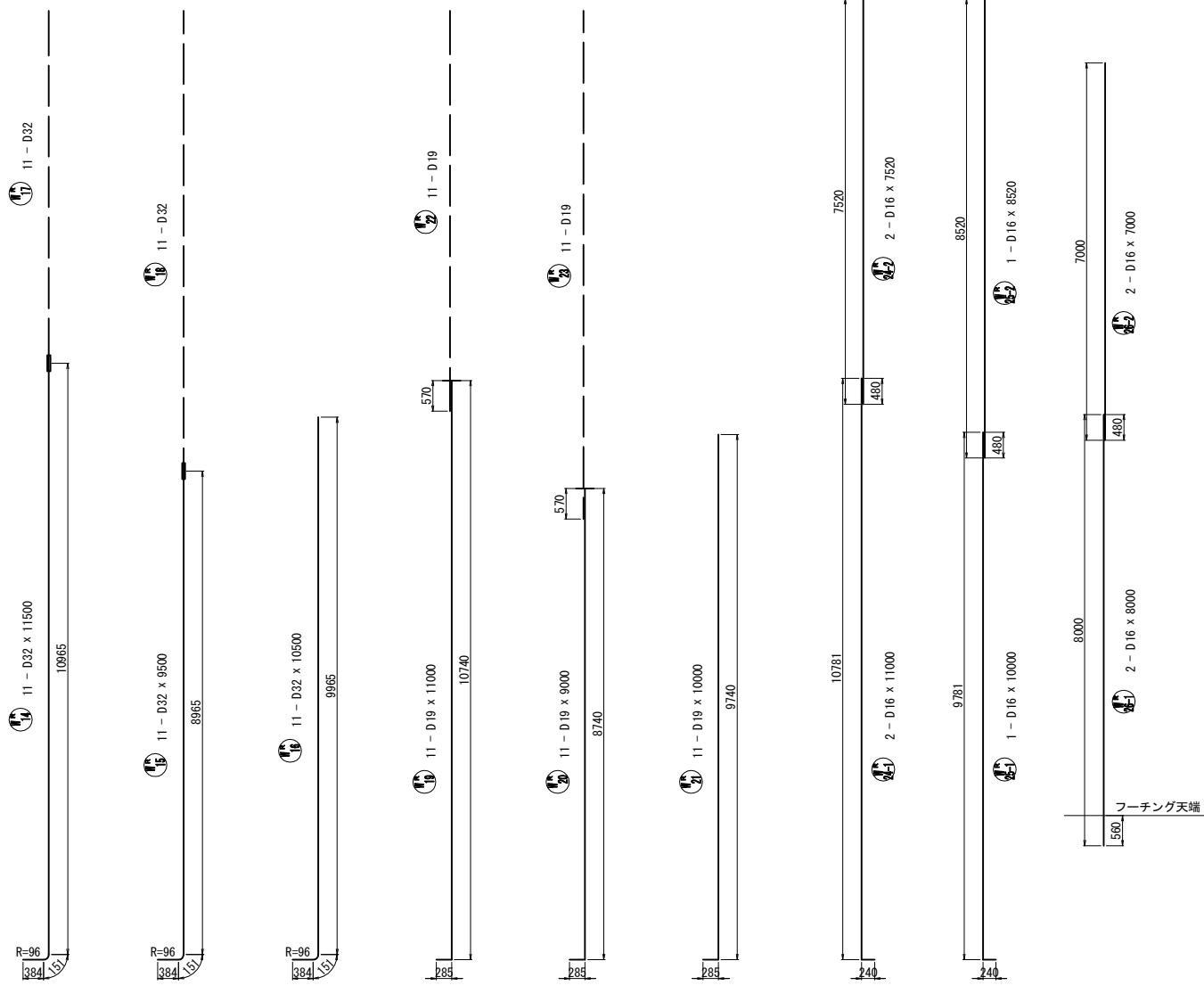
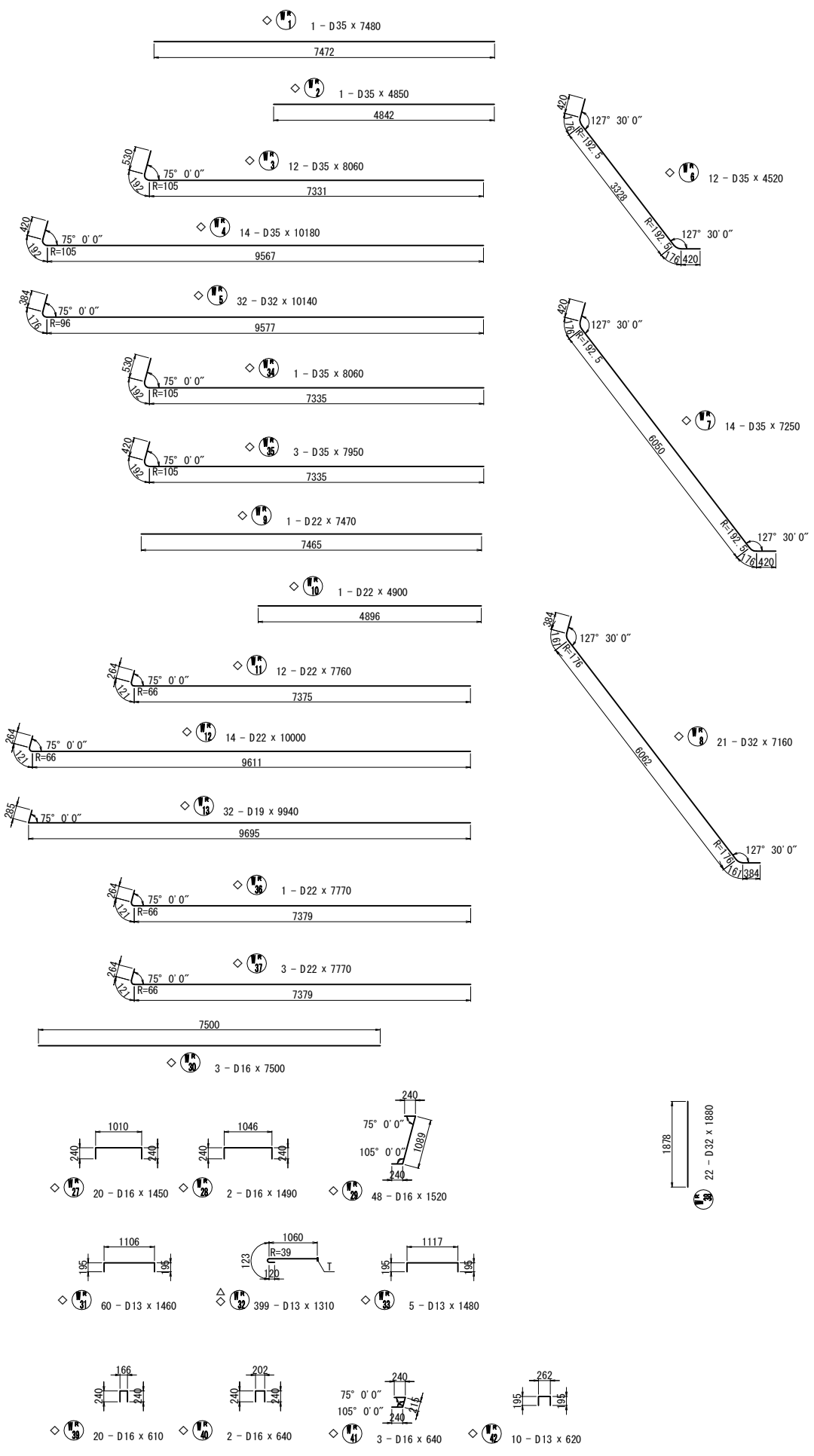


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



11 - D32 x 5680 (平均長)				
記号	径	本数	a	
1	D32	1	5765	
2	D32	1	5746	
3	D32	1	5727	
4	D32	1	5708	
5	D32	1	5689	
6	D32	1	5671	
7	D32	1	5652	
8	D32	1	5633	
9	D32	1	5614	
10	D32	1	5595	
11	D32	1	5576	
平均長		11	5671	

11 - D32 x 7680 (平均長)				
記号	径	本数	a	
1	D32	1	7774	
2	D32	1	7756	
3	D32	1	7737	
4	D32	1	7718	
5	D32	1	7699	
6	D32	1	7680	
7	D32	1	7661	
8	D32	1	7642	
9	D32	1	7623	
10	D32	1	7604	
11	D32	1	7586	
平均長		11	7680	

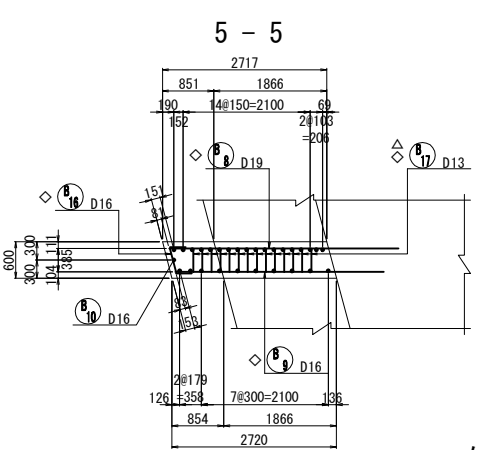
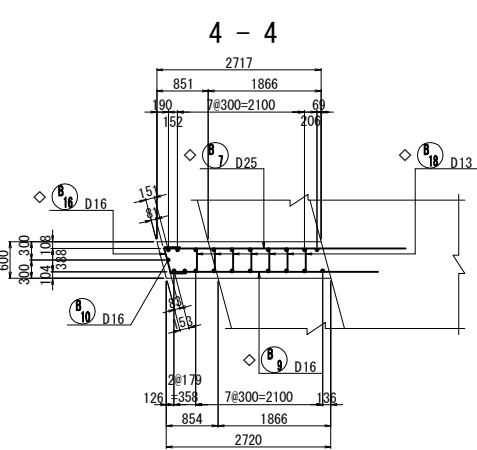
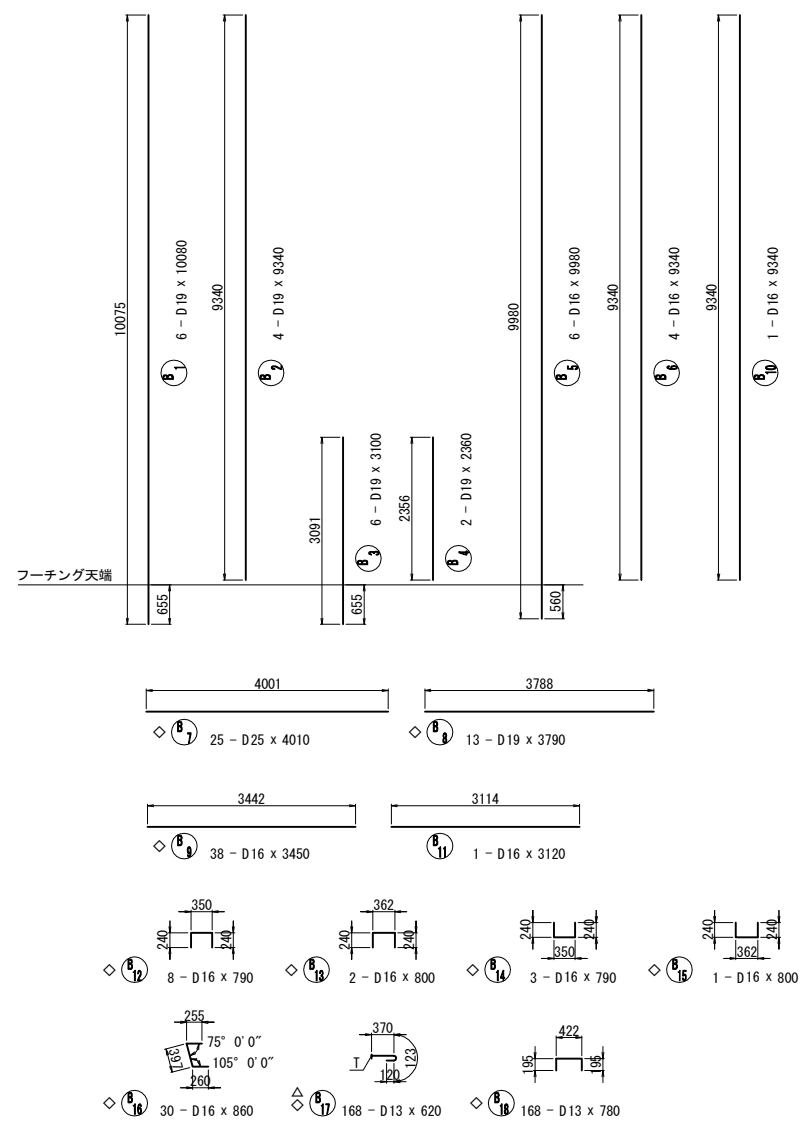
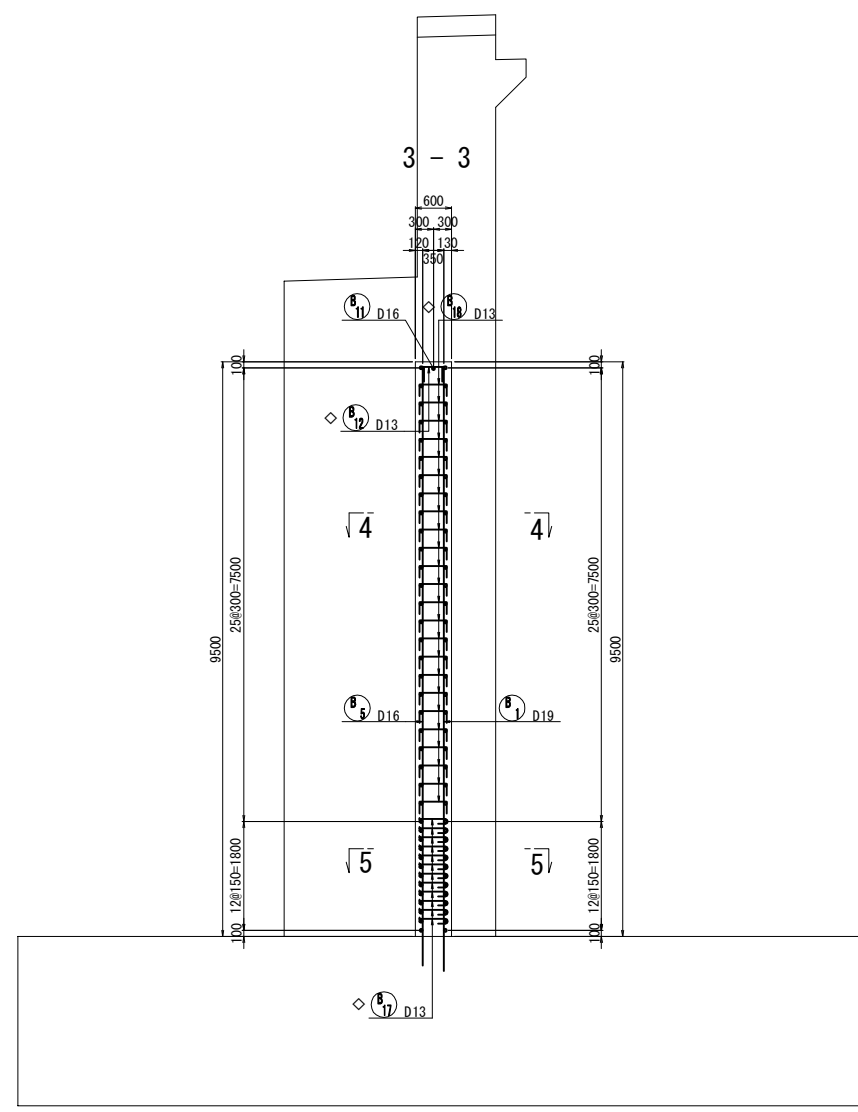
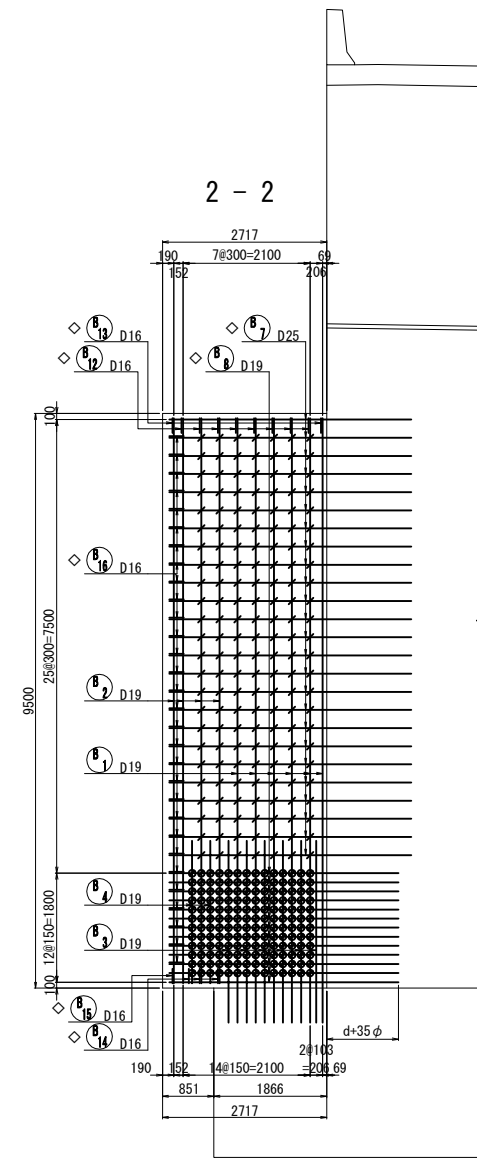
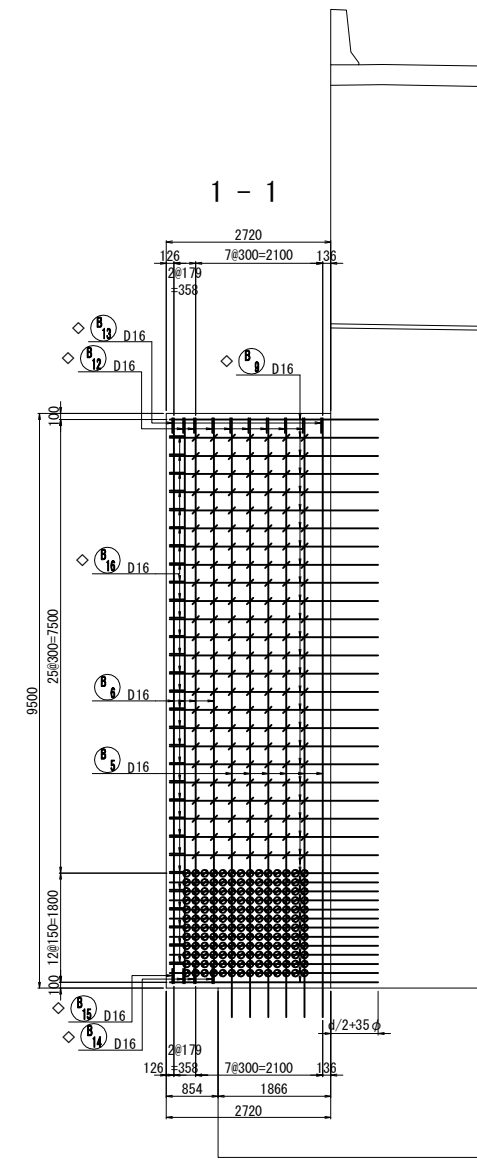
11 - D19 x 7610 (平均長)				
記号	径	本数	a	
1	D19	1	7701	
2	D19	1	7682	
3	D19	1	7663	
4	D19	1	7644	
5	D19	1	7625	
6	D19	1	7607	
7	D19	1	7588	
8	D19	1	7569	
9	D19	1	7550	
10	D19	1	7531	
11	D19	1	7512	
平均長		11	7607	

11 - D19 x 9600 (平均長)				
記号	径	本数	a	
1	D19	1	9692	
2	D19	1	9673	
3	D19	1	9654	
4	D19	1	9635	
5	D19	1	9616	
6	D19	1	9597	
7	D19	1	9578	
8	D19	1	9559	
9	D19	1	9540	
10	D19	1	9522	
11	D19	1	9503	
平均長		11	9597	

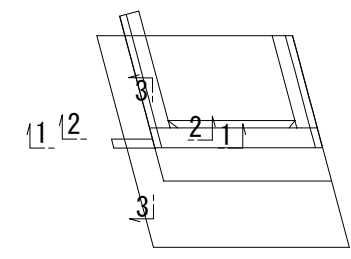
使用材料一覧表		
躯体	コンクリート	鉄筋
底版	σck=30N/mm2	SD345
	σck=24N/mm2	SD345

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

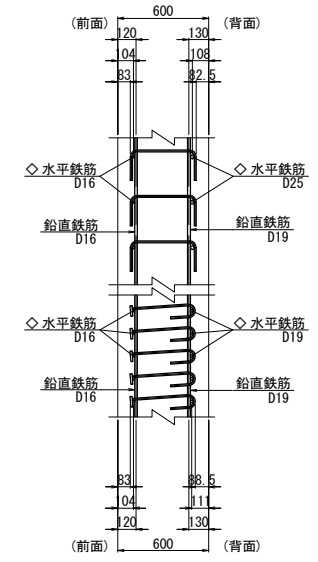
道東自動車道			
下トナム鵠川橋（上り線）			
図面の種類	A 2 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



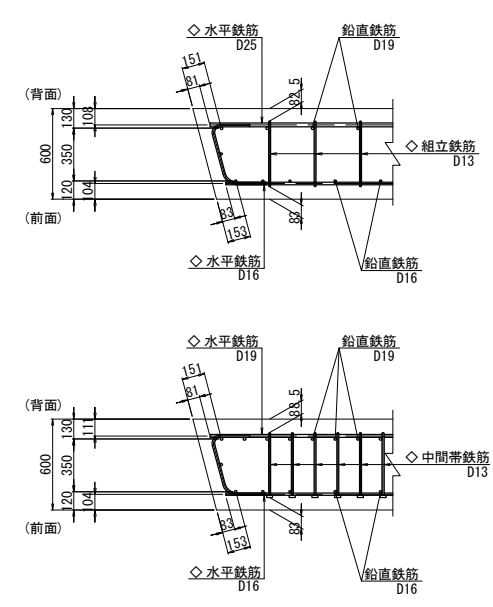
位置図



土留め壁かぶり詳細図 S=1:50



土留め壁端部かぶり詳細図 S=1:50



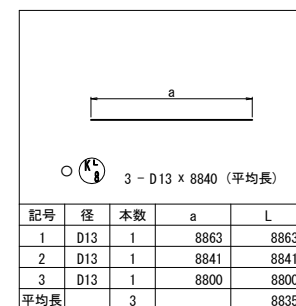
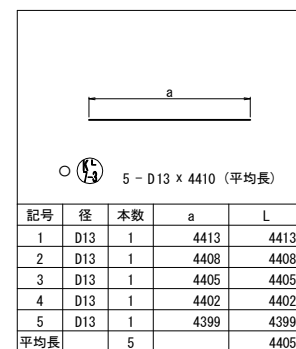
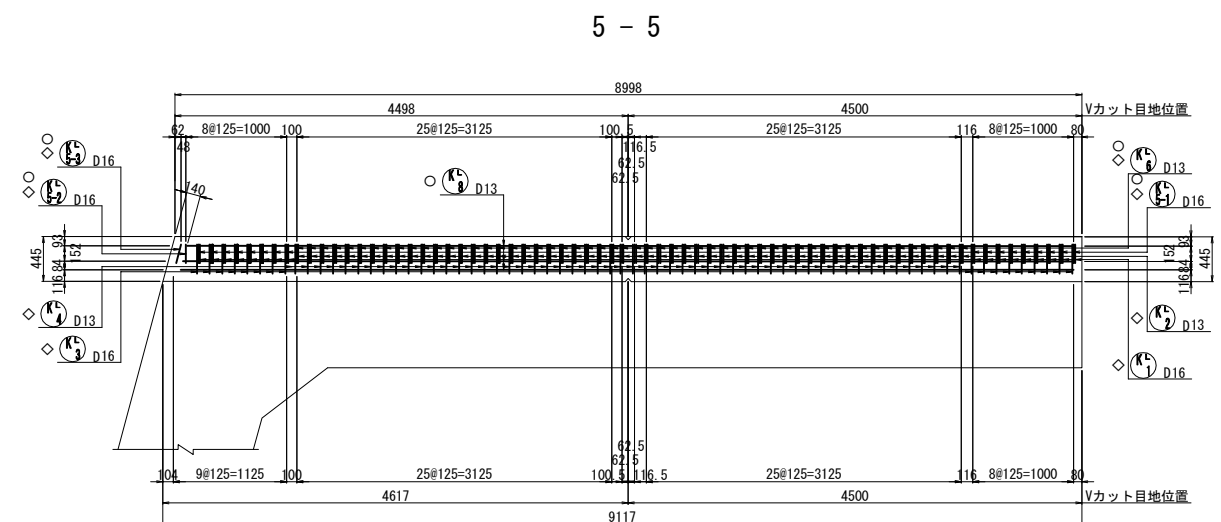
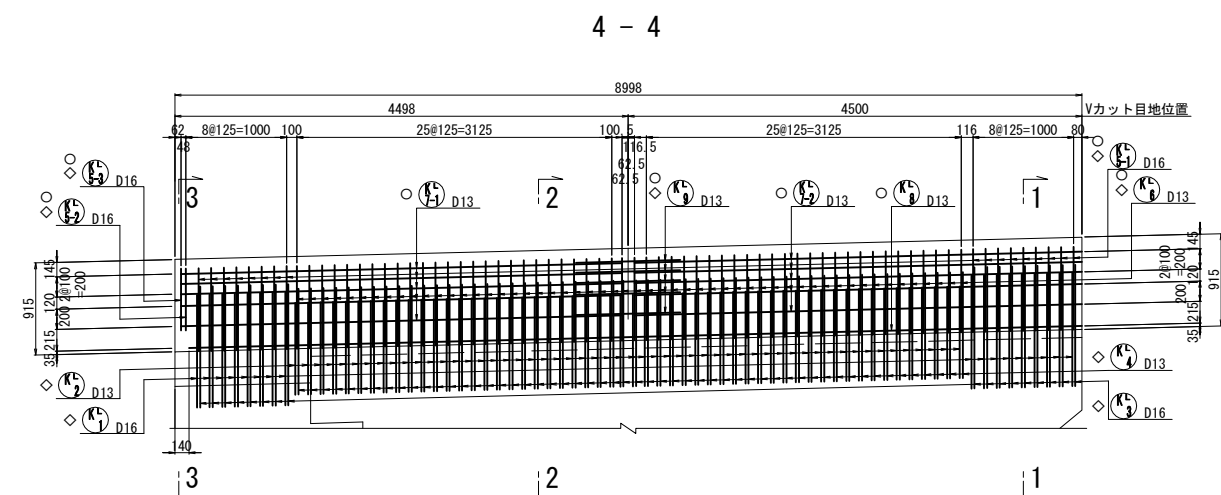
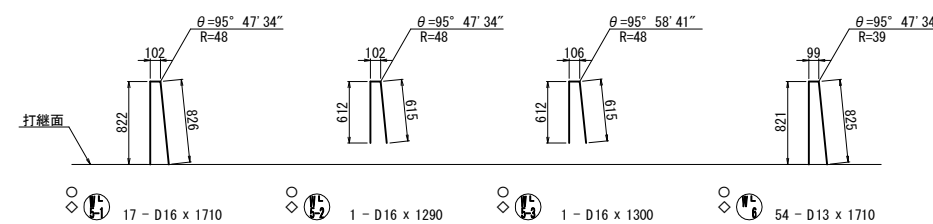
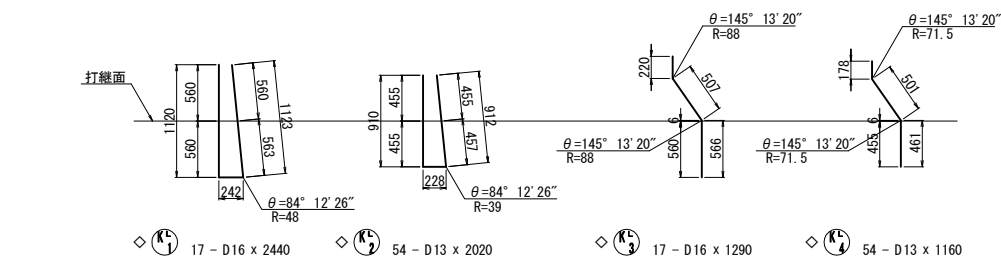
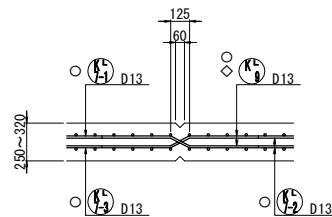
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書一同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

使用材料一覧表

	コンクリート	鉄 筋
躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底板	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

Vカット目地詳細図 S=1:50



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

- ① 道路橋示方書－同解説（R7.10 日本道路協会）
- ② 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）

なお、定着法の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

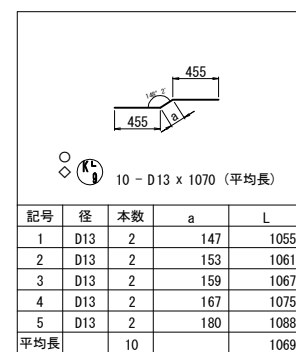
注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。

注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。

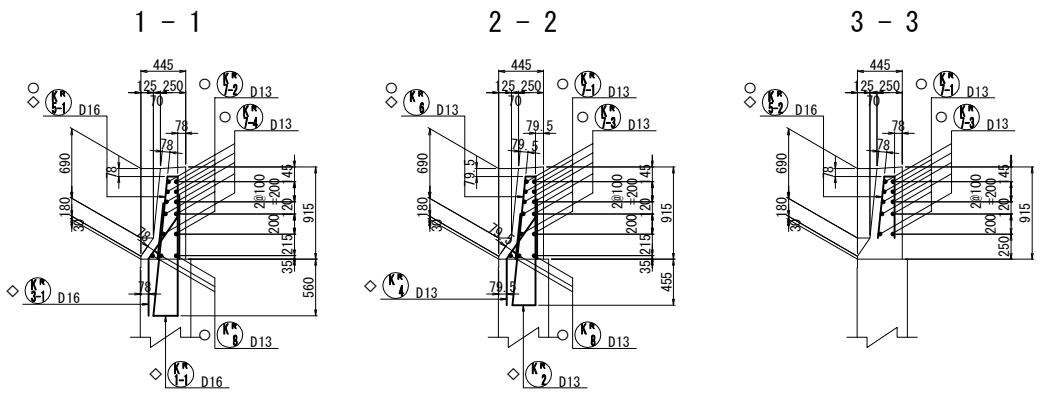
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

注6) ◇鉄筋は上部施工鉄筋を表す。

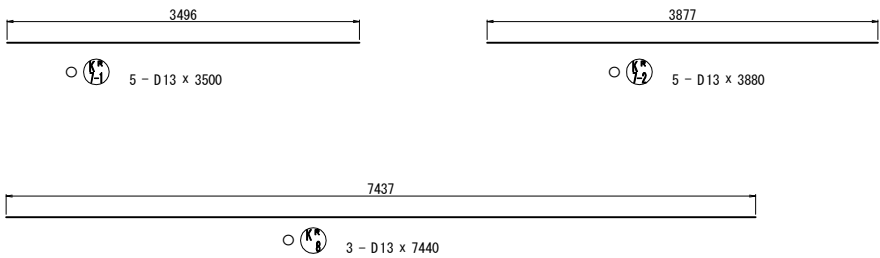
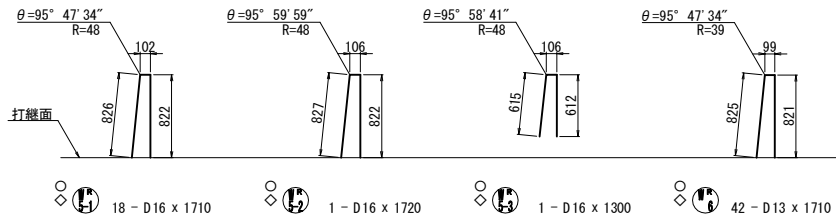
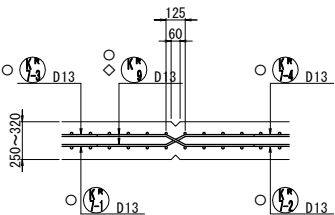
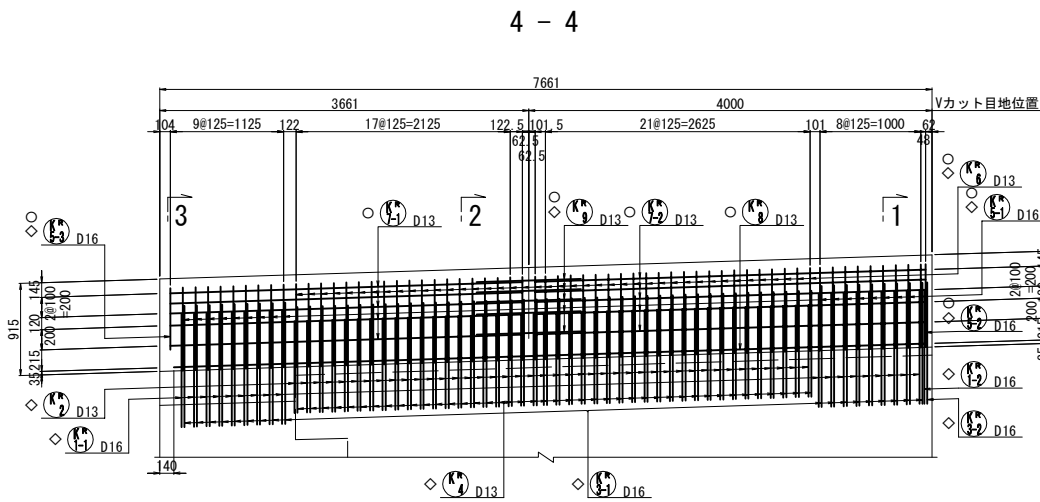
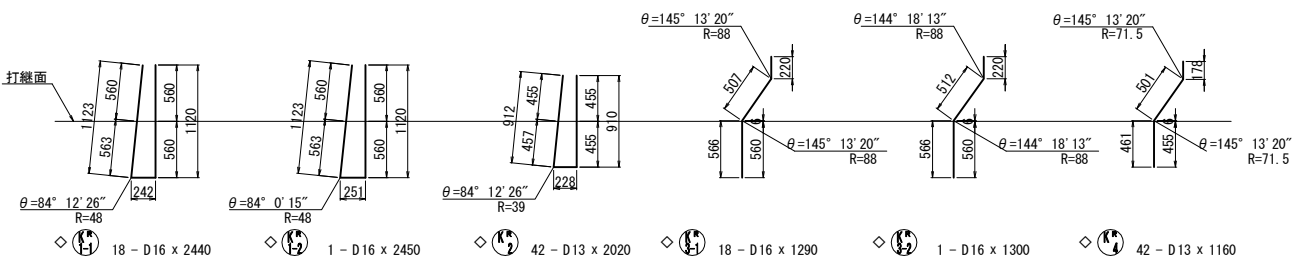
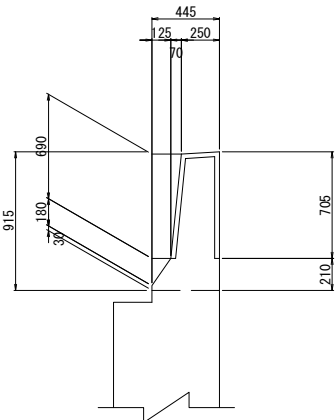
	コンクリート	鉄 筋
軀 体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
底 版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345



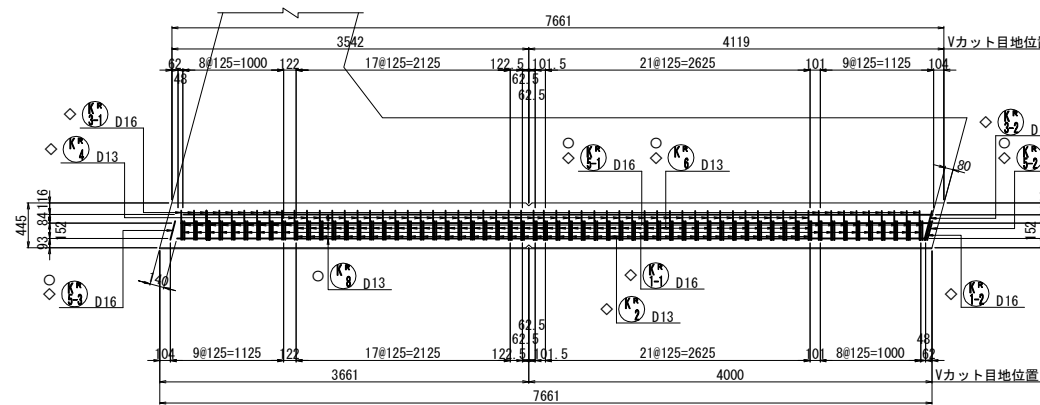
右側壁高欄断面図



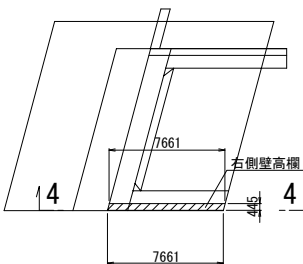
Vカット目地詳細図 S=1:50



5 - 5



位置図



使用材料一覧表

部 材	コンクリート	鉄 筋
躯体	σ ck=30N/mm2	SD345
底版	σ ck=24N/mm2	SD345

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (R7. 10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注6) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

道東自動車道				
下トナム地区下部工工事				
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 7）			
	縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

鉄筋表（下部工施工）

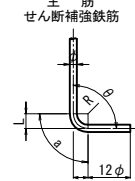
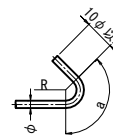
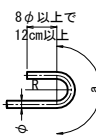
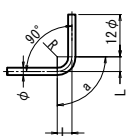
	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
◇	P1	D32	5960	70	6.23	37.1	2597	┐ 平均長
	P2	D32	5390	39	6.23	33.6	1310	┐ 平均長
	P3	D19	10930	1	2.25	24.6	25	┐
	P4	D19	6230	26	2.25	14.0	364	┐
	P5	D32	3480	26	6.23	21.7	564	┐
	P6	D35	3480	26	7.51	26.1	679	┐
	P7	D19	10930	1	2.25	24.6	25	┐
	P8	D19	10930	14	2.25	24.6	344	┐
	P9	D16	10930	3	1.56	17.1	51	┐
	P10	D16	4320	3	1.56	6.74	20	┐
	P11	D16	4330	3	1.56	6.75	20	┐
	P12	D16	1450	36	1.56	2.26	81	┐
	P13	D16	1490	4	1.56	2.32	9	┐
	P14	D19	1370	120	2.25	3.08	370	T┐ [120]
	6459							
◇	Y1	D19	600	16	2.25	1.35	22	┐
	22							
	J1	D16	940	66	1.56	1.47	97	┐
◇	97							
	E1	D16	4090	33	1.56	6.38	211	┐
	E2	D16	10930	6	1.56	17.1	103	┐
	E3	D22	520	13	3.04	1.58	21	┐
	E4	D13	1590	13	0.995	1.58	21	■
◇	356							
	H1	D16	2540	30	1.56	3.96	119	┐
	H2	D16	2980	20	1.56	4.65	93	┐
	H3	D16	3570	8	1.56	5.57	45	┐
◇	257							
	T1	D38	3770	8	8.95	33.7	270	┐
	T2	D29	2410	8	5.04	12.1	97	┐
	T3	D25	1890	8	3.98	7.52	60	┐
	T4	D22	2800	28	3.04	8.51	238	┐
	T5	D19	1170	65	2.25	2.63	171	T┐ [65]
	T6	D13	1160	7	0.995	1.15	8	┐
	T7	D13	1550	4	0.995	1.54	6	┐
◇	850							
	S1	D16	4170	32	1.56	6.51	208	┐
	S2	D16	4280	8	1.56	6.68	53	┐
	S3	D16	780	4	1.56	1.22	5	┐
	S4	D16	2300	4	1.56	3.59	14	┐
	S5-1	D16	7500	5	1.56	11.7	59	┐
	S5-2	D16	5080	5	1.56	7.92	40	┐
	S6-1	D16	6000	4	1.56	9.36	37	┐
	S6-2	D16	6580	4	1.56	10.3	41	┐
	S7	D16	2330	2	1.56	3.63	7	┐
	S8	D16	5130	2	1.56	8.00	16	┐
	S9	D16	2400	2	1.56	3.74	7	┐
△◇	S10	D16	3480	32	1.56	5.43	174	T┐ [32]
	661							
	A1	D51	8500	31	15.90	135	4185	K┐
	A2	D51	11000	30	15.90	175	5250	K┐
	A3	D51	5550	31	15.90	88.2	2734	K┐ 平均長 (31)
	A4	D51	3050	30	15.90	48.5	1455	K┐ 平均長 (30)
	A5	D51	11000	19	15.90	175	3325	K┐
	A6	D51	8500	18	15.90	135	2430	K┐
	A7	D51	3060	19	15.90	48.7	925	K┐ 平均長 (19)
	A8	D51	5560	18	15.90	88.4	1591	K┐ 平均長 (18)
◇	A9-1	D16	10500	6	1.56	16.4	98	┐
	A9-2	D16	3660	6	1.56	5.71	34	┐
	A9-3	D16	9000	5	1.56	14.0	70	┐
	A9-4	D16	5160	5	1.56	8.05	40	┐
	A10-1	D16	10500	6	1.56	16.4	98	┐
	A10-2	D16	3480	6	1.56	5.43	33	┐
	A10-3	D16	9000	5	1.56	14.0	70	┐
	A10-4	D16	4980	5	1.56	7.77	39	┐
	A11	D32	11820	1	6.23	73.6	74	┐
	A12	D32	7410	1	6.23	46.2	46	┐
	A13	D32	11810	70	6.23	73.6	5152	┐
	A14	D32	11820	1	6.23	73.6	74	┐
	A15	D32	7540	1	6.23	47.0	47	┐
	A16	D32	11810	35	6.23	73.6	2576	┐
	A17	D32	3720	180	6.23	23.2	4176	T┐ [180]
△◇	34522							

	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要	
△	F1	D35	6180	43	7.51	46.4	1995	┐	
	F2	D38	10140	85	8.95	90.8	7718	┐	
	F3	D35	10360	85	7.51	77.8	6613	┐	
	F4	D38	10060	43	8.95	90.0	3870	┐	
	F5-1	D22	9000	16	3.04	27.4	438	┐	
	F5-2	D22	4560	16	3.04	13.9	222	┐	
	F6-1	D22	9000	41	3.04	27.4	1123	┐	
	F6-2	D22	4560	41	3.04	13.9	570	┐	
	F7	D22	4000	21	3.04	12.2	256	┐	
	F8-1	D22	9000	52	3.04	27.4	1425	┐	
	F8-2	D22	4560	52	3.04	13.9	723	┐	
	F9-1	D22	9000	22	3.04	27.4	603	┐	
	F9-2	D22	4560	22	3.04	13.9	306	┐	
	F10-1	D19	10000	24	2.25	22.5	540	┐	
	F10-2	D19	5470	24	2.25	12.3	295	┐	
	F11-1	D19	9000	24	2.25	20.3	487	┐	
	F11-2	D19	4460	24	2.25	10.0	240	┐	
	F12	D16	3030	30	1.56	4.73	142	┐	
	F13	D16	3040	31	1.56	4.74	147	┐	
	△	F14	D16	2820	70	1.56	4.40	308	T┐ [70]
F15		D19	2870	200	2.25	6.46	1292	T┐ [200]	
29313									
◇	WL1	D32	8840	1	6.23	55.1	55	┐	
	WL2	D32	5620	1	6.23	35.0	35	┐	
	WL3	D32	9380	2	6.23	58.4	117	┐ 平均長	
	WL4	D32	8430	2	6.23	52.5	105	┐	
	WL5	D32	7950	21	6.23	49.5	1040	┐	
	WL6	D32	10190	61	6.23	63.5	3874	┐	
	WL7	D32	5400	11	6.23	33.6	370	┐	
	WL8	D32	8940	36	6.23	55.7	2005	┐	
	WL9	D19	8840	1	2.25	19.9	20	┐	
	WL10	D19	5440	1	2.25	12.2	12	┐	
	WL11	D19	9100	2	2.25	20.5	41	┐	
	WL12	D19	8100	1	2.25	18.2	18	┐	
	WL13	D19	7730	22	2.25	17.4	383	┐	
	WL14	D19	9960	61	2.25	22.4	1366	┐	
	WL15	D35	12000	11	7.51	90.1	991	K┐	
	WL16	D35	10000	11	7.51	75.1	826	K┐	
	WL17	D35	11000	11	7.51	82.6	909	┐	
	WL18	D35	5350	11	7.51	40.2	442	K┐ 平均長 (11)	
	WL19	D35	7350	11	7.51	55.2	607	K┐ 平均長 (11)	
	WL20	D19	1340	5	2.25	3.02	15	┐ 平均長	
	WL21	D22	11500	11	3.04	35.0	385	┐	
	WL22	D22	9000	11	3.04	27.4	301	┐	
	WL23	D22	10000	11	3.04	30.4	334	┐	
	WL24	D22	7370	11	3.04	22.4	246	┐ 平均長	
	WL25	D22	9870	11	3.04	30.0	330	┐ 平均長	
	WL26	D16	1220	4	1.56	1.90	8	┐ 平均長	
	WL27	D16	3500	2	1.56	5.46	11	┐	
	WL28-1	D16	11000	2	1.56	17.2	34	┐	
	WL28-2	D16	6500	2	1.56	10.1	20	┐	
	WL29-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	┐	
	WL29-2	D16	7500	1	1.56	11.7	12	┐	
	WL30-1	D16	8000	2	1.56	12.5	25	┐	
	WL30-2	D16	7300	2	1.56	11.4	23	┐	
	◇	WL31	D16	9010	3	1.56	14.1	42	┐ 平均長
		WL32	D16	1450	24	1.56	2.26	54	┐
WL33		D16	1500	3	1.56	2.34	7	┐	
WL34		D16	1520	45	1.56	2.37	107	┐	
WL35		D13	1460	66	0.995	1.45	96	┐	
WL36		D13	1300	399	0.995	1.29	515	T┐ [399]	
WL37		D32	9140	1	6.23	56.9	57	┐	
WL38		D32	9100	1	6.23	56.7	57	┐	
WL39		D32	7950	3	6.23	49.5	149	┐	
WL40		D19	8630	1	2.25	19.4	19	┐	
WL41		D19	8820	1	2.25	19.8	20	┐	
WL42		D19	7730	3	2.25	17.4	52	┐	
WL43		D35	1970	22	7.51	14.8	326	┐	
WL44		D19	430	4	2.25	0.968	4	┐	
WL45		D16	2500	3	1.56	3.90	12	┐	
◇	WL46	D16	600	27	1.56	0.936	25	┐	
◇	WL47	D16	640	3	1.56	0.998	3	┐	
◇	WL48	D13	610	12	0.995	0.607	7	┐	
16528									

	種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要	
◇	WR1	D35	7480	1	7.51	56.2	56	┐	
	WR2	D35	4850	1	7.51	36.4	36		
	WR3	D35	8060	12	7.51	60.5	726		
	WR4	D35	10180	14	7.51	76.5	1071		
	WR5	D32	10140	32	6.23	63.2	2022		
	WR6	D35	4520	12	7.51	33.9	407		
	WR7	D35	7250	14	7.51	54.4	762		
	WR8	D32	7160	21	6.23	44.6	937		
	WR9	D22	7470	1	3.04	22.7	23		
	WR10	D22	4900	1	3.04	14.9	15		
◇	WR11	D22	7760	12	3.04	23.6	283	┐	
	WR12	D22	10000	14	3.04	30.4	426		
	WR13	D19	9940	32	2.25	22.4	717		
	WR14	D32	11500	11	6.23	71.6	788		
	WR15	D32	9500	11	6.23	59.2	651		
	WR16	D32	10500	11	6.23	65.4	719		
	WR17	D32	5680	11	6.23	35.4	389		
	WR18	D32	7680	11	6.23	47.8	526		
	WR19	D19	11000	11	2.25	24.8	273		
	WR20	D19	9000	11	2.25	20.3	223		
◇	WR21	D19	10000	11	2.25	22.5	248	┐	
	WR22	D19	7610	11	2.25	17.1	188		
	WR23	D19	9600	11	2.25	21.6	238		
	WR24-1	D16	11000	2	1.56	17.2	34		
	WR24-2	D16	7520	2	1.56	11.7	23		
	WR25-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16		
	WR25-2	D16	8520	1	1.56	13.3	13		
	WR26-1	D16	8000	2	1.56	12.5	25		
	WR26-2	D16	7000	2	1.56	10.9	22		
	WR27	D16	1450	20	1.56	2.26	45		
◇	WR28	D16	1490	2	1.56	2.32	5	┐	
	WR29	D16	1520	48	1.56	2.37	114		
	WR30	D16	7500	3	1.56	11.7	35		
	WR31	D13	1460	60	0.995	1.45	87		
	WR32	D13	1310	399	0.995	1.30	519		
	WR33	D13	1480	5	0.995	1.47	7		
	WR34	D35	8060	1	7.51	60.5	61		
	WR35	D35	7950	3	7.51	59.7	179		
	WR36	D22	7770	1	3.04	23.6	24		
	WR37	D22	7770	3	3.04	23.6	71		
◇	WR38	D32	1880	22	6.23	11.7	257	┐	
	WR39	D16	610	20	1.56	0.952	19		
	WR40	D16	640	2	1.56	0.998	2		
	WR41	D16	640	3	1.56	0.998	3		
	WR42	D13	620	10	0.995	0.617	6		
	13291								┐
	B1	D19	10080	6	2.25	22.7	136		
	B2	D19	9340	4	2.25	21.0	84		
	B3	D19	3100	6	2.25	6.98	42		
	B4	D19	2360	2	2.25	5.31	11		
B5	D16	9980	6	1.56	15.6	94			
B6	D16	9340	4	1.56	14.6	58			
B7	D25	4010	25	3.98	16.0	400			
B8	D19	3790	13	2.25	8.53	111			
B9	D16	3450	38	1.56	5.38	204			
◇	B10	D16	9340	1	1.56	14.6	15	┐	
	B11	D16	3120	1	1.56	4.87	5		
	B12	D16	790	8	1.56	1.23	10		
	B13	D16	800	2	1.56	1.25	3		
	B14	D16	790	3	1.56	1.23	4		
	B15	D16	800	1	1.56	1.25	1		
	B16	D16	860	30	1.56	1.34	40		
	B17	D13	620	168	0.995	0.617	104		
	B18	D13	780	168	0.995	0.776	130		
	1452								┐
KL1	D16	2440	17	1.56	3.81	65			
KL2	D13	2020	54	0.995	2.01	109			
KL3	D16	1290	17	1.56	2.01	34			
KL4	D13	1160	54	0.995	1.15	62			
270							┐		
KR1-1	D16	2440	18	1.56	3.81	69			
KR1-2	D16	2450	1	1.56	3.82	4			
KR2	D13	2020	42	0.995	2.01	84			
KR3-1	D16	1290	18	1.56	2.01	36			
KR3-2	D16	1300	1	1.56	2.03	2			
KR4	D13	1160	42	0.995	1.15	48			
243								┐	

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
下部工施工鉄筋重量							
普通鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)	[機械式定着]	
D51	—	21895	—	21895	kg	98	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	11588	—	—	11588	kg	—	—
D35	9843	2866	—	12709	kg	22	—
D32	4883	2354	—	7237	kg	22	—
D29	—	—	—	—	kg	—	—
D25	—	—	—	—	kg	—	—
D22	7260	—	—	7260	kg	—	—
D19	3024	—	1292	4316	kg	—	200
D16	1858	—	308	2166	kg	—	70
D13	21	—	—	21	kg	—	—
合 計	38477	27115	1600	67192	kg	142	270
下部工施工鉄筋重量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)	[機械式定着]	
D51	—	—	—	—	kg	—	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	270	—	—	270	kg	—	—
D35	3977	—	—	3977	kg	—	—
D32	19356	—	4176	23532	kg	—	180
D29	97	—	—	97	kg	—	—
D25	460	—	—	460	kg	—	—
D22	1101	—	—	1101	kg	—	—
D19	3539	—	541	4080	kg	—	185
D16	1648	—	174	1822	kg	—	32
D13	651	—	1138	1789	kg	—	966
合 計	31099	—	6029	37128	kg	—	1363
下部工施工鉄筋重量							
総合計							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)	[機械式定着]	
D51	—	21895	—	21895	kg	98	—
D41	—	—	—	—	kg	—	—
D38	11858	—	—	11858	kg	—	—
D35	13820	2865	—	16686	kg	22	—
D32	24239	2354	4176	30769	kg	22	180
D29	97	—	—	97	kg	—	—
D25	460	—	—	460	kg	—	—
D22	8361	—	—	8361	kg	—	—
D19	6563	—	1833	8396	kg	—	385
D16	3506	—	482	3988	kg	—	102
D13	672	—	1138	1810	kg	—	966
合 計	69576	27115	7629	104320	kg	142	1633

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主 筋 せん断補強鉄筋  鋭角フック  半円形フック  直角フック 											
Δ l=2・L-a											
主 筋	径	θ ≤ 90° R=3 φ	θ > 90° R=5. 5 φ	θ =45°		θ =60°		θ =90°		θ =135°	
				a	Δ l	a	Δ l	a	Δ l	a	Δ l
	D13	39	71. 5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104. 5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137. 5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159. 5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192. 5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225. 5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280. 5	360	379	320	210	240	66	220	12	
せん断補強鉄筋及び帯鉄筋	径	R=2. 5 φ		θ =45°		θ =60°		θ =90°		—	
				a	Δ l	a	Δ l	a	Δ l	—	
	D13	32. 5		77	80	68	45	51	14	—	
	D16	40		94	99	84	55	63	17	—	
	D19	47. 5		112	117	99	66	75	20	—	
	D22	55		130	136	115	76	86	24	—	
	D25	62. 5		147	155	131	86	98	27	—	
	D29	72. 5		171	179	152	99	114	31	—	
フック	径	R=3. 0 φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		Δ l	
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

機械式鉄筋定着工法数量表 (箇所数) — 下部工施工 (普通鉄筋)

鉄筋径	箇所数								
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	9m<L≤10m
D13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	70	—	—	—	—	—	—
D19	—	—	200	—	—	—	—	—	—
小 計	—	—	270	—	—	—	—	—	—
合 計	270								

機械式鉄筋定着工法数量表 (箇所数) — 下部工施工 (エポキシ樹脂塗装鉄筋)

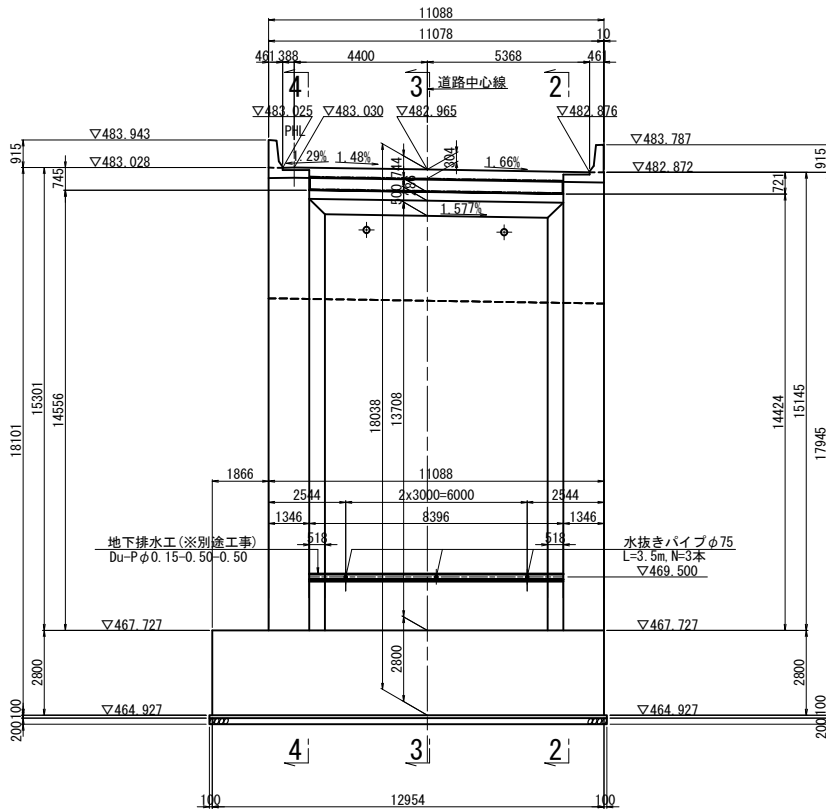
鉄筋径	箇所数								
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	9m<L≤10m
D13	168	798	—	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	—	32	—	—	—	—	—
D19	—	185	—	—	—	—	—	—	—
D22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D29	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D32	—	—	—	180	—	—	—	—	—
小 計	168	983	—	212	—	—	—	—	—
合 計	1363								

使用材料一覧表

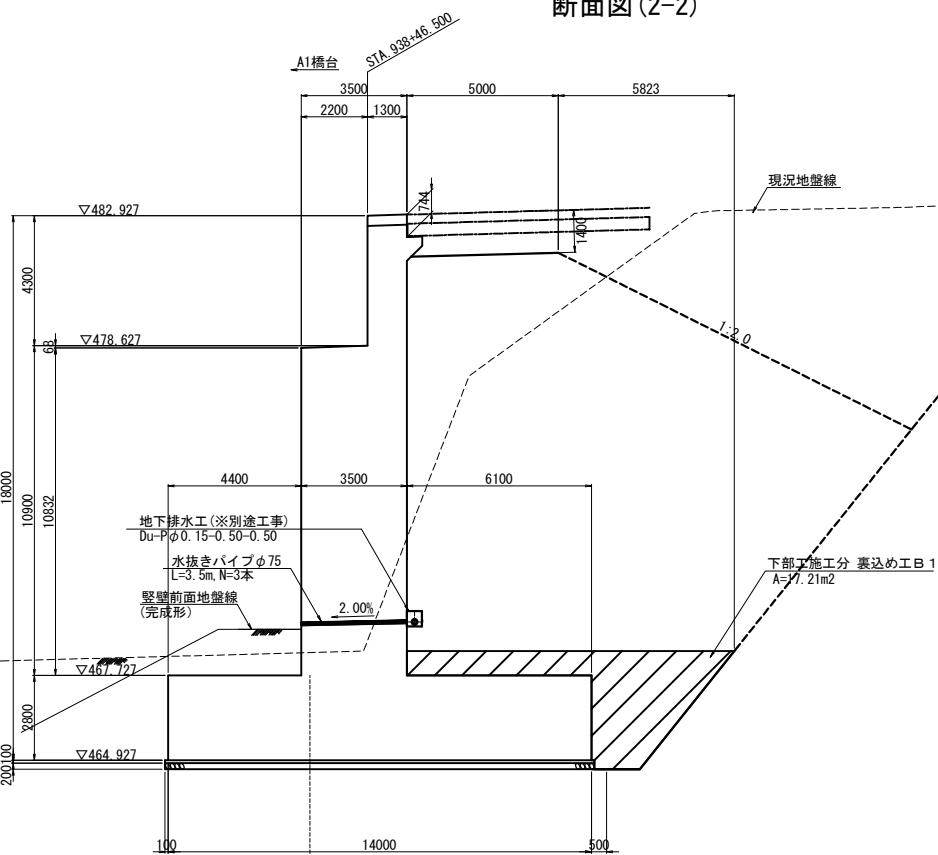
躯体	コンクリート	鉄 筋
底 版	σ ck=30N/mm2	SD345
	σ ck=24N/mm2	SD345

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵠川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その１９）		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

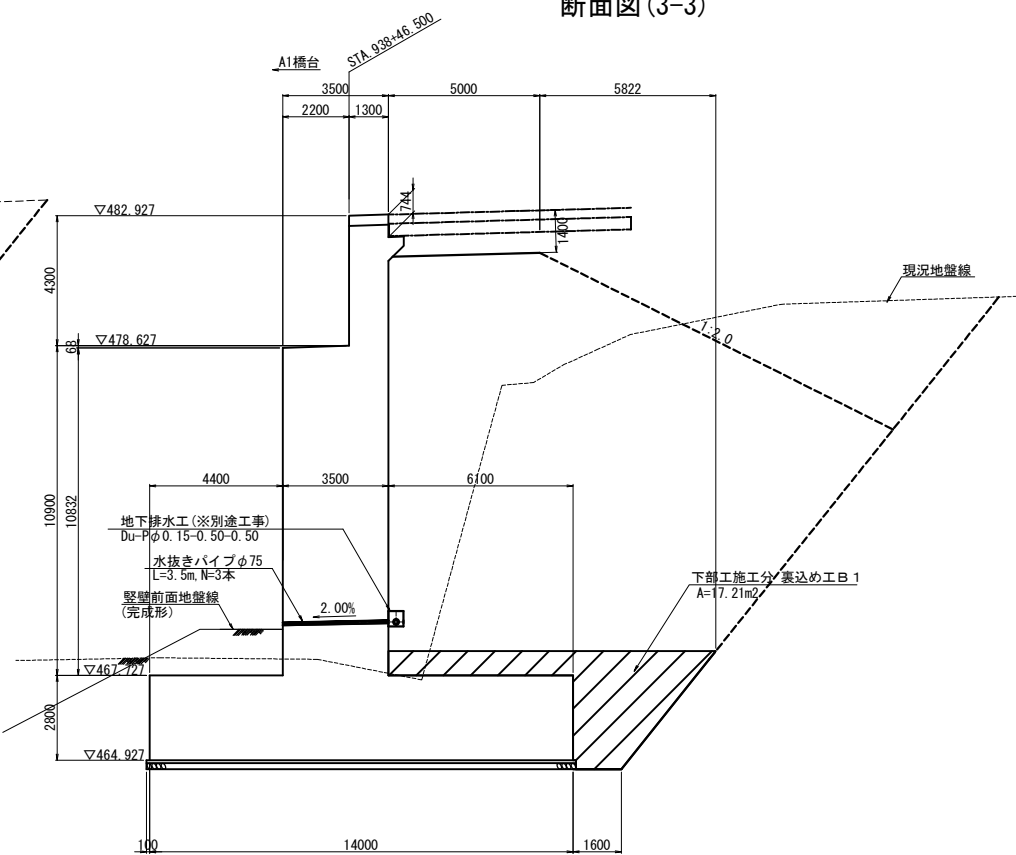
背面図(1-1)



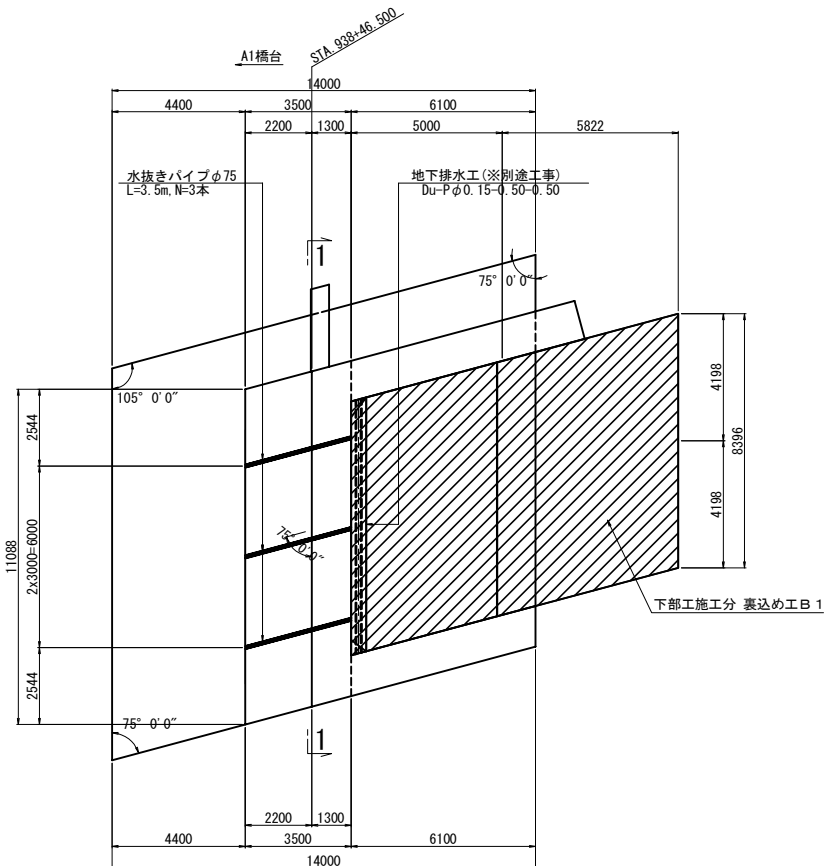
断面図(2-2)



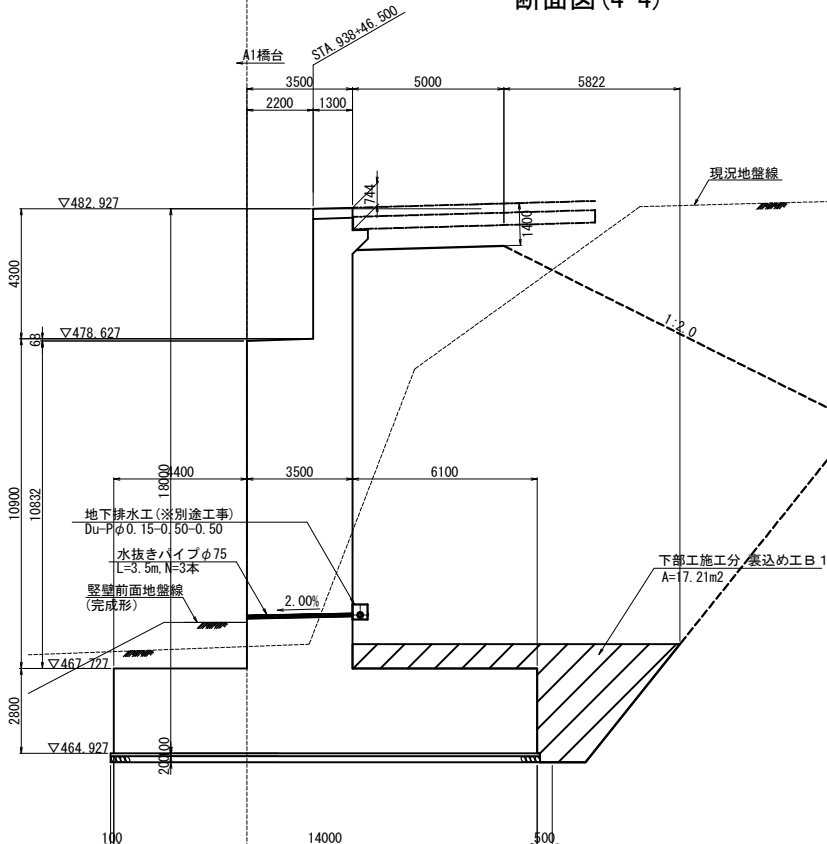
断面図(3-3)



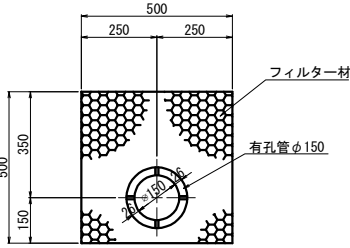
平面図



断面図(4-4)



地下排水工詳細図 S=1:25 ※別途工事

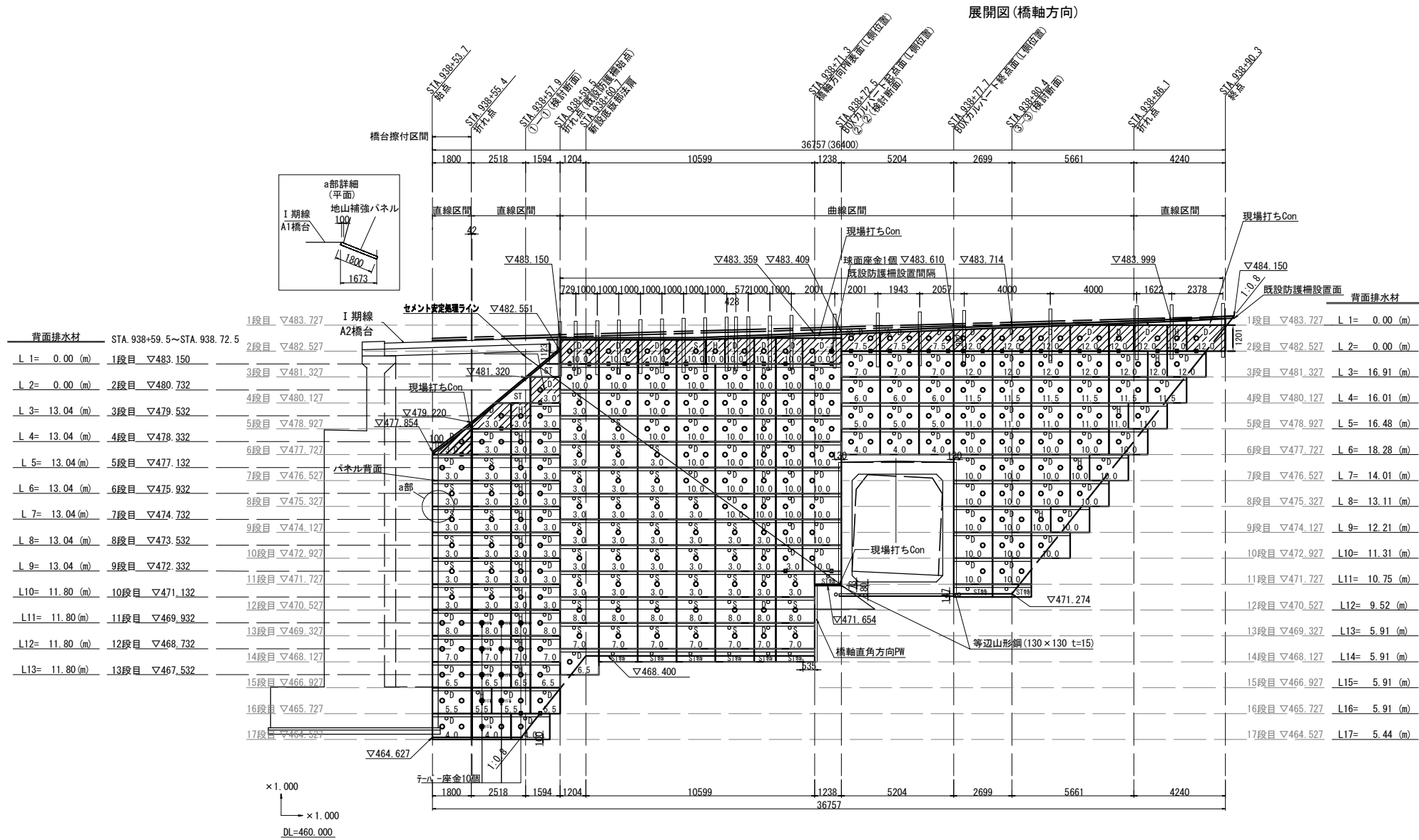


裏込め工及び地下排水工

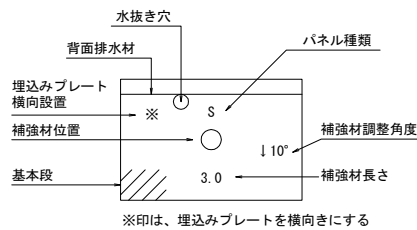
項目	種別	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B1	m ³	144.5	下部施工
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	8.40	※別途工事
水抜きパイプ	VPφ75	m	10.5	割掛項目

道東自動車道			
下トナム地区下部工事			
下トナム鵜川橋（上り線）			
A 2 橋台裏込め工図			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

展開図（橋軸方向）

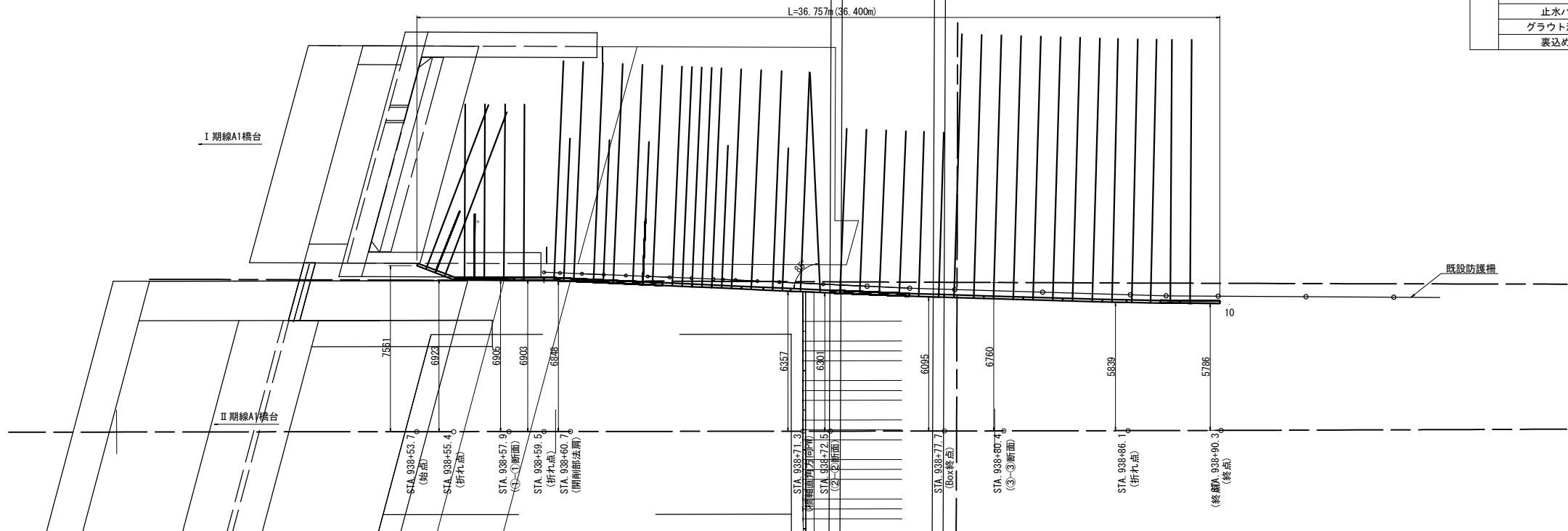


凡 例



数量表		名 称	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
地 山 補 強 土 工	施工面積			m2	422.4	現場打ちコンクリート部分を含む
	法面整形工	砂質土		m2	327.4	
		機質土		m2	95.0	
	パネル	Sパネル	1穴 1200×1800	枚	53	標準タイプ
		Dパネル	2穴 1200×1800	枚	140	2穴タイプ
		Hパネル	1穴 1200×900	枚	18	標準タイプの縦ハーフ
		STパネル	勾配用	枚	2	最上段勾配用
		ST特パネル	最下段用	枚	9	最下段横ハーフ
	背面排水材工		W=150×t=50	m	319.21	
	天端工			m	38.48	斜距離
	埋戻しコンクリート工			m	30.32	水平距離
補 強 材	補強材	D32 L=12.0m		本	24	
		D32 L=11.5m		本	11	
		D32 L=11.0m		本	10	
		D32 L=10.0m		本	106	
		D32 L=8.0m		本	13	
		D32 L=7.5m		本	6	
		D32 L=7.0m		本	19	
		D32 L=6.5m		本	7	
		D32 L=6.0m		本	6	
		D32 L=5.5m		本	6	
	テーパー座金 (M30)	5"		個	10	
		10"		個	291	
	球面座金			個	1	補強材に5°、10°以上の角度をつける
	削孔工	二重管90mm砂質土		m	1777.73	
		二重管90mm機質土		m	349.68	
		二重管90mm軟岩		m	128.59	
	止水パッキン			枚	292	補強材頭部用
	グラウト注入打設工			m3	45.9	割増率：3.200
	裏込め注入工			m3	39.6	割増率：2.113

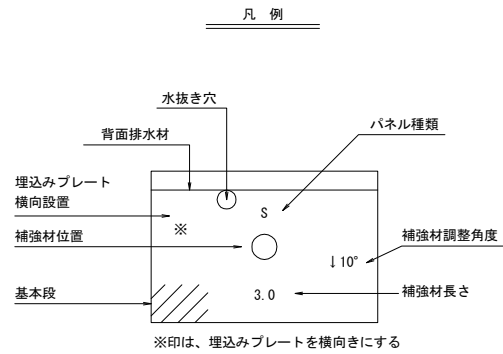
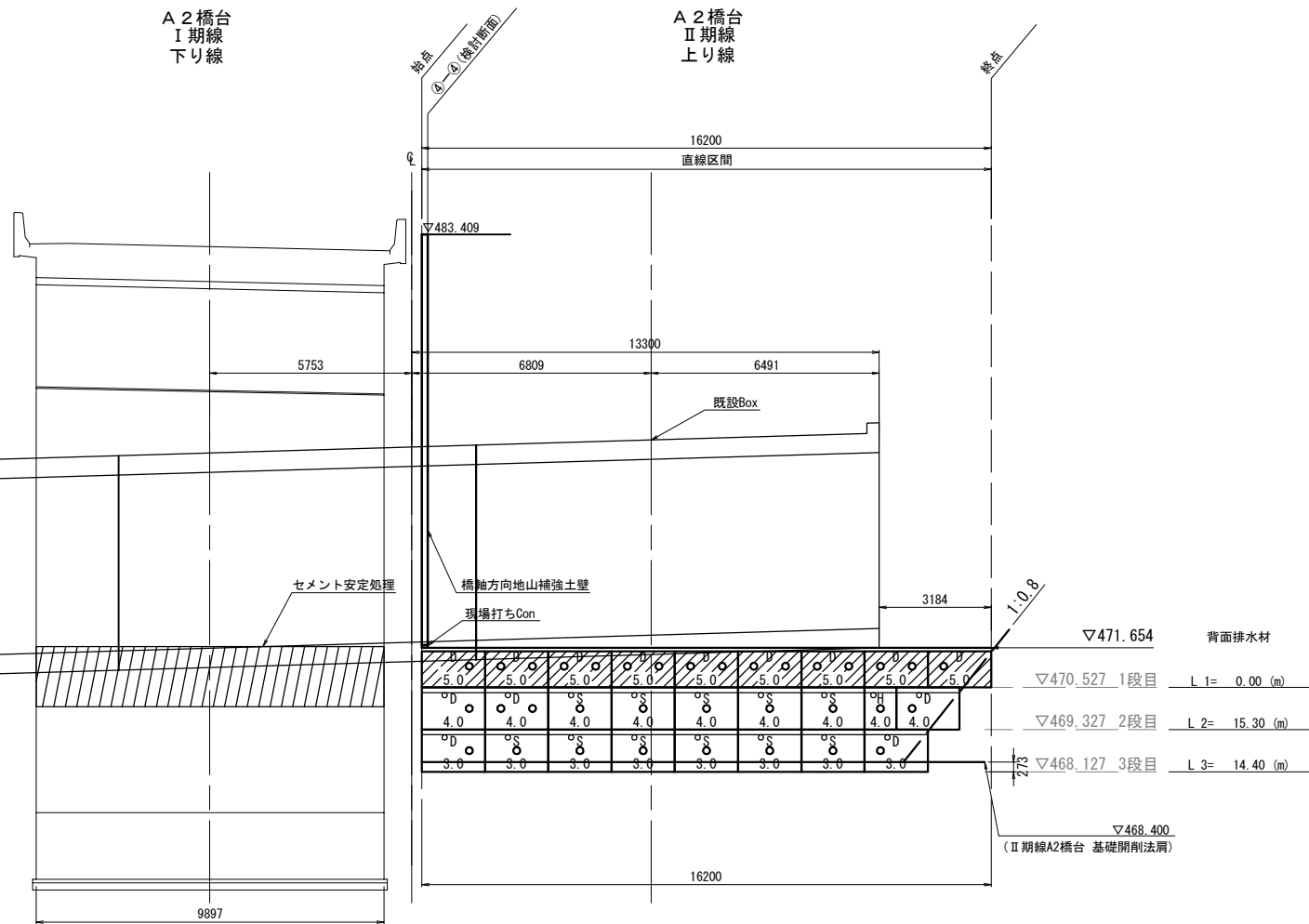
平面図



注1) 補強材調整角度について、無表記の場合は10度とする。

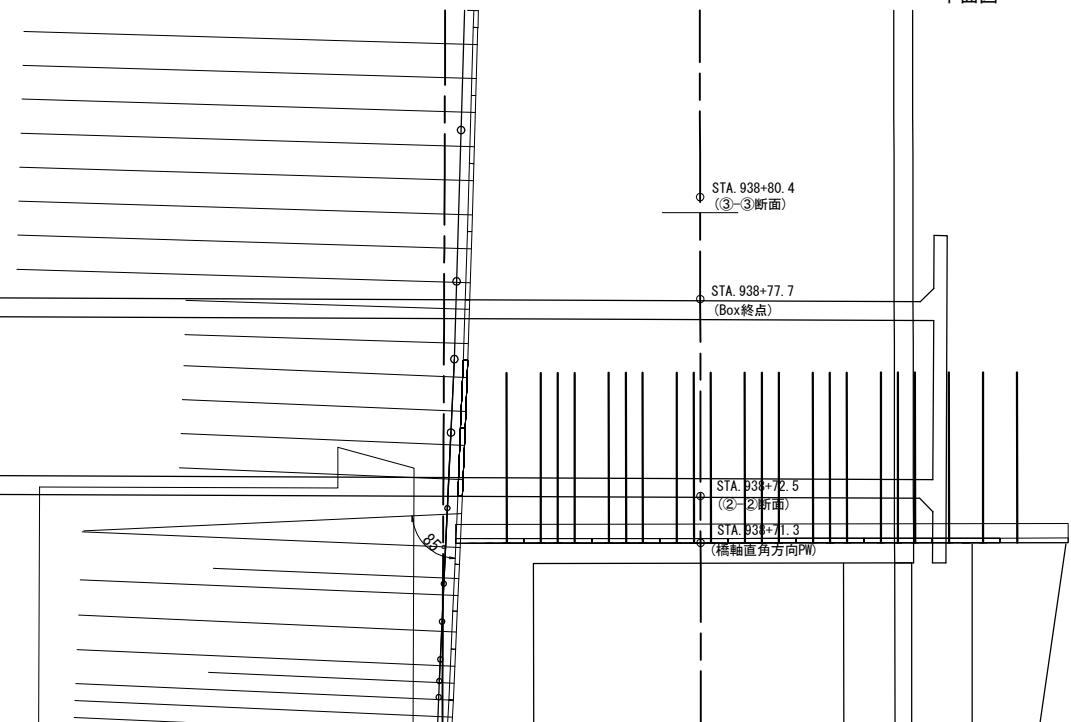
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵡川橋（上り線）		
	A 2 橋台仮設土留エー一般構造図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

展開図
(橋軸直角方向)



数量表		名 称	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
地山補強土工	施工面積			m2	53.9	現場打ちコンクリート部分を含む
	法面整形工	砂質土		m2	25.3	
		礫質土		m2	28.6	
	パネル	Sパネル	1穴 1200×1800	枚	11	標準タイプ
		Dパネル	2穴 1200×1800	枚	14	2穴タイプ
		Hパネル	1穴 1200×900	枚	1	標準タイプの縦ハーフ
補強材	背面排水材工		W=150×t=50	m	29.7	
	天端工			m	16.20	斜距離
	埋戻しコンクリート工			m	15.30	水平距離
	補強材		D32 L=5.0m	本	16	
			D32 L=4.0m	本	10	
			D32 L=3.0m	本	8	
	テーパー座金 (M30)		10°	個	34	
	削孔工		二重管90mm砂質土	m	73.01	
			二重管90mm礫質土	m	70.99	
	止水パッキン			枚	34	補強材頭部用
	グラウト注入打設工			m3	2.9	割増率: 3.200
	裏込め注入工			m3	4.0	割増率: 2.265

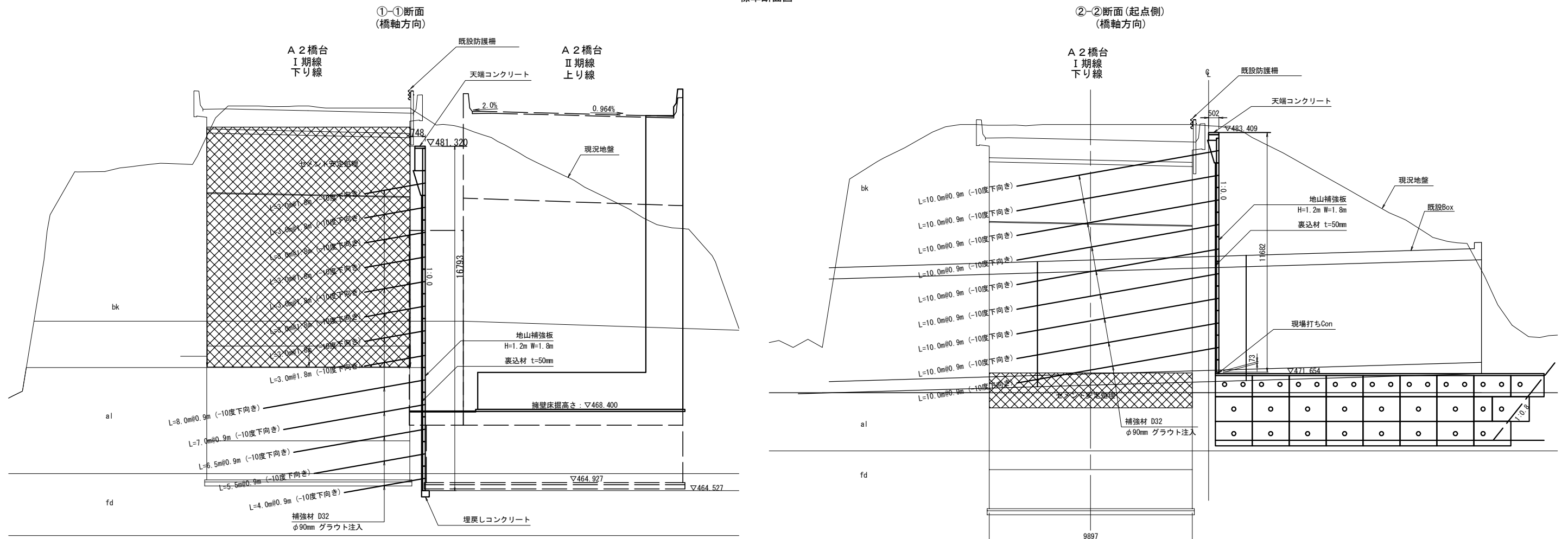
平面図



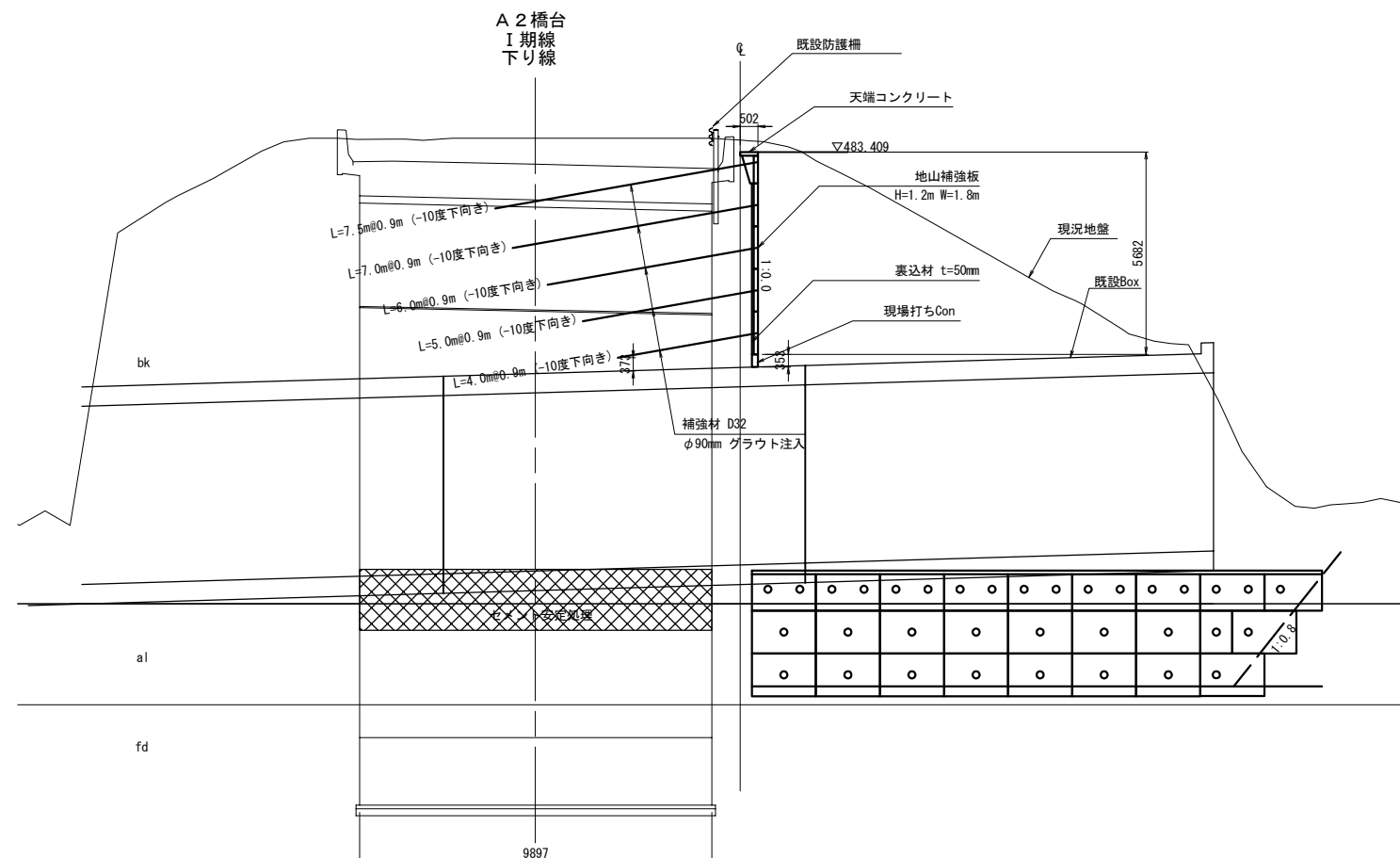
注1) 補強材調整角度について、無表記の場合は10度とする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鷗川橋（上り線）		
	A 2 橋台仮設土留エー般構造図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

標準断面図

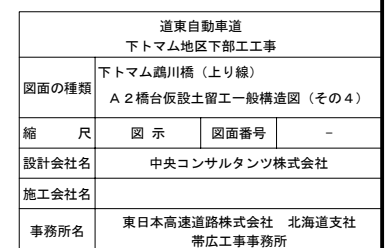
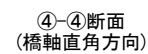


②-②断面(終点側)
(橋軸方向)

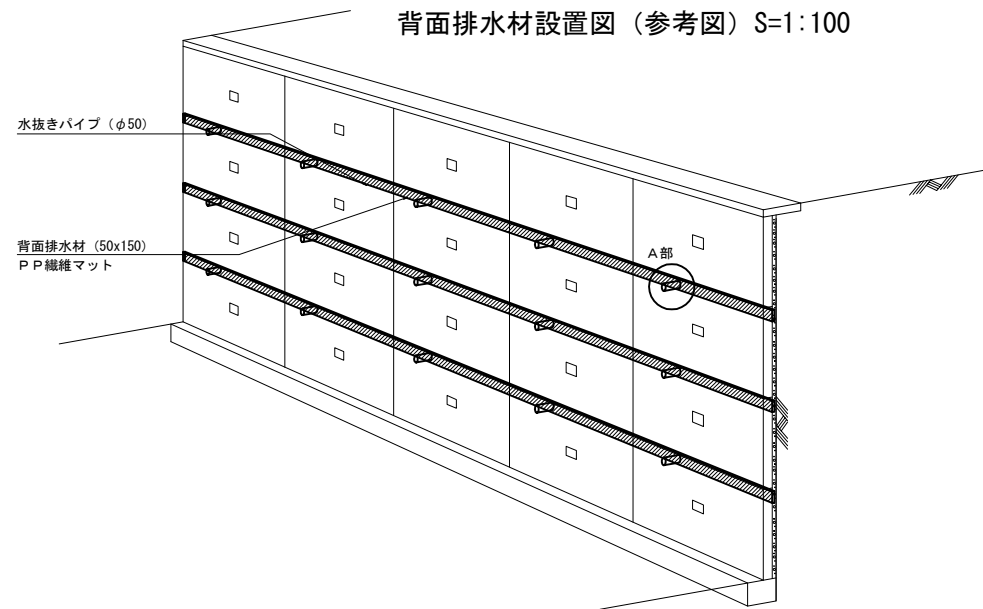


道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鷲川橋（上り線）		
	A 2 橋台仮設土留エー般構造図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

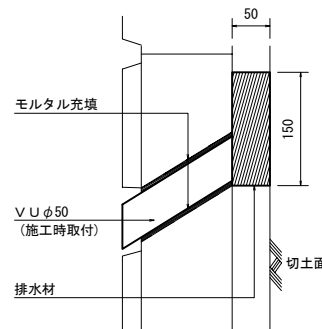
A 2橋台
I 期線
下り線



背面排水材設置図（参考図）S=1:100

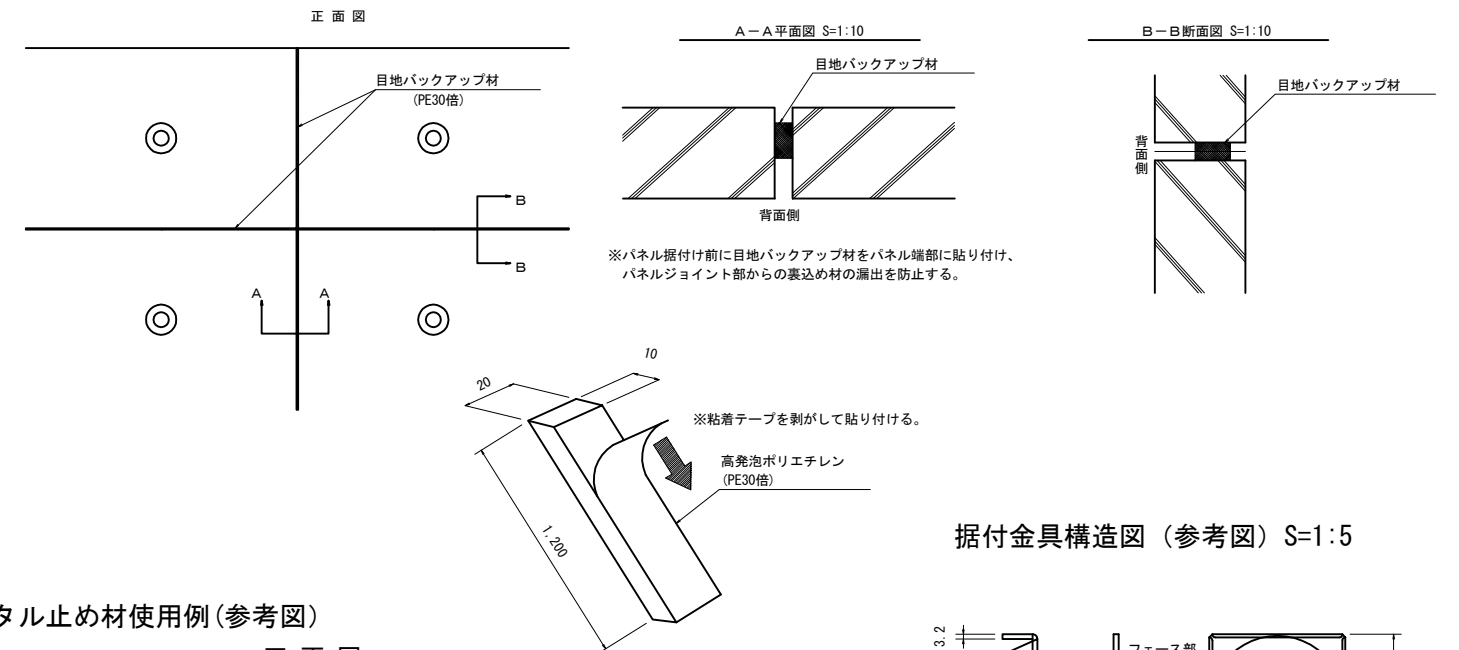


A 部断面 S=1:10



※切土面か50mm以上離れる場合は切土面側に背面排水材を設置して塩ビ管を伸ばす。

パネルジョイント部目地バックアップ材（参考図）

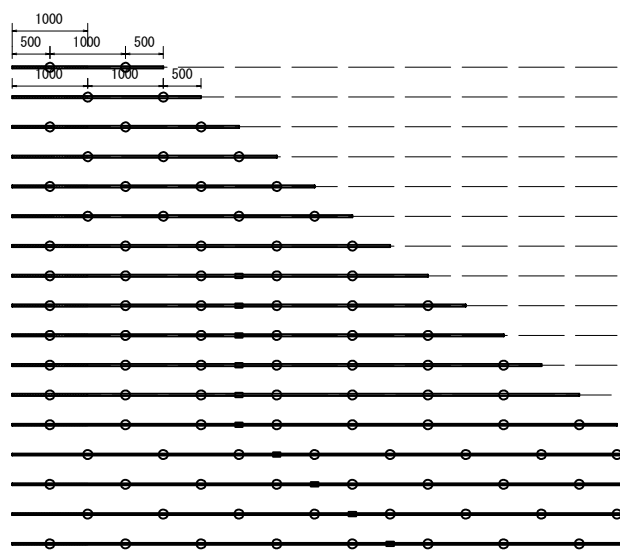


※パネル据付け前に目地バックアップ材をパネル端部に貼り付け、パネルジョイント部からの裏込め材の漏出を防止する。

※粘着テープを剥がして貼り付ける。

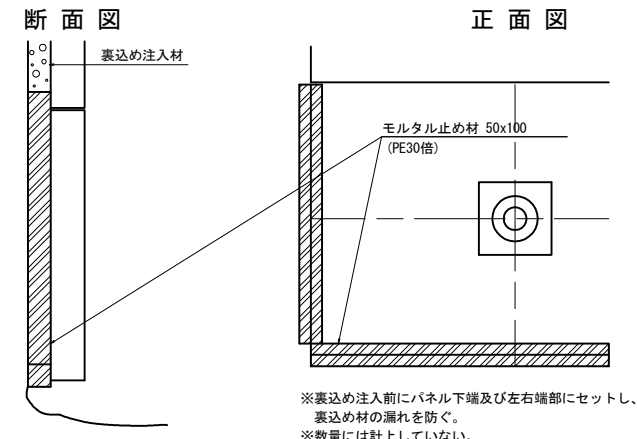
補強材及びスパーサー配置図 S=1:100

補強材長 (m)	規格 (m)	スパーサー (箇所)
2.0	(つなぎ無)	2
2.5	(つなぎ無)	2
3.0	(つなぎ無)	3
3.5	(つなぎ無)	3
4.0	(つなぎ無)	4
4.5	(つなぎ無)	4
5.0	(つなぎ無)	5
5.5	(3.0+2.5)	5
6.0	(3.0+3.0)	6
6.5	(3.0+3.5)	6
7.0	(3.0+4.0)	7
7.5	(3.0+4.5)	7
8.0	(3.0+5.0)	8
8.5	(3.5+5.0)	8
9.0	(4.0+5.0)	9
9.5	(4.5+5.0)	9
10.0	(5.0+5.0)	10



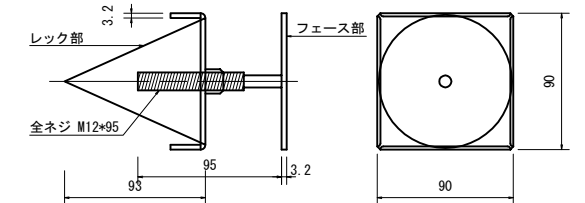
○ : スパーサー
 〰 : 防食処理
 〰 : 継手 (拔出防止対応型)

モルタル止め材使用例（参考図）



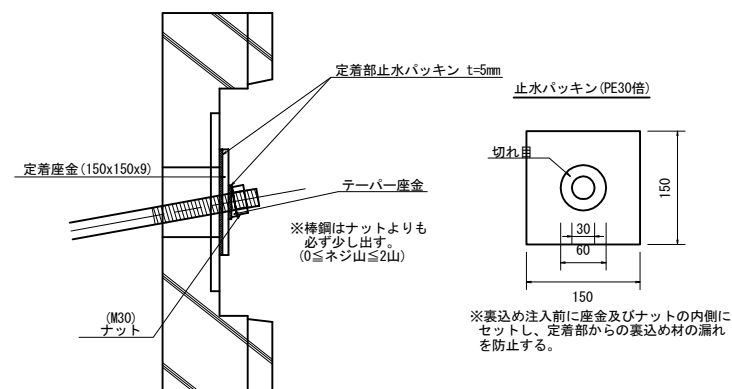
※裏込め注入前にパネル下端及び左右端部にセットし、裏込め材の漏れを防ぐ。
 ※数量には計上していない。

据付金具構造図（参考図）S=1:5



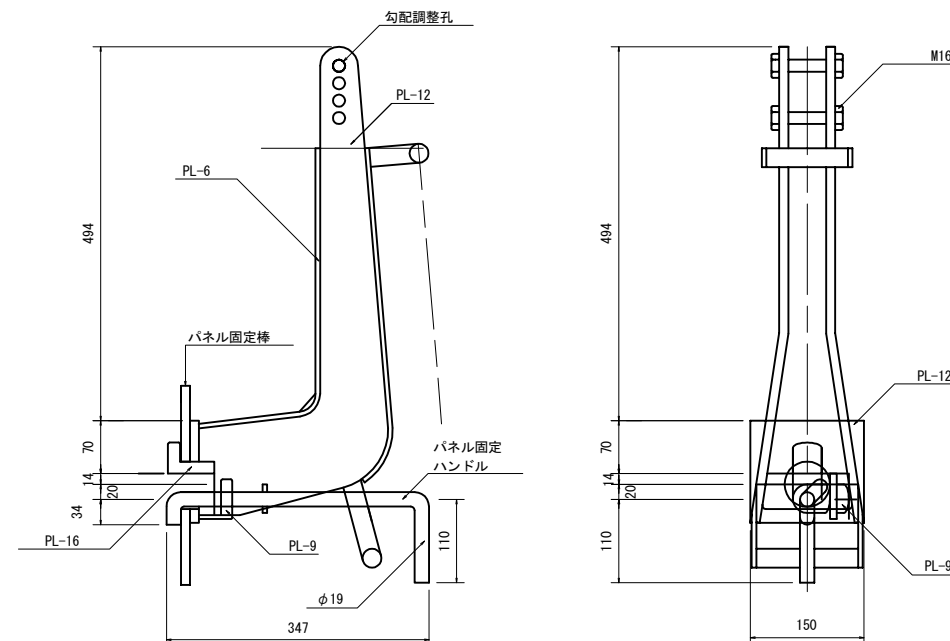
－使用方 法－
 ※法面整形後、金具レック部を地山に打込み、フェース部をネジで調整してパネルを据え付ける。
 ※パネルと地山との離れが大きい場合は代替品も使用。

定着部パッキン取付け図 S=1:10



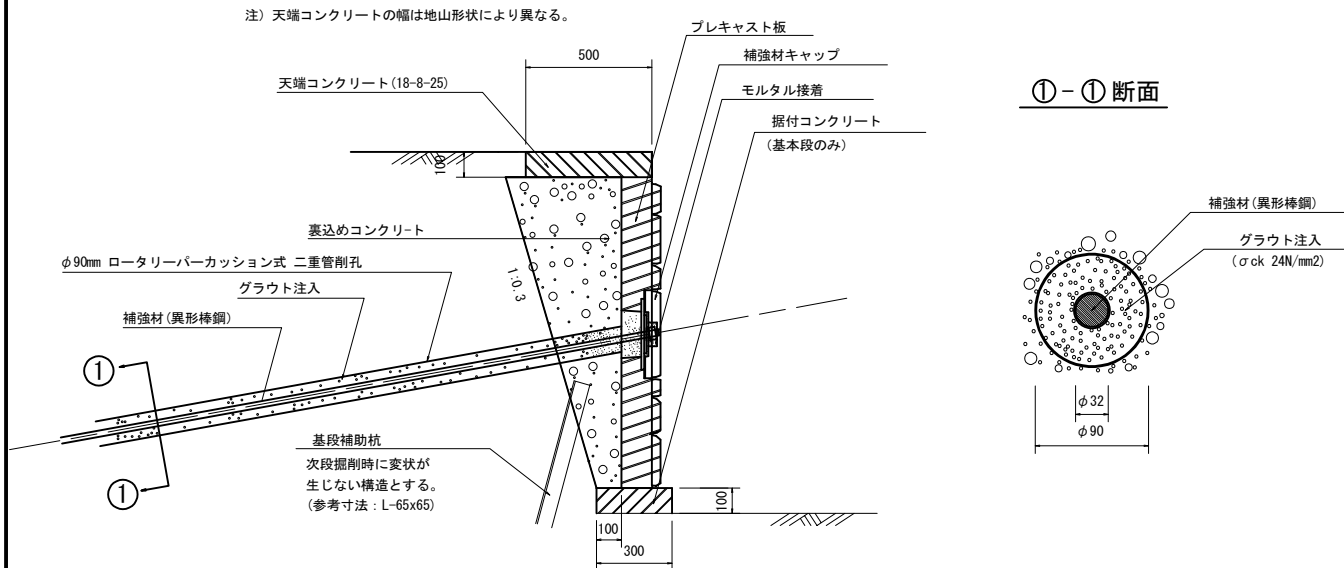
※裏込め注入前に座金及びナットの内側にセットし、定着部からの裏込め材の漏れを防止する。

パネル吊り金具詳細図 S=1:10



道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） A 2 橋台仮設土留エー般構造図（その 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

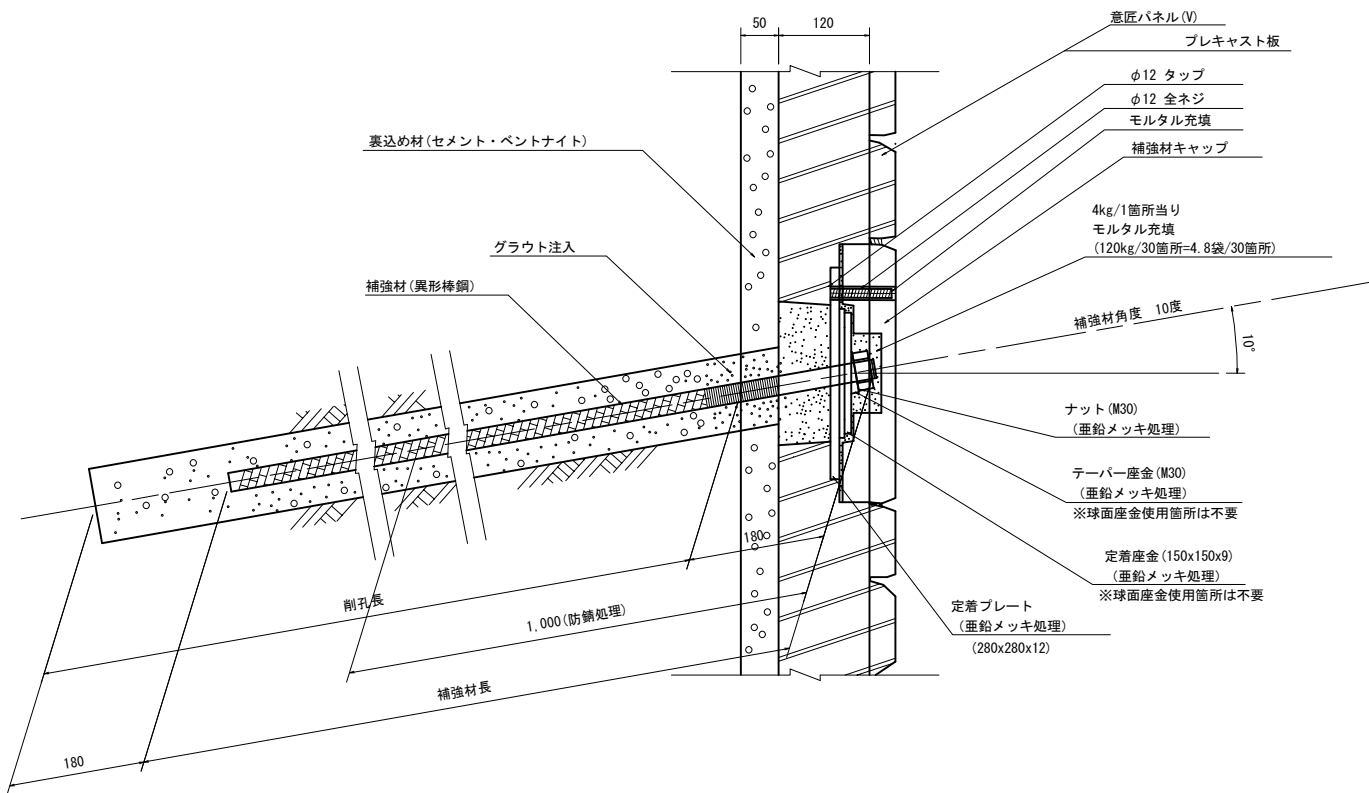
標準詳細構造図 S=1:30



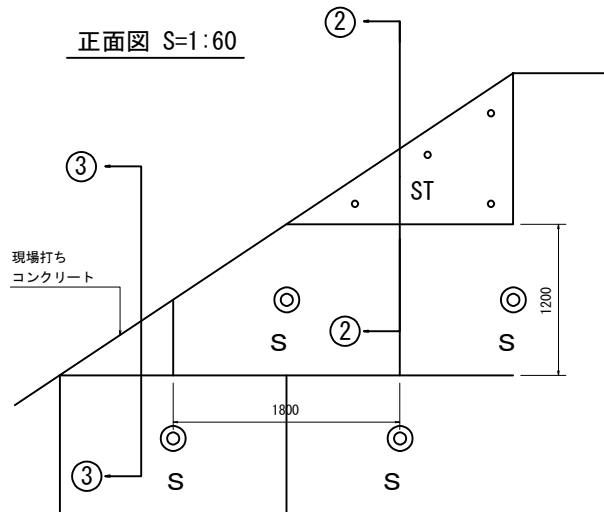
天端工		10m当り			
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
型 枠		m2	2.0	0.2x10=2.0	
コンクリート	18-8-25	m3	0.5	0.5x0.1x10=0.5	

定着部詳細構造図 S=1:10

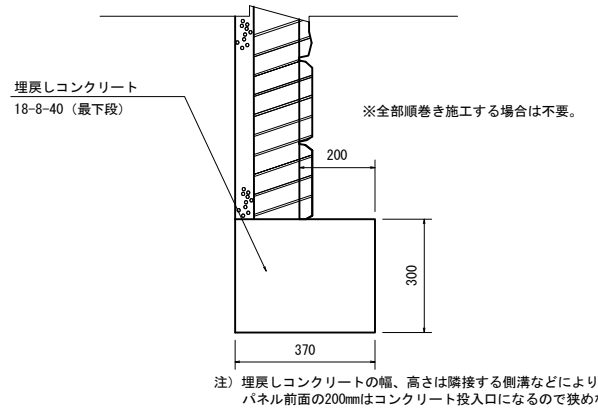
※防錆処理は工場処理
※補強材角度保持のため、テーバー座金を使用する。



天端摺合せ部詳細図



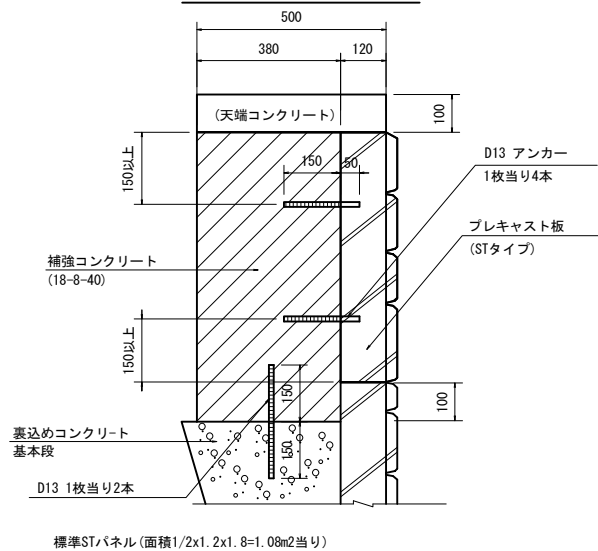
埋戻しコンクリート詳細図 S=1:20



埋戻しコンクリート				10m当り
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
型 枠		m2	3.0	0.3x10=3.0
コンクリート	18-8-40	m3	1.11	0.30x0.37x10=1.11

※既設ブロック等の補強の場合は現状に合わせた形状とする。
形状によりST用鉄筋アンカーを4本/2.16m2で差筋をする。

②-② 断面 S=1:20



※STパネル 1枚当りのアンカーの本数の基準

面積 (m2) <0.54...2本
0.54≤面積 (m2) <1.08...3本
1.08≤面積 (m2) ...4本

※ STパネル 100m2当り (例)

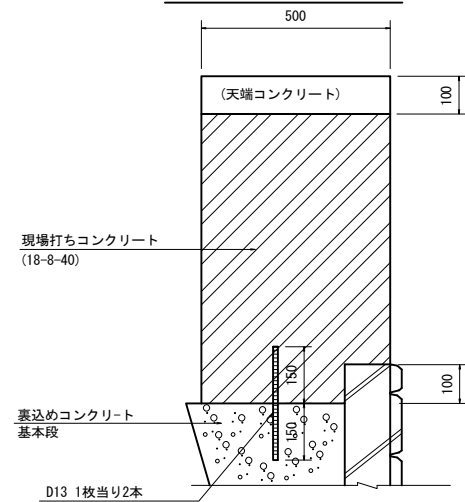
コンクリート 100x0.38 = 38.0 m3

標準STパネル (面積1/2x1.2x1.8=1.08m2当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
鉄筋アンカー	D13 L=200	本	4	STパネルと補強コンに設置
鉄 筋	D13 L=300	本	2	補強コン高200mm以上 2本/1.8m
コンクリート	18-8-40	m3	0.41	(1/2x1.2x1.8) x0.38=0.410 m3

底部のアゴは含まず

③-③ 断面 S=1:20



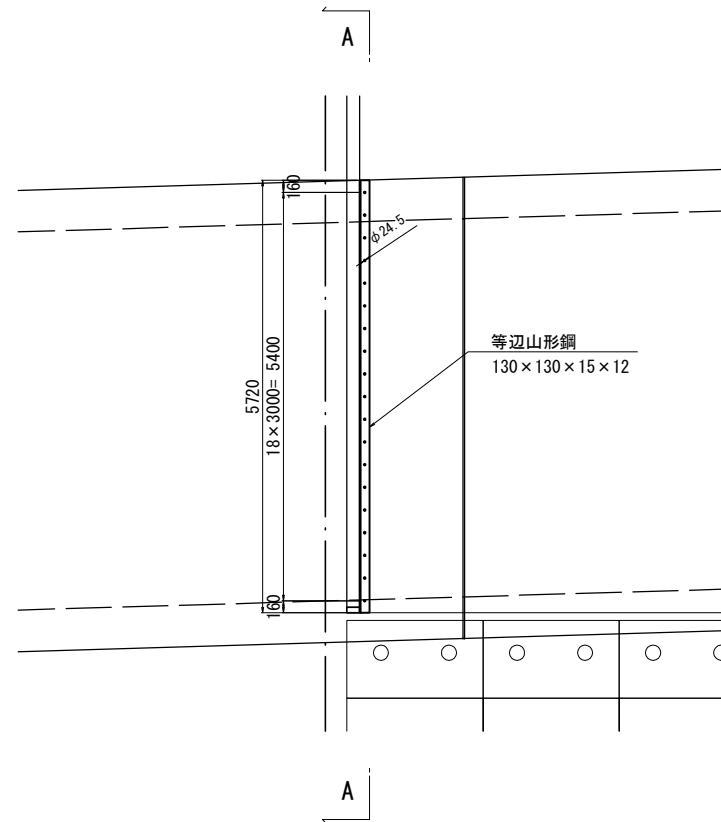
現場打ちコンクリート

現場打ちコンクリート		1 m3当り		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
型 枠		m2	2.000	1.0/0.500=2.000
鉄 筋	D13 L=300	本	2	現場打高200mm以上 2本/1.8m
コンクリート	18-8-40	m3	1.000	2.000x0.500=1.000

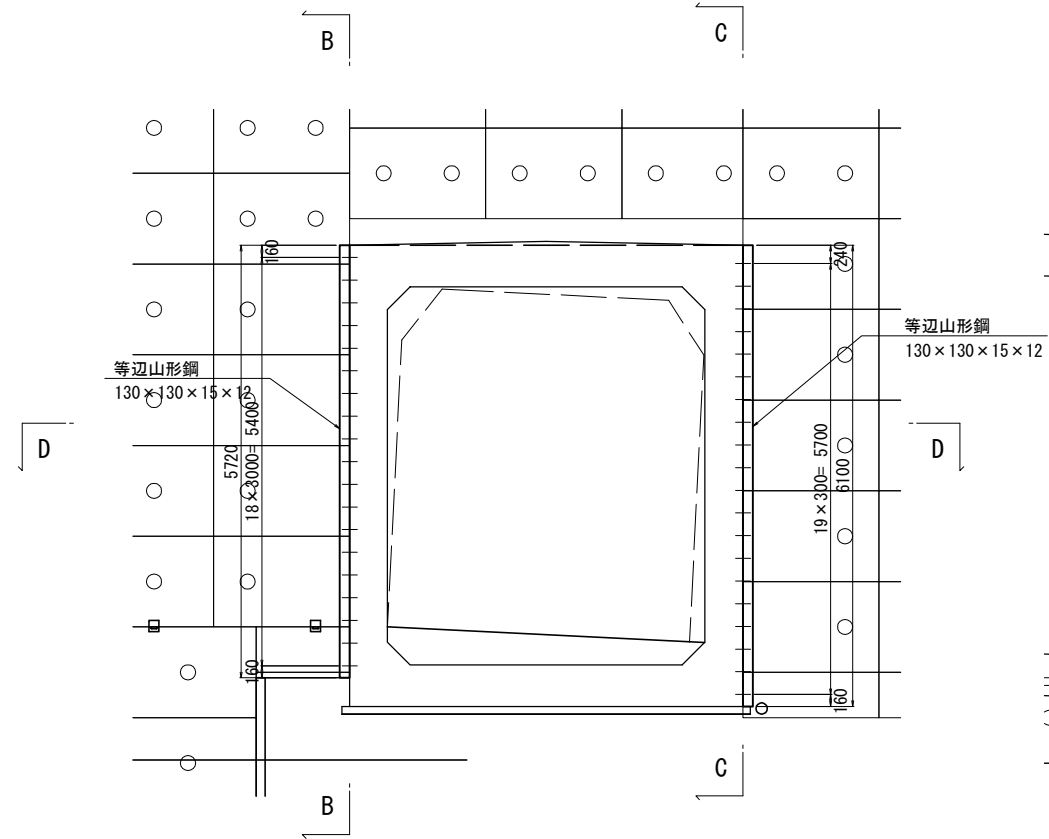
※既設ブロック等の補強の場合はSTを使用せず現場打ちを基本とする。
この時、ST用鉄筋アンカーを4本/2.16m2で既設ブロックに差筋をする。

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鷗川橋（上り線） A 2 橋台仮設土留エー般構造図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

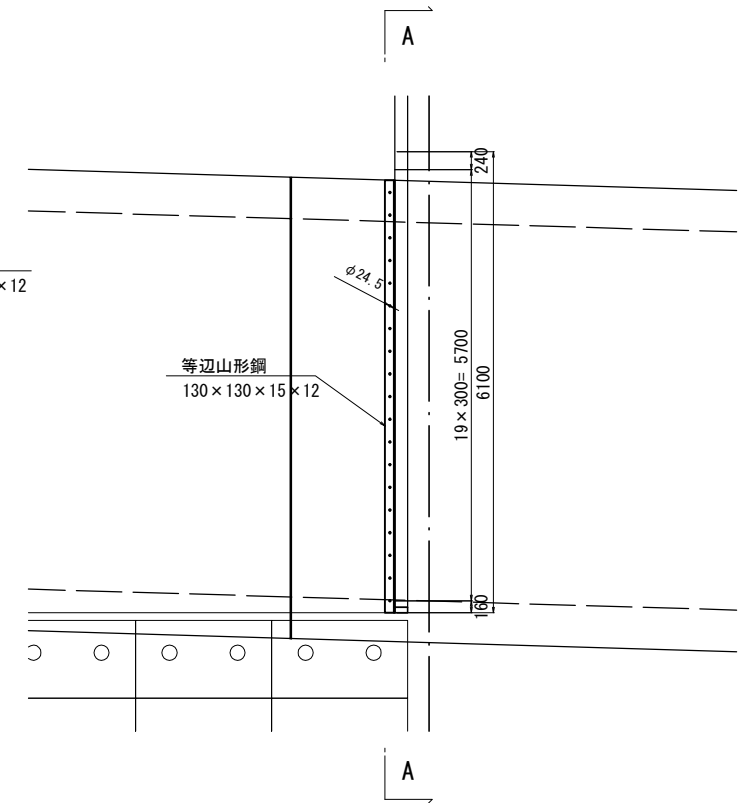
側面図
B - B



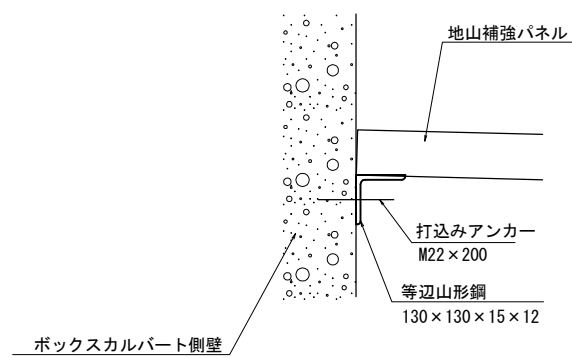
平面図
A - A



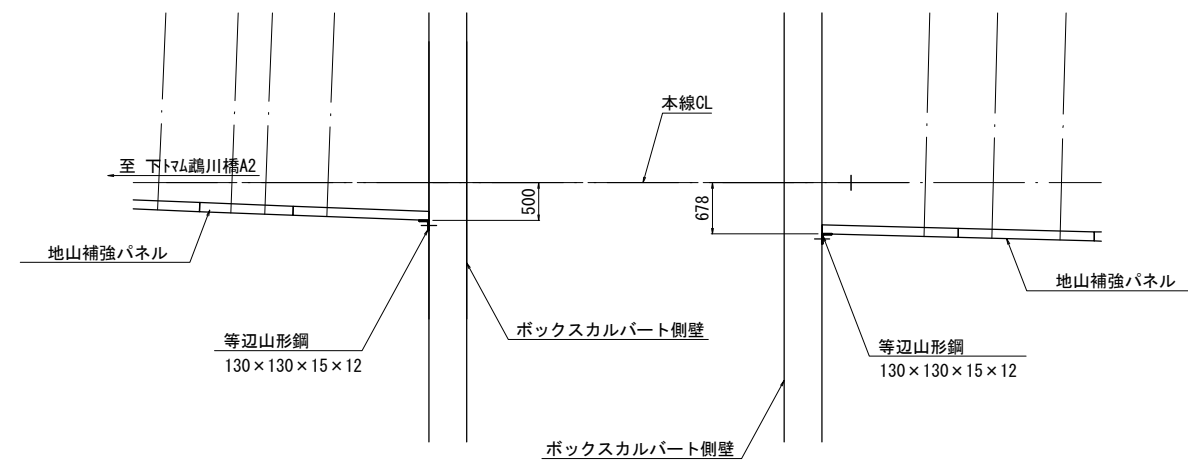
側面図
C - C



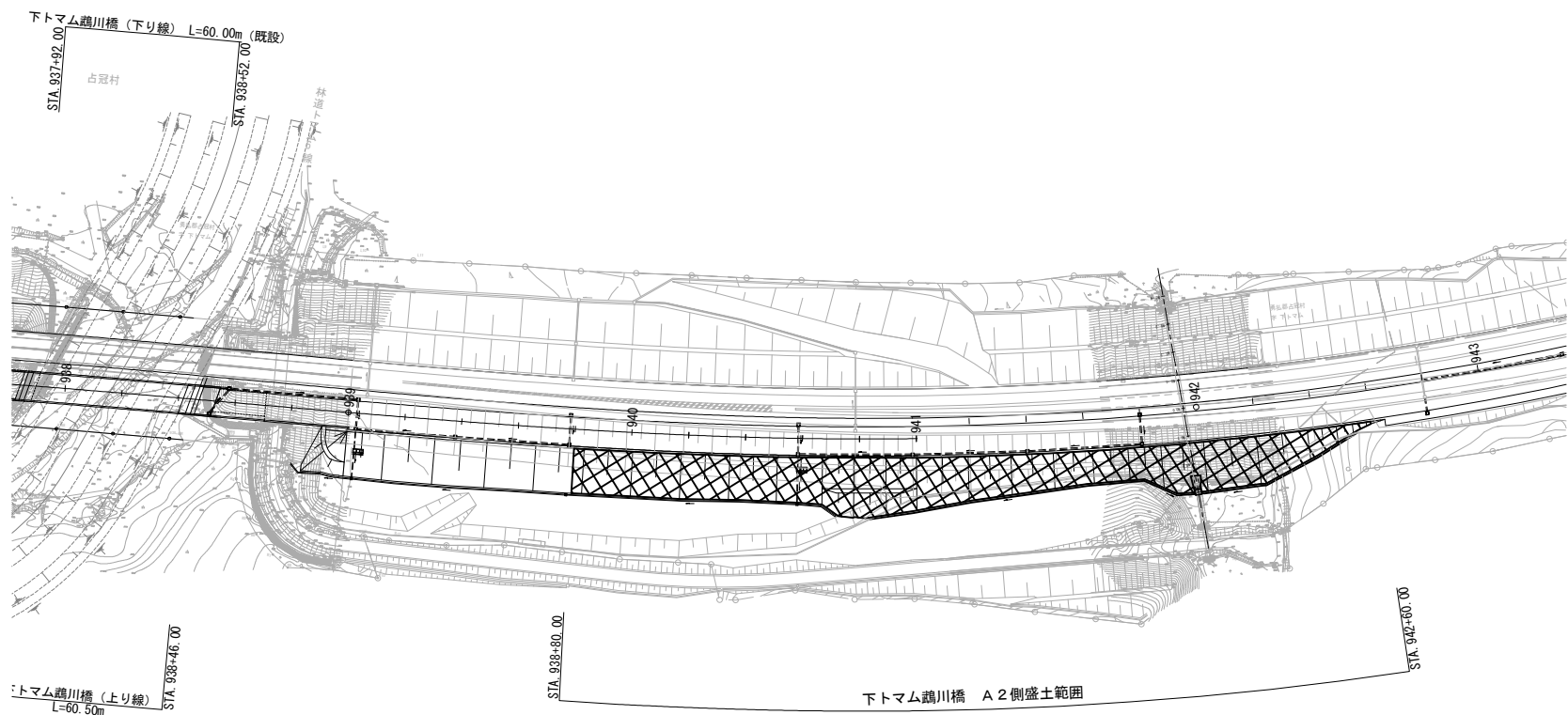
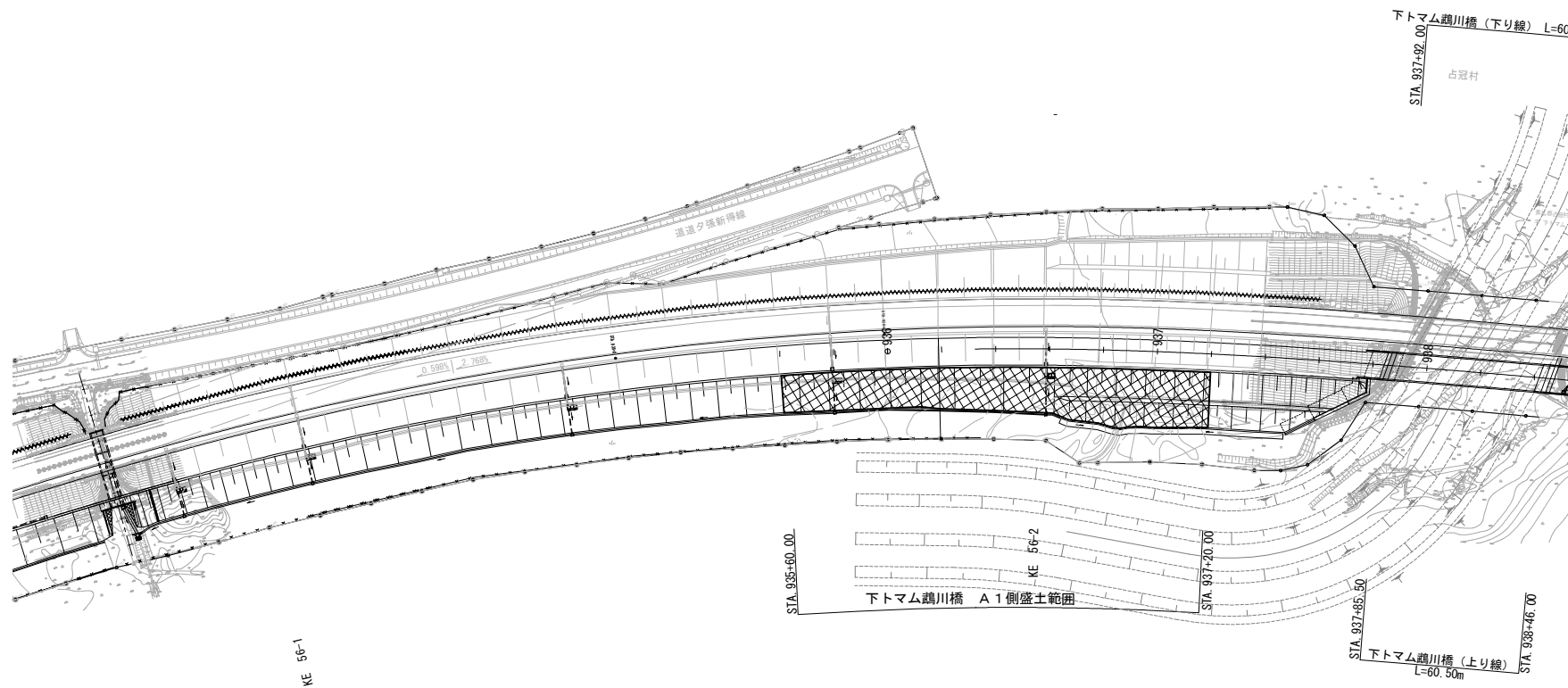
詳細図 S=1:20



平面図
D - D



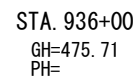
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鷲川橋（上り線）		
	A 2 橋台仮設土留エー般構造図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



▨ : 盛土範囲

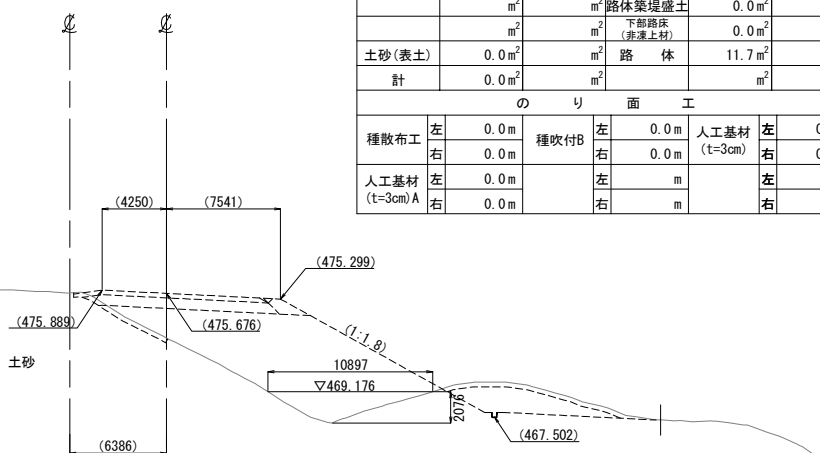
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鷓川橋（上り線） 盛土平面図		
縮 尺	図示	図面番号	-
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

下トママ鵠川橋（上り線）盛土横断図（１） 縮尺 1:500



STA. 935+99.008
PH=476.076

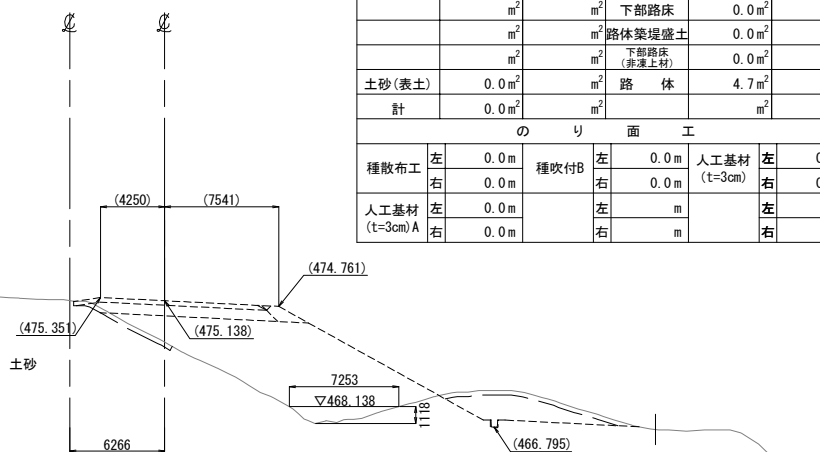
STA. 936+00											
地盤高		475.71 m		土工施工高		-m		計画高		-m	
切土面積				盛土面積							
土砂		0.0 m ²		m ²		上部路床		0.0 m ²		m	
軟岩		0.0 m ²		m ²		上部路床 (非覆土材)		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		路体菜壇盛土		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床 (非覆土材)		0.0 m ²		m	
土砂(表土)		0.0 m ²		m ²		路体		11.7 m ²		m	
計		0.0 m ²		m ²				m ²		m	
のり面工											
種散布工		左 0.0 m		左 0.0 m		人工基材 (t=3cm)		左 0.0 m		左 0.0 m	
		右 0.0 m		種吹付B				右 0.0 m		右 0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A		左 0.0 m		左 0.0 m				左 m		左 m	
		右 0.0 m		右 0.0 m				右 m		右 m	



STA. 935+80
GH=475.14
PH=

STA. 935+79.113
PH=475.538

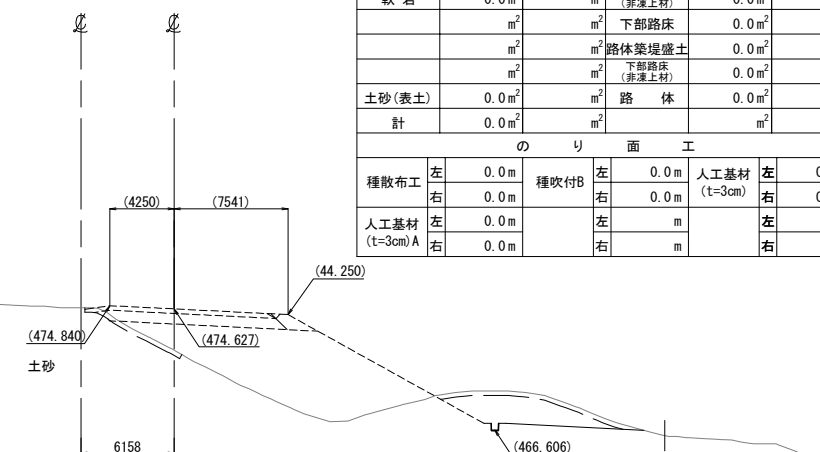
STA. 935+80											
地 盤 高		475.14 m		土工施工高		-m		計 画 高		-m	
切 土 面				積		盛 土 面 積					
土 砂		0.0 m ²		m ²		上部路床		0.0 m ²		m	
軟 岩		0.0 m ²		m ²		上部路床 (湧上土等)		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		路体築堤盛土		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床 (湧上土材)		0.0 m ²		m	
土砂(表土)		0.0 m ²		m ²		路 体		4.7 m ²		m	
計		0.0 m ²		m ²				m ²		m	
の り 面 工											
種散布工		左	0.0 m	種吹付B		左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)		左	0.0 m
		右	0.0 m			右	0.0 m			右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A		左	0.0 m			左	m			左	m
		右	0.0 m			右	m			右	m



STA. 935+60
GH=474.70
PH=

STA. 935+59.216
PH=

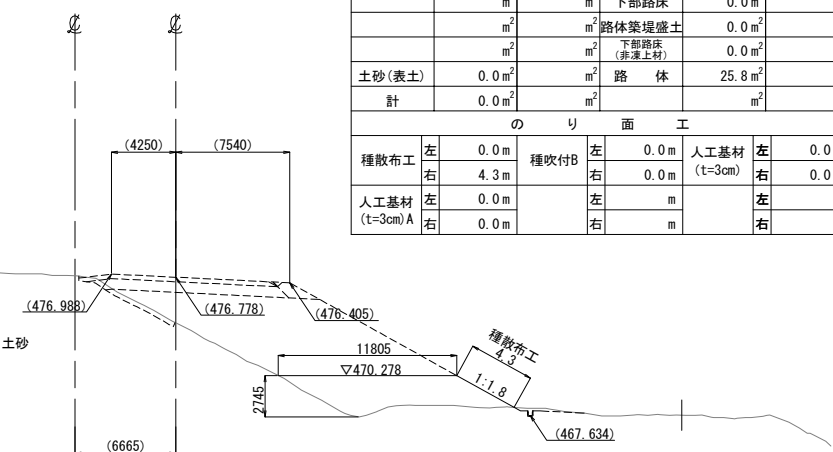
STA. 935+60											
地盤高		474.70 m		土工施工高		-m		計面高		-m	
切土面積				盛土面積							
土砂		0.0 m ²		m ²		上部路床		0.0 m ²		m	
軟岩		0.0 m ²		m ²		上部路床 (砂漠上材)		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		路体菜堤盛土		0.0 m ²		m	
		m ²		m ²		下部路床 (砂漠上材)		0.0 m ²		m	
土砂(表土)		0.0 m ²		m ²		路体		0.0 m ²		m	
計		0.0 m ²		m ²				m ²		m	
のり面工											
種散布工		左 0.0 m		種吹付B		左 0.0 m		人工基材 (t=3cm)		左 0.0 m	
		右 0.0 m				右 0.0 m				右 0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A		左 0.0 m				左 m				左 m	
		右 0.0 m				右 m				右 m	



STA. 936+40
GH=476.87
PH=

STA. 936+38. 791
PH=477. 178

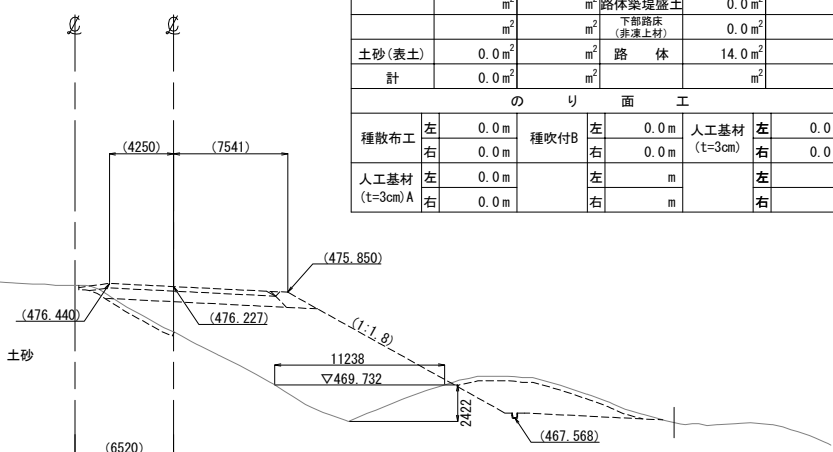
STA. 936+40								
地盤高		476.87m	土工施工高		-m	計画高		-
切土面積				盛土面積				
土砂	0.0m ²	m ²	上部路床	0.0m ²				
軟岩	0.0m ²	m ²	上部路床 (非覆土材)	0.0m ²				
	m ²	m ²	下部路床	0.0m ²				
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0m ²				
	m ²	m ²	下部路床 (非覆土材)	0.0m ²				
土砂(素土)	0.0m ²	m ²	路体	25.8m ²				
計	0.0m ²	m ²		m ²				
のり面工								
種散布工	左	0.0m	種収付B	左	0.0m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0
	右	4.3m		右	0.0m		右	0.0
人工基材 (t=3cm)A	左	0.0m		左	m		左	
	右	0.0m		右	m		右	



STA. 936+20
GH=476.30
PH=

STA. 936+18. 901
PH=476. 627

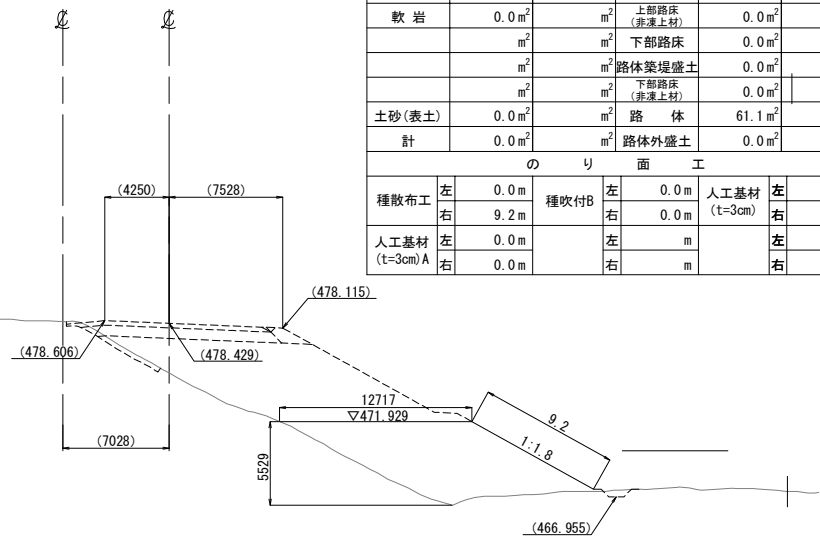
STA. 936+20								
地盤高		476.30 m	土工施工高		- m	計画高		-
切土面積			盛土面積					
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床		0.0 m ²			
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非凍上材)		0.0 m ²			
	m ²	m ²	下部路床		0.0 m ²			
	m ²	m ²	路体築堤盛土		0.0 m ²			
	m ²	m ²	下部路床 (非凍上材)		0.0 m ²			
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体		14.0 m ²			
計	0.0 m ²	m ²			m ²			
のり面工								
種散布工	左	0.0 m	種収付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0
	右	0.0 m		右	0.0 m		右	0.0
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	
	右	0.0 m		右	m		右	



道東自動車道 下トマム地区下郷工工事			
図面の種類	下トマム越川橋（上り線） 盛土横断図（1）		
縮 尺	1：500	図面番号	-
設計会社名	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

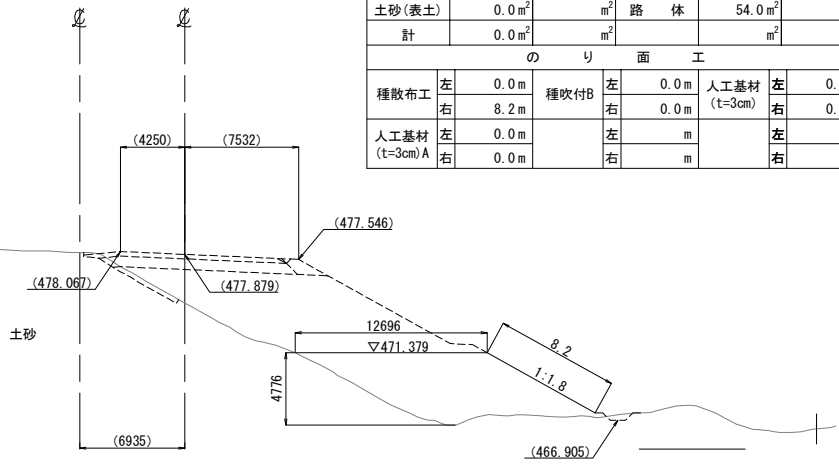
STA. 937+00
GH=478.54
PH=
STA. 936+98.469
PH=478.829

STA. 937+00									
地盤高		478.54 m	土工施工高		- m	計画高		- m	
切土面積			盛土面積						
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床		0.0 m ²	m ²		m ²	
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非運上材)		0.0 m ²	m ²		m ²	
	m ²	m ²	下部路床		0.0 m ²	m ²		m ²	
	m ²	m ²	路体築堤盛土		0.0 m ²	m ²		m ²	
	m ²	m ²	下部路床 (非運上材)		0.0 m ²	m ²		m ²	
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体		61.1 m ²	m ²		m ²	
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土		0.0 m ²	m ²		m ²	
のり面工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
	右	9.2 m		右	0.0 m		右	0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m	
	右	0.0 m		右	m		右	m	



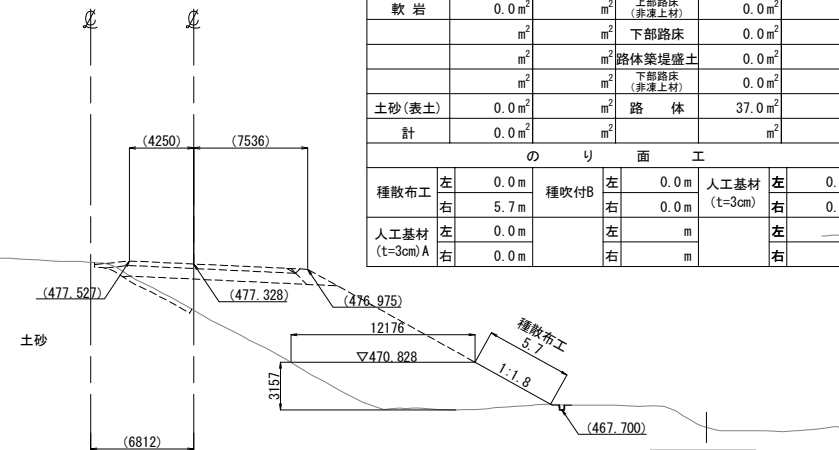
STA. 936+80
GH=478.00
PH=
STA. 936+78.570
PH=478.279

STA. 936+80									
地 盤 高		478.00 m	土工施工高		- m	計 画 高		- m	
切 土 面 積			盛 土 面 積						
土 砂	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非運上材)			0.0 m ²	m ²		
軟 岩	0.0 m ²	m ²				0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	下部路床			0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	路体築堤盛土			0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	下部路床 (非運上材)			0.0 m ²	m ²		
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路 体			54.0 m ²	m ²		
計	0.0 m ²	m ²				m ²	m ²		
の り 面 工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
	右	8.2 m		右	0.0 m		右	0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m	
	右	0.0 m		右	m		右	m	



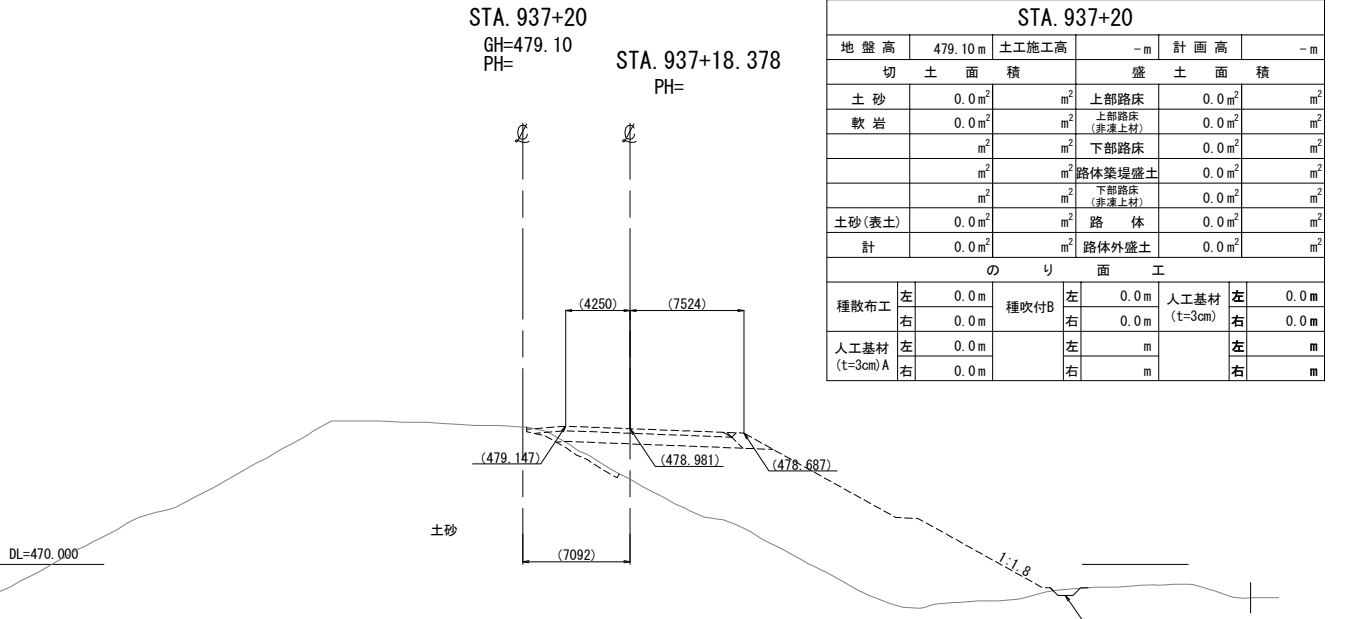
STA. 936+60
GH=477.44
PH=
STA. 936+58.680
PH=477.728

STA. 936+60									
地盤高		477.44 m	土工施工高		- m	計画高		- m	
切土面積			盛土面積						
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²				
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非運上材)	0.0 m ²	m ²				
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²				
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²				
	m ²	m ²	下部路床 (非運上材)	0.0 m ²	m ²				
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	37.0 m ²	m ²				
計	0.0 m ²	m ²			m ²				
のり面工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
	右	5.7 m		右	0.0 m		右	0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m	
	右	0.0 m		右	m		右	m	



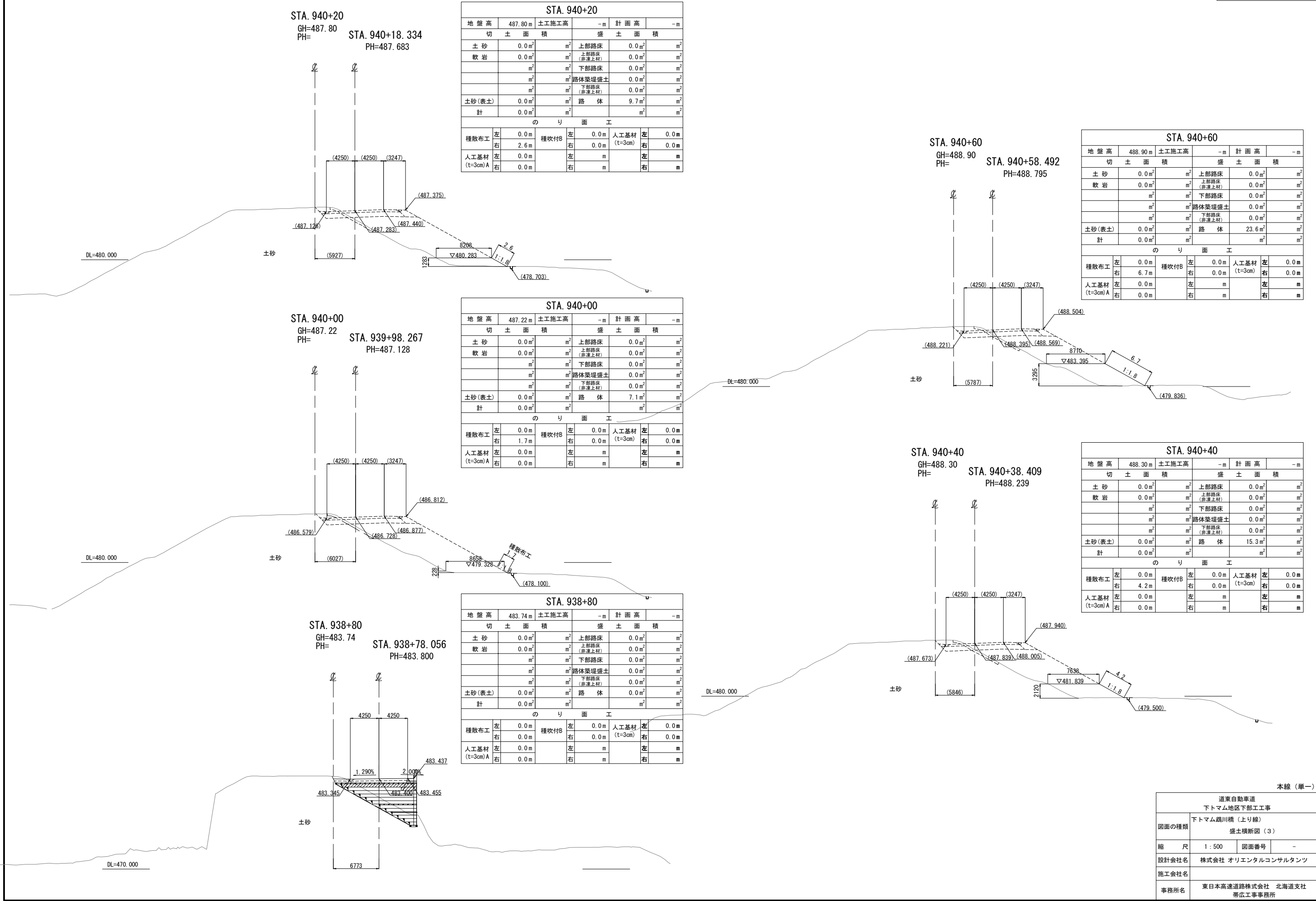
STA. 937+20
GH=479.10
PH=
STA. 937+18.378
PH=

STA. 937+20											
地 盤 高		479.10 m	土工施工高		- m	計 画 高		- m			
切 土 面 積			盛 土 面 積								
土 砂		0.0 m ²	m ²	上部路床		0.0 m ²	m ²				
軟 岩		0.0 m ²	m ²	上部路床 (非運上材)		0.0 m ²	m ²				
		m ²	m ²	下部路床		0.0 m ²	m ²				
		m ²	m ²	路体築堤盛土		0.0 m ²	m ²				
		m ²	m ²	下部路床 (非運上材)		0.0 m ²	m ²				
土砂(表土)		0.0 m ²	m ²	路 体		0.0 m ²	m ²				
計		0.0 m ²	m ²	路体外盛土		0.0 m ²	m ²				
の り 面 工											
種散布工		左	0.0 m	種吹付B		左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)		左	0.0 m
		右	0.0 m			右	0.0 m			右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A		左	0.0 m			左	m			左	m
		右	0.0 m			右	m			右	m



本線（単一）

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵠川橋（上り線） 盛土横断図（2）		
縮尺	1:500	図面番号	-
設計会社名	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

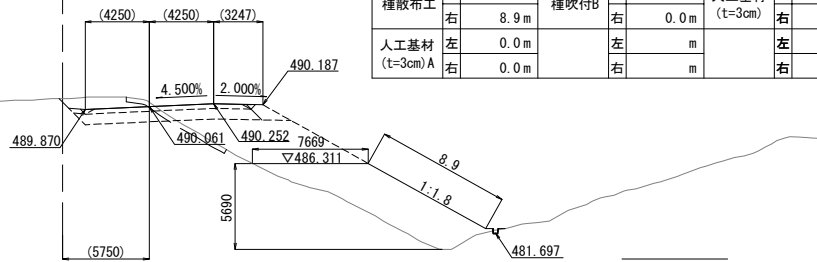


本線（単一）

道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵠川橋（上り線） 盛土横断図（3）		
縮尺	1：500	図面番号	-
設計会社名	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

STA. 941+20
GH=490.60
PH=490.461

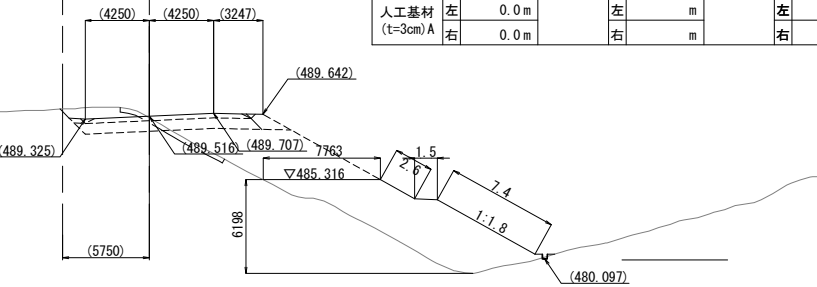
STA. 941+20					
地盤高	490.60 m	土工施工高	490.061 m	計画高	490.461 m
切土面積		盛土面積			
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	32.7 m ²	m ²
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土	0.0 m ²	m ²
のり面工					
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m
	右	8.9 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m
	右	0.0 m		右	m



STA. 941+00
GH=490.00
PH=

STA. 940+98.980
PH=489.916

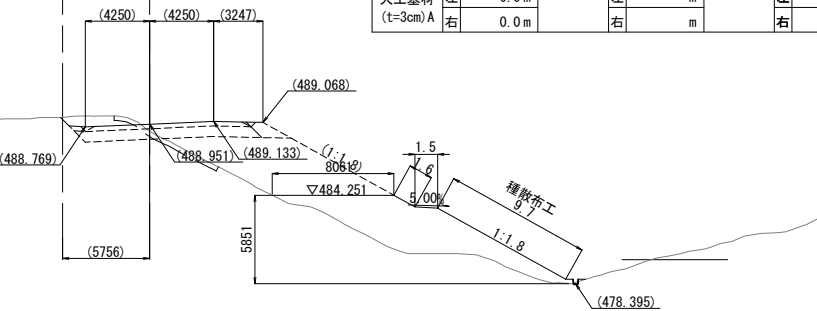
STA. 941+00					
地盤高	490.00 m	土工施工高	*m	計画高	-m
切土面積		盛土面積			
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	43.5 m ²	m ²
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土	0.0 m ²	m ²
のり面工					
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m
	右	11.5 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m
	右	0.0 m		右	m



STA. 940+80
GH=489.41
PH=

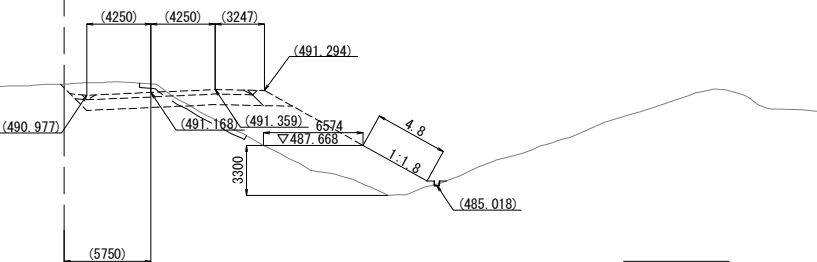
STA. 940+78.584
PH=489.351

STA. 940+80					
地盤高	489.41 m	土工施工高	-m	計画高	-m
切土面積		盛土面積			
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	35.0 m ²	m ²
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土	0.0 m ²	m ²
のり面工					
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m
	右	12.8 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m
	右	0.0 m		右	m



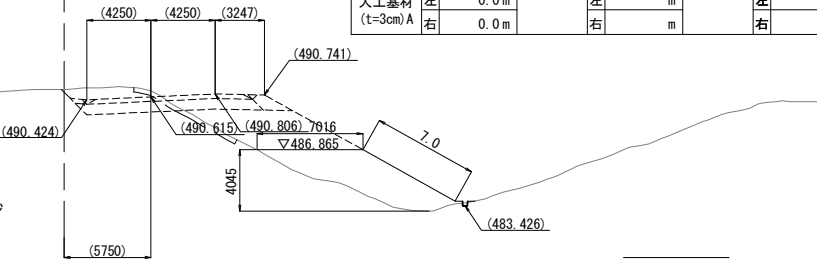
STA. 941+60
GH=491.70
PH=491.568

STA. 941+60					
地盤高	491.70 m	土工施工高	491.168 m	計画高	491.568 m
切土面積		盛土面積			
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	17.5 m ²	m ²
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土	0.0 m ²	m ²
のり面工					
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m
	右	4.8 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m
	右	0.0 m		右	m



STA. 941+40
GH=491.10
PH=491.015

STA. 941+40					
地盤高	491.10 m	土工施工高	490.615 m	計画高	491.015 m
切土面積		盛土面積			
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床	0.0 m ²	m ²
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	路体築堤盛土	0.0 m ²	m ²
	m ²	m ²	下部路床 (非覆上材)	0.0 m ²	m ²
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体	23.7 m ²	m ²
計	0.0 m ²	m ²	路体外盛土	0.0 m ²	m ²
のり面工					
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m
	右	7.0 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m
	右	0.0 m		右	m



本線（単一）

道東自動車道			
下トママ地区下部工工事			
図面の種類	下トママ鵜川橋（上り線） 盛土横断図（４）		
縮尺	1:500	図面番号	-
設計会社名	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

STA. 942+20
GH=493.20
PH=493.229

STA. 942+20									
地盤高		493.20 m	土工施工高		492.829 m	計画高		493.229 m	
切土面積			盛土面積						
土砂	左	0.0 m ²	種吹付B	左	上部路床 (非覆土材)	0.0 m ²	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m
		m ²				m ²			
軟岩	左	0.0 m ²		右	下部路床	0.0 m ²		右	m
		m ²				m ²			
	左	m ²		右	路体築堤盛土	0.0 m ²		右	m
		m ²				m ²			
土砂(表土)	左	0.0 m ²		右	(非覆土材)	0.0 m ²		右	m
		m ²				m ²			
計	左	0.0 m ²		右	路体	24.4 m ²		右	m ²
		m ²				m ²			
のり面工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
		10.9 m							
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		右	m		左	m	
		0.0 m							

STA. 942+60
GH=494.25
PH=494.336

STA. 942+60									
地盤高		494.25 m	土工施工高		493.936 m	計画高		494.336 m	
切土面積			盛土面積						
土砂	左	m ²	m ²	上部路床 (非覆土材)	m ²	m ²	右	m ²	m ²
	右	m ²							
		m ²							
軟岩	左	m ²	m ²	下部路床	m ²	m ²	右	m ²	m ²
	右	m ²							
		m ²							
	左	m ²	m ²	路体築堤盛土 (非覆土材)	m ²	m ²	右	m ²	m ²
	右	m ²							
		m ²							
土砂(表土)	左	m ²	m ²	路体	m ²	m ²	右	m ²	m ²
	右	m ²							
計		m ²	m ²			m ²		m ²	m ²
のり面工									
種散布工	左	m	種吹付B	左	m	人工基材 (t=3cm)	左	m	
	右	m		右	m		右	m	
人工基材 (t=3cm) A	左	m		左	m		左	m	
	右	m		右	m		右	m	

STA. 942+00
GH=492.73
PH=492.675

STA. 942+00								
地盤高		492.73 m	土工施工高		492.275 m	計画高		492.675 m
切土面積				盛土面積				
土砂	左	0.0 m ²	m ²	上部路床 (上層土材)	0.0 m ²	m ²		m ²
	右	0.0 m ²						
軟岩	左	0.0 m ²	m ²	下部路床 (非覆土材)	0.0 m ²	m ²		m ²
	右	m ²						
	左	m ²	m ²	路体築堤盛土 下部路床 (非覆土材)	0.0 m ²	m ²		m ²
	右	m ²						
土砂(表土)	左	0.0 m ²	m ²	路体	27.1 m ²	m ²		m ²
	右	0.0 m ²						
計		0.0 m ²	m ²		m ²	m ²		m ²
のり面工								
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m
	右	11.6 m		右	0.0 m		右	0.0 m
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m
	右	0.0 m		右	m		右	m

STA. 942+40
GH=493.75
PH=493.783

STA. 942+40									
地盤高		493.75 m	土工施工高		493.383 m	計画高		493.783 m	
切土面積			盛土面積						
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆土材)		0.0 m ²	m ²		m ²	
	0.0 m ²	m ²	下部路床		0.0 m ²	m ²		m ²	
	m ²	m ²	路体築堤盛土		0.0 m ²	m ²		m ²	
	m ²	m ²	下部路床 (非覆土材)		0.0 m ²	m ²		m ²	
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体		5.2 m ²	m ²		m ²	
計	13.4 m ²	m ²			m ²	m ²		m ²	
のり面工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
	右	2.4 m		右	0.0 m		右	0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m	
	右	0.0 m		右	m		右	m	

STA. 941+80
GH=492.28
PH=492.122

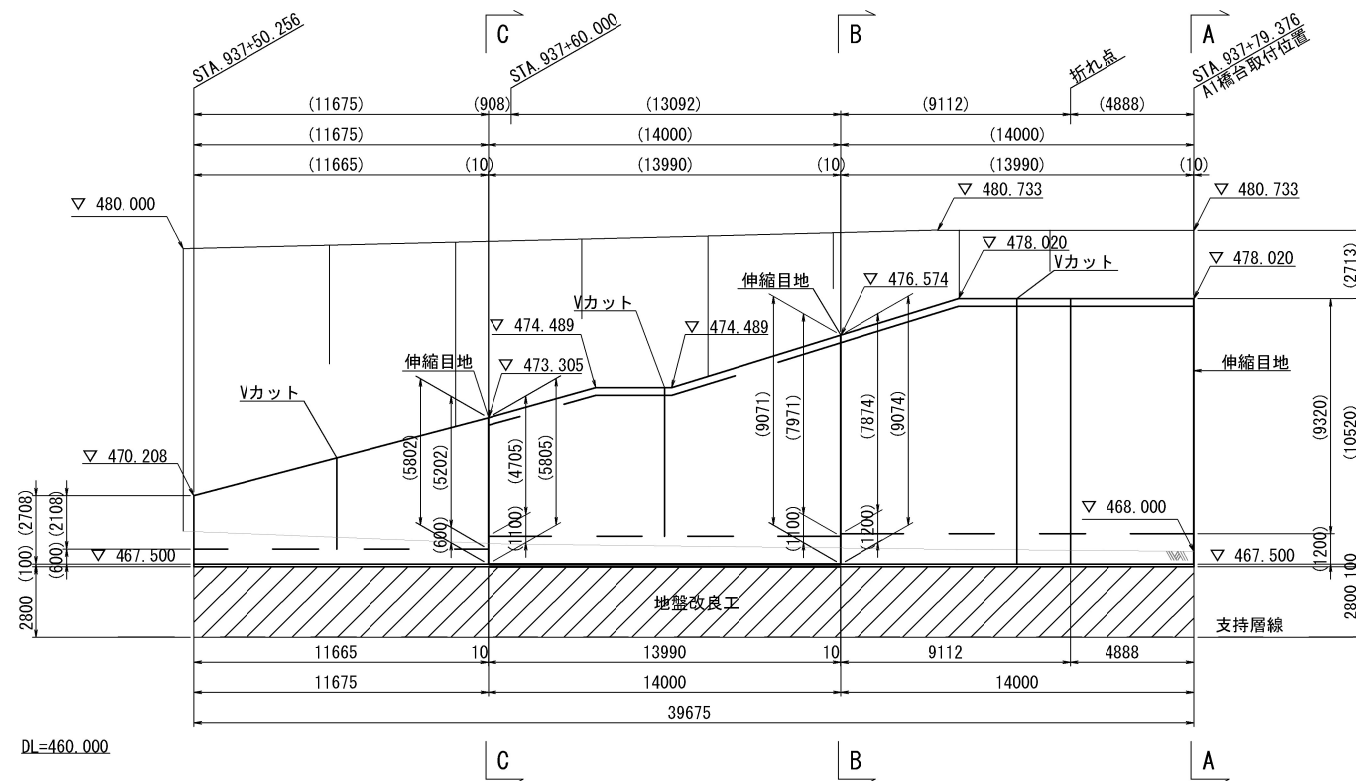
STA. 941+80									
地盤高		492.28 m	土工施工高		491.722 m	計画高		492.122 m	
切土面積			盛土面積						
土砂	0.0 m ²	m ²	上部路床			0.0 m ²	m ²		
軟岩	0.0 m ²	m ²	上部路床 (非覆土材)			0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	下部路床			0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	路体築堤盛土			0.0 m ²	m ²		
	m ²	m ²	下部路床 (非覆土材)			0.0 m ²	m ²		
土砂(表土)	0.0 m ²	m ²	路体			16.5 m ²	m ²		
計	0.0 m ²	m ²				m ²	m ²		
のり面工									
種散布工	左	0.0 m	種吹付B	左	0.0 m	人工基材 (t=3cm)	左	0.0 m	
	右	4.5 m		右	0.0 m		右	0.0 m	
人工基材 (t=3cm) A	左	0.0 m		左	m		左	m	
	右	0.0 m		右	m		右	m	

本線（単一）

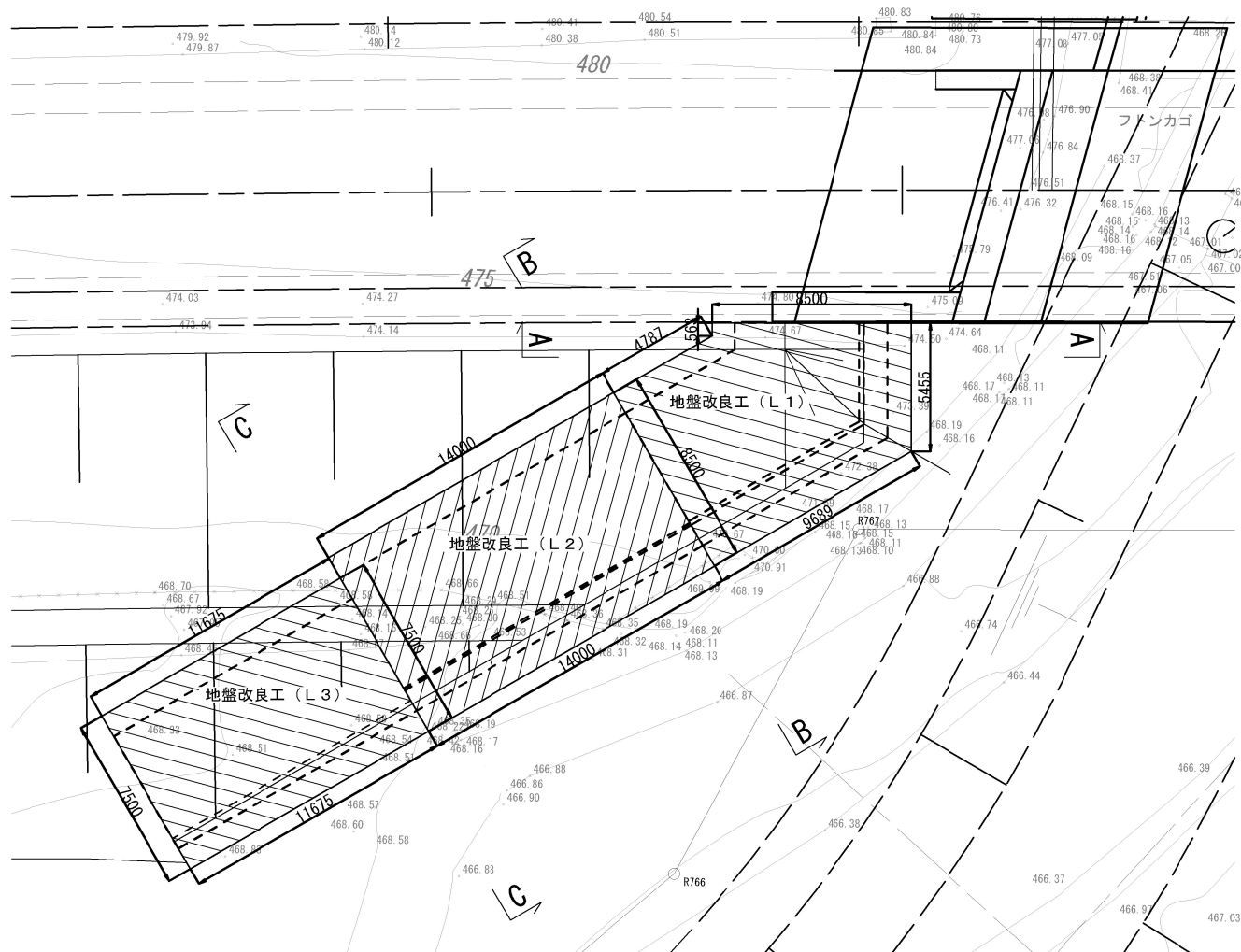
道東自動車道			
下トナム地区下部工工事			
図面の種類	下トナム鵜川橋（上り線） 盛土横断図（５）		
縮尺	1:500	図面番号	-
設計会社名	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

下トナム鷗川橋（上り線）A 1 橋台右側擁壁 地盤改良工一般図 S=1:300

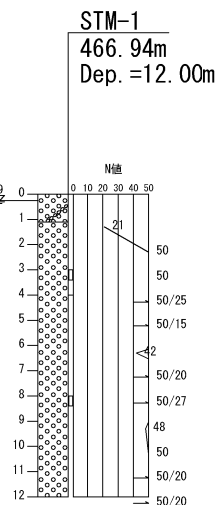
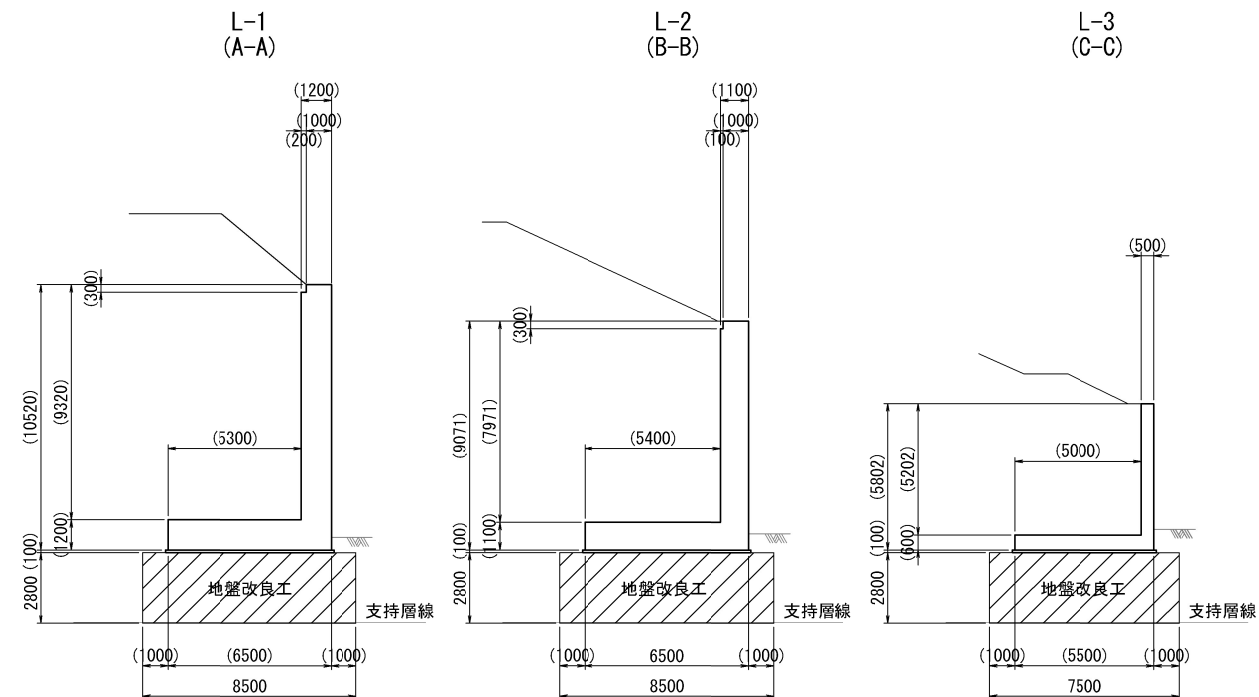
正面展開図



平面图



断面図

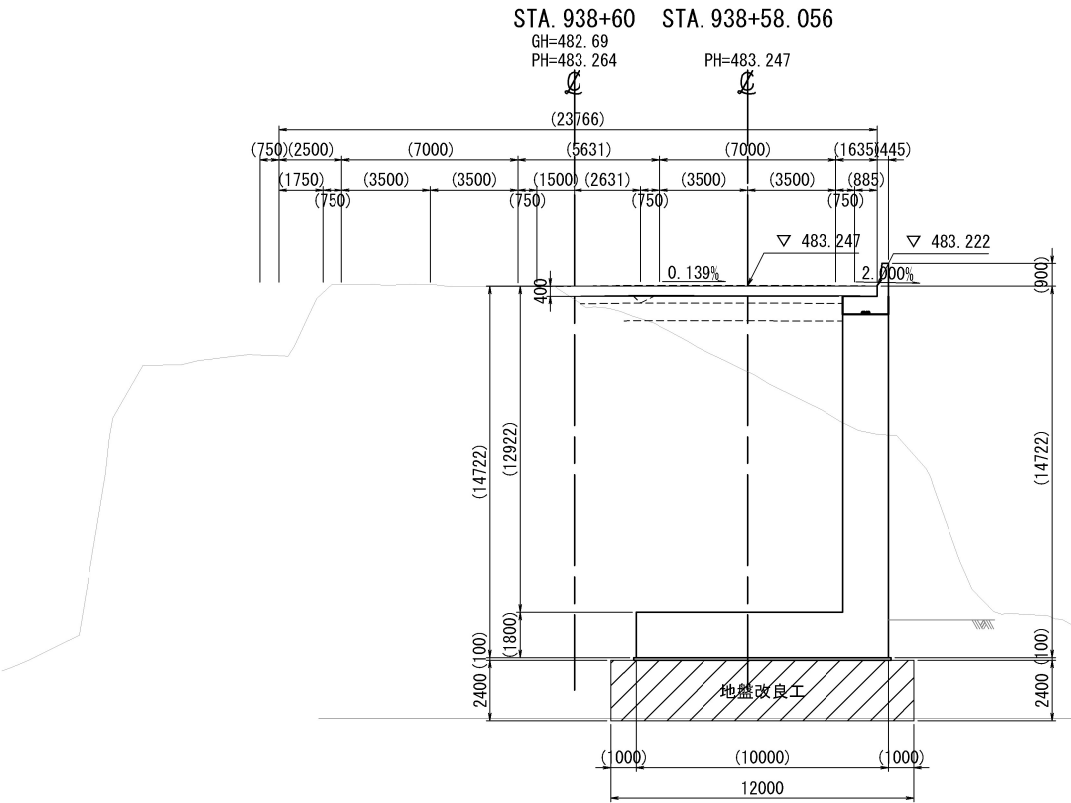
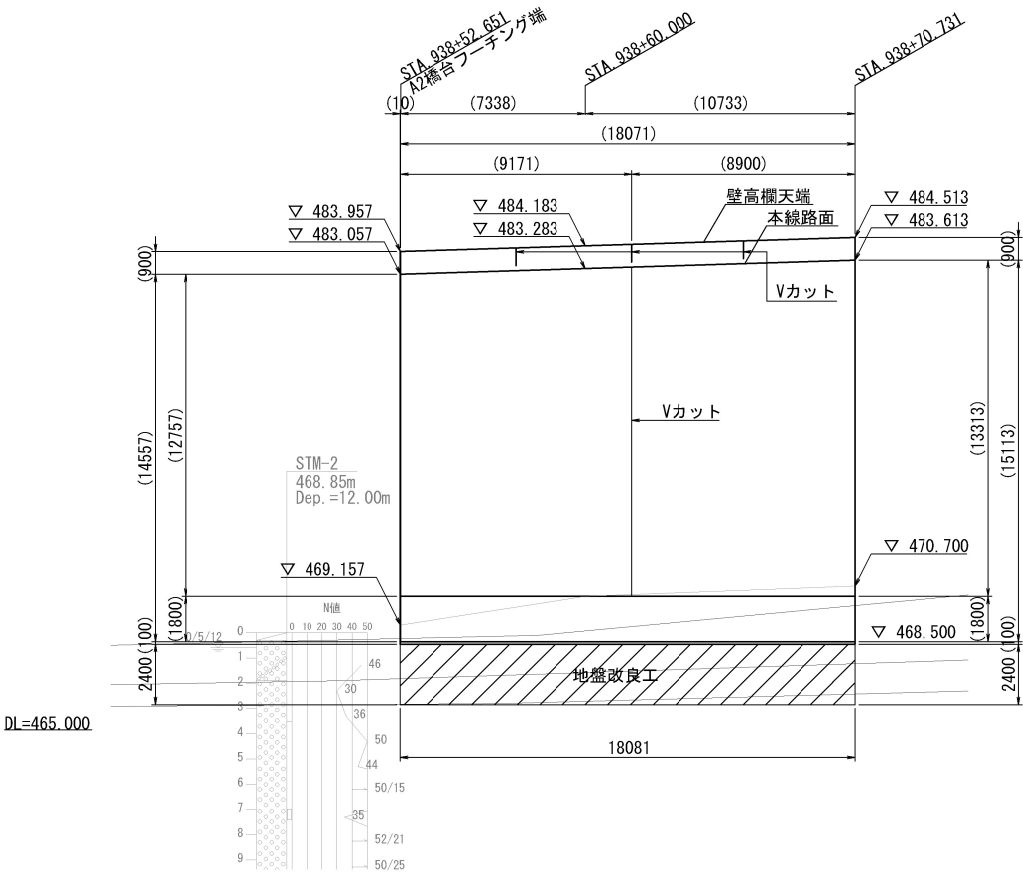


数 量 表				
種 別	規 格	單位	數 量	摘要
地盤改良工	設計強度：580～1610kN/m2	m3	822.4	
固化材添加量	添加量：60～110kg/m3	t	68.2	

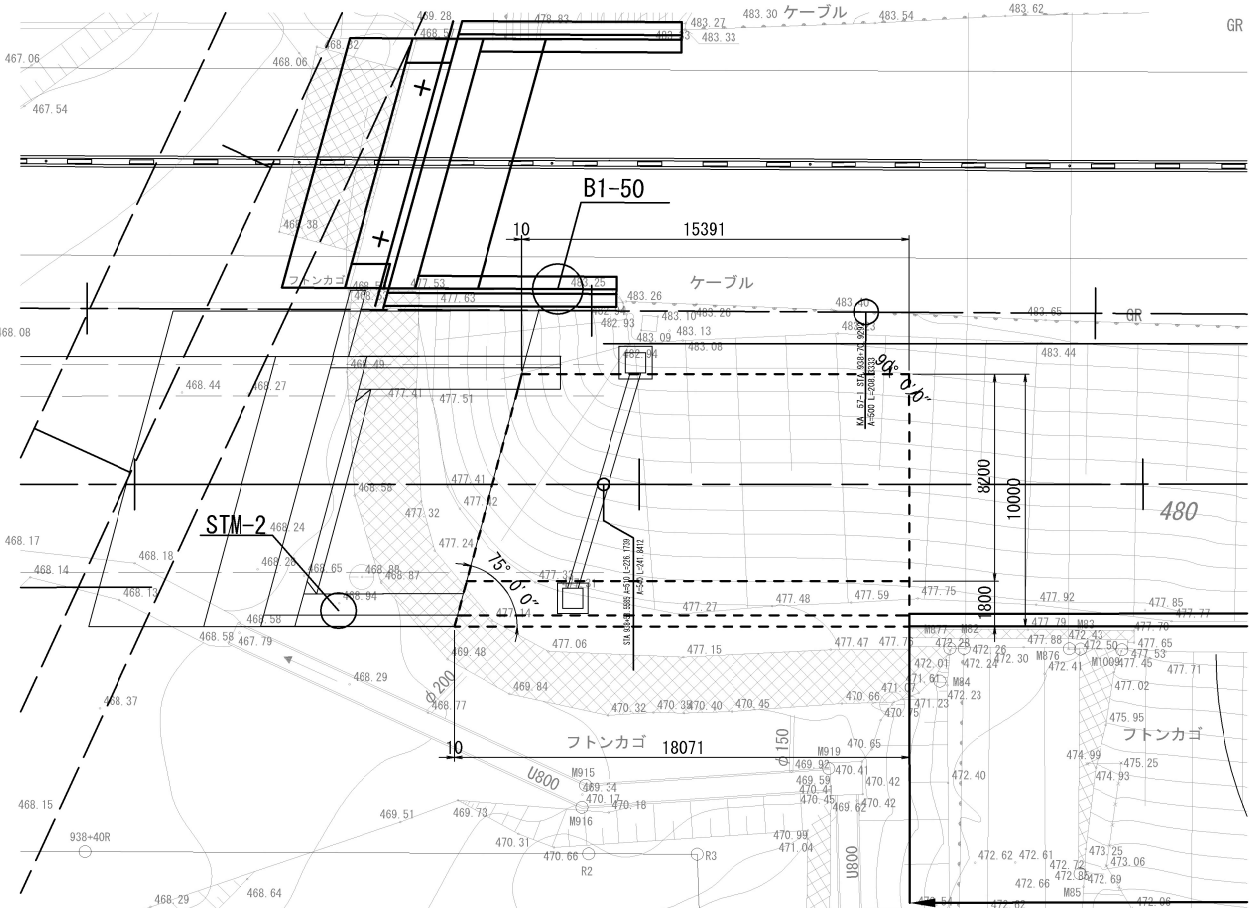
道東自動車道 下トマム地区下郷工工事			
図面の種類	下トマム越川橋（上り線） A1橋台右側擁壁 地盤改良工一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速度道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

正面展開図

断面図



平面図



数量表				
種 別	規 格	単 位	数 量	摘 要
地盤改良工	設計強度：1740kN/m ²	m ³	481.9	
固化材添加量	添加量：120kg/m ³	t	58.0	

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	下トマム鵲川橋（上り線） A 2 橋台右側擁壁 地盤改良工一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	中央コンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		